

CMOS 4-BIT SINGLE CHIP MICROCOMPUTER

S1C6F632

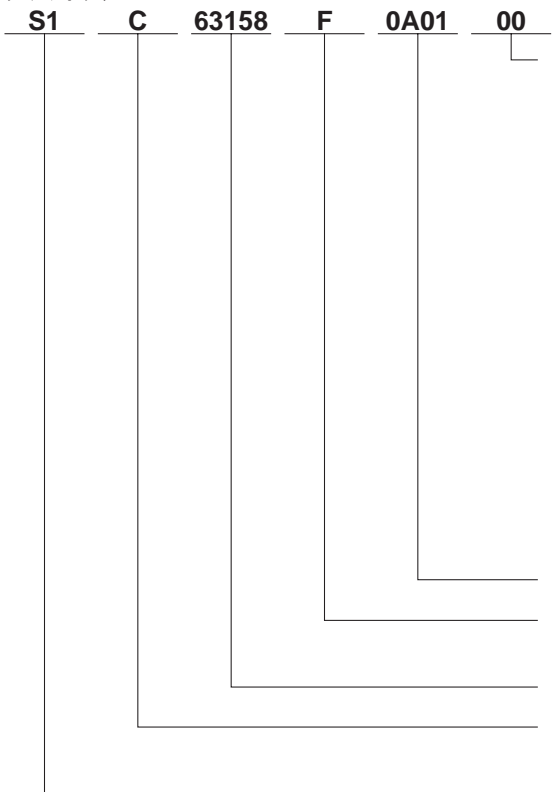
テクニカルマニュアル

本資料のご使用につきましては、次の点にご留意願います。

1. 本資料の内容については、予告なく変更することがあります。
2. 本資料の一部、または全部を弊社に無断で転載、または、複製など他の目的に使用することは堅くお断りします。
3. 本資料に掲載される応用回路、プログラム、使用方法等はあくまでも参考情報であり、これらに起因する第三者の権利(工業所有権を含む)侵害あるいは損害の発生に対し、弊社は如何なる保証を行うものではありません。また、本資料によって第三者または弊社の工業所有権の実施権の許諾を行うものではありません。
4. 特性表の数値の大小は、数直線上の大小関係で表しています。
5. 本資料に掲載されている製品のうち、「外国為替及び外国貿易法」に定める戦略物資に該当するものについては、輸出する場合、同法に基づく輸出許可が必要です。
6. 本資料に掲載されている製品は、生命維持装置その他、きわめて高い信頼性が要求される用途を前提としていません。よって、弊社は本(当該)製品をこれらの用途に用いた場合の如何なる責任についても負いかねます。

製品型番体系

デバイス



梱包仕様

- 00 : テープ&リール以外
- 0A : TCP BL 2方向
- 0B : テープ&リール BACK
- 0C : TCP BR 2方向
- 0D : TCP BT 2方向
- 0E : TCP BD 2方向
- 0F : テープ&リール FRONT
- 0G : TCP BT 4方向
- 0H : TCP BD 4方向
- 0J : TCP SL 2方向
- 0K : TCP SR 2方向
- 0L : テープ&リール LEFT
- 0M : TCP ST 2方向
- 0N : TCP SD 2方向
- 0P : TCP ST 4方向
- 0Q : TCP SD 4方向
- 0R : テープ&リール RIGHT
- 99 : 梱包仕様未定

仕様

形状

[D: ペアチップ、F: QFP、B: BGA]

機種番号

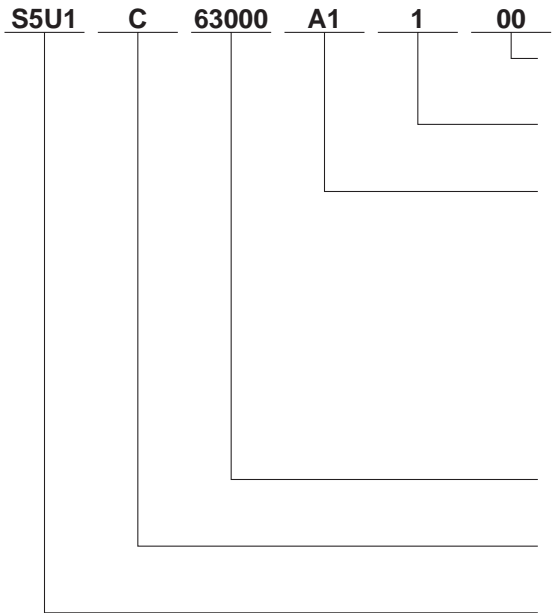
機種名称

[C: マイコン、デジタル製品]

製品分類

[S1: 半導体]

開発ツール



梱包仕様

[00: 標準梱包]

バージョン

[1: Version 1]

ツール種類

- Hx : ICE
- Ex : EVAボード
- Px : ペリフェラルボード
- Wx : FLASHマイコン用ROMライター
- Xx : ROMライター周辺ボード
- Cx : Cコンパイラパッケージ
- Ax : アセンブラパッケージ
- Dx : 機種別ユーティリティツール
- Qx : ソフトシミュレータ

対応機種番号

[63000: S1C63ファミリ共通]

ツール分類

[C: マイコン用]

製品分類

[S5U1: 半導体用開発ツール]

- 目 次 -

1	概要	1
1.1	特長	2
1.2	ブロック図	3
1.3	端子配置図	4
1.4	端子説明	6
1.5	マスクオプション	7
2	電源系およびイニシャルリセット	9
2.1	電源系	9
2.1.1	動作電圧	9
2.1.2	内部電源回路	9
2.2	イニシャルリセット	11
2.2.1	リセット端子(RESET)	11
2.2.2	P1xポート(P10 ~ P13)の同時HIGH入力	12
2.2.3	イニシャルリセット時の内部レジスタ	12
2.2.4	イニシャルリセット時の端子設定	13
2.3	テスト端子(TEST)	13
3	CPU, PROM, RAM	14
3.1	CPU	14
3.2	コードROM	14
3.3	RAM	14
3.4	データROM	15
4	周辺回路と動作	16
4.1	メモリマップ	16
4.2	電源制御	32
4.2.1	電源回路の構成	32
4.2.2	LCD電源の制御	33
4.2.3	重負荷保護機能	33
4.2.4	電源制御用I/Oメモリ	34
4.2.5	プログラミング上の注意事項	35
4.3	ウォッチドッグタイマ	36
4.3.1	ウォッチドッグタイマの構成	36
4.3.2	割り込み機能	36
4.3.3	ウォッチドッグタイマのI/Oメモリ	37
4.3.4	プログラミング上の注意事項	37
4.4	発振回路	38
4.4.1	発振回路の構成	38
4.4.2	マスクオプション	38
4.4.3	OSC1発振回路	39
4.4.4	OSC3発振回路	39

4.4.5 CPUクロックの切り換え	40
4.4.6 発振回路のI/Oメモリ	41
4.4.7 プログラミング上の注意事項	42
4.5 入出力兼用ポート(P00 ~ P03, P10 ~ P13, P20 ~ P23, P30 ~ P33, P40 ~ P43, P50 ~ P53)	43
4.5.1 入出力兼用ポートの構成	43
4.5.2 マスクオプション	44
4.5.3 I/O制御レジスタと入力/出力モード	45
4.5.4 入力インタフェースレベル	45
4.5.5 入力モード時のプルダウン	45
4.5.6 特殊出力	46
4.5.7 キー入力割り込み機能	48
4.5.8 入出力兼用ポートのI/Oメモリ	50
4.5.9 プログラミング上の注意事項	60
4.6 LCDドライバ	61
4.6.1 LCDドライバの構成	61
4.6.2 LCD駆動電源	62
4.6.3 LCD表示の制御	64
4.6.4 表示メモリ	68
4.6.5 LCDコントラスト調整	71
4.6.6 LCDドライバのI/Oメモリ	72
4.6.7 プログラミング上の注意事項	77
4.7 計時タイマ	78
4.7.1 計時タイマの構成	78
4.7.2 クロックマネージャの制御	78
4.7.3 データの読み出しとホールド機能	78
4.7.4 割り込み機能	79
4.7.5 計時タイマのI/Oメモリ	80
4.7.6 プログラミング上の注意事項	82
4.8 ストップウォッチタイマ	83
4.8.1 ストップウォッチタイマの構成	83
4.8.2 クロックマネージャの制御	83
4.8.3 カウンタとプリスケアラ	84
4.8.4 キャプチャバッファとホールド機能	84
4.8.5 ストップウォッチタイマのRUN/STOPおよびリセット	85
4.8.6 ダイレクト入力機能とキーマスク	86
4.8.7 割り込み機能	89
4.8.8 ストップウォッチタイマのI/Oメモリ	91
4.8.9 プログラミング上の注意事項	95
4.9 プログラマブルタイマ	96
4.9.1 プログラマブルタイマの構成	96
4.9.2 クロックマネージャの制御	99
4.9.3 カウンタの基本動作	100
4.9.4 イベントカウンタモード(タイマ0、タイマ2、タイマ4、タイマ6)	101
4.9.5 PWMモード(タイマ0 ~ タイマ7)	102
4.9.6 16ビットタイマモード(タイマ0+1、タイマ2+3、タイマ4+5、タイマ6+7)	103
4.9.7 割り込み機能	104
4.9.8 TOUT出力の設定	104

4.9.9 シリアルインタフェース, R/Fコンバータへのクロック出力	105
4.9.10 プログラマブルタイマのI/Oメモリ	106
4.9.11 プログラミング上の注意事項	118
4.10 シリアルインタフェース	120
4.10.1 シリアルインタフェースの構成	120
4.10.2 シリアル入出力端子	120
4.10.3 マスクオプション	121
4.10.4 シリアルインタフェースの動作モード	122
4.10.5 同期クロックの設定	123
4.10.6 データの入出力と割り込み	124
4.10.7 SPI方式のデータ転送	127
4.10.8 シリアルインタフェースのI/Oメモリ	128
4.10.9 プログラミング上の注意事項	133
4.11 サウンドジェネレータ	134
4.11.1 サウンドジェネレータの構成	134
4.11.2 クロックマネージャの制御	134
4.11.3 ブザー出力の制御	134
4.11.4 ブザー周波数と音量の設定	135
4.11.5 デジタルエンベロープ	136
4.11.6 1ショット出力	137
4.11.7 サウンドジェネレータのI/Oメモリ	138
4.11.8 プログラミング上の注意事項	141
4.12 整数乗除算器	142
4.12.1 整数乗除算器の構成	142
4.12.2 クロックマネージャの制御	142
4.12.3 乗算モード	142
4.12.4 除算モード	143
4.12.5 実行サイクル	144
4.12.6 整数乗除算器のI/Oメモリ	145
4.12.7 プログラミング上の注意事項	147
4.13 R/Fコンバータ	148
4.13.1 R/Fコンバータの構成	148
4.13.2 クロックマネージャの制御	149
4.13.3 接続端子とCR発振回路	149
4.13.4 R/F変換	151
4.13.5 割り込み機能	153
4.13.6 連続発振機能	155
4.13.7 R/FコンバータのI/Oメモリ	155
4.13.8 プログラミング上の注意事項	159
4.14 SVD(電源電圧検出)回路	160
4.14.1 SVD回路の構成	160
4.14.2 SVD動作	160
4.14.3 SVD回路のI/Oメモリ	161
4.14.4 プログラミング上の注意事項	161
4.15 割り込みとHALT/SLEEP	162
4.15.1 割り込みの要因	164
4.15.2 割り込みの個別マスク	165

4.15.3 割り込みベクタ	166
4.15.4 割り込みのI/Oメモリ	168
4.15.5 プログラミング上の注意事項	171
5 Flash EEPROM	172
6 注意事項のまとめ	174
6.1 低消費電流化のための注意事項	174
6.2 個別機能についての注意事項のまとめ	175
6.3 実装上の注意事項	180
7 基本外部結線図	182
8 電気的特性	183
8.1 絶対最大定格	183
8.2 推奨動作条件	183
8.3 DC特性	184
8.4 アナログ回路特性・消費電流	185
8.5 発振特性	188
8.6 シリアルインタフェースAC特性	189
8.7 タイミングチャート	190
8.8 特性グラフ(参考値)	191
9 パッケージ	202
9.1 プラスチックパッケージ	202
9.2 テストサンプル用セラミックパッケージ	204
10 パッド配置	205
10.1 パッド配置図	205
10.2 パッド座標	206
Appendix A Peripheral Circuit Board for S1C6F632	207
A.1 各部の名称と機能	207
A.1.1 S5U1C63000P6	207
A.1.2 S5U1C6F632P2	210
A.2 ターゲットシステムとの接続	212
A.3 S5U1C63000P6へのダウンロード	216
A.3.1 新IC(S5U1C63000H2/S5U1C63000H6)使用時における回路データのダウンロード ...	216
A.4 使用上の注意	217
A.4.1 操作上の注意事項	217
A.4.2 実ICとの相違点	217

A.5	製品の仕様	221
A.5.1	S5U1C63000P6の仕様	221
A.5.2	S5U1C6F632P2の仕様	222
Appendix B PROMプログラミング		223
B.1	書き込みツールの概要	223
B.2	シリアルプログラミング	224
B.2.1	シリアルプログラミングシステム環境	224
B.2.2	シリアルプログラミングシステムの接続	225
B.2.3	シリアルプログラミング手順	226
B.2.4	シリアルプログラミング結線図	230
B.3	On Board Writerコントロールソフトウェア	232
B.3.1	起動方法	232
B.3.2	設定	233
B.3.3	操作方法	234
	1 LOAD IPROM(HSAファイル, LSAファイル).....	235
	2 LOAD CPROM(CSAファイル).....	236
	3 ERASE IPROM, CPROM	237
	4 BLANK CHECK IPROM, CPROM	238
	5 PROGRAM IPROM, CPROM	239
	6 VERIFY IPROM, CPROM	240
	7 READ IPROM, CPROM	241
	8 MACRO	242
	9 DUMP IPROM, CPROM	243
	10 OPEN LOG FILE	245
	11 SAVE IPROM	246
	12 SAVE CPROM	247
B.3.4	コマンド一覧	248
B.3.5	エラーメッセージ一覧	248
B.4	Flash EEPROMプログラミング上の注意事項	249

1 概要

S1C6F632は高性能4ビットCPU S1C63000を中心に、ワンチップ上にFlash EEPROM(31,744ワード×13ビット) RAM(8,192ワード×4ビット) 乗除算回路、シリアルインタフェース、ウォッチドッグタイマ、プログラマブルタイマ、タイムベースカウンタ(2系統) 最大1,536ドットのLCDパネルを駆動可能なドットマトリクスLCDドライバ、サーミスタなどのセンサを接続することで温度や湿度を測定可能なR/Fコンバータ等を内蔵したマイクロコンピュータです。低消費電流を特長とし、電池駆動を必要とする温度/湿度計測機能付きのクロックやウォッチへの応用に適しています。

S1C6F632はマスクオプションおよび使用するパッケージの構成により12機種が用意されています。

表1.1 機種構成

マスクオプションタイプ *	出荷形態
標準マスクオプションType B	QFP20-144pinパッケージ
	VFBGA7HX144パッケージ
	チップ
標準マスクオプションType E	QFP20-144pinパッケージ
	VFBGA7HX144パッケージ
	チップ
標準マスクオプションType G	QFP20-144pinパッケージ
	VFBGA7HX144パッケージ
	チップ
カスタムマスクオプション	QFP20-144pinパッケージ
	VFBGA7HX144パッケージ
	チップ

* "1.5 マスクオプション"参照

本製品はSilicon Storage Technology, Inc.よりライセンスされたSuperFlash® Technologyを使用しています。

1.1 特長

OSC1発振回路	32.768kHz (Typ.) 水晶発振回路
OSC3発振回路	4.2MHz (Max.) セラミック発振回路または1.8MHz (Typ.) CR発振回路 (*1)
インストラクションセット	基本命令 47種類 (全命令数 411種類) アドレッシングモード 8種類
インストラクション実行時間	32.768kHz動作時: 61μsec 122μsec 183μsec 4MHz動作時: 0.5μsec 1μsec 1.5μsec
Flash EEPROM容量	命令ROM: 31,744ワード×13ビット データROM: 4,096ワード×4ビット
RAM容量	データメモリ: 8,192ワード×4ビット 表示メモリ: 2,048ビット
入出力兼用ポート	24ビット (ブルダウン抵抗の付加が可能*1 4ビットをシリアルI/F入出力、4ビットをR/Fコンバータ入出力、6ビットを特殊出力に切り換え可能*2)
シリアルインタフェース	1ポート (クロック同期式8ビット)
LCDドライバ	48セグメント×32コモン、56セグメント×24コモン、 または64セグメント×16コモン (*2)
タイムベースカウンタ	計時タイマ ストップウォッチタイマ (1/1000秒、ダイレクトキー入力機能付き)
プログラマブルタイマ	16ビットタイマ×4ch (各16ビットタイマを2chの8ビットタイマとして使用可能*2)
ウォッチドッグタイマ	内蔵
サウンドジェネレータ	エンベロープ、1ショット出力機能付き
R/Fコンバータ	2ch、CR発振方式、20ビットカウンタ、湿度センサに対応
乗除算回路	8ビット演算器 1ch 乗算: 8ビット×8ビット (積) 16ビット 除算: 16ビット÷8ビット (商) 8ビット、(剰余) 8ビット
電源電圧検出 (SVD) 回路	検出電圧を15種類から選択可能 (*2)
外部割り込み	キー入力割り込み 8系統
内部割り込み	計時タイマ割り込み 8系統 ストップウォッチタイマ割り込み 4系統 プログラマブルタイマ割り込み 16系統 シリアルインタフェース割り込み 1系統 R/Fコンバータ割り込み 3系統 1.8V ~ 3.6V (通常動作時) 2.7V ~ 3.6V (Flashプログラミング時)
動作温度範囲	-20°C ~ 70°C
消費電流 (Typ.)	SLEEP時 (32kHz) 0.7μA HALT時 (32kHz) 2μA 動作時 (32kHz) 9μA 動作時 (4MHz) 960μA
出荷形態	QFP20-144pin、VFBGA7HX144またはチップ

*1: マスクオプションにより選択 *2: ソフトウェアにより選択

1.2 ブロック図

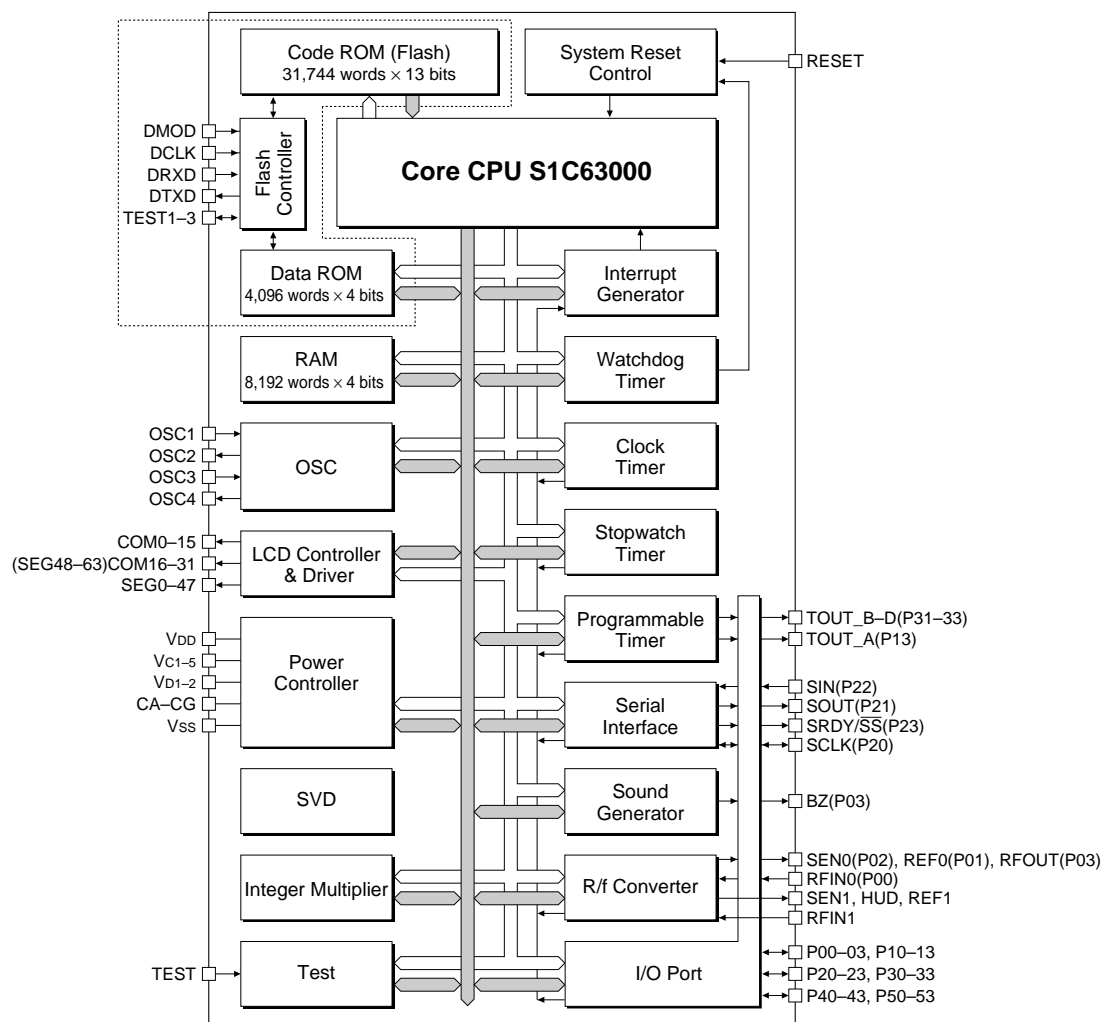


図1.2.1 ブロック図

1.3 端子配置図

QFP20-144pin

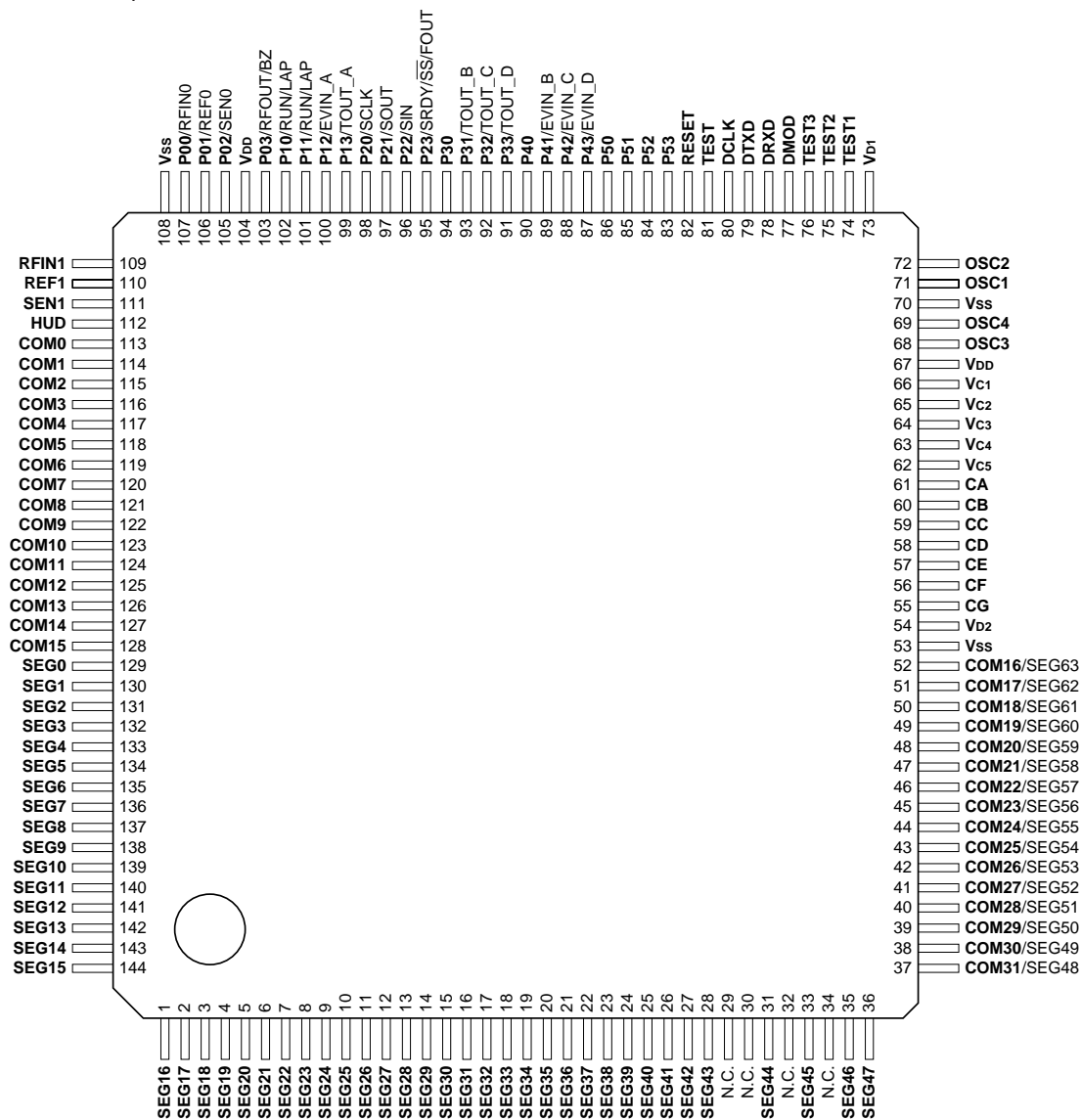


図1.3.1 端子配置図(QFP20-144pin)

VFBA7HX144

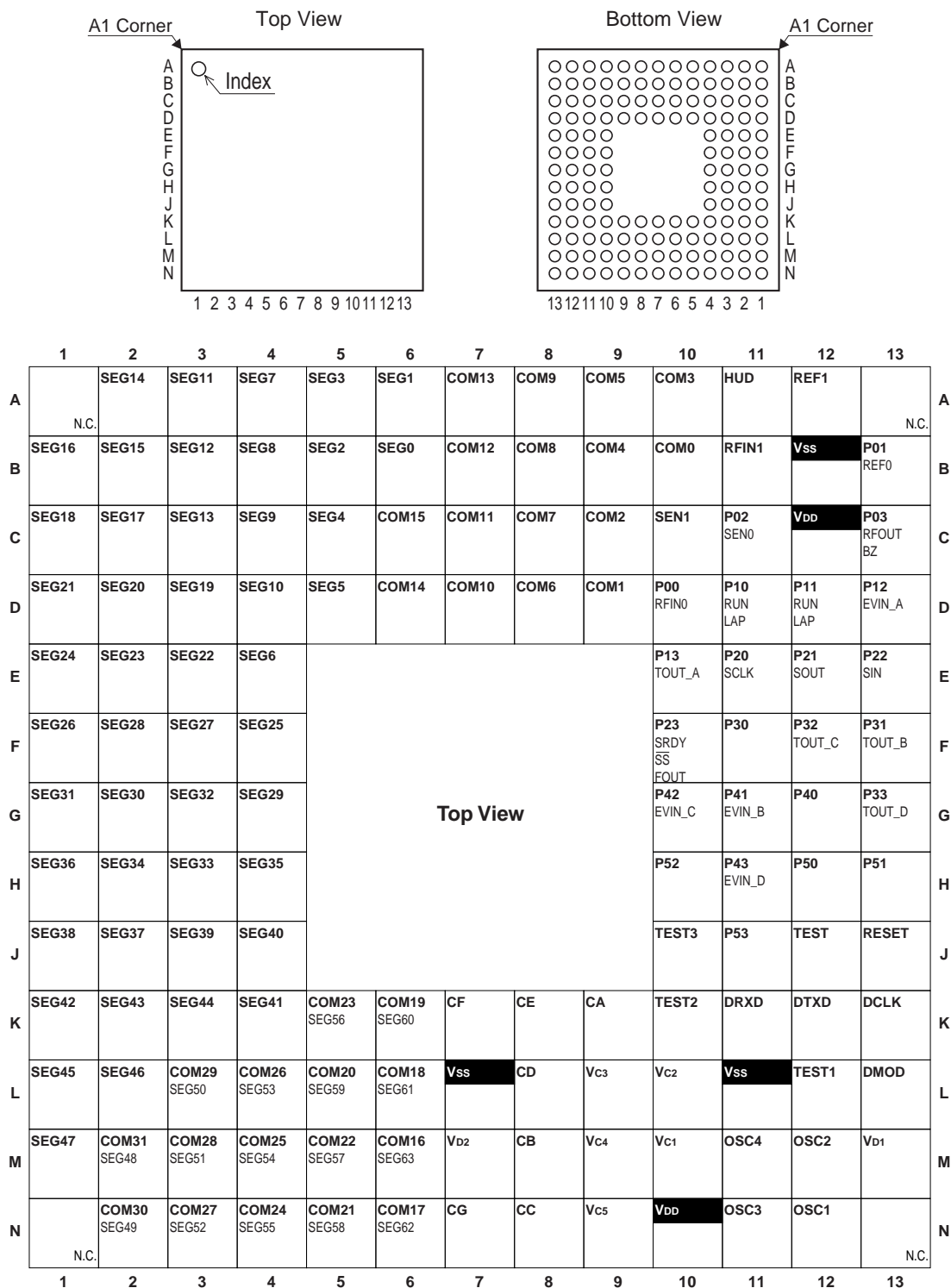


図1.3.2 端子配置図(VFBA7HX144)

1.4 端子説明

表1.4.1 端子説明

端子名	端子No.			入出力	機能
	チップ	QFP	VFBGA		
VDD	63, 100	67, 104	C12, N10	–	電源(+)端子
VSS	49, 66, 104	53, 70, 108	B12, L7, L11	–	電源(-)端子
VD1	69	73	M13	–	内部ロジック動作電圧出力端子
VD2	50	54	M7	–	LCD回路用電源昇圧出力端子
Vci~Vcs	62~58	66~62	M10, L10, L9, M9, N9	–	LCD系電源端子
CA~CE	57~53	61~57	K9, M8, N8, L8, K8	–	LCD系昇圧コンデンサ接続端子
CF, CG	52, 51	56, 55	K7, N7	–	電源電圧昇圧コンデンサ接続端子
OSC1	67	71	N12	I	水晶発振入力端子
OSC2	68	72	M12	O	水晶発振出力端子
OSC3	64	68	N11	I	セラミックまたはCR発振入力端子(マスクオプション選択)
OSC4	65	69	M11	O	セラミックまたはCR発振出力端子(マスクオプション選択)
P00/RFIN0	103	107	D10	I	入出力端子(R/FコンバータCh.0 CR発振入力端子にソフト切り換え)
P01/REF0	102	106	B13	I/O	入出力端子(R/FコンバータCh.0基準発振出力端子にソフト切り換え)
P02/SEN0	101	105	C11	I/O	入出力端子(R/FコンバータCh.0 CR発振出力端子にソフト切り換え)
P03/RFOUT/BZ	99	103	C13	I/O	入出力端子(R/Fコンバータ発振周波数出力端子、サウンド出力端子にソフト切り換え)
P10/RUN/LAP	98	102	D11	I/O	入出力端子(ストップウォッチRUN/LAP入力端子にソフト切り換え)
P11/RUN/LAP	97	101	D12	I/O	入出力端子(ストップウォッチRUN/LAP入力端子にソフト切り換え)
P12/EVIN_A	96	100	D13	I/O	入出力端子(イベントカウンタ入力端子にソフト切り換え)
P13/TOUT_A	95	99	E10	I/O	入出力端子(プログラマブルタイマ出力端子にソフト切り換え)
P20/SCLK	94	98	E11	I/O	入出力端子(シリアルI/Fクロック入出力端子にソフト切り換え)
P21/SOUT	93	97	E12	I/O	入出力端子(シリアルI/Fデータ出力端子にソフト切り換え)
P22/SIN	92	96	E13	I/O	入出力端子(シリアルI/Fデータ入力端子にソフト切り換え)
P23/SRDY/SS/ FOUT	91	95	F10	I/O	入出力端子(シリアルI/Fレディ信号出力端子、SS入力端子、FOUTクロック出力端子にソフト切り換え)
P30	90	94	F11	I/O	入出力端子
P31/TOUT_B	89	93	F13	I/O	入出力端子(プログラマブルタイマ出力端子にソフト切り換え)
P32/TOUT_C	88	92	F12	I/O	入出力端子(プログラマブルタイマ出力端子にソフト切り換え)
P33/TOUT_D	87	91	G13	I/O	入出力端子(プログラマブルタイマ出力端子にソフト切り換え)
P40	86	90	G12	I/O	入出力端子
P41/EVIN_B	85	89	G11	I/O	入出力端子(イベントカウンタ入力端子にソフト切り換え)
P42/EVIN_C	84	88	G10	I/O	入出力端子(イベントカウンタ入力端子にソフト切り換え)
P43/EVIN_D	83	87	H11	I/O	入出力端子(イベントカウンタ入力端子にソフト切り換え)
P50~P53	82~79	86~83	H12, H13, H10, J11	I/O	入出力端子
COM0~COM15	109~124	113~128	*1	O	LCDコモン出力端子
COM16~COM31/ SEG63~SEG48	48~33	52~37	*2	O	LCDコモン出力端子(セグメント出力端子にソフト切り換え)
SEG0~SEG47	125~140, 1~32	129~144, 1~28, 31, 33, 35, 36	*3	O	LCDセグメント出力端子
RFIN1	105	109	B11	I	R/FコンバータCh.1 CR発振入力端子
REF1	106	110	A12	O	R/FコンバータCh.1基準発振出力端子
SEN1	107	111	C10	O	R/FコンバータCh.1 CR発振出力端子
HUD	108	112	A11	O	湿度センサ用CR交流発振出力端子
DMOD	73	77	L13	I	Flash EEPROMプログラミング制御入力端子
DRXD	74	78	K11	I	Flash EEPROMプログラミングシリアルデータ入力端子
DTXD	75	79	K12	O	Flash EEPROMプログラミングシリアルデータ出力端子
DCLK	76	80	K13	I	Flash EEPROMプログラミングクロック入力端子
RESET	78	82	J13	I	イニシャルリセット入力端子
TEST	77	81	J12	I	テスト用入力端子
TEST1~TEST3	70~72	74~76	L12, K10, J10	I/O	テスト端子

*1 COM0~COM15:

B10, D9, C9, A10, B9, A9, D8, C8, B8, A8, D7, C7, B7, A7, D6, C6

*2 COM16/SEG63~COM31/SEG48: M6, N6, L6, K6, L5, N5, M5, K5, N4, M4, L4, N3, M3, L3, N2, M2

*3 SEG0~SEG47:

B6, A6, B5, A5, C5, D5, E4, A4, B4, C4, D4, A3, B3, C3, A2, B2, B1, C2, C1, D3, D2, D1, F4, F1, F3, F2, G4, G2, G1, G3, H3, H2, H4, H1, J2, J1, J3, J4, K4, K1, K2, K3, L1, L2, M1

1.5 マスクオプション

S1C6F632には、3種類の標準マスクオプション品(Type B、Type E、Type G)および仕様を個々に選択可能なカスタムマスクオプション品が用意されています(表1.1参照)。カスタムマスクオプションには複数のハードウェア仕様が用意されており、アプリケーションに合わせて選択することができます。この選択にはS1C6F632の開発ソフトウェアツールとして用意されているファンクションオプションジェネレータwinfogを使用します。winfogによって作成したデータをもとに最終的なICのマスクパターン生成が行われます。winfogについては"S5U1C63000A Manual"を参照してください。

マスクオプションの概要

(1) OSC1発振回路

OSC1発振回路は、水晶発振回路に固定されています。詳細については"4.4.3 OSC1発振回路"を参照してください。

(2) OSC3発振回路

カスタムマスクオプション品では、OSC3発振回路としてセラミック発振回路またはCR発振回路(R外付け)が選択できます。標準オプション品は、Type Bがセラミック発振回路、Type EとGがCR発振回路(R外付け)に固定されています。詳細については"4.4.4 OSC3発振回路"を参照してください。

(3) RESET端子プルダウン抵抗

カスタムマスクオプション品では、RESET端子にプルダウン抵抗を付加するか否かを選択できます。標準マスクオプション品は"プルダウン抵抗あり"に固定されています。詳細については"2.2.1 リセット端子(RESET)"を参照してください。

(4) 入出力兼用ポートプルダウン抵抗

カスタムマスクオプション品では、入出力兼用ポートP00 ~ P03、P10 ~ P13、P20 ~ P23、P30 ~ P33、P40 ~ P43、P50 ~ P53が入力モード時に働くプルダウン抵抗を付加するか否かを選択できます。選択は1ビット単位で行います。標準マスクオプション品は"プルダウン抵抗あり"に固定されています。詳細については"4.5.2 マスクオプション"を参照してください。

(5) 入出力兼用ポートの出力仕様

カスタムマスクオプション品では、入出力兼用ポートP00 ~ P03、P10 ~ P13、P20 ~ P23、P30 ~ P33、P40 ~ P43、P50 ~ P53が出力モードの際の出力仕様として、コンプリメンタリ出力またはPチャンネルオープンドレイン出力が選択できます。選択は1ビット単位で行います。標準マスクオプション品は"コンプリメンタリ出力"に固定されています。詳細については"4.5.2 マスクオプション"を参照してください。

R/Fコンバータ チャンネル0を使用する場合は、P00 ~ P03ポートの出力仕様に"Pチャンネルオープンドレイン出力"を選択しないでください。

(6) P1xポート同時HIGH入力による外部リセット

これは、複数キーの同時押しによってICをリセットする機能です。カスタムマスクオプション品では、この機能を使用するか否かを選択できます。また、使用する場合は、同時に押すキーを接続するP1xポート(P10 ~ P13)の組み合わせを選択します。標準マスクオプション品は"使用しない"に固定されています。詳細については"2.2.2 P1xポート(P10 ~ P13)の同時HIGH入力"を参照してください。

(7) P1xポート同時HIGH入力リセットの時間検定回路

カスタムマスクオプション品で(6)の外部リセット機能を使用する場合は、時間検定回路を使用するか否かについても選択できます。時間検定回路を使用すると、規定時間以上の同時HIGH入力があった場合のみ、リセット機能が働きます。外部リセット機能を使用しない場合、時間検定回路は使用できません。詳細については"2.2.2 P1xポート(P10 ~ P13)の同時HIGH入力"を参照してください。

(8) LCD駆動電源

カスタムマスクオプション品ではLCD駆動用電源として、1/5バイアス(V_{C2}基準)、1/4バイアス(V_{C2}基準)または1/4バイアス(V_{C1}基準)が選択できます。標準マスクオプション品はType BとEが1/5バイアス(V_{C2}基準)、Type Gが1/4バイアス(V_{C2}基準)に固定されています。詳細については"4.6.2 LCD駆動電源"を参照してください。

表1.5.1 オプションリスト

項目	標準 Type B	標準 Type E	標準 Type G	カスタム
OSC1発振回路	■ 1. Crystal (32.768 kHz)	■ 1. Crystal (32.768 kHz)	■ 1. Crystal (32.768 kHz)	■ 1. Crystal (32.768 kHz)
OSC3発振回路	■ 2. Ceramic (4.2 MHz)	■ 1. CR (external R)	■ 1. CR (external R)	□ 1. CR (external R) □ 2. Ceramic (4.2 MHz)
RESET端子プルダウン抵抗	■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
入出力兼用ポート プルダウン抵抗	P00 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P01 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P02 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P03 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P10 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P11 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P12 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P13 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P20 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P21 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P22 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P23 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P30 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P31 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P32 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P33 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P40 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P41 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P42 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P43 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P50 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P51 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P52 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
	P53 ■ 1. Use	■ 1. Use	■ 1. Use	□ 1. Use □ 2. Not Use
入出力兼用ポート 出力仕様	P00 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain*
	P01 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain*
	P02 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain*
	P03 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain*
	P10 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P11 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P12 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P13 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P20 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P21 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P22 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P23 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P30 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P31 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P32 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P33 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P40 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P41 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P42 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P43 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P50 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P51 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P52 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
	P53 ■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	■ 1. Complementary	□ 1. Complementary □ 2. Pch Open Drain
P1xポートキー同時押し リセット組み合わせ	■ 1. Not Use	■ 1. Not Use	■ 1. Not Use	□ 1. Not Use □ 2. Use <P10, P11> □ 3. Use <P10, P11, P12> □ 4. Use <P10, P11, P12, P13>
P1xポートキー同時押し リセット時間検定	■ 1. Not Use	■ 1. Not Use	■ 1. Not Use	□ 1. Not Use □ 2. Use
LCD駆動電源	■ 1. 1/5 Bias, Vc2 Reference	■ 1. 1/5 Bias, Vc2 Reference	■ 2. 1/4 Bias, Vc2 Reference	□ 1. 1/5 Bias, Vc2 Reference □ 2. 1/4 Bias, Vc2 Reference □ 3. 1/4 Bias, Vc1 Reference

選択可能 固定

* R/Fコンバータ(チャンネル0)を使用する場合は、P00～P03ポートの出力仕様に"Pch Open Drain"を選択しないでください。

2 電源系およびイニシャルリセット

2.1 電源系

ここでは、S1C6F632の動作電圧、および内部電源回路の構成について説明します。

2.1.1 動作電圧

S1C6F632の動作電源電圧は次のとおりです。

通常動作時: 1.8V ~ 3.6V

Flashプログラミング時: 2.7V ~ 3.6V

2.1.2 内部電源回路

S1C6F632は図2.1.2.1に示す電源回路を内蔵しており、前記の範囲内の電圧を $V_{DD}(+)$ $V_{SS}(GND)$ 間に供給することによって内部回路に必要なすべての電圧をIC内部で発生します。

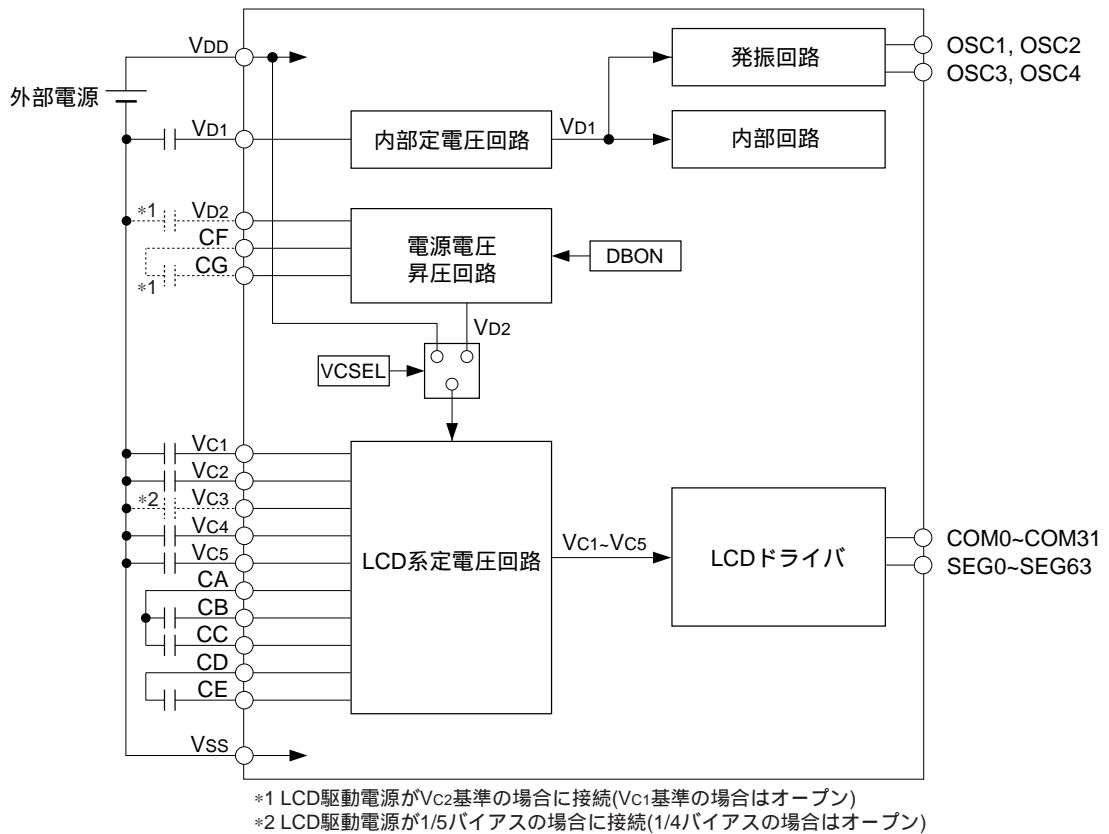


図2.1.2.1 電源回路の構成

電源回路は大きく3つに分けられます。

表2.1.2.1 電源回路

回路系	電源回路	出力電圧
発振回路、内部回路	内部定電圧回路	V_{D1}
LCD系定電圧回路	電源電圧昇圧回路	V_{DD} または V_{D2}
LCDドライバ	LCD系定電圧回路	$V_{C1} \sim V_{C5}$

内部定電圧回路

内部定電圧回路は、内部ロジック回路と発振回路の動作電圧 V_{D1} を発生します。

電源電圧昇圧回路

電源電圧昇圧回路は、LCD系定電圧回路の動作電圧 V_{D2} を発生します。

V_{C2} 基準のLCD駆動電源オプションが選択されている場合、電源電圧 V_{DD} に応じて、LCD系定電圧回路を V_{DD} で駆動するか、 V_{D2} で駆動するかを選択します。

表2.1.2.2 LCD系定電圧回路の電源(V_{C2} 基準選択時)

電源電圧 V_{DD}	LCD系定電圧回路電源
1.8 ~ 2.5V	V_{D2} ($V_{DD} \times 2$)
2.5 ~ 3.6V	V_{DD}

V_{D2} の電圧値は V_{DD} のおおよそ2倍の値になります。

2.5V以上の電源電圧 V_{DD} でICを動作させる場合、または V_{C1} 基準のLCD駆動電圧オプションを選択した場合は V_{D2} が不要のため、電源電圧昇圧回路をOFFすることができます。

電源電圧昇圧回路の制御については、"4.6.2 LCD駆動電源"を参照してください。

LCD系定電圧回路

LCD系定電圧回路はLCD駆動電圧 $V_{C1} \sim V_{C5}$ を発生します。各電圧値については"8 電氣的特性"を参照してください。

S1C6F632では、内蔵されたLCDドライバにこのLCD駆動電圧が供給され、コモン/セグメント端子に接続されたLCDパネルを駆動します。

- 注:
- V_{D1} 、 V_{D2} 、 $V_{C1} \sim V_{C5}$ 端子の出力を外部回路の駆動には絶対に使用しないでください。
 - V_{DD} が2.5V以下のときにLCD系定電圧回路の電源として V_{DD} を使用すると、 $V_{C1} \sim V_{C5}$ の電圧は正しい電圧とはなりません。(V_{C2} 基準選択時)

2.2 イニシャルリセット

S1C6F632は回路を初期化するためにイニシャルリセットを必要とします。イニシャルリセット要因としては次の2種類があります。

- (1) RESET端子による外部イニシャルリセット
- (2) P10～P13端子の同時HIGHレベル入力による外部イニシャルリセット(マスクオプションで設定)

(1) または (2) のいずれかにより回路が初期化されます。電源投入時は必ずこのリセット機能を使用し、確実に初期化する必要があります。電源投入のみでは回路が正しく初期化される保証はありません。

図2.2.1にイニシャルリセット回路の構成を示します。

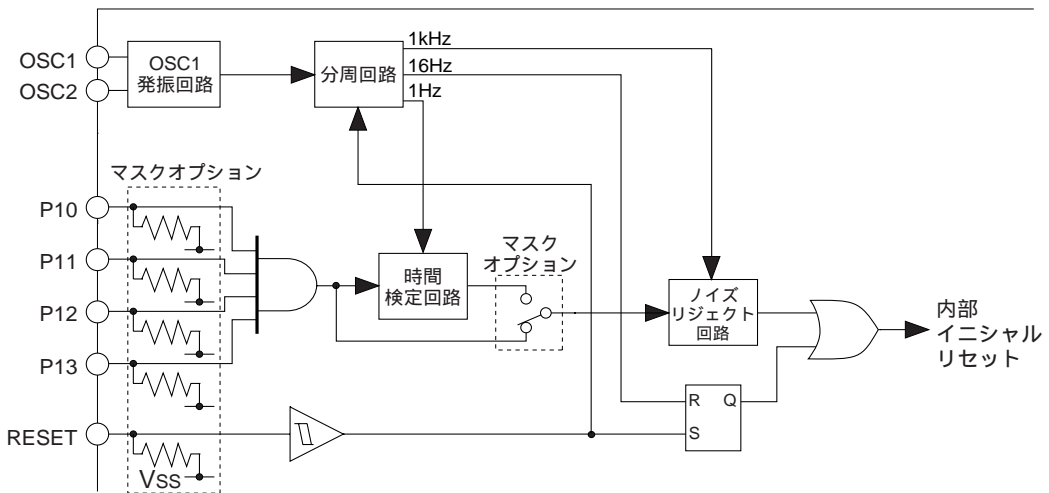


図2.2.1 イニシャルリセット回路の構成

2.2.1 リセット端子(RESET)

外部よりリセット端子をHIGHレベル(V_{DD})にすることによりイニシャルリセットが行えます。その後、リセット端子をLOWレベル(V_{SS})にすることによりイニシャルリセットは解除され、CPUが動作を開始します。

リセット入力信号はRSラッチにより保持され、内部イニシャルリセット信号となります。RSラッチはOSC1クロックを分周した16Hz信号(HIGH)で解除されるようになっています。したがって、通常動作時はリセット端子がLOWレベルになった後、内部イニシャルリセットが解除されるまで、最大 $16,396/f_{OSC1}$ 秒($f_{OSC1}=32.768\text{kHz}$ の場合は500msec)の時間を要します。

確実にイニシャルリセットを行うために、リセット入力は最低0.1msec以上、HIGHレベルを保ってください。ただし、電源投入時には図2.2.1.1に示すタイミングでリセット端子をHIGHレベルにしてください。100nsec以下のリセット入力は、ノイズとして除去されます。

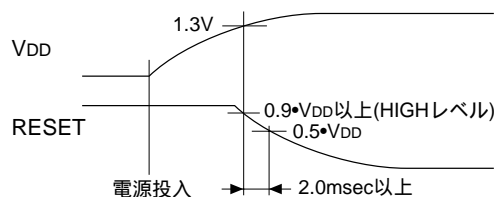


図2.2.1.1 電源投入時のイニシャルリセット

電源電圧が1.3V以上になるまで、リセット端子を0.9・ V_{DD} 以上(HIGHレベル)とします。その後2.0msec以上、0.5・ V_{DD} 以上のレベルを保持します。

リセット端子にはプルダウン抵抗が組み込まれており、これを使用するかしないかをマスクオプションで選択することができます。

2.2.2 P1xポート(P10 ~ P13)の同時HIGH入力

マスクオプションで選択された入力ポート(P10 ~ P13)に、外部から同時にHIGH入力を与えることによりイニシャルリセットが行えます。このイニシャルリセットはノイズリジェクト回路を通るため、動作中は1.5msec(発振周波数 $f_{osc1}=32.768\text{kHz}$ の場合)以上、指定入力ポート端子をHIGHレベルに保ってください。また、電源投入時には発振が停止しているため、ノイズリジェクト回路は動作しません。このため、発振開始後、さらに1.5msec(発振周波数 $f_{osc1}=32.768\text{kHz}$ の場合)以上、指定入力ポート端子をHIGHレベルに保ってください。表2.2.2.1にマスクオプションで選択できるP1xポート(P10 ~ P13)の組み合わせを示します。

表2.2.2.1 P1xポートの組み合わせ

1	使用しない
2	P10*P11
3	P10*P11*P12
4	P10*P11*P12*P13

たとえば、マスクオプションで4の"P10*P11*P12*P13"を選択した場合、P10 ~ P13の4ポートの入力が同時にHIGHレベルになったときにイニシャルリセットを行います。2または3の場合は、選択した入力ポートの組み合わせが含まれるキー入力が行われたときにイニシャルリセットがかかります。

また、このリセット機能を選択すると、同時HIGH入力の入力時間を検定し、規定時間(1 ~ 2秒)以上の入力があったときにイニシャルリセットを行う時間検定回路を使用するか否かについてもマスクオプションで選択できます。

なお、このリセット機能を使用する場合、通常動作時に指定ポートが同時にHIGHレベルにならないように注意してください。

2.2.3 イニシャルリセット時の内部レジスタ

イニシャルリセットによりCPUは表2.2.3.1のように初期化されます。

イニシャルリセットによって初期化されないレジスタ、フラグは必要に応じてプログラムで初期化する必要があります。

特にスタックポインタSP1およびSP2は必ずペアで設定してください。イニシャルリセット後は、SP1、SP2両方のスタックポインタがソフトウェアにより設定されるまでNMIを含むすべての割り込みがマスクされます。

EXTレジスタにデータを書き込むとEフラグがセットされ、次の命令が拡張アドレッシングモードで実行されます。そこに拡張アドレッシングが禁止されている命令を使用した場合、動作が保証されません。したがって、EXTレジスタの初期化のみを目的としたデータ書き込みは行わないでください。

拡張アドレッシングと使用可能な命令については"S1C63000コアCPUマニュアル"を参照してください。

表2.2.3.1 初期設定値

CPUコア				周辺回路		
名 称	記号	ビット長	設定値	名 称	ビット長	設定値
データレジスタA	A	4	不定	RAM	4	不定
データレジスタB	B	4	不定	表示メモリ	4	不定
拡張レジスタEXT	EXT	8	不定	その他の周辺回路	—	*
インデックスレジスタX	X	16	不定	* "4.1 メモリマップ"参照		
インデックスレジスタY	Y	16	不定			
プログラムカウンタ	PC	16	0110H			
スタックポインタSP1	SP1	8	不定			
スタックポインタSP2	SP2	8	不定			
ゼロフラグ	Z	1	不定			
キャリーフラグ	C	1	不定			
インタラプトフラグ	I	1	0			
拡張フラグ	E	1	0			
キューレジスタ	Q	16	不定			

2.2.4 イニシャルリセット時の端子設定

入出力兼用ポート(P)端子は特殊出力端子や、シリアルインタフェース、R/Fコンバータ、ストップウォッチタイマ、プログラマブルタイマ(イベントカウンタ)の入出力端子と兼用されており、それらの機能をソフトウェアで選択できるようになっています。イニシャルリセット時、各端子はすべてが汎用入出力兼用ポート端子として設定されますので、アプリケーションの初期化ルーチンでシステムに合った設定を行ってください。表2.2.4.1に兼用端子設定の一覧を示します。

表2.2.4.1 兼用端子設定一覧

端子名	イニシャルリセット時の端子状態	特殊出力/周辺回路機能使用時(ソフトウェアにて切り換え)							
		特殊出力			シリアルI/F		R/Fコンバータ	SWダイレクト入力	イベントカウンタ
		TOUT	FOUT	BZ	Master	Slave			
P00	P00(入力&ブルダウン*)						RFIN0		
P01	P01(入力&ブルダウン*)						REF0		
P02	P02(入力&ブルダウン*)						SEN0		
P03	P03(入力&ブルダウン*)			BZ			RFOUT		
P10	P10(入力&ブルダウン*)							RUN/LAP	
P11	P11(入力&ブルダウン*)							RUN/LAP	
P12	P12(入力&ブルダウン*)								EVIN_A
P13	P13(入力&ブルダウン*)	TOUT_A							
P20	P20(入力&ブルダウン*)				SCLK(O)	SCLK(I)			
P21	P21(入力&ブルダウン*)				SOUT(O)	SOUT(O)			
P22	P22(入力&ブルダウン*)				SIN(I)	SIN(I)			
P23	P23(入力&ブルダウン*)		FOUT			SRDY(O)/SS(I)			
P30	P30(入力&ブルダウン*)								
P31	P31(入力&ブルダウン*)	TOUT_B							
P32	P32(入力&ブルダウン*)	TOUT_C							
P33	P33(入力&ブルダウン*)	TOUT_D							
P40	P40(入力&ブルダウン*)								
P41	P41(入力&ブルダウン*)								EVIN_B
P42	P42(入力&ブルダウン*)								EVIN_C
P43	P43(入力&ブルダウン*)								EVIN_D
P50~P53	P50~P53(入力&ブルダウン*)								

* マスクオプションにて"ブルダウンあり"選択時("ブルダウンなし"選択時はハイインピーダンス)

機能の設定方法については各周辺回路の説明を参照してください。

2.3 テスト端子(TEST)

ICの出荷検査時に使用する端子です。通常動作時はTESTをVssに接続してください。

3 CPU, PROM, RAM

3.1 CPU

S1C6F632はCPU部分に4ビットコアCPU S1C63000を使用しています。
S1C63000については"S1C63000コアCPUマニュアル"を参照してください。

3.2 コードROM

内蔵コードROMはプログラム格納用のFlash EEPROMで、31,744ステップ×13ビットの容量があります。コアCPUのプログラム領域は0000H～FFFFHステップまでリニアにアクセス可能ですが、S1C6F632では、このうち0000H～7BFFHステップがプログラム領域となります。イニシャルリセット後のプログラム開始番地が0110Hステップ、ノンマスカブル割り込み(NMI)ベクタが0100H、ハードウェア割り込みベクタが0101H～010FHステップに割り当てられています。

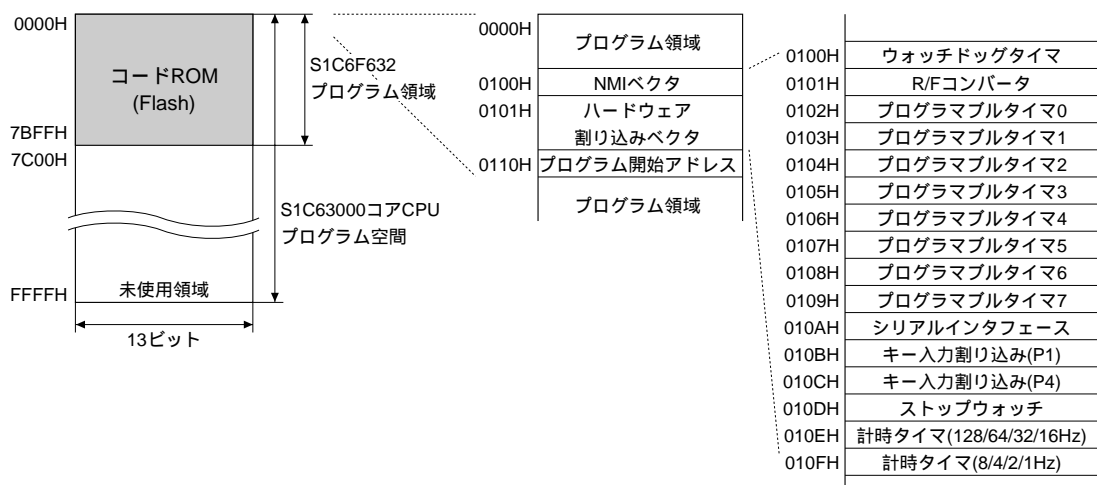


図3.2.1 コードROMの構成

3.3 RAM

RAMは種々のデータを格納するデータメモリで、8,192ワード×4ビットの容量があります。RAM領域は、データメモリマップ上のアドレス0000H～1FFFHに割り当てられています。この中でアドレス0100H～01FFHが4ビット/16ビットデータアクセスが可能な領域、その他の領域は4ビットデータアクセスのみ可能な領域となっています。プログラミングの際には以下の点に注意してください。

- (1) データメモリの一部をサブルーチンコールやレジスタ退避時のスタック領域としても使用しますので、データ領域とスタック領域が重ならないように注意してください。
- (2) S1C63000コアCPUは、4ビットデータ用スタックポインタ (SP2) および16ビットデータ用スタックポインタ (SP1) によりスタック処理を行います。SP1によるスタック処理では16ビットデータアクセスが行われますので、このスタック領域の設定は4ビット/16ビットアクセスが可能な領域内 (0100H～01FFH) で行ってください。スタックポインタは、SP1が0000H～1FFFH、SP2が0000H～00FFHの範囲でサイクリックに動作します。このため、SP1はS1C6F632の4ビット/16ビットアクセス領域を外れた0200H以上、あるいは00FFH以下の領域にも設定される可能性がありますので注意してください。SP1によるスタック操作以外のメモリアクセスは4ビットデータアクセスとなります。また、イニシャルリセット時は、スタックポインタSP1、SP2の両方がソフトウェアで設定されるまでNMIを含むすべての割り込みがマスクされます。また、SP1、SP2を設定後どちらか一方を再設定すると、もう一方が再設定されるまでNMIを含む割り込みは再びマスクされます。したがって、SP1およびSP2の設定は必ずペアで行ってください。

(3) サブルーチンコールでは16ビットデータ用スタック(SP1)を4ワード(PCの退避)消費します。

割り込みでは16ビットデータ用スタックエリアを4ワード(PCの退避)、4ビットデータ用スタックエリアを1ワード(フレジスタの退避)消費します。

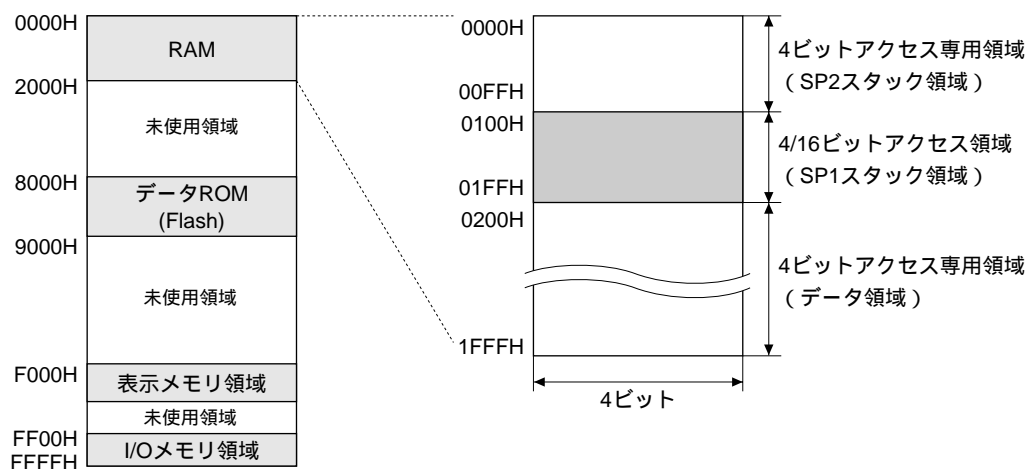


図3.3.1 RAMの構成

3.4 データROM

データROMはキャラクタジェネレータなどの各種固定データ格納用のFlash EEPROMで、4,096ワード×4ビットの容量があります。データメモリマップ上のアドレス8000H～8FFFHに割り当てられており、RAMと同様にデータメモリアクセス命令でデータを読み出すことができます。

4 周辺回路と動作

S1C6F632の周辺回路(タイマ、I/O等)はメモリマップドI/O方式で、CPUとインタフェースされています。このため、メモリマップ上のI/Oメモリをメモリ操作命令でアクセスすることにより、すべての周辺回路を制御することができます。

以下に、各周辺回路の動作について詳細に説明します。

4.1 メモリマップ

S1C6F632のデータメモリは、8,192ワードのRAM、4,096ワードのFlash EEPROM、2,048ビットの表示メモリ、178ワードの周辺I/Oメモリで構成されます。

図4.1.1にS1C6F632の全体のメモリマップ、表4.1.1に周辺回路(I/O空間)のメモリマップを示します。

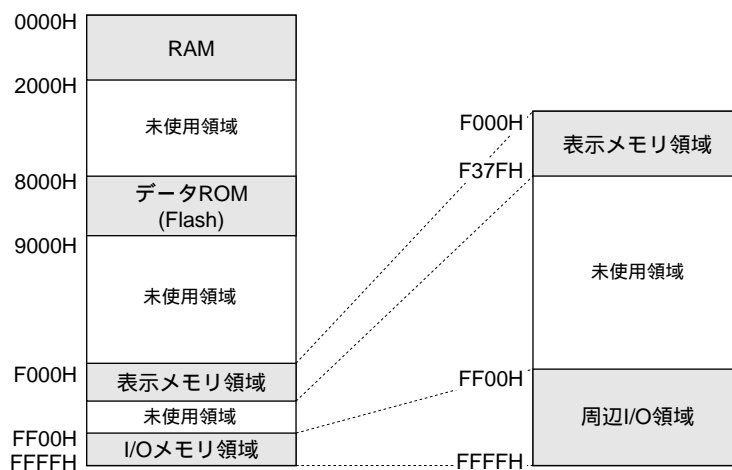


図4.1.1 メモリマップ

注: メモリマップの未使用領域にはメモリが実装されていません。また、周辺I/O領域にも非実装領域、未使用(アクセス禁止)領域が存在します。これらの領域をアクセスするようなプログラムを作成した場合は、正常な動作を保証することはできません。

周辺I/O領域については表4.1.1に示すI/Oメモリマップを参照してください。

表4.1.1(a) I/Oメモリマップ(FF00H ~ FF16H)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF00H	CLKCHG	OSCC	0	0	CLKCHG	0	OSC3	OSC1	CPUクロック切り換え OSC3発振On/Off 未使用 未使用
	R/W		R		OSCC	0	On	Off	
					0*3 0*3	-*2 -*2			
FF01H	0	0	WDEN	WDRST	0*3 0*3	-*2 -*2			未使用 未使用 ウォッチドッグタイマインーブル ウォッチドッグタイマリセット(書き込み時)
	R		R/W	W	WDEN	1	Enable	Disable	
					WDRST*3	Reset	Reset	Invalid	
FF02H	VDSEL	VCSEL	HLON	DBON	VDSEL	0	1	0	汎用レジスタ LCD系定電圧回路電源切り換え 汎用レジスタ 電源電圧昇圧回路On/Off
	R/W				VCSEL	0	V _{D2}	V _{DD}	
					HLON	0	1	0	
FF03H	VCHLMOD	VDHLMOD	General	LPWR	DBON	0	On	Off	LCD系定電圧回路重負荷保護モードOn/Off 内部(V _{D1})定電圧回路重負荷保護モードOn/Off 汎用レジスタ LCD系定電圧回路On/Off
	R/W				VDHLMOD	0	On	Off	
					General	0	1	0	
FF04H	SVDS3	SVDS2	SVDS1	SVDS0	LPWR	0	On	Off	SVD比較電圧 [SVDS3~0] 0 1 2 3 4 5 6 7 電圧(V) 禁止 1.8 1.9 2.0 2.1 2.2 2.3 2.4 [SVDS3~0] 8 9 10 11 12 13 14 15 電圧(V) 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3.0 3.1 3.2
	R/W				SVDS3	0			
					SVDS2	0			
FF05H	0	0	SVDDT	SVDON	SVDS1	0			未使用 未使用 SVD検出データ SVD回路On/Off
	R		R/W		SVDS0	0			
					SVDDT	0	Low	Normal	
FF10H	FOUT3	FOUT2	FOUT1	FOUT0	SVDON	0	On	Off	FOUT周波数選択 [FOUT3~0] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [FOUT3~0] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [FOUT3~0] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
	R/W				FOUT3	0			
					FOUT2	0			
FF11H	NRSP11	NRSP10	NRSP01	NRSP00	FOUT1	0			キー入力割り込みノイズリジェクト周波数選択 [NRSP11, 10] (P40~P43) 0 1 2 3 周波数 Off fosc1/16 fosc1/64 fosc1/256 [NRSP01, 00] (P10~P13) 0 1 2 3 周波数 Off fosc1/16 fosc1/64 fosc1/256
	R/W				FOUT0	0			
						0			
FF12H	FLCKS1	FLCKS0	VCCKS1	VCCKS0	NRSP11	0			フレーム [FLCKS1, 0] 0 1 2 3 周波数選択 周波数 32Hz 24Hz 16Hz 8Hz VC昇圧 [VCCKS1, 0] 0 1 2, 3 周波数選択 周波数 Off 2kHz 禁止
	R/W				NRSP10	0			
					FLCKS0	0			
FF14H	General	SIFCKS2	SIFCKS1	SIFCKS0	VCCKS1	0			汎用レジスタ シリアル/F クロック [SIFCKS2~0] 0 1 2 3 周波数 Off/外部 fosc1 fosc1/2 fosc1/4 周波数選択 [SIFCKS2~0] 4 5 6 7 周波数 PT1 fosc3 fosc3/2 fosc3/4
	R/W				VCCKS0	0			
					General	0	1	0	
FF15H	General	RFCKS2	RFCKS1	RFCKS0	SIFCKS2	0			汎用レジスタ R/Fコンバータ クロック [RFCKS2~0] 0 1 2 3 周波数 Off fosc1 fosc1/2 fosc1/4 周波数選択 [RFCKS2~0] 4 5 6 7 周波数 PT1 fosc3 fosc3/2 fosc3/4
	R/W				SIFCKS1	0			
					SIFCKS0	0			
FF16H	MDCKE	SGCKE	SWCKE	RTCKE	RFCKS2	0			整数乗除算器クロックインーブル サウンドジェネレータクロックインーブル ストップウォッチタイマクロックインーブル 計時タイマクロックインーブル
	R/W				RFCKS1	0			
					MDCKE	0	Enable	Disable	

[注 釈]

*1 イニシャルリセット時の初期値 *2 回路上設定されない *3 読み出し時は常時"0"

表4.1.1(b) I/Oメモリマップ(FF18H~FF20H)

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF18H	PTPS03	PTPS02	PTPS01	PTPS00	PTPS03	0		プログラマブルタイム0カウントクロック周波数選択 [PTPS03~00] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS03~00] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS03~00] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS02	0			
	R/W				PTPS01	0			
					PTPS00	0			
FF19H	PTPS13	PTPS12	PTPS11	PTPS10	PTPS13	0		プログラマブルタイム1カウントクロック周波数選択 [PTPS13~10] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS13~10] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS13~10] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS12	0			
	R/W				PTPS11	0			
					PTPS10	0			
FF1AH	PTPS23	PTPS22	PTPS21	PTPS20	PTPS23	0		プログラマブルタイム2カウントクロック周波数選択 [PTPS23~20] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS23~20] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS23~20] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS22	0			
	R/W				PTPS21	0			
					PTPS20	0			
FF1BH	PTPS33	PTPS32	PTPS31	PTPS30	PTPS33	0		プログラマブルタイム3カウントクロック周波数選択 [PTPS33~30] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS33~30] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS33~30] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS32	0			
	R/W				PTPS31	0			
					PTPS30	0			
FF1CH	PTPS43	PTPS42	PTPS41	PTPS40	PTPS43	0		プログラマブルタイム4カウントクロック周波数選択 [PTPS43~40] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS43~40] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS43~40] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS42	0			
	R/W				PTPS41	0			
					PTPS40	0			
FF1DH	PTPS53	PTPS52	PTPS51	PTPS50	PTPS53	0		プログラマブルタイム5カウントクロック周波数選択 [PTPS53~50] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS53~50] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS53~50] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS52	0			
	R/W				PTPS51	0			
					PTPS50	0			
FF1EH	PTPS63	PTPS62	PTPS61	PTPS60	PTPS63	0		プログラマブルタイム6カウントクロック周波数選択 [PTPS63~60] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS63~60] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS63~60] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS62	0			
	R/W				PTPS61	0			
					PTPS60	0			
FF1FH	PTPS73	PTPS72	PTPS71	PTPS70	PTPS73	0		プログラマブルタイム7カウントクロック周波数選択 [PTPS73~70] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS73~70] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS73~70] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3	
					PTPS72	0			
	R/W				PTPS71	0			
					PTPS70	0			
FF20H	P03 (R/OUT/ BZ)	P02 (SEN0)	P01 (REF0)	P00 (RFIN0)	P03	1	High	Low	P03入出力兼用ポートデータ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能 P02入出力兼用ポートデータ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P01入出力兼用ポートデータ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P00入出力兼用ポートデータ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					P02	1	High	Low	
	R/W				P01	1	High	Low	
					P00	1	High	Low	

表4.1.1(c) I/Oメモリマップ(FF21H~FF28H)

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF21H	IOC03	IOC02	IOC01	IOC00	IOC03	0	Output	Input	P03 I/O制御レジスタ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能
					IOC02	0	Output	Input	P02 I/O制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
	R/W				IOC01	0	Output	Input	P01 I/O制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					IOC00	0	Output	Input	P00 I/O制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
FF22H	PUL03	PUL02	PUL01	PUL00	PUL03	1	On	Off	P03ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能
					PUL02	1	On	Off	P02ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
	R/W				PUL01	1	On	Off	P01ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					PUL00	1	On	Off	P00ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
FF23H	SMT03	SMT02	SMT01	SMT00	SMT03	1	Schmitt	CMOS	P03入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能
					SMT02	1	Schmitt	CMOS	P02入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
	R/W				SMT01	1	Schmitt	CMOS	P01入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					SMT00	1	Schmitt	CMOS	P00入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
FF24H	P13 (TOUT_A)	P12	P11	P10	P13	1	High	Low	P13入出力兼用ポートデータ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				P12	1	High	Low	P12入出力兼用ポートデータ
					P11	1	High	Low	P11入出力兼用ポートデータ
					P10	1	High	Low	P10入出力兼用ポートデータ
FF25H	IOC13	IOC12	IOC11	IOC10	IOC13	0	Output	Input	P13 I/O制御レジスタ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能
					IOC12	0	Output	Input	P12 I/O制御レジスタ
	R/W				IOC11	0	Output	Input	P11 I/O制御レジスタ
					IOC10	0	Output	Input	P10 I/O制御レジスタ
FF26H	PUL13	PUL12	PUL11	PUL10	PUL13	1	On	Off	P13ブルダウン制御レジスタ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能
					PUL12	1	On	Off	P12ブルダウン制御レジスタ
	R/W				PUL11	1	On	Off	P11ブルダウン制御レジスタ
					PUL10	1	On	Off	P10ブルダウン制御レジスタ
FF27H	SMT13	SMT12	SMT11	SMT10	SMT13	1	Schmitt	CMOS	P13入力インタフェースレベル選択レジスタ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能
					SMT12	1	Schmitt	CMOS	P12入力インタフェースレベル選択レジスタ
	R/W				SMT11	1	Schmitt	CMOS	P11入力インタフェースレベル選択レジスタ
					SMT10	1	Schmitt	CMOS	P10入力インタフェースレベル選択レジスタ
FF28H	P23 (SS/ SRDY/ FOUT)	P22 (SIN)	P21 (SOUT)	P20 (SCLK)	P23	1	High	Low	P23入出力兼用ポートデータ SIF(スレーブ, SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用 レジスタとして機能
					P22	1	High	Low	P22入出力兼用ポートデータ
	R/W				P21	1	High	Low	P21入出力兼用ポートデータ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
					P20	1	High	Low	P20入出力兼用ポートデータ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能

表4.1.1(d) I/Oメモリマップ(FF29H ~ FF2FH)

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF29H	IOC23	IOC22	IOC21	IOC20	IOC23	0	Output	Input	P23 I/O制御レジスタ SIF選択時、FOUT出力時は汎用レジスタとして機能
					IOC22	0	Output	Input	P22 I/O制御レジスタ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
	R/W				IOC21	0	Output	Input	P21 I/O制御レジスタ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
					IOC20	0	Output	Input	P20 I/O制御レジスタ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
FF2AH	PUL23	PUL22	PUL21	PUL20	PUL23	1	On	Off	P23ブルダウン制御レジスタ SIF(スリープ、SS端子)選択時、SSブルダウン制御レジスタ SIF(スリープ、SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用レジスタとして機能
					PUL22	1	On	Off	P22ブルダウン制御レジスタ SIF選択時、SINブルダウン制御レジスタ
	R/W				PUL21	1	On	Off	P21ブルダウン制御レジスタ SIF(SOUTイネーブル)選択時、汎用レジスタとして機能
					PUL20	1	On	Off	P20ブルダウン制御レジスタ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能 SIF(スリープ)選択時、SCLK(I)ブルダウン制御レジスタ
FF2BH	SMT23	SMT22	SMT21	SMT20	SMT23	1	Schmitt	CMOS	P23入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(スリープ、SS端子)選択時、SS入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(スリープ、SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用レジスタとして機能
					SMT22	1	Schmitt	CMOS	P22入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF選択時、SIN入力インタフェースレベル選択レジスタ
	R/W				SMT21	1	Schmitt	CMOS	P21入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(SOUTイネーブル)選択時、汎用レジスタとして機能
					SMT20	1	Schmitt	CMOS	P20入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能 SIF(スリープ)選択時、SCLK(I)入力インタフェースレベル選択レジスタ
FF2CH	P33 (TOUT_D)	P32 (TOUT_C)	P31 (TOUT_B)	P30	P33	1	High	Low	P33入出力兼用ポートデータ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能
					P32	1	High	Low	P32入出力兼用ポートデータ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				P31	1	High	Low	P31入出力兼用ポートデータ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能
					P30	1	High	Low	P30入出力兼用ポートデータ
FF2DH	IOC33	IOC32	IOC31	IOC30	IOC33	0	Output	Input	P33 I/O制御レジスタ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能
					IOC32	0	Output	Input	P32 I/O制御レジスタ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				IOC31	0	Output	Input	P31 I/O制御レジスタ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能
					IOC30	0	Output	Input	P30 I/O制御レジスタ
FF2EH	PUL33	PUL32	PUL31	PUL30	PUL33	1	On	Off	P33ブルダウン制御レジスタ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能
					PUL32	1	On	Off	P32ブルダウン制御レジスタ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				PUL31	1	On	Off	P31ブルダウン制御レジスタ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能
					PUL30	1	On	Off	P30ブルダウン制御レジスタ
FF2FH	SMT33	SMT32	SMT31	SMT30	SMT33	1	Schmitt	CMOS	P33入力インタフェースレベル選択レジスタ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能
					SMT32	1	Schmitt	CMOS	P32入力インタフェースレベル選択レジスタ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				SMT31	1	Schmitt	CMOS	P31入力インタフェースレベル選択レジスタ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能
					SMT30	1	Schmitt	CMOS	P30入力インタフェースレベル選択レジスタ

表4.1.1(e) I/Oメモリマップ(FF30H~FF41H)

















アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF30H	P43	P42	P41	P40	P43	1	High	Low	P40 ~ P43出力兼用ポートデータ
					P42	1	High	Low	
					P41	1	High	Low	
					P40	1	High	Low	
FF31H	IOC43	IOC42	IOC41	IOC40	IOC43	0	Output	Input	P40 ~ P43 I/O制御レジスタ
					IOC42	0	Output	Input	
					IOC41	0	Output	Input	
					IOC40	0	Output	Input	
FF32H	PUL43	PUL42	PUL41	PUL40	PUL43	1	On	Off	P40 ~ P43ブルダウン制御レジスタ
					PUL42	1	On	Off	
					PUL41	1	On	Off	
					PUL40	1	On	Off	
FF33H	SMT43	SMT42	SMT41	SMT40	SMT43	1	Schmitt	CMOS	P40 ~ P43入力インタフェースレベル選択レジスタ
					SMT42	1	Schmitt	CMOS	
					SMT41	1	Schmitt	CMOS	
					SMT40	1	Schmitt	CMOS	
FF34H	P53	P52	P51	P50	P53	1	High	Low	P50 ~ P53出力兼用ポートデータ
					P52	1	High	Low	
					P51	1	High	Low	
					P50	1	High	Low	
FF35H	IOC53	IOC52	IOC51	IOC50	IOC53	0	Output	Input	P50 ~ P53 I/O制御レジスタ
					IOC52	0	Output	Input	
					IOC51	0	Output	Input	
					IOC50	0	Output	Input	
FF36H	PUL53	PUL52	PUL51	PUL50	PUL53	1	On	Off	P50 ~ P53ブルダウン制御レジスタ
					PUL52	1	On	Off	
					PUL51	1	On	Off	
					PUL50	1	On	Off	
FF37H	SMT53	SMT52	SMT51	SMT50	SMT53	1	Schmitt	CMOS	P50 ~ P53入力インタフェースレベル選択レジスタ
					SMT52	1	Schmitt	CMOS	
					SMT51	1	Schmitt	CMOS	
					SMT50	1	Schmitt	CMOS	
FF3CH	SIP03	SIP02	SIP01	SIP00	SIP03	0	Enable	Disable	P10 ~ P13割り込み選択レジスタ
					SIP02	0	Enable	Disable	
					SIP01	0	Enable	Disable	
					SIP00	0	Enable	Disable	
FF3DH	PCP03	PCP02	PCP01	PCP00	PCP03	1			P10 ~ P13割り込み極性選択レジスタ
					PCP02	1			
					PCP01	1			
					PCP00	1			
FF3EH	SIP13	SIP12	SIP11	SIP10	SIP13	0	Enable	Disable	P40 ~ P43割り込み選択レジスタ
					SIP12	0	Enable	Disable	
					SIP11	0	Enable	Disable	
					SIP10	0	Enable	Disable	
FF3FH	PCP13	PCP12	PCP11	PCP10	PCP13	1			P40 ~ P43割り込み極性選択レジスタ
					PCP12	1			
					PCP11	1			
					PCP10	1			
FF40H	0	0	TMRST	TMRUN	0 *3	- *2			未使用 未使用 計時タイマリセット(書き込み時) 計時タイマRun/Stop
					0 *3	- *2			
					TMRST*3	Reset	Reset	Invalid	
					TMRUN	0	Run	Stop	
FF41H	TM3	TM2	TM1	TM0	TM3	0			計時タイマデータ(16Hz) 計時タイマデータ(32Hz) 計時タイマデータ(64Hz) 計時タイマデータ(128Hz)
					TM2	0			
					TM1	0			
					TM0	0			

表4.1.1(f) I/Oメモリマップ(FF42H~FF51H)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF42H	TM7	TM6	TM5	TM4	TM7	0			計時タイマデータ(1Hz) 計時タイマデータ(2Hz) 計時タイマデータ(4Hz) 計時タイマデータ(8Hz)
					TM6	0			
	R				TM5	0			
					TM4	0			
FF44H	ENRTM	ENRST	ENON	BZE	ENRTM	0	1 sec	0.5 sec	エンベロープ減衰時間選択 エンベロープリセット(書き込み時) エンベロープOn/Off BZ出力イネーブル
					ENRST*3	Reset	Reset	Invalid	
	R/W	W	R/W		ENON	0	On	Off	
					BZE	0	Enable	Disable	
FF45H	0	BZSTP	BZSHT	SHTPW	0 *3	- *2			未使用 1ショットブザーStop(書き込み時) 1ショットブザートリガ(書き込み時) 1ショットブザーステータス(読み出し時) 1ショットブザーパルス幅選択
					BZSTP*3	0	Stop	Invalid	
					BZSHT	0	Trigger	Invalid	
	R	W	R/W		SHTPW	0	Busy 125 msec	Ready 31.25 msec	
FF46H	0	BZFQ2	BZFQ1	BZFQ0	0 *3	- *2			未使用 ブザー [BZFQ2~0] 0 1 2 3 周波数(Hz) 4096.0 3276.8 2730.7 2340.6 周波数選択 [BZFQ2~0] 4 5 6 7 周波数(Hz) 2048.0 1638.4 1365.3 1170.3
					BZFQ2	0			
					BZFQ1	0			
	R	R/W			BZFQ0	0			
FF47H	0	BDTY2	BDTY1	BDTY0	0 *3	- *2			未使用 ブザー信号デューティ比選択 (本編参照)
					BDTY2	0			
	R	R/W			BDTY1	0			
					BDTY0	0			
FF48H	0	0	SWDIR	EDIR	0 *3	- *2			未使用 未使用 ストップウォッチダイレクト入力切り換え 0: P10=Run/Stop, P11=Lap 1: P10=Lap, P11=Run/Stop ダイレクト入力イネーブル
					0 *3	- *2			
	R		R/W		SWDIR	0			
					EDIR	0	Enable	Disable	
FF49H	0	DKM2	DKM1	DKM0	0 *3	- *2			未使用 キーマスク [DKM2~0] 0 1 2 3 選択 キーマスク なし P12 P12~13 P12~13,40 [DKM2~0] 4 5 6 7 キーマスク P40 P40~41 P40~42 P40~43
					DKM2	0			
					DKM1	0			
	R	R/W			DKM0	0			
FF4AH	LCURF	CRNWF	SWRUN	SWRST	LCURF	0	Request	No	ラップデータ桁上げ要求フラグ キャプチャ更新フラグ ストップウォッチタイマRun/Stop ストップウォッチタイマリセット(書き込み時)
					CRNWF	0	Renewal	No	
	R		R/W	W	SWRUN	0	Run	Stop	
					SWRST*3	Reset	Reset	Invalid	
FF4BH	SWD3	SWD2	SWD1	SWD0	SWD3	0			ストップウォッチタイマデータ BCD(1/1000sec)
					SWD2	0			
	R				SWD1	0			
					SWD0	0			
FF4CH	SWD7	SWD6	SWD5	SWD4	SWD7	0			ストップウォッチタイマデータ BCD(1/100sec)
					SWD6	0			
	R				SWD5	0			
					SWD4	0			
FF4DH	SWD11	SWD10	SWD9	SWD8	SWD11	0			ストップウォッチタイマデータ BCD(1/10sec)
					SWD10	0			
	R				SWD9	0			
					SWD8	0			
FF50H	General	LPAGE	DSPC1	DSPC0	General	0	1	0	汎用レジスタ 表示メモリ領域選択(1/16デューティ選択時) 1/24、1/32デューティ選択時は汎用レジスタとして機能 LCD表示 [DSPC1,0] 0 1 2 3 モード選択 表示モード 通常 反転 全点灯 全消灯
					LPAGE	0	F200-F37F	F000-F17F	
	R/W				DSPC1	0			
					DSPC0	0			
FF51H	General	LDUTY2	LDUTY1	LDUTY0	General	0	1	0	汎用レジスタ LCD駆動 [LDUTY2~0] 0 1 2 デューティ デューティ 1/32(32Hz) 禁止 1/24(42Hz) デューティ [LDUTY2~0] 3 4 5~7 選択 デューティ 1/24(21Hz) 1/16(32Hz) 禁止
					LDUTY2	0			
	R/W				LDUTY1	0			
					LDUTY0	0			

表4.1.1(g) I/Oメモリマップ(FF52H ~ FF67H)


アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF52H	LC3	LC2	LC1	LC0	LC3	0			LCDコントラスト調整 [LC3~0] 0 ~ 15 コントラスト 淡 ~ 濃
					LC2	0			
					LC1	0			
	R/W				LC0	0			
FF58H	0	ESOUT	SCTRG	ESIF	0 *3	- *2			未使用 SOUTイネーブル シリアルI/Fクロックトリガ(書き込み時) シリアルI/Fクロックステータス(読み出し時) シリアルI/Fイネーブル(P2ポート機能選択)
					ESOUT	0	Enable	Disable	
					SCTRG	0	Trigger	Invalid	
					ESIF	0	Run	Stop	
FF59H	SCPS1	SCPS0	SDP	SMOD	SCPS1	0			シリアルI/Fクロック [SCPS1, 0] 0 1 2 3 フォーマット選択 極性 正 正 負 負 シリアルI/Fデータ入出力順列 シリアルI/Fモード選択
					SCPS0	0			
					SDP	0	MSB first	LSB first	
	R/W				SMOD	0	Master	Slave	
FF5AH	0	0	ESREADY	ENCS	0 *3	- *2			未使用 未使用 SIF使用時 P23機能選択 SIFイネーブル (P23ポート機能選択)
					ESREADY	0	SRDY	SS	
					ENCS	0	SIF	I/O	
FF5BH	SD3	SD2	SD1	SD0	SD3	- *2	High	Low	MSB シリアルI/F送受信データ(下位4ビット) LSB
					SD2	- *2	High	Low	
					SD1	- *2	High	Low	
	R/W				SD0	- *2	High	Low	
FF5CH	SD7	SD6	SD5	SD4	SD7	- *2	High	Low	MSB シリアルI/F送受信データ(上位4ビット) LSB
					SD6	- *2	High	Low	
					SD5	- *2	High	Low	
	R/W				SD4	- *2	High	Low	
FF60H	RFCNT	RFOUT	ERF1	ERF0	RFCNT	0	Continue	Normal	連続発振イネーブル RFOUTイネーブル R/F変換 選択 [ERF1, 0] 0 1 2 3 R/F変換 I/O Ch.0 DC Ch.1 AC Ch.1 DC
					RFOUT	0	Enable	Disable	
					ERF1	0			
	R/W				ERF0	0			
FF61H	OVTC	OVMC	RFRUNR	RFRUNS	OVTC	0	Overflow	Non-ov	タイムベースカウンタオーバーフローフラグ 計測カウンタオーバーフローフラグ 基準発振Run制御/ステータス センサ発振Run制御/ステータス
					OVMC	0	Overflow	Non-ov	
					RFRUNR	0	Run	Stop	
	R/W				RFRUNS	0	Run	Stop	
FF62H	MC3	MC2	MC1	MC0	MC3	- *2			計測カウンタ(MC0 ~ MC3) LSB
					MC2	- *2			
					MC1	- *2			
	R/W				MC0	- *2			
FF63H	MC7	MC6	MC5	MC4	MC7	- *2			計測カウンタ(MC4 ~ MC7)
					MC6	- *2			
					MC5	- *2			
	R/W				MC4	- *2			
FF64H	MC11	MC10	MC9	MC8	MC11	- *2			計測カウンタ(MC8 ~ MC11)
					MC10	- *2			
					MC9	- *2			
	R/W				MC8	- *2			
FF65H	MC15	MC14	MC13	MC12	MC15	- *2			計測カウンタ(MC12 ~ MC15)
					MC14	- *2			
					MC13	- *2			
	R/W				MC12	- *2			
FF66H	MC19	MC18	MC17	MC16	MC19	- *2			MSB 計測カウンタ(MC16 ~ MC19)
					MC18	- *2			
					MC17	- *2			
	R/W				MC16	- *2			
FF67H	TC3	TC2	TC1	TC0	TC3	- *2			タイムベースカウンタデータ(TC0 ~ TC3)
					TC2	- *2			
					TC1	- *2			
	R/W				TC0	- *2			

表4.1.1(h) I/Oメモリマップ(FF68H ~ FF82H)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init #1	1	0	
FF68H	TC7	TC6	TC5	TC4	TC7	−*2			タイムベースカウンタデータ(TC4 ~ TC7)
					TC6	−*2			
					TC5	−*2			
					TC4	−*2			
FF69H	TC11	TC10	TC9	TC8	TC11	−*2			タイムベースカウンタデータ(TC8 ~ TC11)
					TC10	−*2			
					TC9	−*2			
					TC8	−*2			
FF6AH	TC15	TC14	TC13	TC12	TC15	−*2			タイムベースカウンタデータ(TC12 ~ TC15)
					TC14	−*2			
					TC13	−*2			
					TC12	−*2			
FF6BH	TC19	TC18	TC17	TC16	TC19	−*2			MSB タイムベースカウンタデータ(TC16 ~ TC19)
					TC18	−*2			
					TC17	−*2			
					TC16	−*2			
FF70H	SR3	SR2	SR1	SR0	SR3	−*2			ソースレジスタ(下位4ビット) LSB
					SR2	−*2			
					SR1	−*2			
					SR0	−*2			
FF71H	SR7	SR6	SR5	SR4	SR7	−*2			MSB ソースレジスタ(上位4ビット)
					SR6	−*2			
					SR5	−*2			
					SR4	−*2			
FF72H	DRL3	DRL2	DRL1	DRL0	DRL3	−*2			デスティネーションレジスタ下位8ビット (下位4ビット) LSB
					DRL2	−*2			
					DRL1	−*2			
					DRL0	−*2			
FF73H	DRL7	DRL6	DRL5	DRL4	DRL7	−*2			MSB デスティネーションレジスタ下位8ビット (上位4ビット)
					DRL6	−*2			
					DRL5	−*2			
					DRL4	−*2			
FF74H	DRH3	DRH2	DRH1	DRH0	DRH3	−*2			デスティネーションレジスタ上位8ビット (下位4ビット) LSB
					DRH2	−*2			
					DRH1	−*2			
					DRH0	−*2			
FF75H	DRH7	DRH6	DRH5	DRH4	DRH7	−*2			MSB デスティネーションレジスタ上位8ビット (上位4ビット)
					DRH6	−*2			
					DRH5	−*2			
					DRH4	−*2			
FF76H	NF	VF	ZF	CALMD	NF	0	Negative	Positive	ネガティブフラグ オーバーフローフラグ ゼロフラグ 実行ステータス(読み出し時) 演算モード選択(書き込み時)
					VF	0	Overflow	No	
					ZF	0	Zero	No	
					CALMD	0	Run	Stop	
FF80H	MOD16_A	EVCNT_A	FCSEL_A	PLPUL_A	MOD16_A	0	16 bits	8 bits	PTM0-1 16ビットモード選択 PTM0カウンタモード選択 PTM0機能選択(イベントカウンタモード時) PTM0パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
					EVCNT_A	0	Event ct.	Timer	
					FCSEL_A	0	With NR	No NR	
					PLPUL_A	0	┐	└	
FF81H	PTSEL1	PTSEL0	CHSEL_A	PTOUT_A	PTSEL1	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ1リセット(リロード) プログラマブルタイマ1 PWM出力選択 プログラマブルタイマ0 PWM出力選択 PTM0-1 TOUT_A出力選択 PTM0-1 TOUT_A出力制御
					PTSEL0	0	PWM	Normal	
					CHSEL_A	0	Timer 1	Timer 0	
					PTOUT_A	0	On	Off	
FF82H	PTRST1	PTRUN1	PTRST0	PTRUN0	PTRST1*3	−*2	Reset	Invalid	プログラマブルタイマ1リセット(リロード) プログラマブルタイマ1 Run/Stop プログラマブルタイマ0リセット(リロード) プログラマブルタイマ0 Run/Stop
					PTRUN1	0	Run	Stop	
					PTRST0*3	−*2	Reset	Invalid	
					PTRUN0	0	Run	Stop	

表4.1.1(i) I/Oメモリマップ(FF84H~FF91H)



アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF84H	RLD03	RLD02	RLD01	RLD00	RLD03	0			MSB プログラマブルタイマ0リロードデータ(下位4ビット) LSB
	R/W				RLD02	0			
					RLD01	0			
					RLD00	0			
FF85H	RLD07	RLD06	RLD05	RLD04	RLD07	0			MSB プログラマブルタイマ0リロードデータ(上位4ビット) LSB
	R/W				RLD06	0			
					RLD05	0			
					RLD04	0			
FF86H	RLD13	RLD12	RLD11	RLD10	RLD13	0			MSB プログラマブルタイマ1リロードデータ(下位4ビット) LSB
	R/W				RLD12	0			
					RLD11	0			
					RLD10	0			
FF87H	RLD17	RLD16	RLD15	RLD14	RLD17	0			MSB プログラマブルタイマ1リロードデータ(上位4ビット) LSB
	R/W				RLD16	0			
					RLD15	0			
					RLD14	0			
FF88H	PTD03	PTD02	PTD01	PTD00	PTD03	0			MSB プログラマブルタイマ0データ(下位4ビット) LSB
	R				PTD02	0			
					PTD01	0			
					PTD00	0			
FF89H	PTD07	PTD06	PTD05	PTD04	PTD07	0			MSB プログラマブルタイマ0データ(上位4ビット) LSB
	R				PTD06	0			
					PTD05	0			
					PTD04	0			
FF8AH	PTD13	PTD12	PTD11	PTD10	PTD13	0			MSB プログラマブルタイマ1データ(下位4ビット) LSB
	R				PTD12	0			
					PTD11	0			
					PTD10	0			
FF8BH	PTD17	PTD16	PTD15	PTD14	PTD17	0			MSB プログラマブルタイマ1データ(上位4ビット) LSB
	R				PTD16	0			
					PTD15	0			
					PTD14	0			
FF8CH	CD03	CD02	CD01	CD00	CD03	0			MSB プログラマブルタイマ0コンペアデータ(下位4ビット) LSB
	R/W				CD02	0			
					CD01	0			
					CD00	0			
FF8DH	CD07	CD06	CD05	CD04	CD07	0			MSB プログラマブルタイマ0コンペアデータ(上位4ビット) LSB
	R/W				CD06	0			
					CD05	0			
					CD04	0			
FF8EH	CD13	CD12	CD11	CD10	CD13	0			MSB プログラマブルタイマ1コンペアデータ(下位4ビット) LSB
	R/W				CD12	0			
					CD11	0			
					CD10	0			
FF8FH	CD17	CD16	CD15	CD14	CD17	0			MSB プログラマブルタイマ1コンペアデータ(上位4ビット) LSB
	R/W				CD16	0			
					CD15	0			
					CD14	0			
FF90H	MOD16_B	EVCNT_B	FCSEL_B	PLPUL_B	MOD16_B	0	16 bits	8 bits	PTM2-3 16ビットモード選択 PTM2カウンタモード選択 PTM2機能選択(イベントカウンタモード時) PTM2/パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
	R/W				EVCNT_B	0	Event ct.	Timer	
					FCSEL_B	0	With NR	No NR	
					PLPUL_B	0			
FF91H	PTSEL3	PTSEL2	CHSEL_B	PTOUT_B	PTSEL3	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ3 PWM出力選択 プログラマブルタイマ2 PWM出力選択 PTM2-3 TOUT_B出力選択 PTM2-3 TOUT_B出力制御
	R/W				PTSEL2	0	PWM	Normal	
					CHSEL_B	0	Timer 3	Timer 2	
					PTOUT_B	0	On	Off	

表4.1.1(j) I/Oメモリマップ(FF92H~FFA0H)

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF92H	PTRST3	PTRUN3	PTRST2	PTRUN2	PTRST3*3	– *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイマタイマ3リセット(リロード) プログラマブルタイマタイマ3 Run/Stop プログラマブルタイマタイマ2リセット(リロード) プログラマブルタイマタイマ2 Run/Stop
					PTRUN3	0	Run	Stop	
	W	R/W	W	R/W	PTRST2*3	– *2	Reset	Invalid	
					PTRUN2	0	Run	Stop	
FF94H	RLD23	RLD22	RLD21	RLD20	RLD23	0			MSB プログラマブルタイマ2リロードデータ(下位4ビット) LSB
					RLD22	0			
	R/W				RLD21	0			
					RLD20	0			
FF95H	RLD27	RLD26	RLD25	RLD24	RLD27	0			MSB プログラマブルタイマ2リロードデータ(上位4ビット) LSB
					RLD26	0			
	R/W				RLD25	0			
					RLD24	0			
FF96H	RLD33	RLD32	RLD31	RLD30	RLD33	0			MSB プログラマブルタイマ3リロードデータ(下位4ビット) LSB
					RLD32	0			
	R/W				RLD31	0			
					RLD30	0			
FF97H	RLD37	RLD36	RLD35	RLD34	RLD37	0			MSB プログラマブルタイマ3リロードデータ(上位4ビット) LSB
					RLD36	0			
	R/W				RLD35	0			
					RLD34	0			
FF98H	PTD23	PTD22	PTD21	PTD20	PTD23	0			MSB プログラマブルタイマ2データ(下位4ビット) LSB
					PTD22	0			
	R				PTD21	0			
					PTD20	0			
FF99H	PTD27	PTD26	PTD25	PTD24	PTD27	0			MSB プログラマブルタイマ2データ(上位4ビット) LSB
					PTD26	0			
	R				PTD25	0			
					PTD24	0			
FF9AH	PTD33	PTD32	PTD31	PTD30	PTD33	0			MSB プログラマブルタイマ3データ(下位4ビット) LSB
					PTD32	0			
	R				PTD31	0			
					PTD30	0			
FF9BH	PTD37	PTD36	PTD35	PTD34	PTD37	0			MSB プログラマブルタイマ3データ(上位4ビット) LSB
					PTD36	0			
	R				PTD35	0			
					PTD34	0			
FF9CH	CD23	CD22	CD21	CD20	CD23	0			MSB プログラマブルタイマ2コンペアデータ(下位4ビット) LSB
					CD22	0			
	R/W				CD21	0			
					CD20	0			
FF9DH	CD27	CD26	CD25	CD24	CD27	0			MSB プログラマブルタイマ2コンペアデータ(上位4ビット) LSB
					CD26	0			
	R/W				CD25	0			
					CD24	0			
FF9EH	CD33	CD32	CD31	CD30	CD33	0			MSB プログラマブルタイマ3コンペアデータ(下位4ビット) LSB
					CD32	0			
	R/W				CD31	0			
					CD30	0			
FF9FH	CD37	CD36	CD35	CD34	CD37	0			MSB プログラマブルタイマ3コンペアデータ(上位4ビット) LSB
					CD36	0			
	R/W				CD35	0			
					CD34	0			
FFA0H	MOD16_C	EV CNT_C	FCSEL_C	PLPUL_C	MOD16_C	0	16 bits	8 bits	PTM4-5 16ビットモード選択 PTM4カウンタモード選択 PTM4機能選択(イベントカウンタモード時) PTM4パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
					EV CNT_C	0	Event ct.	Timer	
	R/W				FCSEL_C	0	With NR	No NR	
					PLPUL_C	0	↑	↓	

表4.1.1(k) I/Oメモリマップ(FFA1H ~ FFAFH)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFA1H	PTSEL5	PTSEL4	CHSEL_C	PTOUT_C	PTSEL5	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ5 PWM出力選択 プログラマブルタイマ4 PWM出力選択 PTM4-5 TOUT_C出力選択 PTM4-5 TOUT_C出力制御
					PTSEL4	0	PWM	Normal	
	R/W				CHSEL_C	0	Timer 5	Timer 4	
					PTOUT_C	0	On	Off	
FFA2H	PTRST5	PTRUN5	PTRST4	PTRUN4	PTRST5*3	~ *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイマ5リセット(リロード) プログラマブルタイマ5 Run/Stop プログラマブルタイマ4リセット(リロード) プログラマブルタイマ4 Run/Stop
					PTRUN5	0	Run	Stop	
	W	R/W	W	R/W	PTRST4*3	~ *2	Reset	Invalid	
					PTRUN4	0	Run	Stop	
FFA4H	RLD43	RLD42	RLD41	RLD40	RLD43	0			MSB プログラマブルタイマ4リロードデータ(下位4ビット) LSB
					RLD42	0			
	R/W				RLD41	0			
					RLD40	0			
FFA5H	RLD47	RLD46	RLD45	RLD44	RLD47	0			MSB プログラマブルタイマ4リロードデータ(上位4ビット) LSB
					RLD46	0			
	R/W				RLD45	0			
					RLD44	0			
FFA6H	RLD53	RLD52	RLD51	RLD50	RLD53	0			MSB プログラマブルタイマ5リロードデータ(下位4ビット) LSB
					RLD52	0			
	R/W				RLD51	0			
					RLD50	0			
FFA7H	RLD57	RLD56	RLD55	RLD54	RLD57	0			MSB プログラマブルタイマ5リロードデータ(上位4ビット) LSB
					RLD56	0			
	R/W				RLD55	0			
					RLD54	0			
FFA8H	PTD43	PTD42	PTD41	PTD40	PTD43	0			MSB プログラマブルタイマ4データ(下位4ビット) LSB
					PTD42	0			
	R				PTD41	0			
					PTD40	0			
FFA9H	PTD47	PTD46	PTD45	PTD44	PTD47	0			MSB プログラマブルタイマ4データ(上位4ビット) LSB
					PTD46	0			
	R				PTD45	0			
					PTD44	0			
FFAAH	PTD53	PTD52	PTD51	PTD50	PTD53	0			MSB プログラマブルタイマ5データ(下位4ビット) LSB
					PTD52	0			
	R				PTD51	0			
					PTD50	0			
FFABH	PTD57	PTD56	PTD55	PTD54	PTD57	0			MSB プログラマブルタイマ5データ(上位4ビット) LSB
					PTD56	0			
	R				PTD55	0			
					PTD54	0			
FFACH	CD43	CD42	CD41	CD40	CD43	0			MSB プログラマブルタイマ4コンペアデータ(下位4ビット) LSB
					CD42	0			
	R/W				CD41	0			
					CD40	0			
FFADH	CD47	CD46	CD45	CD44	CD47	0			MSB プログラマブルタイマ4コンペアデータ(上位4ビット) LSB
					CD46	0			
	R/W				CD45	0			
					CD44	0			
FFAEH	CD53	CD52	CD51	CD50	CD53	0			MSB プログラマブルタイマ5コンペアデータ(下位4ビット) LSB
					CD52	0			
	R/W				CD51	0			
					CD50	0			
FFAFH	CD57	CD56	CD55	CD54	CD57	0			MSB プログラマブルタイマ5コンペアデータ(上位4ビット) LSB
					CD56	0			
	R/W				CD55	0			
					CD54	0			

表4.1.1(1) I/Oメモリマップ(FFB0H ~ FFBEH)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFB0H	MOD16_D	EVCNT_D	FCSEL_D	PLPUL_D	MOD16_D	0	16 bits	8 bits	PTM6-7 16ビットモード選択 PTM6カウンタモード選択 PTM6機能選択(イベントカウンタモード時) PTM6パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
					EVCNT_D	0	Event ct.	Timer	
					FCSEL_D	0	With NR	No NR	
					PLPUL_D	0			
FFB1H	PTSEL7	PTSEL6	CHSEL_D	PTOUT_D	PTSEL7	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ7 PWM出力選択 プログラマブルタイマ6 PWM出力選択 PTM6-7 TOUT_D出力選択 PTM6-7 TOUT_D出力制御
					PTSEL6	0	PWM	Normal	
					CHSEL_D	0	Timer 7	Timer 6	
					PTOUT_D	0	On	Off	
FFB2H	PTRST7	PTRUN7	PTRST6	PTRUN6	PTRST7*3	- *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイマ7リセット(リロード) プログラマブルタイマ7 Run/Stop プログラマブルタイマ6リセット(リロード) プログラマブルタイマ6 Run/Stop
					PTRUN7	0	Run	Stop	
					PTRST6*3	- *2	Reset	Invalid	
					PTRUN6	0	Run	Stop	
FFB4H	RLD63	RLD62	RLD61	RLD60	RLD63	0			MSB プログラマブルタイマ6リロードデータ(下位4ビット) LSB
					RLD62	0			
					RLD61	0			
					RLD60	0			
FFB5H	RLD67	RLD66	RLD65	RLD64	RLD67	0			MSB プログラマブルタイマ6リロードデータ(上位4ビット) LSB
					RLD66	0			
					RLD65	0			
					RLD64	0			
FFB6H	RLD73	RLD72	RLD71	RLD70	RLD73	0			MSB プログラマブルタイマ7リロードデータ(下位4ビット) LSB
					RLD72	0			
					RLD71	0			
					RLD70	0			
FFB7H	RLD77	RLD76	RLD75	RLD74	RLD77	0			MSB プログラマブルタイマ7リロードデータ(上位4ビット) LSB
					RLD76	0			
					RLD75	0			
					RLD74	0			
FFB8H	PTD63	PTD62	PTD61	PTD60	PTD63	0			MSB プログラマブルタイマ6データ(下位4ビット) LSB
					PTD62	0			
					PTD61	0			
					PTD60	0			
FFB9H	PTD67	PTD66	PTD65	PTD64	PTD67	0			MSB プログラマブルタイマ6データ(上位4ビット) LSB
					PTD66	0			
					PTD65	0			
					PTD64	0			
FFBAH	PTD73	PTD72	PTD71	PTD70	PTD73	0			MSB プログラマブルタイマ7データ(下位4ビット) LSB
					PTD72	0			
					PTD71	0			
					PTD70	0			
FFBBH	PTD77	PTD76	PTD75	PTD74	PTD77	0			MSB プログラマブルタイマ7データ(上位4ビット) LSB
					PTD76	0			
					PTD75	0			
					PTD74	0			
FFBCH	CD63	CD62	CD61	CD60	CD63	0			MSB プログラマブルタイマ6コンペアデータ(下位4ビット) LSB
					CD62	0			
					CD61	0			
					CD60	0			
FFBDH	CD67	CD66	CD65	CD64	CD67	0			MSB プログラマブルタイマ6コンペアデータ(上位4ビット) LSB
					CD66	0			
					CD65	0			
					CD64	0			
FFBEH	CD73	CD72	CD71	CD70	CD73	0			MSB プログラマブルタイマ7コンペアデータ(下位4ビット) LSB
					CD72	0			
					CD71	0			
					CD70	0			

表4.1.1(m) I/Oメモリマップ(FFBFH ~ FFEDH)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFBFH	CD77	CD76	CD75	CD74	CD77	0			<div> <div>MSB</div> <div>プログラマブルタイマ7コンペアデータ(上位4ビット)</div> <div>LSB</div> </div>
					CD76	0			
					CD75	0			
					CD74	0			
	R/W								
FFE1H	General	EIRFE	EIRFR	EIRFS	General	0	1	0	汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータエラー) 割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータ基準発振完了) 割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータセンサ発振完了)
					EIRFE	0	Enable	Mask	
					EIRFR	0	Enable	Mask	
					EIRFS	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE2H	General	General	EIPT0	EICTC0	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ0アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ0コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT0	0	Enable	Mask	
					EICTC0	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE3H	General	General	EIPT1	EICTC1	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ1アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ1コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT1	0	Enable	Mask	
					EICTC1	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE4H	General	General	EIPT2	EICTC2	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ2アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ2コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT2	0	Enable	Mask	
					EICTC2	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE5H	General	General	EIPT3	EICTC3	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ3アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ3コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT3	0	Enable	Mask	
					EICTC3	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE6H	General	General	EIPT4	EICTC4	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ4アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ4コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT4	0	Enable	Mask	
					EICTC4	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE7H	General	General	EIPT5	EICTC5	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ5アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ5コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT5	0	Enable	Mask	
					EICTC5	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE8H	General	General	EIPT6	EICTC6	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ6アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ6コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT6	0	Enable	Mask	
					EICTC6	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFE9H	General	General	EIPT7	EICTC7	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(タイマ7アンダーフロー) 割り込みマスクレジスタ(タイマ7コンペアマッチ)
					General	0	1	0	
					EIPT7	0	Enable	Mask	
					EICTC7	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFEAH	General	General	General	EISIF	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(シリアルインタフェース)
					General	0	1	0	
					General	0	1	0	
					EISIF	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFEBH	EIK03	EIK02	EIK01	EIK00	EIK03	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み3<P13>) 割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み2<P12>) 割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み1<P11>) 割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み0<P10>)
					EIK02	0	Enable	Mask	
					EIK01	0	Enable	Mask	
					EIK00	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFECH	EIK13	EIK12	EIK11	EIK10	EIK13	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み7<P43>) 割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み6<P42>) 割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み5<P41>) 割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み4<P40>)
					EIK12	0	Enable	Mask	
					EIK11	0	Enable	Mask	
					EIK10	0	Enable	Mask	
	R/W								
FFEDH	EIRUN	EILAP	EISW1	EISW10	EIRUN	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(SWダイレクトRUN) 割り込みマスクレジスタ(SWダイレクトLAP) 割り込みマスクレジスタ(ストップウォッチタイマ1Hz) 割り込みマスクレジスタ(ストップウォッチタイマ10Hz)
					EILAP	0	Enable	Mask	
					EISW1	0	Enable	Mask	
					EISW10	0	Enable	Mask	
	R/W								

表4.1.1(n) I/Oメモリマップ(FFEEH ~ FFFCH)

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFEEH	EIT3	EIT2	EIT1	EIT0	EIT3	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ16Hz)
	R/W				EIT2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ32Hz)
					EIT1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ64Hz)
					EIT0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ128Hz)
FFEFH	EIT7	EIT6	EIT5	EIT4	EIT7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ1Hz)
	R/W				EIT6	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ2Hz)
					EIT5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ4Hz)
					EIT4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ8Hz)
FFF1H	0	IRFE	IRFR	IRFS	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			IRFE	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(R/Fコンバータエラー)
					IRFR	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(R/Fコンバータ基準発振完了)
				IRFS	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(R/Fコンバータセンサ発振完了)	
FFF2H	0	0	IPT0	ICTC0	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT0	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ0アンダーフロー)
				ICTC0	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ0コンペアマッチ)	
FFF3H	0	0	IPT1	ICTC1	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ1アンダーフロー)
				ICTC1	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ1コンペアマッチ)	
FFF4H	0	0	IPT2	ICTC2	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT2	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ2アンダーフロー)
				ICTC2	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ2コンペアマッチ)	
FFF5H	0	0	IPT3	ICTC3	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT3	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ3アンダーフロー)
				ICTC3	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ3コンペアマッチ)	
FFF6H	0	0	IPT4	ICTC4	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT4	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ4アンダーフロー)
				ICTC4	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ4コンペアマッチ)	
FFF7H	0	0	IPT5	ICTC5	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT5	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ5アンダーフロー)
				ICTC5	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ5コンペアマッチ)	
FFF8H	0	0	IPT6	ICTC6	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT6	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ6アンダーフロー)
				ICTC6	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ6コンペアマッチ)	
FFF9H	0	0	IPT7	ICTC7	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R		R/W		0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					IPT7	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ7アンダーフロー)
				ICTC7	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ7コンペアマッチ)	
FFFAH	0	0	0	ISIF	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
	R			R/W	0 *3	— *2	Yes	No	未使用
					0 *3	— *2	(W)	(W)	未使用
				ISIF	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(シリアルインタフェース)	
FFFBH	IK03	IK02	IK01	IK00	IK03	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み3<P13>)
	R/W				IK02	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み2<P12>)
					IK01	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み1<P11>)
					IK00	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み0<P10>)
FFFCH	IK13	IK12	IK11	IK10	IK13	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み7<P43>)
	R/W				IK12	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み6<P42>)
					IK11	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み5<P41>)
					IK10	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み4<P40>)

表4.1.1(o) I/Oメモリマップ(FFFDH ~ FFFFH)

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFFDH	IRUN	ILAP	ISW1	ISW10	IRUN	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(SWダイレクトRUN)
	R/W				ILAP	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(SWダイレクトLAP)
					ISW1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(ストップウォッチタイマ1Hz)
					ISW10	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(ストップウォッチタイマ10Hz)
FFFEH	IT3	IT2	IT1	IT0	IT3	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(計時タイマ16Hz)
	R/W				IT2	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(計時タイマ32Hz)
					IT1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(計時タイマ64Hz)
					IT0	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(計時タイマ128Hz)
FFFFH	IT7	IT6	IT5	IT4	IT7	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(計時タイマ1Hz)
	R/W				IT6	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(計時タイマ2Hz)
					IT5	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(計時タイマ4Hz)
					IT4	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(計時タイマ8Hz)

4.2 電源制御

4.2.1 電源回路の構成

S1C6F632は図4.2.1.1に示す電源回路を内蔵しており、CPUと内部ロジック回路、発振回路、LCDドライバを駆動する電圧をチップ内部で生成します。

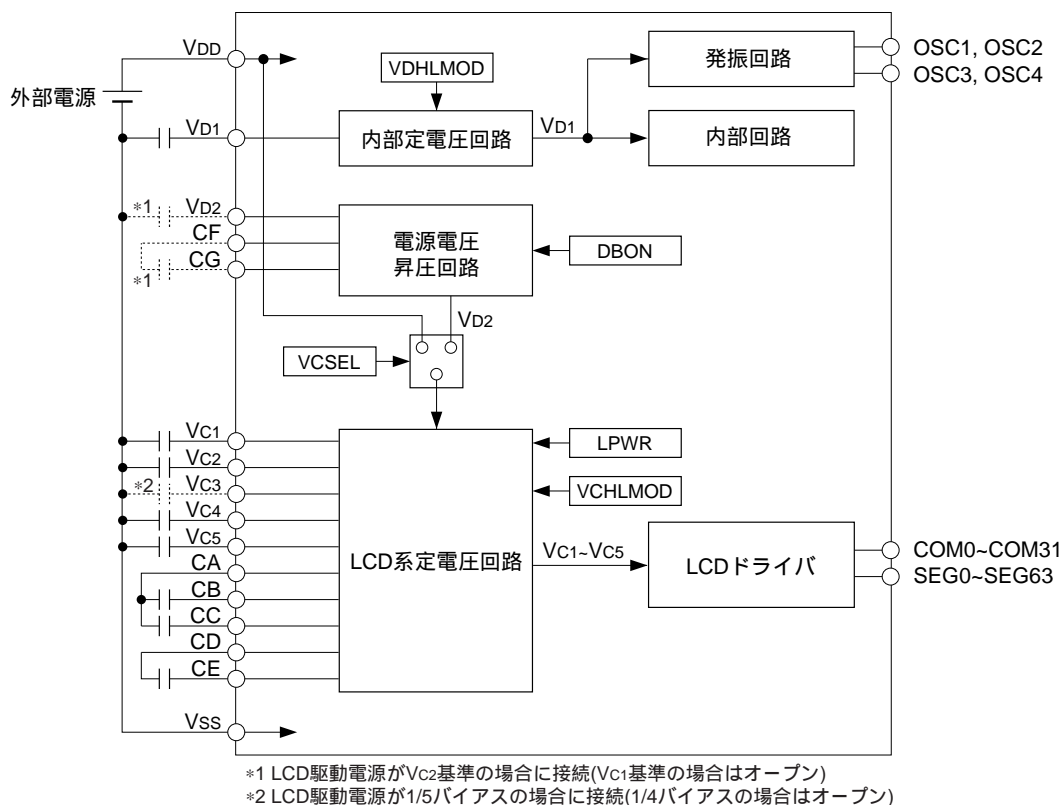


図4.2.1.1 内蔵電源回路

内部定電圧回路

内部定電圧回路は、内部ロジック回路と発振回路の動作電圧V_{D1}を発生します。
 この定電圧回路は常時動作します。

電源電圧昇圧回路

電源電圧昇圧回路は、LCD系定電圧回路の動作電圧V_{D2}を発生します。
 V_{c2}基準のLCD駆動電源オプションが選択されている場合、電源電圧V_{DD}に応じて、LCD系定電圧回路をV_{DD}で駆動するか、V_{D2}で駆動するかを選択します。

表4.2.1.1 LCD系定電圧回路の電源(V_{c2}基準選択時)

電源電圧 V _{DD}	LCD系定電圧回路電源
1.8 ~ 2.5V	V _{D2} (V _{DD} ×2)
2.5 ~ 3.6V	V _{DD}

V_{D2}の電圧値はV_{DD}のおおよそ2倍の値になります。

2.5V以上の電源電圧V_{DD}でICを動作させる場合、またはV_{c1}基準のLCD駆動電圧オプションを選択した場合はV_{D2}が不要のため、電源電圧昇圧回路をOFFすることができます。

LCD系定電圧回路

LCD系定電圧回路はLCD駆動電圧 $V_{C1} \sim V_{C5}$ を発生します。各電圧値については"8 電気的特性"を参照してください。

S1C6F632では、内蔵されたLCDドライバにこのLCD駆動電圧が供給され、コモン/セグメント端子に接続されたLCDパネルを駆動します。

- 注:
- V_{D1} 、 V_{D2} 、 $V_{C1} \sim V_{C5}$ 端子の出力を外部回路の駆動には絶対に使用しないでください。
 - V_{DD} が2.5V以下のときにLCD系定電圧回路の電源として V_{DD} を使用すると、 $V_{C1} \sim V_{C5}$ の電圧は正しい電圧とはなりません。(V_{C2} 基準選択時)

4.2.2 LCD電源の制御

適正なLCD駆動電圧 $V_{C1} \sim V_{C5}$ を生成するためには、LCD系定電圧回路を2.5V以上で動作させる必要があります。LCD駆動電源に V_{C2} 基準のオプションを選択し、1.8V ~ 2.5Vの電源(V_{DD})を使用する場合は、電源電圧昇圧回路で V_{DD} を約2倍に昇圧し、その出力電圧 V_{D2} でLCD系定電圧回路を動作させます。この場合はDBONレジスタを"1"に設定して電源電圧昇圧回路をONします。これにより生成された V_{D2} でLCD系定電圧回路を動作させるには、さらにVCSELレジスタを"1"に設定します。DBON="1"の設定は、必ず V_{D2} 電圧への切り換えの前に行ってください。

2.5V以上の電源(V_{DD})を使用する場合、あるいは V_{C1} 基準のオプションを選択した場合は、 V_{DD} でLCD系定電圧回路を動作させます。電源電圧昇圧回路は消費電流を低減するためOFFします。この場合、DBONとVCSELはどちらもデフォルト値の0のままとします。

- 注: 電源電圧昇圧回路をONしてから出力電圧 V_{D2} が安定するまでに約1msの時間を要します。この間は、LCD系定電圧回路の電源を V_{D2} に切り換えしないでください。

LCD系定電圧回路でLCD駆動電圧を生成するには(LCD表示を開始するには) LPWRレジスタによってLCD系定電圧回路をONする必要があります。LPWRに"1"を書き込むとLCD系定電圧回路がONし、LCD駆動電圧を生成します。イニシャルリセット時、LPWRは"0"(OFF)に設定されます。

LCDを使用しない場合は消費電力を低減するため、LCD系定電圧回路をOFFにしてください。

4.2.3 重負荷保護機能

外付け負荷の駆動などによって電源電圧が変動した場合でもできるかぎり安定した動作やLCD表示が行えるように、内部定電圧回路とLCD系定電圧回路はソフトウェアで設定可能な重負荷保護機能を持っています。

内部定電圧回路はVDHLMODレジスタに"1"を書き込むと重負荷保護モードとなり、 V_{D1} 出力の安定化を図ります。ポート出力によりランプやブザーなどの重負荷を駆動する前に設定してください。

LCD系定電圧回路はVCHLMODレジスタに"1"を書き込むと重負荷保護モードとなり、 $V_{C1} \sim V_{C5}$ 出力の安定化を図ります。液晶表示に濃淡が現れる場合などに設定してください。

- 注: 重負荷保護モードでは、通常動作時より消費電流が多くなります。したがって、必要なとき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

4.2.4 電源制御用I/Oメモリ

表4.2.4.1に電源の制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.2.4.1 電源の制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF02H	VDSEL	VCSEL	HLON	DBON	VDSEL	0	1	0	汎用レジスタ
					VCSEL	0	V _{D2}	V _{DD}	LCD系定電圧回路電源切り換え
	R/W				HLON	0	1	0	汎用レジスタ
					DBON	0	On	Off	電源電圧昇圧回路On/Off
FF03H	VCHLMOD	VDHLMOD	General	LPWR	VCHLMOD	0	On	Off	LCD系定電圧回路重負荷保護モードOn/Off
					VDHLMOD	0	On	Off	内部(V _{D1})定電圧回路重負荷保護モードOn/Off
	R/W				General	0	1	0	汎用レジスタ
					LPWR	0	On	Off	LCD系定電圧回路On/Off

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

DBON: 電源電圧昇圧回路ON/OFFレジスタ(FF02H・D0)

電源電圧昇圧回路を制御します。

"1"書き込み: ON

"0"書き込み: OFF

読み出し: 可能

DBONに"1"を書き込むと電源電圧昇圧回路がONし、V_{DD}を約2倍に昇圧したV_{D2}を出力します。V_{D2}でLCD系定電圧回路を駆動する場合(V_{C2}基準選択時、V_{DD}=1.8~2.5V)にONします。

DBONに"0"を書き込むと電源電圧昇圧回路はOFFします。消費電流を低減するため、V_{DD}でLCD系定電圧回路を駆動する場合はOFFにして使用してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

VCSEL: LCD系電源回路電源切り換えレジスタ(FF02H・D2)

LCD系定電圧回路の電源電圧を選択します。

"1"書き込み: V_{D2}

"0"書き込み: V_{DD}

読み出し: 可能

VCSELに"1"を書き込むと電源電圧昇圧回路が出力するV_{D2}でLCD系定電圧回路が動作します。この設定の前に、DBONに"1"を書き込み、電源電圧昇圧回路をONしておく必要があります。なお、電源電圧昇圧回路をONしてから電圧が安定するまでの約1msecの間はV_{D2}に切り換えないでください。

VCSELに"0"を書き込んだ場合は、V_{DD}でLCD系定電圧回路が動作します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

LPWR: LCD系定電圧回路ON/OFFレジスタ(FF03H・D0)

LCD系定電圧回路をON/OFFします。

"1"書き込み: ON

"0"書き込み: OFF

読み出し: 可能

LPWRに"1"を書き込むことにより、LCD系定電圧回路がONとなりLCD駆動電圧を発生します。"0"を書き込んだ場合、LCD駆動電圧はすべてV_{SS}となります。

LPWRに"1"を書き込んだ後、LCD系電圧回路が動作しLCD駆動電圧出力が安定するまで約100msecがかかります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

VDHLMOD: 内部定電圧回路重負荷保護モードON/OFFレジスタ(FF03H・D2)

内部定電圧回路の重負荷保護機能をON/OFFします。

"1"書き込み: ON
 "0"書き込み: OFF
 読み出し: 可能

VDHLMODに"1"を書き込むと内部定電圧回路が重負荷保護モードとなり、V_{D1}出力の安定化を図ります。ブザーやFOUTクロックの出力時などに有効です。ただし、重負荷保護モードでは、通常動作時より消費電流が増加します。したがって、必要なとき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

VCHLMOD: LCD系定電圧回路重負荷保護モードON/OFFレジスタ(FF03H・D3)

LCD系定電圧回路の重負荷保護機能をON/OFFします。

"1"書き込み: ON
 "0"書き込み: OFF
 読み出し: 可能

VCHLMODに"1"を書き込むとLCD系定電圧回路が重負荷保護モードとなり、重負荷駆動時などの電源電圧変動による表示品質の劣化を抑えます。OSC3発振時、ブザーやFOUTクロックの出力時などに有効です。ただし、重負荷保護モードでは、通常動作時より消費電流が増加します。したがって、必要なとき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

4.2.5 プログラミング上の注意事項

- (1)電源電圧昇圧回路をONしてから出力電圧V_{D2}が安定するまでに約1msecの時間を要します。この間は、LCD系定電圧回路の電源をV_{D2}に切り換えしないでください。
- (2)重負荷保護モードでは、通常動作時より消費電流が多くなります。したがって、必要なとき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

4.3 ウォッチドッグタイマ

4.3.1 ウォッチドッグタイマの構成

S1C6F632はOSC1分周クロック256Hzを原振とするウォッチドッグタイマを内蔵しています。ウォッチドッグタイマはイニシャルリセット時に動作状態に設定されますが、ソフトウェアにより動作を停止させることができます。ウォッチドッグタイマが動作中はソフトウェアにより周期的にリセットする必要があり、3～4秒以上リセットが行われない場合、CPUに対してノンマスカブル割り込み(NMI)が発生します。

図4.3.1.1にウォッチドッグタイマのブロック図を示します。

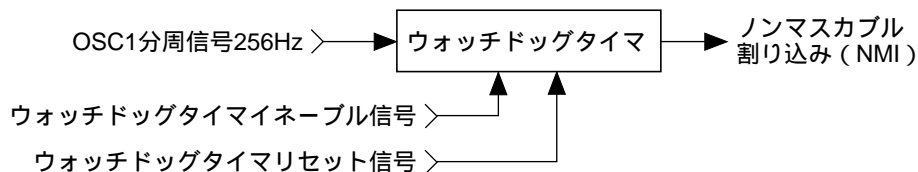


図4.3.1.1 ウォッチドッグタイマのブロック図

ウォッチドッグタイマは10ビットのバイナリカウンタで構成され、最終段0.25Hzのオーバーフローによってノンマスカブル割り込みが発生します。

プログラムのメインルーチン上でウォッチドッグタイマのリセット処理をすることにより、メインルーチンのウォッチドッグタイマ処理を通らないようなプログラムの暴走を検出することができます。通常はこのルーチンをタイマ割り込みルーチンのように、定期的に処理される箇所に組み込みます。

なお、ウォッチドッグタイマはHALT時も動作しており、HALT状態を3～4秒間続けるとノンマスカブル割り込みによりHALT状態が解除されます。

4.3.2 割り込み機能

ウォッチドッグタイマがソフトウェアによって周期的にリセットされない場合、コアCPUに対してノンマスカブル(NMI)割り込みが発生します。この割り込みはマスク不可能で、割り込み禁止状態(IFラゲ="0")でも受け付けられます(イニシャルリセット直後やスタックポインタ再設定時など、SP1およびSP2がペアで設定されるまでの割り込みマスク状態は除きます)。

NMIの割り込みベクタはプログラムメモリの0100Hに設定されています。

4.3.3 ウォッチドッグタイマのI/Oメモリ

表4.3.3.1にウォッチドッグタイマの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.3.3.1 ウォッチドッグタイマの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF01H	0	0	WDEN	WDRST	0 *3	— *2			未使用
					0 *3	— *2			未使用
	R		R/W	W	WDEN	1	Enable	Disable	ウォッチドッグタイマイネーブル
					WDRST*3	Reset	Reset	Invalid	ウォッチドッグタイマリセット(書き込み時)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

WDRST: ウォッチドッグタイマリセット (FF01H・D0)

ウォッチドッグタイマをリセットするビットです。

"1"書き込み: ウォッチドッグタイマリセット

"0"書き込み: ノーオペレーション

読み出し: 常時"0"

WDRSTに"1"を書き込むことによりウォッチドッグタイマはリセットされ、その直後リスタートします。"0"の書き込みはノーオペレーションとなります。

このビットは書き込み専用のため、読み出し時は常時"0"となります。

WDEN: ウォッチドッグタイマイネーブルレジスタ (FF01H・D1)

ウォッチドッグタイマを使用する(イネーブル)かしない(ディセーブル)か選択します。

"1"書き込み: イネーブル

"0"書き込み: ディセーブル

読み出し: 可能

WDENレジスタに"1"を書き込むことによりウォッチドッグタイマはイネーブルとなりカウント動作を行います。

"0"を書き込んだ場合はディセーブルとなり、カウント動作および割り込み(NMI)の発生も行いません。

イニシャルリセット時、このレジスタは"1"にセットされます。

4.3.4 プログラミング上の注意事項

- (1) ウォッチドッグタイマを使用する場合、3秒周期以内にソフトウェアでウォッチドッグタイマをリセットする必要があります。
- (2) イニシャルリセットによりウォッチドッグタイマは動作状態に設定されますので、使用しない場合は割り込み(NMI)発生前にウォッチドッグタイマをディセーブル(使用しない)に設定してください。

4.4 発振回路

4.4.1 発振回路の構成

S1C6F632は2種類の発振回路(OSC1およびOSC3)を内蔵したツインクロック仕様となっています。OSC3 発振回路はCPUや一部の周辺回路を高速動作させるためのメインクロック(Max. 4.2MHz)を、OSC1発振回路は低電力動作用のサブクロック(Typ. 32.768kHz)を発生します。

図4.4.1.1に発振回路の構成を示します。

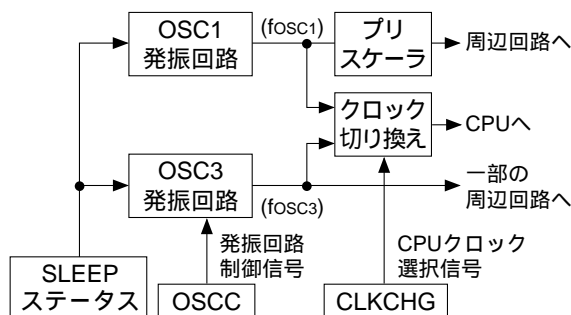


図4.4.1.1 発振回路の構成

イニシャルリセット時、CPUの動作クロックにはOSC1発振回路が選択されます。

OSC3発振回路のON/OFFとシステムクロックの切り換え(OSC3↔OSC1)はソフトウェアによって制御できます。OSC3発振回路はCPUや一部の周辺回路の高速動作が必要な場合に使用します。それ以外の場合は消費電流を低減させるためにOSC3発振を停止させ、OSC1を動作クロックとして使用してください。

注: S1C6F632はSLEEP機能に対応しており、SLEEP時にOSC1とOSC3発振回路が共に停止します。SLEEPモードから起床した時点でCPUが誤動作しないようにするため、SLEEPモードへはCPUがOSC1クロックで動作している状態で移行してください。

4.4.2 マスクオプション

標準マスクオプションType B

OSC1発振回路は水晶発振回路に、OSC3発振回路はセラミック発振回路に固定されています。

標準マスクオプションType E, Type G

OSC1発振回路は水晶発振回路に、OSC3発振回路はCR発振回路(R外付け)に固定されています。

カスタムマスクオプション

OSC1発振回路は、水晶発振回路に固定されています。

OSC3発振回路として、セラミック発振回路またはCR発振回路(R外付け)が選択できます。

4.4.3 OSC1発振回路

OSC1発振回路は32.768kHz(Typ.)のシステムクロックを発生します。

OSC1発振クロックはCPUおよび周辺回路の低速(低消費電力)動作時のシステムクロックとして使用されます。また、OSC3をシステムクロックとして使用する場合にも、計時タイマやストップウォッチタイマの原振として使用されます。本発振回路はSLP命令実行時に発振停止状態となります。

図4.4.3.1にOSC1発振回路の構造を示します。

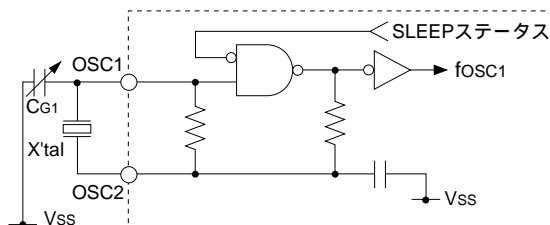


図4.4.3.1 OSC1発振回路(水晶発振)

OSC1端子とOSC2端子間に水晶振動子X'tal(Typ. 32.768kHz)を、OSC1端子とVss間にトリマキャパシタCG1(0 ~ 25pF)をそれぞれ接続することにより、容易に水晶発振回路を構成できます。

4.4.4 OSC3発振回路

OSC3発振回路はCPUや一部の周辺回路を高速動作させる場合のシステムクロックを発生します。

本発振回路はSLP命令実行時、またはレジスタOSCCに"0"設定時に発振停止状態となります。

発振回路の種類はマスクオプションで選択できます。

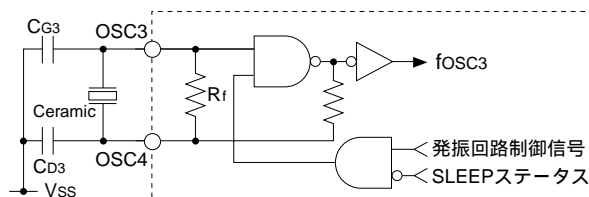
標準マスクオプションType B: セラミック発振(固定)

標準マスクオプションType E: CR発振(固定)

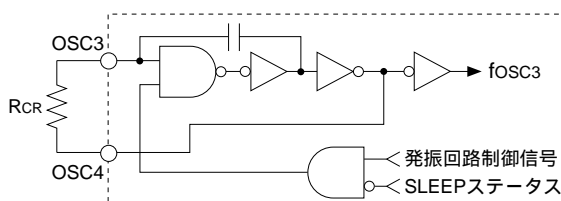
標準マスクオプションType G: CR発振(固定)

カスタムマスクオプション: セラミック発振またはCR発振(選択可)

図4.4.4.1にOSC3発振回路の構造を示します。



(1)セラミック発振回路



(2)CR発振回路

図4.4.4.1 OSC3発振回路

セラミック発振回路(Max. 4.2MHz)の場合は、OSC3端子とOSC4端子間にセラミック振動子(Ceramic)を、同OSC3、OSC4端子とVss間にキャパシタを2個(CG3、CD3)それぞれ接続します。

CR発振(Max. 2MHz)の場合は、OSC3端子とOSC4端子間に抵抗(RCR)を接続します。

4.4.5 CPUクロックの切り換え

OSC1とOSC3のどちらをCPUのシステムクロックとして使用するか、レジスタCLKCHGによって切り換えることができます。

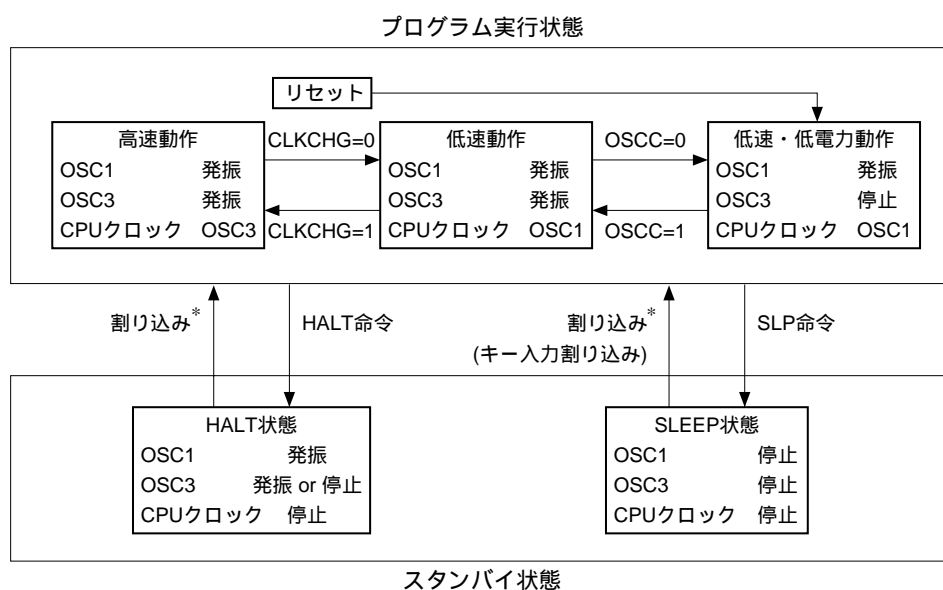
OSC1でCPUが動作している間は CLKCHG="0"、OSC3発振回路をOFF(OSCC="0")させることでパワーセーブが実現できます。

OSC3での動作が必要な場合にOSC3発振回路をON(OSCC="1")させ、システムクロックを切り換える(CLKCHG="0" "1")ことで高速動作が実現できます。

この場合、OSC3発振回路をONにしてから発振が安定するまでに1msec～数10msecの時間を必要としますので、その時間が経過した後にクロックの切り換えを行ってください。OSC3の発振開始時間については"8 電気的特性"を参照してください。

OSC3からOSC1に切り換える場合(CLKCHG="1" "0")、クロック切り換えとOSC3発振OFFは別々の命令で行ってください。1命令で同時に処理すると、CPUの誤動作につながります。

図4.4.5.1にクロック切り換えの状態遷移図を示します。



* スタンバイ状態からの復帰先は、スタンバイ状態へ遷移する以前のプログラム実行状態となります。

図4.4.5.1 クロック切り換えの状態遷移図

注: S1C6F632はSLEEP機能に対応しており、SLEEP時にOSC1とOSC3発振回路が共に停止します。SLEEPモードから起床した時点でCPUが誤動作しないようにするため、SLEEPモードへはCPUがOSC1クロックで動作している状態で移行してください。

4.4.6 発振回路のI/Oメモリ

表4.4.6.1に発振回路の制御ビットとそのアドレスを示します。

注: ここで説明する発振回路の制御ビットは、OSC3発振回路を使用する場合にのみ有効です。OSC1発振回路のみを使用するシステムでは、初期設定状態のまま変更しないでください。

表4.4.6.1 発振回路の制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FF00H	CLKCHG	OSCC	0	0	CLKCHG	0	OSC3	OSC1	CPUクロック切り換え
					OSCC	0	On	Off	OSC3発振On/Off
	R/W		R		0 *3	– *2			未使用
					0 *3	– *2			未使用

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

OSCC: OSC3発振制御レジスタ(FF00H・D2)

OSC3発振回路の発振ON、OFFを制御します。

"1"書き込み: OSC3発振ON

"0"書き込み: OSC3発振OFF

読み出し: 可能

CPUや一部の周辺回路を高速動作させる必要のある場合にOSCCを"1"とし、それ以外の場合は、低消費電力化のため"0"としてください。

イニシャルリセット時、OSCCは"0"(OSC3発振OFF)に設定されます。

CLKCHG: CPUクロック切り換えレジスタ(FF00H・D3)

CPUの動作クロックを選択します。

"1"書き込み: OSC3クロックを選択

"0"書き込み: OSC1クロックを選択

読み出し: 可能

CPUの動作クロックはCLKCHGに"1"を設定した場合OSC3、"0"を設定した場合OSC1となります。

イニシャルリセット時、CLKCHGは"0"(OSC1クロック)に設定されます。

4.4.7 プログラミング上の注意事項

- (1) CPUの高速動作を必要としない場合は低消費電力化のため、以下に示す設定内容にしたがって周辺回路を動作させてください。
 - CPU動作クロック OSC1
 - OSC3発振回路 OFF (一部の周辺回路に対してOSC3クロックが必要ない場合)
- (2) OSC3発振回路をONにしてから発振が安定するまでに、1msec～数10msecの時間を必要とします。したがって、CPUの動作クロック切り換え(OSC1→OSC3)はOSC3発振ONの後、十分な待ち時間をおいてから行ってください。(発振開始時間は発振子、外付け部品によって変動します。"8 電気的特性"に発振開始時間の一例を示しますので参照してください。)
- (3) OSC3からOSC1へのクロック切り換えと、OSC3発振OFFは別々の命令で行ってください。1命令で同時に処理すると、CPUの誤動作につながります。
- (4) S1C6F632はSLEEP機能に対応しており、SLEEP時にOSC1とOSC3発振回路が共に停止します。SLEEPモードから起床した時点でCPUが誤動作しないようにするため、SLEEPモードへはCPUがOSC1クロックで動作している状態で移行してください。

4.5 入出力兼用ポート(P00 ~ P03, P10 ~ P13, P20 ~ P23, P30 ~ P33, P40 ~ P43, P50 ~ P53)

4.5.1 入出力兼用ポートの構成

S1C6F632は入出力方向をソフトウェアで切り換え可能な24ビット(P00 ~ P03, P10 ~ P13, P20 ~ P23, P30 ~ P33, P40 ~ P43, P50 ~ P53)の汎用入出力兼用ポートを内蔵しています。図4.5.1.1に入出力兼用ポートの構成を示します。

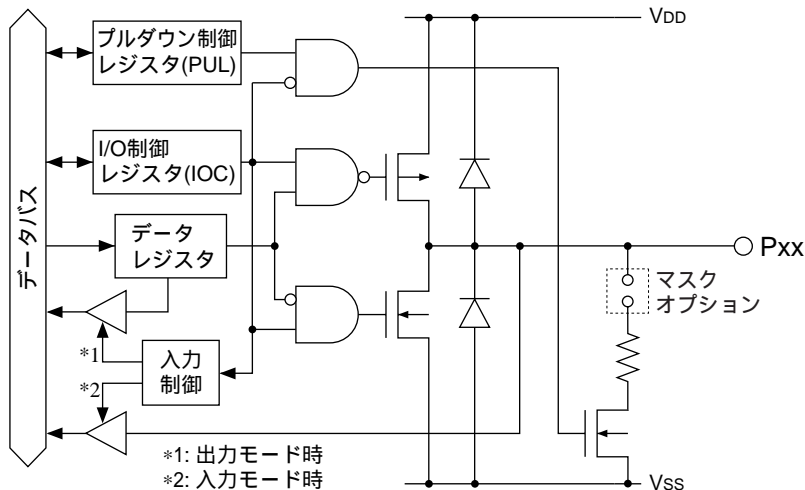


図4.5.1.1 入出力兼用ポートの構成

注: 本ICの出力(特殊出力を含む)でバイポーラトランジスタなど大電流を消費する外付け部品を駆動する際は、外付け部品の動作がICの電源に影響しないように基板パターンを設計してください。詳しくは、"6.3 実装上の注意事項"の<出力端子>を参照してください。

各入出力兼用ポート端子には内蔵プルダウン抵抗が用意されており、カスタムマスクオプション品では1ビットごとにプルダウン抵抗の有無を選択できます(標準マスクオプション品は"プルダウン抵抗あり"に固定)。マスクオプションで"プルダウン抵抗あり"を選択した場合、プッシュスイッチ、キーマトリクス等の入力に適当です。また、"プルダウン抵抗なし"を選択した場合、スライドスイッチ入力、他LSIとのインタフェースなどに使用できます。

入出力兼用ポートP10とP11はストップウォッチタイマのRUN/STOPとLAPダイレクト入力、P12およびP41 ~ P43はプログラマブルタイマのイベントカウンタ入力としても使用します。

入出力兼用ポート端子P00 ~ P03, P13, P20 ~ P23, P31 ~ P33はR/Fコンバータの入出力端子、シリアルインタフェースの入出力端子、特殊出力端子(BZ, FOUT, TOUT_A ~ TOUT_D)を兼用しており、これらの機能をソフトウェアによって選択するようになっています。

イニシャルリセット時はすべて入出力兼用ポートに設定されます。

表4.5.1.1に機能選択による入出力端子の設定を示します。

表4.5.1.1 入出力端子の機能設定

端子名	イニシャルリセット時の 端子状態	特殊出力/周辺回路機能使用時(ソフトウェアにて切り換え)						
		特殊出力			シリアルI/F		R/Fコンバータ	SWダイレクト 入力
		TOUT	FOUT	BZ	Master	Slave		
P00	P00(入力&プルダウン*)						RFIN0	
P01	P01(入力&プルダウン*)						REF0	
P02	P02(入力&プルダウン*)						SEN0	
P03	P03(入力&プルダウン*)			BZ			RFOUT	
P10	P10(入力&プルダウン*)							RUN/LAP
P11	P11(入力&プルダウン*)							RUN/LAP
P12	P12(入力&プルダウン*)							EVIN_A
P13	P13(入力&プルダウン*)	TOUT_A						
P20	P20(入力&プルダウン*)				SCLK(O)	SCLK(I)		
P21	P21(入力&プルダウン*)				SOUT(O)	SOUT(O)		
P22	P22(入力&プルダウン*)				SIN(I)	SIN(I)		
P23	P23(入力&プルダウン*)		FOUT			SRDY(O)/SS(I)		
P30	P30(入力&プルダウン*)							
P31	P31(入力&プルダウン*)	TOUT_B						
P32	P32(入力&プルダウン*)	TOUT_C						
P33	P33(入力&プルダウン*)	TOUT_D						
P40	P40(入力&プルダウン*)							
P41	P41(入力&プルダウン*)							EVIN_B
P42	P42(入力&プルダウン*)							EVIN_C
P43	P43(入力&プルダウン*)							EVIN_D
P50~P53	P50~P53(入力&プルダウン*)							

* マスクオプションにて"プルダウンあり"選択時("プルダウンなし"選択時はハイインピーダンス)

入出力兼用ポートとして使用する場合、各ポートを個々(1ビット単位)に入力モードまたは出力モードに設定できます。この設定はI/O制御レジスタにデータを書き込むことによって行います。

特殊出力、周辺回路機能使用時は、機能の切り換えによりポートの入出力方向が自動的に決まります。シリアルインタフェース、R/Fコンバータ、BZ出力、ストップウォッチタイマ、イベントカウンタの制御については、それぞれ"4.10 シリアルインタフェース"、"4.13 R/Fコンバータ"、"4.11 サウンドジェネレータ"、"4.8 ストップウォッチタイマ"、"4.9 プログラマブルタイマ"を参照してください。

注: ポートの機能設定は、ポートを使用する回路(入力割り込み、キー同時押しリセット、シリアルインタフェース、イベントカウンタ入力、ストップウォッチダイレクトRUN/LAP入力)がディセーブルの状態で行ってください。

4.5.2 マスクオプション

カスタムマスクオプション

入出力兼用ポートは出力モード時の出力仕様として、コンプリメンタリ出力、またはPチャンネルオープンドレイン出力のいずれかをマスクオプションにより1ビットごとに選択できるようになっています。

なお、Pチャンネルオープンドレイン出力を選択した場合でも、ポートに電源電圧を超える電圧を印加することは禁止します。

入力モード時のプルダウン抵抗の有無もマスクオプションにより1ビットごとに選択できます。

入力モード時の"プルダウン抵抗なし"を選択した場合には、フローティング状態が発生しないように注意してください。

入力モード時のプルダウン抵抗の有無、および出力仕様(コンプリメンタリ出力あるいはPチャンネルオープンドレイン出力)のオプションは、入出力兼用ポートをシリアルインタフェースやR/Fコンバータの入出力として使用する場合も有効です。

標準マスクオプション(TypeB、Type E、Type G)

出力モード時の出力仕様はコンプリメンタリ出力に固定されています。

各入出力兼用ポートにはプルダウン抵抗が内蔵されています。

4.5.3 I/O制御レジスタと入力/出力モード

入出力兼用ポートは、各ポートに対応したI/O制御レジスタIOCxxにデータを書き込むことにより入力モードあるいは出力モードに設定されます。

入力モードに設定する場合はI/O制御レジスタに"0"を書き込みます。入力モードに設定された入出力兼用ポートは、ハイインピーダンス状態となり入力ポートとして働きます。ただし、4.5.5項で説明するプルダウン制御を行っている場合は、この入力モード時に限り入力ラインがプルダウンされます。

出力モードに設定する場合はI/O制御レジスタに"1"を書き込みます。出力モードに設定された入出力兼用ポートは出力ポートとして働き、ポート出力データが"1"の場合にHIGH (V_{DD})レベル、"0"の場合にLOW (V_{SS})レベルの出力を行います。出力モード時にもデータの読み出しは可能で、その場合はデータレジスタの内容が読み出されます。

イニシャルリセット時、I/O制御レジスタは"0"に設定され、入出力兼用ポートは入力モードになります。

周辺機能の入出力、および特殊出力に設定されたポート(表4.5.1.1参照)の入出力制御はハードウェアが行います。この場合、I/O制御レジスタは入出力制御に影響を与えない汎用レジスタとして使用可能です。

4.5.4 入力インタフェースレベル

入出力兼用ポートはソフトウェアで入力インタフェースレベルが選択できるようになっています。各ポートに対応した入力インタフェースレベル選択レジスタSMTxxを"0"に設定することにより、CMOSレベル、"1"を設定することにより、CMOSシュミットレベルとなります。

イニシャルリセット時は全ポートがCMOSシュミットレベルに設定されます。

周辺機能の出力、R/Fコンバータの入出力、および特殊出力に設定されたポート(表4.5.1.1参照)の入力インタフェースレベル選択レジスタは、汎用レジスタとして使用可能です。

周辺機能の入力(R/Fコンバータを除く)に設定されたポートの入力インタフェースレベル選択レジスタは入出力兼用ポートと同様に機能します。

4.5.5 入力モード時のプルダウン

S1C6F632の入出力兼用ポートには、マスクオプションによって入力モード時に働くプルダウン抵抗を内蔵できます。

各ポートに対応したプルダウン制御レジスタPULxxに"1"を書き込むことによりプルダウン抵抗が有効になり、入力モード時に入力ラインがプルダウンされます。"0"を書き込んだ場合、および出力モード時はプルダウンされません。

イニシャルリセット時、プルダウン制御レジスタは"1"に設定されます。

カスタムマスクオプションによって"プルダウン抵抗なし"を選択したポートのプルダウン制御レジスタは、汎用レジスタとして使用可能です。

プルダウン抵抗付き場合でも、周辺機能の出力やR/Fコンバータの入出力、および特殊出力に設定されたポート(表4.5.1.1参照)のプルダウン制御レジスタは、プルダウン制御に影響を与えない汎用レジスタとして使用可能です。周辺機能の入力(R/Fコンバータを除く)に設定されたポートのプルダウン制御レジスタは入出力兼用ポートと同様に機能します。

4.5.6 特殊出力

入出力兼用ポートP03、P13、P23、P31～P33は汎用DC入出力のほかに表4.5.6.1に示す特殊出力をソフトウェアによって選択することができます。

表4.5.6.1 特殊出力

端子名	特殊出力選択時	特殊出力制御レジスタ
P03	BZ	BZE, BZSHT
P13	TOUT_A	PTOUT_A
P23	FOUT	FOUT0～FOUT3
P31	TOUT_B	PTOUT_B
P32	TOUT_C	PTOUT_C
P33	TOUT_D	PTOUT_D

特殊出力制御レジスタによって特殊出力をイネーブルに設定すると、対応する入出力兼用ポートは自動的に出力に設定されます。入出力兼用ポートのデータレジスタ、I/O制御レジスタ、プルダウン制御レジスタ、入力インタフェースレベル選択レジスタは特殊出力には影響を与えませんので、汎用レジスタとして使用することができます。

TOUT出力(P13、P31～P33)

S1C6F632は外部デバイスに対してクロックを供給する場合などのために、TOUT_A～D信号(プログラムブルタイマの出力クロック)をP13、P31～P33端子から出力させることができます。

TOUT_x信号(x=A～D)の出力はレジスタPTOUT_xによって制御します。PTOUT_xに"1"を設定するとTOUT_x信号が対応するポート端子から出力されます。このとき、I/O制御レジスタIOC13/IOC31/IOC32/IOC33、プルダウン制御レジスタPUL13/PUL31/PUL32/PUL33およびデータレジスタP13/P31/P32/P33の設定は無効になります。

PTOUT_xが"0"の場合、対応するポートは汎用のDC入出力ポートとして機能します。

TOUT_x信号はプログラムブルタイマのアンダーフローおよびコンペアマッチによって生成されたタイマ出力信号です。周波数の制御等については"4.9 プログラムブルタイマ"を参照してください。

なお、TOUT_x信号はレジスタPTOUT_xとは非同期に発生していますので、レジスタの設定による信号のON/OFF時には1/2サイクル以内のハザードが生じます。

図4.5.6.1にTOUT_x信号の出力波形を示します。

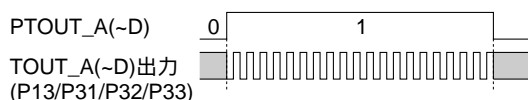


図4.5.6.1 TOUT_x信号の出力波形

FOUT出力(P23)

S1C6F632は外部デバイスに対してクロックを供給する場合などのために、FOUT信号(発振クロックfosc1またはfosc3の分周クロック)をP23ポート端子から出力させることができます。

FOUT信号の出力はレジスタFOUT0～FOUT3によって制御します。FOUT0～FOUT3で出力するクロックの周波数を選択すると、FOUT信号がP23ポート端子から出力されます。このとき、I/O制御レジスタIOC23、プルダウン制御レジスタPUL23およびデータレジスタP23の設定は無効になります。

FOUT0～FOUT3が"0"の場合、P23ポートは汎用のDC入出力ポートとして機能します。

また、FOUT信号の周波数は表4.5.6.2に示す15種類の中から1つを選択することができます。

表4.5.6.2 FOUT周波数の選択

FOUT3	FOUT2	FOUT1	FOUT0	FOUT周波数
1	1	1	1	fosc3
1	1	1	0	fosc3 / 2
1	1	0	1	fosc3 / 4
1	1	0	0	fosc3 / 8
1	0	1	1	fosc3 / 16
1	0	1	0	fosc3 / 32
1	0	0	1	fosc3 / 64
1	0	0	0	fosc3 / 256
0	1	1	1	fosc1 (32kHz)
0	1	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	1	0	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	0	fosc1 / 16 (2kHz)
0	0	1	1	fosc1 / 32 (1kHz)
0	0	1	0	fosc1 / 64 (512Hz)
0	0	0	1	fosc1 / 256 (128Hz)
0	0	0	0	Off

fosc1: OSC1発振周波数、()内の周波数はfosc1=32kHzの場合

fosc3: OSC3発振周波数

FOUTの周波数を"fosc3/n"とする場合は、FOUTを出力する以前にOSC3の発振をONさせる必要があります。なお、OSC3発振回路をONにしてから発振が安定するまでに数10μsec～数10msecの時間を必要とします。したがって、不安定なFOUT信号が外部に出力されることで不具合が生じる場合はOSC3発振ONの後、十分な待ち時間をおいてからFOUTの出力を行ってください。(発振開始時間は発振子、外付け部品によって変動します。"8 電気的特性"に発振開始時間の一例を示しますので参照してください。)

FOUT信号はレジスタFOUT0～FOUT3とは非同期に発生していますので、レジスタの設定による信号のON/OFF時には1/2サイクル以内のハザードが生じます。

図4.5.6.2にFOUT信号の出力波形を示します。

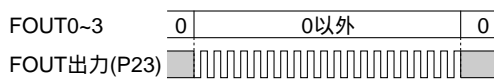


図4.5.6.2 FOUT信号の出力波形

注: FOUT出力に使用するP23端子は、シリアルインタフェースのSRDY出力または \overline{SS} 入力端子も兼用しています。P23をシリアルインタフェース用に設定した場合、FOUT0～FOUT3の設定は無効になります。

BZ(P03)

P03端子からはBZ信号を出力させることができます。BZ信号はサウンドジェネレータが出力するブザー信号です。BZ信号の出力はBZEまたはBZSHTレジスタによって制御(ON/OFF)します。

ブザー信号と制御方法については"4.11 サウンドジェネレータ"を参照してください。

注: BZ出力に使用するP03端子は、R/FコンバータのRFOUT出力端子も兼用しています。RFOUT信号とBZ信号を同時に出力するような制御は行わないでください。

4.5.7 キー入力割り込み機能

入出力兼用ポートの中で8ビット(P10～P13, P40～P43)は、割り込み機能を持っており、割り込み発生条件はソフトウェアで設定することができます。また、このキー入力割り込みをマスクするか否かを、同様にソフトウェアで設定することができます。図4.5.7.1にキー入力割り込み回路の構成図を示します。

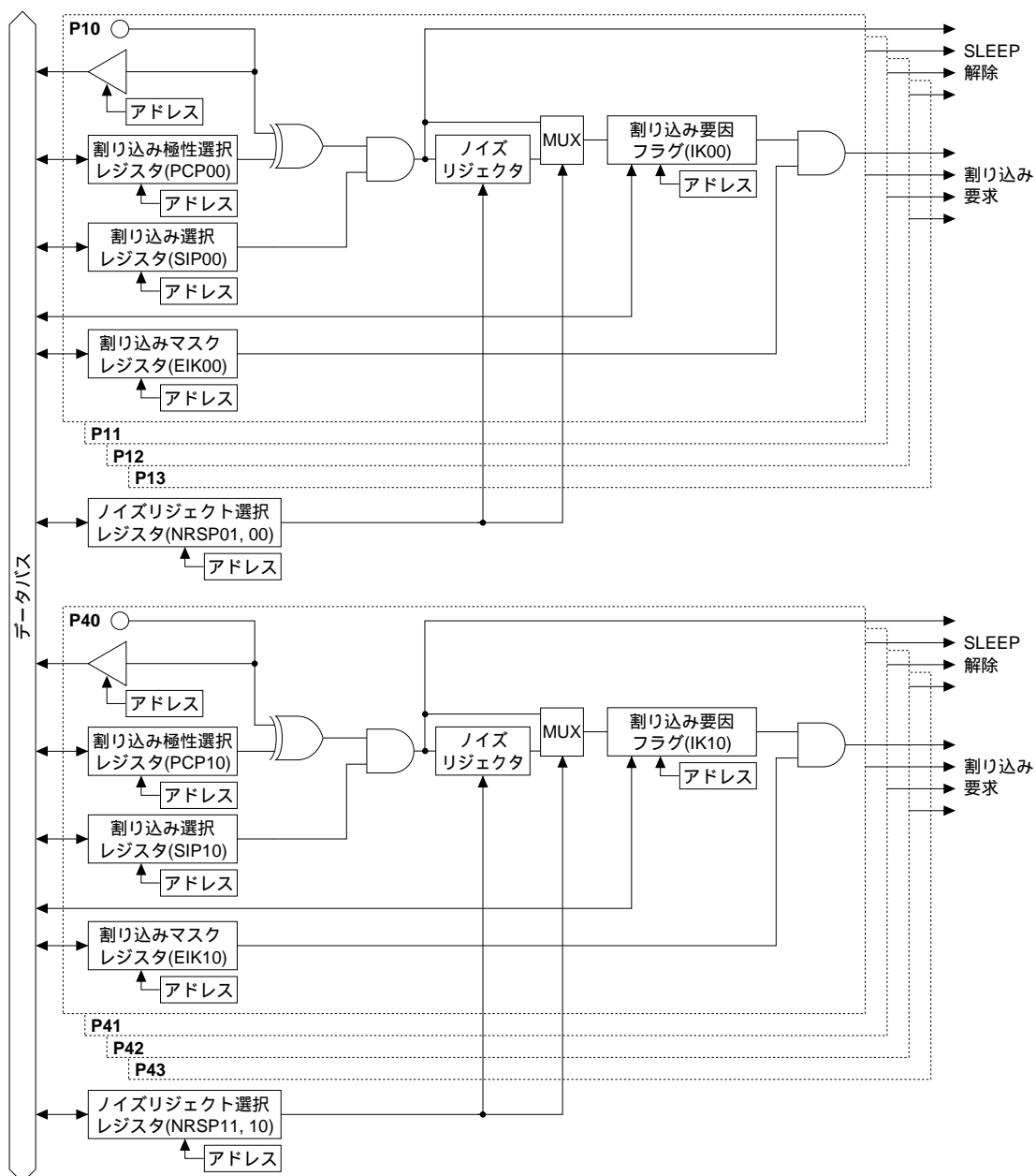


図4.5.7.1 キー入力割り込み回路構成

入出力兼用ポートP10～P13、P40～P43には個々に割り込み選択レジスタ(SIP00～SIP03、SIP10～SIP13)および割り込み極性選択レジスタ(PCP00～PCP03、PCP10～PCP13)が設けられています。

割り込み選択レジスタ(SIPxx)は、割り込みまたはSLEEPモードの解除に使用するポートを選択します。割り込み選択レジスタに"1"を書き込むことにより、そのポートをキー入力割り込み発生条件に組み込みます。割り込み選択レジスタが"0"に設定されているポートの変化は割り込みの発生に影響を与えません。

キー入力割り込みタイミングは、割り込み極性選択レジスタ(PCPxx)によって、割り込みを入力の立ち上がりエッジで発生させるか、立ち下がりエッジで発生させるかを選択することができます。

この2つの条件設定により、指定ポート(SIPxxで選択)の入力の立ち上がりエッジまたは立ち下がりエッジ(PCPxxで選択)で割り込み要求信号およびSLEEP解除信号が出力されます。

キー入力割り込み要因が発生すると、割り込み要因フラグ(IK00～IK03、IK10～IK13)が"1"にセットされます。このとき、対応する割り込みマスクレジスタ(EIK00～EIK03、EIK10～EIK13)が"1"に設定されているとCPUに対して割り込みが発生します。割り込みマスクレジスタ(EIKxx)が"0"に設定されている場合は割り込み要求はマスクされ、CPUへの割り込みは発生しません。ただし、割り込みマスクレジスタの設定値にかかわらず、SLEEPモードは解除されます。

キー入力割り込み回路は、ノイズやチャタリングによる不要な割り込みの発生を防ぐため、ノイズリジェクタを内蔵しています。このノイズリジェクタを使用する場合は、ノイズリジェクタ周波数を表4.5.7.1に示す3種類から選択できます。この選択に、P10～P13ポートはNRSP01とNRSP00レジスタを、P40～P43ポートはNRSP11とNRSP10レジスタを使用します。選択した幅より短いパルスがポートに入力された場合、割り込みは発生しません。

なお、高速な入力への対応が必要な場合、ノイズリジェクタをOFF(バイパス)します。

表4.5.7.1 ノイズリジェクタの設定

NRSP01 NRSP11	NRSP00 NRSP10	ノイズリジェクタ周波数	リジェクタパルス幅
1	1	$f_{osc1} / 256$ (128Hz)	7.8msec
1	0	$f_{osc1} / 64$ (512Hz)	2.0msec
0	1	$f_{osc1} / 16$ (2kHz)	0.5msec
0	0	OFF (バイパス)	—

注: • SLP命令を実行する前には、必ずノイズリジェクタをOFFに設定してください。

- SLEEPモードからはキー入力割り込み要因の発生によってのみ起床可能です。したがって、SLP命令を実行する前に、SLEEP解除に使用するポートの割り込み選択レジスタをセット(SIPxx="1")しておく必要があります。また、SLEEP解除後にキー入力割り込み処理を実行するためには、SLP命令を実行する前に、該当ポートの割り込みマスクレジスタもイネーブル状態にセット(EIKxx="1")しておく必要があります。

4.5.8 入出力兼用ポートのI/Oメモリ

表4.5.8.1に入出力兼用ポートの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.5.8.1(a) 入出力兼用ポートの制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FF10H	FOUT3	FOUT2	FOUT1	FOUT0	FOUT3	0			FOUT周波数選択 [FOUT3~0] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [FOUT3~0] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [FOUT3~0] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					FOUT2	0			
	R/W				FOUT1	0			
					FOUT0	0			
FF11H	NRSP11	NRSP10	NRSP01	NRSP00	NRSP11	0			キー入力割り込みノイズリジェクト周波数選択 [NRSP11, 10] (P40~P43) 0 1 2 3 周波数 Off fosc1/16 fosc1/64 fosc1/256 [NRSP01, 00] (P10~P13) 0 1 2 3 周波数 Off fosc1/16 fosc1/64 fosc1/256
					NRSP10	0			
	R/W				NRSP01	0			
					NRSP00	0			
FF20H	P03 (RFOUT/ BZ)	P02 (SEN0)	P01 (REF0)	P00 (RFIN0)	P03	1	High	Low	P03入出力兼用ポートデータ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能 P02入出力兼用ポートデータ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P01入出力兼用ポートデータ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P00入出力兼用ポートデータ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					P02	1	High	Low	
	R/W				P01	1	High	Low	
					P00	1	High	Low	
FF21H	IOC03	IOC02	IOC01	IOC00	IOC03	0	Output	Input	P03 I/O制御レジスタ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能 P02 I/O制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P01 I/O制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P00 I/O制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					IOC02	0	Output	Input	
	R/W				IOC01	0	Output	Input	
					IOC00	0	Output	Input	
FF22H	PUL03	PUL02	PUL01	PUL00	PUL03	1	On	Off	P03ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能 P02ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P01ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P00ブルダウン制御レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					PUL02	1	On	Off	
	R/W				PUL01	1	On	Off	
					PUL00	1	On	Off	
FF23H	SMT03	SMT02	SMT01	SMT00	SMT03	1	Schmitt	CMOS	P03入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、BZ出力時は汎用レジスタとして機能 P02入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P01入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能 P00入力インタフェースレベル選択レジスタ R/F選択時、汎用レジスタとして機能
					SMT02	1	Schmitt	CMOS	
	R/W				SMT01	1	Schmitt	CMOS	
					SMT00	1	Schmitt	CMOS	
FF24H	P13 (TOUT_A)	P12	P11	P10	P13	1	High	Low	P13入出力兼用ポートデータ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能 P12入出力兼用ポートデータ P11入出力兼用ポートデータ P10入出力兼用ポートデータ
					P12	1	High	Low	
	R/W				P11	1	High	Low	
					P10	1	High	Low	
FF25H	IOC13	IOC12	IOC11	IOC10	IOC13	0	Output	Input	P13 I/O制御レジスタ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能 P12 I/O制御レジスタ P11 I/O制御レジスタ P10 I/O制御レジスタ
					IOC12	0	Output	Input	
	R/W				IOC11	0	Output	Input	
					IOC10	0	Output	Input	

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.5.8.1(b) 入出力兼用ポートの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF26H	PUL13	PUL12	PUL11	PUL10	PUL13	1	On	Off	P13ブルダウン制御レジスタ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				PUL12	1	On	Off	P12ブルダウン制御レジスタ
					PUL11	1	On	Off	P11ブルダウン制御レジスタ
					PUL10	1	On	Off	P10ブルダウン制御レジスタ
FF27H	SMT13	SMT12	SMT11	SMT10	SMT13	1	Schmitt	CMOS	P13入力インタフェースレベル選択レジスタ TOUT_A出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				SMT12	1	Schmitt	CMOS	P12入力インタフェースレベル選択レジスタ
					SMT11	1	Schmitt	CMOS	P11入力インタフェースレベル選択レジスタ
					SMT10	1	Schmitt	CMOS	P10入力インタフェースレベル選択レジスタ
FF28H	P23 (SS/ SRDY/ FOUT)	P22 (SIN)	P21 (SOUT)	P20 (SCLK)	P23	1	High	Low	P23入出力兼用ポートデータ SIF(スレープ, SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用 レジスタとして機能
	R/W				P22	1	High	Low	P22入出力兼用ポートデータ
					P21	1	High	Low	P21入出力兼用ポートデータ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
					P20	1	High	Low	P20入出力兼用ポートデータ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能
FF29H	IOC23	IOC22	IOC21	IOC20	IOC23	0	Output	Input	P23 I/O制御レジスタ SIF選択時、FOUT出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				IOC22	0	Output	Input	P22 I/O制御レジスタ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
					IOC21	0	Output	Input	P21 I/O制御レジスタ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
					IOC20	0	Output	Input	P20 I/O制御レジスタ SIF選択時、汎用レジスタとして機能
FF2AH	PUL23	PUL22	PUL21	PUL20	PUL23	1	On	Off	P23ブルダウン制御レジスタ SIF(スレープ, SS端子)選択時、SSブルダウン制御レジスタ SIF(スレープ, SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用 レジスタとして機能
	R/W				PUL22	1	On	Off	P22ブルダウン制御レジスタ SIF選択時、SINブルダウン制御レジスタ
					PUL21	1	On	Off	P21ブルダウン制御レジスタ SIF(SOUTイネーブル)選択時、汎用レジスタとして機能
					PUL20	1	On	Off	P20ブルダウン制御レジスタ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能 SIF(スレープ)選択時、SCLK(I)ブルダウン制御レジスタ
FF2BH	SMT23	SMT22	SMT21	SMT20	SMT23	1	Schmitt	CMOS	P23入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(スレープ, SS端子)選択時、SS入力インタフェース レベル選択レジスタ SIF(スレープ, SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用 レジスタとして機能
	R/W				SMT22	1	Schmitt	CMOS	P22入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF選択時、SIN入力インタフェースレベル選択レジスタ
					SMT21	1	Schmitt	CMOS	P21入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(SOUTイネーブル)選択時、汎用レジスタとして機能
					SMT20	1	Schmitt	CMOS	P20入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能 SIF(スレープ)選択時、SCLK(I)入力インタフェース レベル選択レジスタ
FF2CH	P33 (TOUT_D)	P32 (TOUT_C)	P31 (TOUT_B)	P30	P33	1	High	Low	P33入出力兼用ポートデータ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能
	R/W				P32	1	High	Low	P32入出力兼用ポートデータ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能
					P31	1	High	Low	P31入出力兼用ポートデータ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能
					P30	1	High	Low	P30入出力兼用ポートデータ

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.5.8.1(c) 入出力兼用ポートの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF2DH	IOC33	IOC32	IOC31	IOC30	IOC33	0	Output	Input	P33 I/O制御レジスタ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能 P32 I/O制御レジスタ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能 P31 I/O制御レジスタ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能 P30 I/O制御レジスタ
					IOC32	0	Output	Input	
	R/W				IOC31	0	Output	Input	
					IOC30	0	Output	Input	
FF2EH	PUL33	PUL32	PUL31	PUL30	PUL33	1	On	Off	P33ブルダウン制御レジスタ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能 P32ブルダウン制御レジスタ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能 P31ブルダウン制御レジスタ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能 P30ブルダウン制御レジスタ
					PUL32	1	On	Off	
	R/W				PUL31	1	On	Off	
					PUL30	1	On	Off	
FF2FH	SMT33	SMT32	SMT31	SMT30	SMT33	1	Schmitt	CMOS	P33入力カウンタフェースレベル選択レジスタ TOUT_D出力時は汎用レジスタとして機能 P32入力カウンタフェースレベル選択レジスタ TOUT_C出力時は汎用レジスタとして機能 P31入力カウンタフェースレベル選択レジスタ TOUT_B出力時は汎用レジスタとして機能 P30入力カウンタフェースレベル選択レジスタ
					SMT32	1	Schmitt	CMOS	
	R/W				SMT31	1	Schmitt	CMOS	
					SMT30	1	Schmitt	CMOS	
FF30H	P43	P42	P41	P40	P43	1	High	Low	P40 ~ P43入出力兼用ポートデータ
					P42	1	High	Low	
	R/W				P41	1	High	Low	
					P40	1	High	Low	
FF31H	IOC43	IOC42	IOC41	IOC40	IOC43	0	Output	Input	P40 ~ P43 I/O制御レジスタ
					IOC42	0	Output	Input	
	R/W				IOC41	0	Output	Input	
					IOC40	0	Output	Input	
FF32H	PUL43	PUL42	PUL41	PUL40	PUL43	1	On	Off	P40 ~ P43ブルダウン制御レジスタ
					PUL42	1	On	Off	
	R/W				PUL41	1	On	Off	
					PUL40	1	On	Off	
FF33H	SMT43	SMT42	SMT41	SMT40	SMT43	1	Schmitt	CMOS	P40 ~ P43入力カウンタフェースレベル選択レジスタ
					SMT42	1	Schmitt	CMOS	
	R/W				SMT41	1	Schmitt	CMOS	
					SMT40	1	Schmitt	CMOS	
FF34H	P53	P52	P51	P50	P53	1	High	Low	P50 ~ P53入出力兼用ポートデータ
					P52	1	High	Low	
	R/W				P51	1	High	Low	
					P50	1	High	Low	
FF35H	IOC53	IOC52	IOC51	IOC50	IOC53	0	Output	Input	P50 ~ P53 I/O制御レジスタ
					IOC52	0	Output	Input	
	R/W				IOC51	0	Output	Input	
					IOC50	0	Output	Input	
FF36H	PUL53	PUL52	PUL51	PUL50	PUL53	1	On	Off	P50 ~ P53ブルダウン制御レジスタ
					PUL52	1	On	Off	
	R/W				PUL51	1	On	Off	
					PUL50	1	On	Off	
FF37H	SMT53	SMT52	SMT51	SMT50	SMT53	1	Schmitt	CMOS	P50 ~ P53入力カウンタフェースレベル選択レジスタ
					SMT52	1	Schmitt	CMOS	
	R/W				SMT51	1	Schmitt	CMOS	
					SMT50	1	Schmitt	CMOS	
FF3CH	SIP03	SIP02	SIP01	SIP00	SIP03	0	Enable	Disable	P10 ~ P13割り込み選択レジスタ
					SIP02	0	Enable	Disable	
	R/W				SIP01	0	Enable	Disable	
					SIP00	0	Enable	Disable	

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.5.8.1(d) 入出力兼用ポートの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈			
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0
FF3DH	PCP03	PCP02	PCP01	PCP00	PCP03	1	↓	↑
					PCP02	1	↓	↑
	R/W				PCP01	1	↓	↑
					PCP00	1	↓	↑
FF3EH	SIP13	SIP12	SIP11	SIP10	SIP13	0	Enable	Disable
					SIP12	0	Enable	Disable
	R/W				SIP11	0	Enable	Disable
					SIP10	0	Enable	Disable
FF3FH	PCP13	PCP12	PCP11	PCP10	PCP13	1	↓	↑
					PCP12	1	↓	↑
	R/W				PCP11	1	↓	↑
					PCP10	1	↓	↑
FF44H	ENRTM	ENRST	ENON	BZE	ENRTM	0	1 sec	0.5 sec
					ENRST	Reset	Reset	Invalid
					ENON	0	On	Off
	R/W	W	R/W		BZE	0	Enable	Disable
FF45H	0	BZSTP	BZSHT	SHTPW	0 *3	- *2		
					BZSTP *3	0	Stop	Invalid
					BZSHT	0	Trigger	Invalid
	R	W	R/W		SHTPW	0	Busy	Ready
FF48H	0	0	SWDIR	EDIR	0 *3	- *2		
					0 *3	- *2		
					SWDIR	0		
	R		R/W		EDIR	0	Enable	Disable
FF58H	0	ESOUT	SCTRG	ESIF	0 *3	- *2		
					ESOUT	0	Enable	Disable
					SCTRG	0	Trigger	Invalid
	R	R/W			ESIF	0	Run	Stop
FF5AH	0	0	ESREADY	ENCs	0 *3	- *2		
					0 *3	- *2		
					ESREADY	0	SRDY	SS
	R		R/W		ENCs	0	SIF	I/O
FF60H	RFCNT	RFOUT	ERF1	ERF0	RFCNT	0	Continue	Normal
					RFOUT	0	Enable	Disable
	R/W				ERF1	0		
					ERF0	0		
FF80H	MOD16_A	EVCNT_A	FCSEL_A	PLPUL_A	MOD16_A	0	16 bits	8 bits
					EVCNT_A	0	Event ct.	Timer
					FCSEL_A	0	With NR	No NR
	R/W				PLPUL_A	0	↓	↓
FF81H	PTSEL1	PTSEL0	CHSEL_A	PTOUT_A	PTSEL1	0	PWM	Normal
					PTSEL0	0	PWM	Normal
					CHSEL_A	0	Timer 1	Timer 0
	R/W				PTOUT_A	0	On	Off
FF90H	MOD16_B	EVCNT_B	FCSEL_B	PLPUL_B	MOD16_B	0	16 bits	8 bits
					EVCNT_B	0	Event ct.	Timer
					FCSEL_B	0	With NR	No NR
	R/W				PLPUL_B	0	↓	↓
FF91H	PTSEL3	PTSEL2	CHSEL_B	PTOUT_B	PTSEL3	0	PWM	Normal
					PTSEL2	0	PWM	Normal
					CHSEL_B	0	Timer 3	Timer 2
	R/W				PTOUT_B	0	On	Off
FFA0H	MOD16_C	EVCNT_C	FCSEL_C	PLPUL_C	MOD16_C	0	16 bits	8 bits
					EVCNT_C	0	Event ct.	Timer
					FCSEL_C	0	With NR	No NR
	R/W				PLPUL_C	0	↓	↓

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.5.8.1(e) 入出力兼用ポートの制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FFA1H	PTSEL5	PTSEL4	CHSEL_C	PTOUT_C	PTSEL5	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ5 PWM出力選択
					PTSEL4	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ4 PWM出力選択
					CHSEL_C	0	Timer 5	Timer 4	PTM4-5 TOUT_C出力選択
					PTOUT_C	0	On	Off	PTM4-5 TOUT_C出力制御
FFB0H	MOD16_D	EVCNT_D	FCSEL_D	PLPUL_D	MOD16_D	0	16 bits	8 bits	PTM6-7 16ビットモード選択
					EVCNT_D	0	Event ct.	Timer	PTM6カウンタモード選択
					FCSEL_D	0	With NR	No NR	PTM6機能選択(イベントカウンタモード時)
					PLPUL_D	0	↑	↓	PTM6パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
FFB1H	PTSEL7	PTSEL6	CHSEL_D	PTOUT_D	PTSEL7	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ7 PWM出力選択
					PTSEL6	0	PWM	Normal	プログラマブルタイマ6 PWM出力選択
					CHSEL_D	0	Timer 7	Timer 6	PTM6-7 TOUT_D出力選択
					PTOUT_D	0	On	Off	PTM6-7 TOUT_D出力制御
FFEBH	EIK03	EIK02	EIK01	EIK00	EIK03	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み3<P13>)
					EIK02	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み2<P12>)
					EIK01	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み1<P11>)
					EIK00	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み0<P10>)
FFECH	EIK13	EIK12	EIK11	EIK10	EIK13	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み7<P43>)
					EIK12	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み6<P42>)
					EIK11	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み5<P41>)
					EIK10	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み4<P40>)
FFFBH	IK03	IK02	IK01	IK00	IK03	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み3<P13>)
					IK02	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み2<P12>)
					IK01	0	(V)	(V)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み1<P11>)
					IK00	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み0<P10>)
FFFBH	IK13	IK12	IK11	IK10	IK13	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み7<P43>)
					IK12	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み6<P42>)
					IK11	0	(V)	(V)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み5<P41>)
					IK10	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み4<P40>)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

(1)ポート機能の選択

ESIF: シリアルインタフェースイネーブル(P2ポート機能選択)レジスタ(FF58H・D0)
P20 ~ P23の機能を選択します。

- "1"書き込み: シリアルインタフェース入出力ポート
"0"書き込み: 入出力兼用ポート
読み出し: 可能

シリアルインタフェースを使用する場合に"1"、入出力兼用ポートとして使用する場合に"0"を書き込みます。P20 ~ P23の中でシリアルインタフェースの入出力に使用される端子の構成は、SMODレジスタで選択するマスタ/スレーブモードによって決定します(4.10項参照)。スレーブモードではP20 ~ P23すべてがシリアルインタフェースの入出力ポートに設定されます。マスタモードではP20 ~ P22がシリアルインタフェースの入出力ポートに設定され、P23は入出力兼用ポートとして使用することができます。また、ESOUTレジスタでSOUTをディセーブル(ESOUT = "0")に設定すると、P21を入出力兼用ポートとして使用することができます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

ENCS: シリアルインタフェースイネーブル(P23ポート機能選択)レジスタ(FF5AH・D0)
P23の機能を選択します。

- "1"書き込み: シリアルインタフェース入出力ポート(SRDYまたは \overline{SS})
"0"書き込み: 入出力兼用ポート
読み出し: 可能

シリアルインタフェースがスレーブモード時でもSRDY出力または \overline{SS} 入力が必要な場合は、ENCSを"0"に設定することでP23を入出力兼用ポートとして使用することができます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

ERF1, ERF0: R/F変換選択レジスタ(FF60H・D1, D0)

P00 ~ P03の機能を選択します。

R/Fコンバータを使用する場合に"01B ~ 11B"、入出力兼用ポートとして使用する場合に"00B"を書き込みます。また、RFOUTレジスタでRFOUTをディセーブル(RFOUT = "0")に設定すると、R/Fコンバータ使用時もP03を入出力兼用ポートとして使用することができます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

EDIR: ダイレクト入力機能イネーブルレジスタ(FF48H・D0)

ダイレクト入力(RUN/LAP)機能を有効/無効に設定します。

"1"書き込み: 有効

"0"書き込み: 無効

読み出し: 可能

EDIRに"1"を書き込むことによりストップウォッチのダイレクト入力機能が有効となり、P10とP11がRUN/STOP、LAPのキー入力ポートに設定されます。EDIRを"0"に設定することでP10とP11を入出力兼用ポートとして使用することができます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

EVCNT_A: PTM0カウンタモード選択レジスタ(FF80H・D2)

EVCNT_B: PTM2カウンタモード選択レジスタ(FF90H・D2)

EVCNT_C: PTM4カウンタモード選択レジスタ(FFA0H・D2)

EVCNT_D: PTM6カウンタモード選択レジスタ(FFB0H・D2)

プログラマブルタイム0/2/4/6のカウンタモードを選択します。

"1"書き込み: イベントカウンタモード

"0"書き込み: タイマモード

読み出し: 可能

EVCNT_A/B/C/Dに"1"を書き込むことによりプログラマブルタイム0/2/4/6がイベントカウンタモードに設定されます。これにより、P12/P41/P42/P43がイベントカウンタ用の外部クロック入力ポートになります。EVCNT_A/B/C/Dを"0"に設定することでP12/P41/P42/P43を入出力兼用ポートとして使用することができます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

(2) 入出力兼用ポートの制御

P00 ~ P03: P0入出力兼用ポートデータレジスタ(FF20H)

P10 ~ P13: P1入出力兼用ポートデータレジスタ(FF24H)

P20 ~ P23: P2入出力兼用ポートデータレジスタ(FF28H)

P30 ~ P33: P3入出力兼用ポートデータレジスタ(FF2CH)

P40 ~ P43: P4入出力兼用ポートデータレジスタ(FF30H)

P50 ~ P53: P5入出力兼用ポートデータレジスタ(FF34H)

入出力兼用ポートデータの読み出し、および出力データの設定を行います。

• データ書き込み時

"1"書き込み: HIGHレベル

"0"書き込み: LOWレベル

入出力兼用ポートが出力モードに設定されている場合、書き込んだデータがそのまま入出力兼用ポート端子に出力されます。ポートデータとして"1"を書き込んだ場合はポート端子はHIGH(V_{DD})レベルになり、"0"を書き込んだ場合はLOW(V_{SS})レベルになります。

なお、入力モードの場合もポートデータの書き込みは行えます。

• データ読み出し時

"1"読み出し: HIGHレベル

"0"読み出し: LOWレベル

入出力兼用ポートが入力モードの場合はポート端子に入力されている電圧レベルが読み出されます。端子電圧がHIGH(V_{DD})レベルの場合は読み出されるポートデータが"1"、LOW(V_{SS})レベルの場合は"0"となります。マスクオプションのプルダウン抵抗を内蔵し、PULxxレジスタに"1"を設定している場合、入力モード時には内蔵プルダウン抵抗がONとなり、入出力兼用ポート端子がプルダウンされます。

出力モードに設定されている場合はレジスタの内容が読み出されます。したがって、信号の入出力に使用しないポートのデータレジスタを汎用レジスタとして使用する場合は、そのポートを出力モードに設定しておく必要があります。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"1"に設定されます。

R/Fコンバータやシリアルインタフェースの入出力、および特殊出力に設定したポートのデータレジスタは、入出力には影響を与えない汎用レジスタとなります。

注: 入力モード時にポートの入力をHIGHレベルからプルダウン抵抗でLOWレベルに変化させる場合、プルダウン抵抗と入力ゲート容量の時定数によって波形立ち下がりに遅延が生じます。このため、入力データの取り込みを行う際は、適切な待ち時間を設定してください。特に、キーマトリクス構成時のキースキャン等に注意が必要です。この待ち時間は次の式で算出される時間以上としてください。

$$10 \times Q \text{ (端子容量 } 5\text{pF} + \text{寄生容量 } ?\text{pF}) \times R \text{ (プルダウン抵抗 } 375\text{k}\Omega \text{ Max.)}$$

IOC00 ~ IOC03: P0ポートI/O制御レジスタ(FF21H)

IOC10 ~ IOC13: P1ポートI/O制御レジスタ(FF25H)

IOC20 ~ IOC23: P2ポートI/O制御レジスタ(FF29H)

IOC30 ~ IOC33: P3ポートI/O制御レジスタ(FF2DH)

IOC40 ~ IOC43: P4ポートI/O制御レジスタ(FF31H)

IOC50 ~ IOC53: P5ポートI/O制御レジスタ(FF35H)

入出力兼用ポートの入力/出力モードを設定します。

"1"書き込み: 出力モード

"0"書き込み: 入力モード

読み出し: 可能

入出力兼用ポートの入力/出力モードを1ビット単位に設定します。

I/O制御レジスタに"1"を書き込むことにより対応する入出力兼用ポートが出力モードに、"0"を書き込むことにより入力モードになります。

イニシャルリセット時、IOCxxレジスタは"0"に設定され、対応する入出力兼用ポートPxxは入力モードになります。

R/Fコンバータやシリアルインタフェースの入出力、および特殊出力に設定したポートのI/O制御レジスタは、入出力には影響を与えない汎用レジスタとなります。

PUL00 ~ PUL03: P0ポートプルダウン制御レジスタ(FF22H)

PUL10 ~ PUL13: P1ポートプルダウン制御レジスタ(FF26H)

PUL20 ~ PUL23: P2ポートプルダウン制御レジスタ(FF2AH)

PUL30 ~ PUL33: P3ポートプルダウン制御レジスタ(FF2EH)

PUL40 ~ PUL43: P4ポートプルダウン制御レジスタ(FF32H)

PUL50 ~ PUL53: P5ポートプルダウン制御レジスタ(FF36H)

入力モード時のプルダウンを設定します。

"1"書き込み: プルダウンON

"0"書き込み: プルダウンOFF

読み出し: 可能

入出力兼用ポートに内蔵されたプルダウン抵抗を入力モード時にONまたはOFFすることを1ビット単位に設定します。(プルダウン抵抗はマスクオプションで選択したポートのみに付加されます。)

プルダウン制御レジスタに"1"を書き込むことにより、対応する入出力兼用ポートが入力モード時にプルダウンがONとなります。"0"を書き込んだ場合、および出力モードではプルダウンされません。

イニシャルリセット時、PULxxレジスタは"1"に設定され、対応する入出力兼用ポートPxxのプルダウン抵抗がONになります。

マスクオプションによりプルダウン抵抗が付加されていないポート、およびシリアルインタフェースのシリアル出力、R/Fコンバータの入出力、特殊出力に使用するポートのプルダウン制御レジスタはプルダウンには影響を与えない汎用レジスタとなります。シリアル入力に用いられるポートのプルダウン制御レジスタは入出力兼用ポートの場合と同様に機能します。

SMT00 ~ SMT03: P0ポート入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF23H)

SMT10 ~ SMT13: P1ポート入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF27H)

SMT20 ~ SMT23: P2ポート入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF2BH)

SMT30 ~ SMT33: P3ポート入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF2FH)

SMT40 ~ SMT43: P4ポート入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF33H)

SMT50 ~ SMT53: P5ポート入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF37H)

入力インタフェースレベルを選択します。

"1"書き込み: CMOSシュミット

"0"書き込み: CMOSレベル

読み出し: 可能

入出力兼用ポートの入力インタフェースレベルを1ビット単位に設定します。

SMTxxに"1"を書き込むことにより、対応する入出力兼用ポートPxxがCMOSシュミット入力に設定されます。

"0"を書き込んだ場合は、CMOSレベルの入力インタフェースに設定されます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタはすべて"1"に設定されます。

SIP00 ~ SIP03: P1ポート割り込み選択レジスタ(FF3CH)

SIP10 ~ SIP13: P4ポート割り込み選択レジスタ(FF3EH)

P10 ~ P13、P40 ~ P43の中からキー入力割り込みに使用するポートを選択します。

"1"書き込み: 割り込み許可

"0"書き込み: 割り込み禁止

読み出し: 可能

割り込み選択レジスタ(SIP00 ~ SIP03、SIP10 ~ SIP13)に"1"を書き込んだ入出力兼用ポート(P10 ~ P13、P40 ~ P43)の割り込みを許可します。"0"に設定した入出力兼用ポートはキー入力割り込みの発生条件には影響を与えません。

SLEEPモードからはキー入力割り込み要因の発生によってのみ起床可能です。したがって、SLP命令を実行する前に、SLEEP解除に使用するポートの割り込み選択レジスタをセット(SIPxx = "1")しておく必要があります。

イニシャルリセット時、これらのレジスタはすべて"0"に設定されます。

PCP00 ~ PCP03: P1ポート割り込み極性選択レジスタ(FF3DH)

PCP10 ~ PCP13: P4ポート割り込み極性選択レジスタ(FF3FH)

割り込み発生タイミングを設定します。

"1"書き込み: 立ち下がりがエッジ

"0"書き込み: 立ち上がりがエッジ

読み出し: 可能

割り込み極性選択レジスタ(PCP00 ~ PCP03、PCP10 ~ PCP13)に"1"を書き込んだ入出力兼用ポート(P10 ~ P13、P40 ~ P43)のキー入力割り込みは、入力の立ち下がりがエッジで発生します。"0"に設定した入出力兼用ポートのキー入力割り込みは、入力の立ち上がりがエッジで発生します。

イニシャルリセット時、これらのレジスタはすべて"1"に設定されます。

NRSP01, NRSP00: キー入力割り込み0～3ノイズリジェクト周波数選択レジスタ(FF11H・D1, D0)
 NRSP11, NRSP10: キー入力割り込み4～7ノイズリジェクト周波数選択レジスタ(FF11H・D3, D2)
 キー入力割り込みのノイズリジェクト周波数を選択します。

表4.5.8.2 ノイズリジェクトの設定

NRSP01 NRSP11	NRSP00 NRSP10	ノイズリジェクト周波数	リジェクトパルス幅
1	1	fosc1 / 256 (128Hz)	7.8msec
1	0	fosc1 / 64 (512Hz)	2.0msec
0	1	fosc1 / 16 (2kHz)	0.5msec
0	0	OFF (バイパス)	—

NRSP0x, NRSP1xはそれぞれP10～P13(キー入力割り込み0～3)、P40～P43(キー入力割り込み4～7)の割り込みに対応するノイズリジェクト周波数選択レジスタです。
 イニシャルリセット時、これらのレジスタは"00B"に設定されます。

EIK00～EIK03: キー入力割り込み0～3割り込みマスクレジスタ(FFEbH)
 EIK10～EIK13: キー入力割り込み4～7割り込みマスクレジスタ(FFECH)
 キー入力割り込みを許可/禁止します。

"1"書き込み: イネーブル
 "0"書き込み: マスク
 読み出し: 可能

EIK00～EIK03、EIK10～EIK13はそれぞれP10～P13(キー入力割り込み0～3)、P40～P43(キー入力割り込み4～7)の割り込み要因に対応する割り込みマスクレジスタで、"1"に設定した割り込みが許可され、"0"に設定した割り込みが禁止されます。

EIKxxレジスタが"0"に設定されている場合でも、入力割り込み要因によってSLEEPモードは解除できます。ただし、SLEEP解除後に入力ポート割り込み処理を実行するためには、SLP命令を実行する前に、該当ポートの割り込みマスクレジスタもイネーブル状態にセットしておく必要があります。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

IK00～IK03: キー入力割り込み0～3割り込み要因フラグ(FFFbH)
 IK10～IK13: キー入力割り込み4～7割り込み要因フラグ(FFFCH)
 キー入力割り込みの発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: 割り込み有
 "0"読み出し: 割り込み無
 "1"書き込み: 要因フラグをリセット
 "0"書き込み: 無効

割り込み要因フラグIK00～IK03、IK10～IK13はそれぞれP10～P13(キー入力割り込み0～3)、P40～P43(キー入力割り込み4～7)の割り込みに対応します。これらのフラグによってキー入力割り込みの有無を、ソフトウェアで判断することができます。

割り込み要因フラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず割り込み条件の成立により"1"にセットされます。ただし、割り込みがマスクされている場合はCPUに対して割り込みは発生しません。

これらのフラグは、"1"を書き込むことによって"0"にリセットされます。

割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

イニシャルリセット時、これらのフラグは"0"に設定されます。

(3) 特殊出力の制御

FOUT0 ~ FOUT3: FOUT周波数選択レジスタ(FF10H)

FOUT周波数を選択し、FOUT出力を制御します。

表4.5.8.3 FOUTクロック周波数

FOUT3	FOUT2	FOUT1	FOUT0	FOUT周波数
1	1	1	1	fosc3
1	1	1	0	fosc3 / 2
1	1	0	1	fosc3 / 4
1	1	0	0	fosc3 / 8
1	0	1	1	fosc3 / 16
1	0	1	0	fosc3 / 32
1	0	0	1	fosc3 / 64
1	0	0	0	fosc3 / 256
0	1	1	1	fosc1 (32kHz)
0	1	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	1	0	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	0	fosc1 / 16 (2kHz)
0	0	1	1	fosc1 / 32 (1kHz)
0	0	1	0	fosc1 / 64 (512Hz)
0	0	0	1	fosc1 / 256 (128Hz)
0	0	0	0	Off

fosc1: OSC1発振周波数、()内の周波数はfosc1=32kHzの場合

fosc3: OSC3発振周波数

FOUT周波数を選択する(1~15を書き込む)ことによってP23端子からFOUT信号が出力されます。FOUT0 ~ FOUT3が"0"の場合、P23ポートは汎用のDC入出力ポートとして機能します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

BZE: BZ出力イネーブルレジスタ(FF44H・D0)

ブザー出力を制御します。

"1"書き込み: ブザー出力ON
 "0"書き込み: ブザー出力OFF
 読み出し: 可能

BZEに"1"を書き込むことによってP03端子からBZ信号が出力されます。

BZEが"0"の場合、P03ポートは汎用のDC入出力ポートとして機能します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

BZSHT: 1ショットブザートリガ/ステータス(FF45H・D1)

1ショットブザー出力の制御を行います。

• データ書き込み時

"1"書き込み: トリガ
 "0"書き込み: ノーオペレーション

BZSHTに"1"を書き込むことにより1ショット出力回路が動作し、ブザー信号が出力されます。この出力はSHTPWによって設定した時間の経過後に自動的にOFFとなります。

1ショット出力は通常のブザー出力がOFF(BZE = "0")の状態でのみ有効で、ON(BZE = "1")状態でのトリガは無効となります。1ショット出力中に再トリガを行った場合は、その時点からSHTPWによって設定した時間を計測し直します(時間延長)。

• データ読み出し時

"1"読み出し: BUSY
"0"読み出し: READY

読み出し時は1ショット出力回路の動作状態を示します。1ショット出力中にBZSHTは"1"となり、出力がOFFすると"0"になります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

PTOUT_A: TOUT_A出力制御レジスタ(FF81H・D0)
PTOUT_B: TOUT_B出力制御レジスタ(FF91H・D0)
PTOUT_C: TOUT_C出力制御レジスタ(FFA1H・D0)
PTOUT_D: TOUT_D出力制御レジスタ(FFB1H・D0)
TOUT_A ~ TOUT_D出力を制御します。

"1"書き込み: TOUT出力ON
"0"書き込み: TOUT出力OFF
読み出し: 可能

PTOUT_A/B/C/Dに"1"を書き込むことによってP13/P31/P32/P33端子からTOUT_A/B/C/D信号が出力されます。

レジスタが"0"の場合、対応する端子は汎用のDC入出力ポートとして機能します。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

4.5.9 プログラミング上の注意事項

- (1) 入力モード時にポートの入力をHIGHレベルからプルダウン抵抗でLOWレベルに変化させる場合、プルダウン抵抗と入力ゲート容量の時定数によって波形立ち下がりに遅延が生じます。このため、入力データの取り込みを行う際は、適切な待ち時間を設定してください。
特に、キーマトリクス構成時のキースキャン等に注意が必要です。
この待ち時間は次の式で算出される時間以上としてください。
 $10 \times (\text{端子容量} 5\text{pF} + \text{寄生容量} ?\text{pF}) \times R \text{ (プルダウン抵抗} 375\text{k}\Omega \text{ Max.)}$
- (2) SLP命令を実行する前には、必ずノイズリジェクタをOFFに設定してください。
- (3) SLEEPモードからはキー入力割り込み要因の発生によってのみ起床可能です。したがって、SLP命令を実行する前に、SLEEP解除に使用するポートの割り込み選択レジスタをセット(SIPxx = "1")しておく必要があります。また、SLEEP解除後にキー入力割り込み処理を実行するためには、SLP命令を実行する前に、該当ポートの割り込みマスクレジスタもイネーブル状態にセット(EIKxx = "1")しておく必要があります。
- (4) TOUT_A ~ TOUT_D信号、FOUT信号のON/OFF時は、出力波形にハザードが出る場合があります。
- (5) FOUT信号の周波数としてfosc3を選択した場合は、信号出力前にOSC3発振回路の制御が必要です。制御方法と注意事項については"4.4 発振回路"を参照してください。
- (6) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。
- (7) ポートの機能設定は、ポートを使用する回路(入力割り込み、キー同時押しリセット、シリアルインタフェース、イベントカウンタ入力、ストップウォッチダイレクトRUN/LAP入力)がディセーブルの状態で行ってください。

4.6 LCDドライバ

4.6.1 LCDドライバの構成

S1C6F632は最大1,536ドット(48セグメント×32コモン)のLCDパネルが駆動可能なドットマトリクスLCDドライバを内蔵しています。図4.6.1.1～4.6.1.3にLCDドライバと駆動電源の構成を示します。

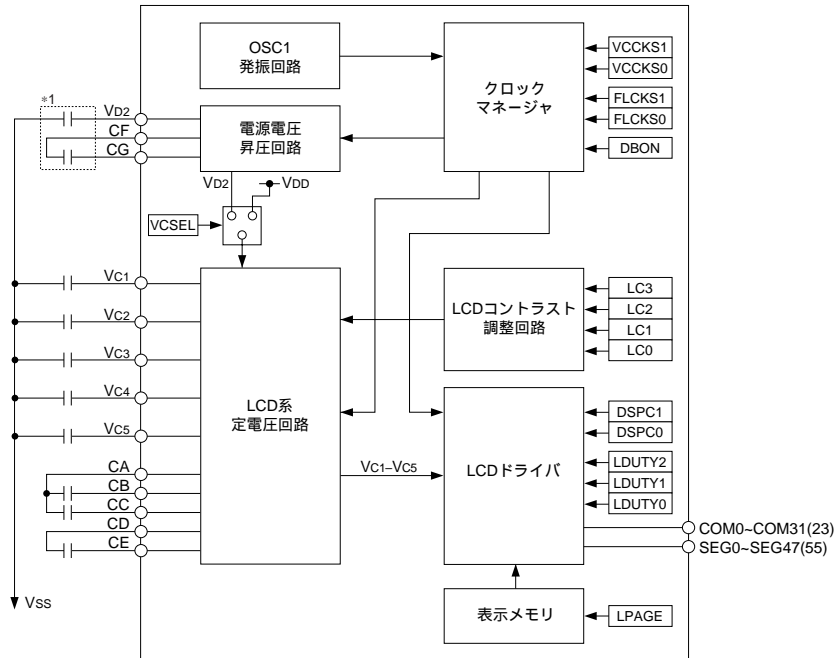


図4.6.1.1 LCDドライバと駆動電源の構成(Vc2基準, 1/5バイアスの場合)

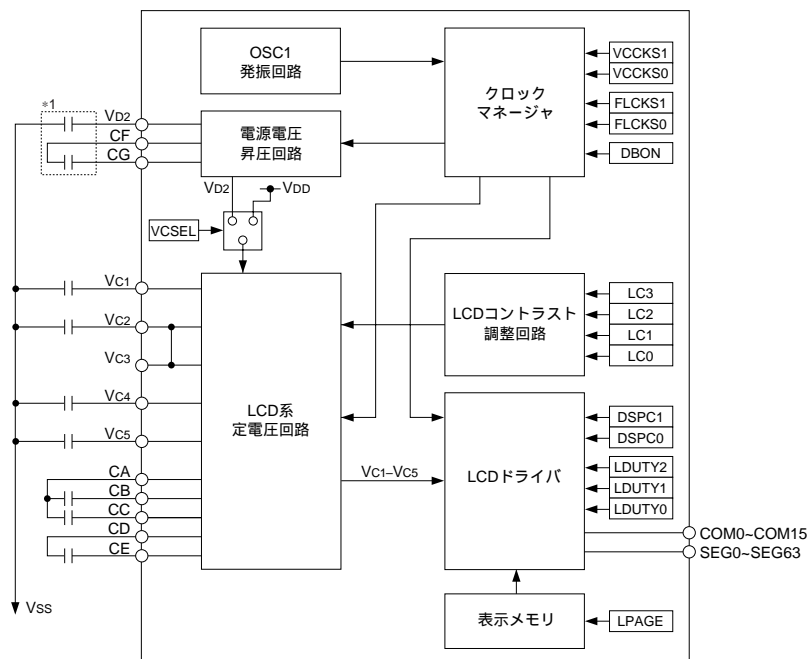
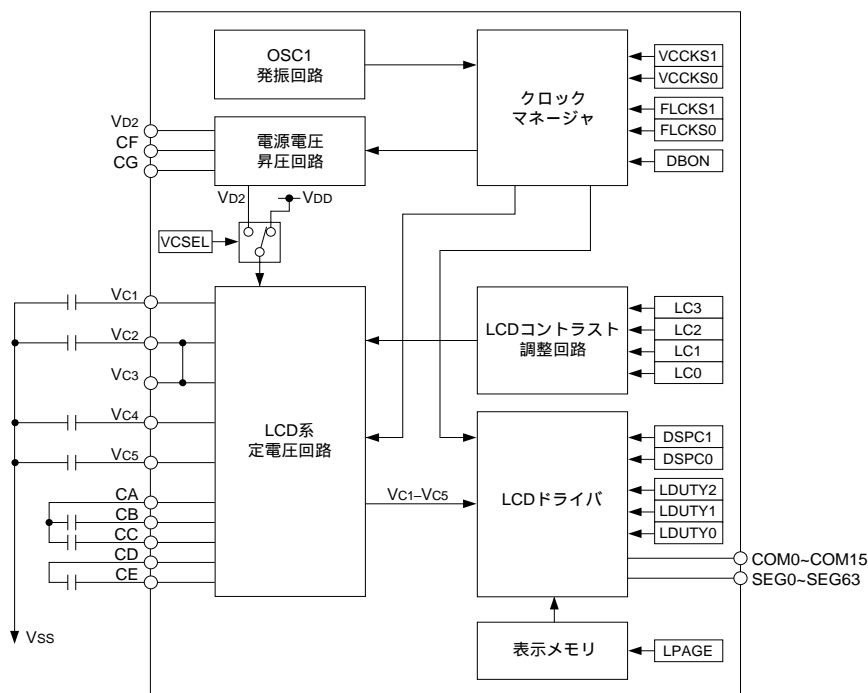


図4.6.1.2 LCDドライバと駆動電源の構成(Vc2基準, 1/4バイアスの場合)

*1 電源電圧昇圧回路を使用しない(VDDが2.5V以上の場合は、接続の必要はありません(端子はオープン))。

図4.6.1.3 LCDドライバと駆動電源の構成(V_{c1} 基準, 1/4バイアスの場合)

4.6.2 LCD駆動電源

(1) マスクオプション

LCD系の駆動電圧 $V_{c1} \sim V_{c5}$ を生成する内部電源として3種類のオプションが用意されています。

- | | |
|--------|---|
| TYPE 1 | V_{c2} 基準, 1/5バイアス
$V_{DD} = 1.8 \sim 2.5V$ (電源電圧昇圧回路を使用する)
$V_{DD} = 2.5 \sim 3.6V$ (電源電圧昇圧回路を使用しない) |
| TYPE 2 | V_{c2} 基準, 1/4バイアス
$V_{DD} = 1.8 \sim 2.5V$ (電源電圧昇圧回路を使用する)
$V_{DD} = 2.5 \sim 3.6V$ (電源電圧昇圧回路を使用しない) |
| TYPE 3 | V_{c1} 基準, 1/4バイアス
$V_{DD} = 1.8 \sim 3.6V$ (電源電圧昇圧回路を使用しない) |

標準マスクオプション(Type B, Type E)

標準マスクオプション品のType BとEではLCD駆動電源がTYPE 1に固定されます。

標準マスクオプション(Type G)

標準マスクオプション品のType GではLCD駆動電源がTYPE 2に固定されます。

カスタムマスクオプション

カスタムマスクオプション品では電源電圧やパネルの特性に合わせ、TYPE 1～TYPE 3の3種類から選択可能です。

LCD系定電圧回路によって V_{C1} または V_{C2} の基準電圧を発生し、その電圧を昇降圧して他の電位を発生します。

表4.6.2.1に V_{C1} 、 V_{C2} 、 V_{C3} 、 V_{C4} 、 V_{C5} の電圧値と昇降圧の状態を示します。なお、1/5バイアス、1/4バイアスの選択により外付けの部品点数が変わりますので注意してください (図4.6.1.1～4.6.1.3参照)。

表4.6.2.1 LCD駆動電圧

LCD駆動電圧	TYPE 1	[V]	TYPE 2	[V]	TYPE 3	[V]
V_{C1}	$V_{C2} \times 0.5$	1.10	$V_{C2} \times 0.5$	1.13	V_{C1} (基準)	1.13
V_{C2}	V_{C2} (基準)	2.20	V_{C2} (基準)	2.25	$V_{C1} \times 2$	2.25
V_{C3}	$V_{C2} \times 1.5$	3.30	$= V_{C2}$	2.25	$= V_{C2}$	2.25
V_{C4}	$V_{C2} \times 2$	4.40	$V_{C2} \times 1.5$	3.38	$V_{C1} \times 3$	3.38
V_{C5}	$V_{C2} \times 2.5$	5.50	$V_{C2} \times 2$	4.50	$V_{C1} \times 4$	4.50

注: 各LCD駆動電圧はコントラスト調整レジスタ(LCx)の設定により変わります。

(2) LCD系定電圧回路の制御

LCD表示を開始するには、LPWRレジスタによってLCD系定電圧回路をONする必要があります。LPWRに"1"を書き込むとLCD系定電圧回路がONし、表4.6.2.1に示したLCD駆動電圧を生成します。イニシャルリセット時、LPWRは"0" (OFF) に設定されます。

LCDを使用しない場合は消費電力を低減するため、LCD系定電圧回路をOFFにしてください。

安定したLCD駆動電圧を生成するためには、基準電圧 V_{C2} または V_{C1} 以上の電圧でLCD系定電圧回路を駆動する必要があります。特に V_{C2} 基準の場合、電源電圧 V_{DD} が2.5V未満のときは電源電圧昇圧回路が生成する V_{D2} でLCD系定電圧回路を駆動できるようになっています (LCD電源がTYPE 1または2の場合)。 V_{D2} は V_{DD} を約2倍に昇圧した電圧です。LCD系定電圧回路を V_{DD} と V_{D2} のどちらで駆動するかについては、VCSELレジスタで選択します。VCSELが"0"の場合は V_{DD} が、"1"の場合は V_{D2} が選択されます。 V_{D2} を使用するには V_{D2} に切り換える前にレジスタDBONに"1"を書き込み、電源電圧昇圧回路をONしておく必要があります。

V_{C1} 基準の場合、この制御は不要です。VCSELとDBONはどちらも"0"のまま変更せずに使用してください。

また、LCD系定電圧回路は昇降圧動作に、クロックマネージャから送られる昇圧クロックを使用します。このクロック供給をVCCKS0～VCCKS1レジスタによって制御します。LPWRに"1"を書き込む前にVCCKSを"01B"に設定してください。LCDを使用しない場合は消費電力を低減するため、VCCKSを"00B"に設定し、クロック供給を停止してください。

表4.6.2.2 昇圧クロックの制御

VCCKS1	VCCKS0	昇圧クロック制御
1	*	禁止
0	1	ON(2kHz)
0	0	OFF

注: CPUのSLP命令によって移行するSLEEP状態では、発振回路も停止します。そのため、電源電圧昇圧回路は V_{D2} を生成できません。SLP命令を実行する前に、LCD系定電圧回路を V_{DD} 駆動 (VCSEL="0"、DBON="0") に戻してください。

(3) LCD系定電圧回路の重負荷保護モード

外付け負荷の駆動などによって電源電圧が変動した場合でもできるかぎり安定したLCD表示が行えるように (表示品質の劣化を抑えるため) LCD系定電圧回路はソフトウェアで設定可能な重負荷保護機能を持っています。VCHLMODレジスタに"1"を書き込むとLCD系定電圧回路は重負荷保護モードとなり、 V_{C1} ～ V_{C5} 出力の安定化を図ります。ポート出力によってランプやブザーなどの重負荷を駆動した際、液晶表示に濃淡が現れる場合に使用してください。

イニシャルリセット時、VCHLMODは"0" (OFF) に設定されます。

注: 重負荷保護モードでは、通常動作時よりも消費電流が増加します。したがって、必要なとき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

4.6.3 LCD表示の制御

(1) 表示モードの選択

LPWRによる表示のON/OFF制御とは別に、表示モードを選択するDSPC0～DSPC1レジスタが用意されています。表示モードは、表4.6.3.1に示す4種類が設定できます。

表4.6.3.1 表示モード

DSPC1	DSPC0	表示モード
1	1	全白モード
1	0	全黒モード
0	1	反転モード
0	0	通常モード

通常モード：表示RAMに書き込まれている画像をそのまま出力します。(デフォルト)

反転モード：表示RAMに書き込まれている画像を白黒反転して表示します。表示RAMの内容は変更されません。

全黒モード：LCDをスタティック駆動で全点灯(全体を黒く表示)します(LCDがノーマルホワイトの場合)、表示RAMの内容は変更されません。

全白モード：LCDをダイナミック駆動で全消灯(全体を白く表示)します(LCDがノーマルホワイトの場合)、表示RAMの内容は変更されません。

(2) 駆動デューティとフレーム周波数

S1C6F632はソフトウェアにより駆動デューティを1/32、1/24、1/16の3種類に切り換えることができます。この設定は表4.6.3.2に示すとおり、レジスタLDUTY2～LDUTY0によって行います。使用するLCDパネルに合わせて選択してください。

フレーム周波数は、選択したデューティとクロックマネージャから送られるクロックの組み合わせにより決定します。このクロック(8Hz～32Hz)を選択するFLCKS0～FLCKS1レジスタが設けられています。

低いフレーム周波数を選択すると消費電流を低減できます。

注：フレーム周波数の選択は表示品質に影響するため、実際のLCDパネルを使用した評価の後に決定されることを推奨します。

表4.6.3.2 フレーム周波数とデューティの組み合わせ

LDUTY2	LDUTY1	LDUTY0	デューティ	フレーム周波数				駆動バイアス (マスクオプション)
				FLCKS = 11B	FLCKS = 10B	FLCKS = 01B	FLCKS = 00B	
1	1	1	設定禁止	—	—	—	—	—
1	1	0	設定禁止	—	—	—	—	—
1	0	1	設定禁止	—	—	—	—	—
1	0	0	1/16	8Hz	16Hz	21.333Hz	32Hz	1/4バイアス
0	1	1	1/24	5.333Hz	10.666Hz	14.22Hz	21.333Hz	1/5バイアス
0	1	0	1/24	10.666Hz	21.333Hz	28.44Hz	42.666Hz	1/5バイアス
0	0	1	設定禁止	—	—	—	—	—
0	0	0	1/32	8Hz	16Hz	21.333Hz	32Hz	1/5バイアス

表4.6.3.3に駆動デューティとSEG/COM端子および最大表示ドット数の対応を示します。

表4.6.3.3 駆動デューティ、SEG/COM端子、最大表示ドット数の対応

端子 デューティ	SEG0～SEG47	COM31～COM24	COM23～COM16	COM15～COM0	表示ドット数
1/32	SEG0～SEG47	COM31～COM24	COM23～COM16	COM15～COM0	1,536
1/24	SEG0～SEG47	SEG48～SEG55	COM23～COM16	COM15～COM0	1,344
1/16	SEG0～SEG47	SEG48～SEG55	SEG56～SEG63	COM15～COM0	1,024

各デューティの駆動波形を図4.6.3.1～図4.6.3.3に示します。

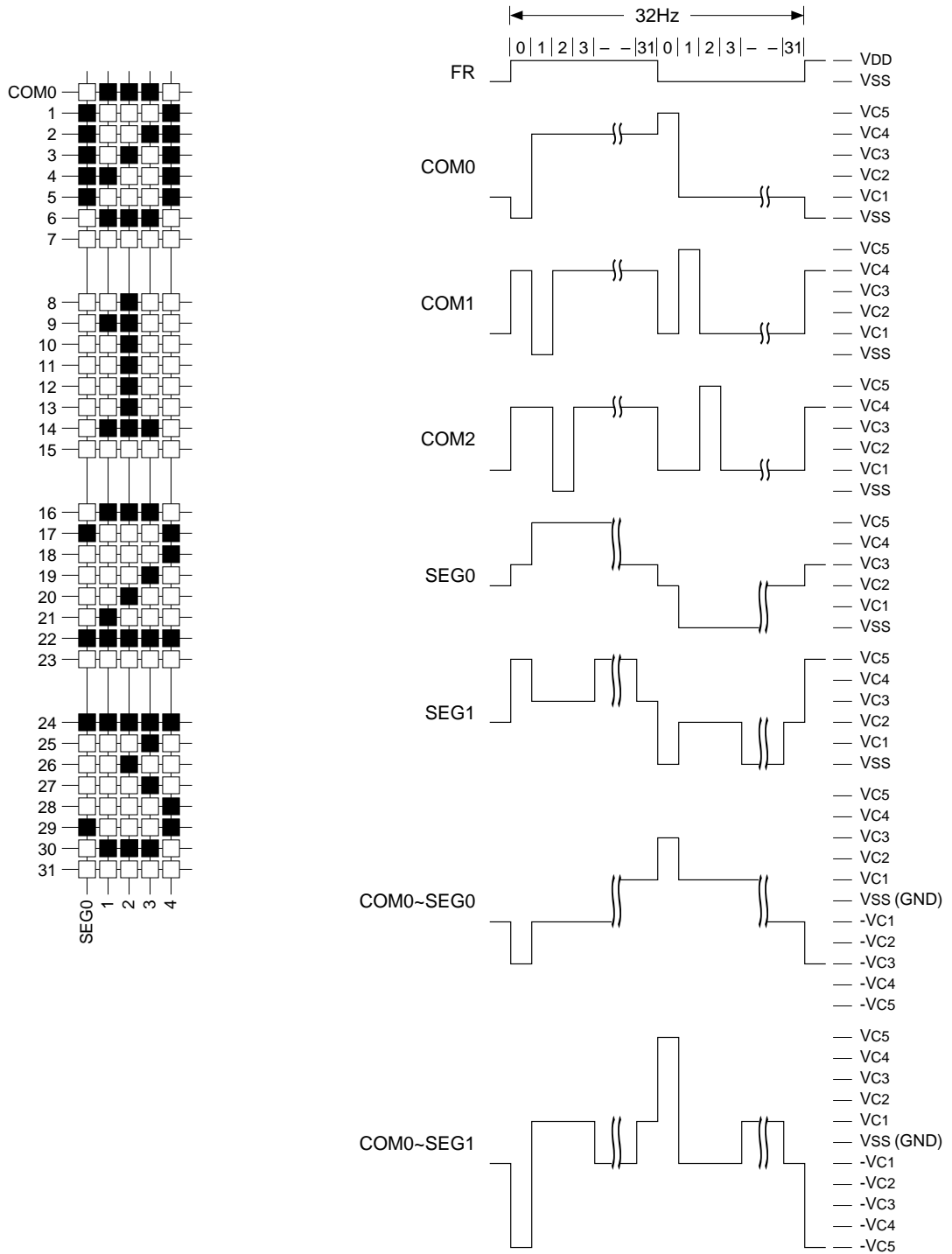


図4.6.3.1 1/32デューティLCD駆動波形(FLCKS="00B")

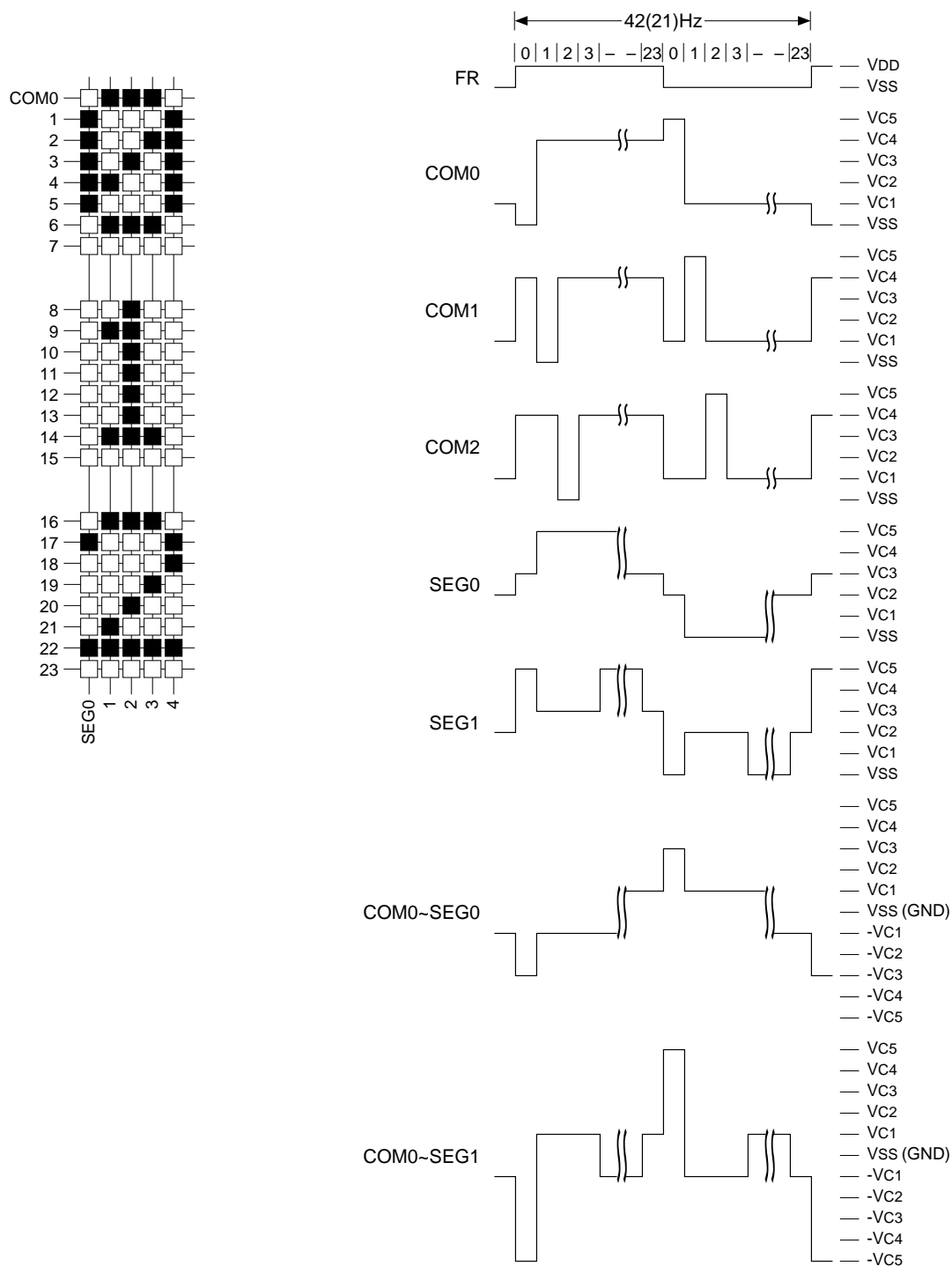


図4.6.3.2 1/24デューティLCD駆動波形 (FLCKS="00B")

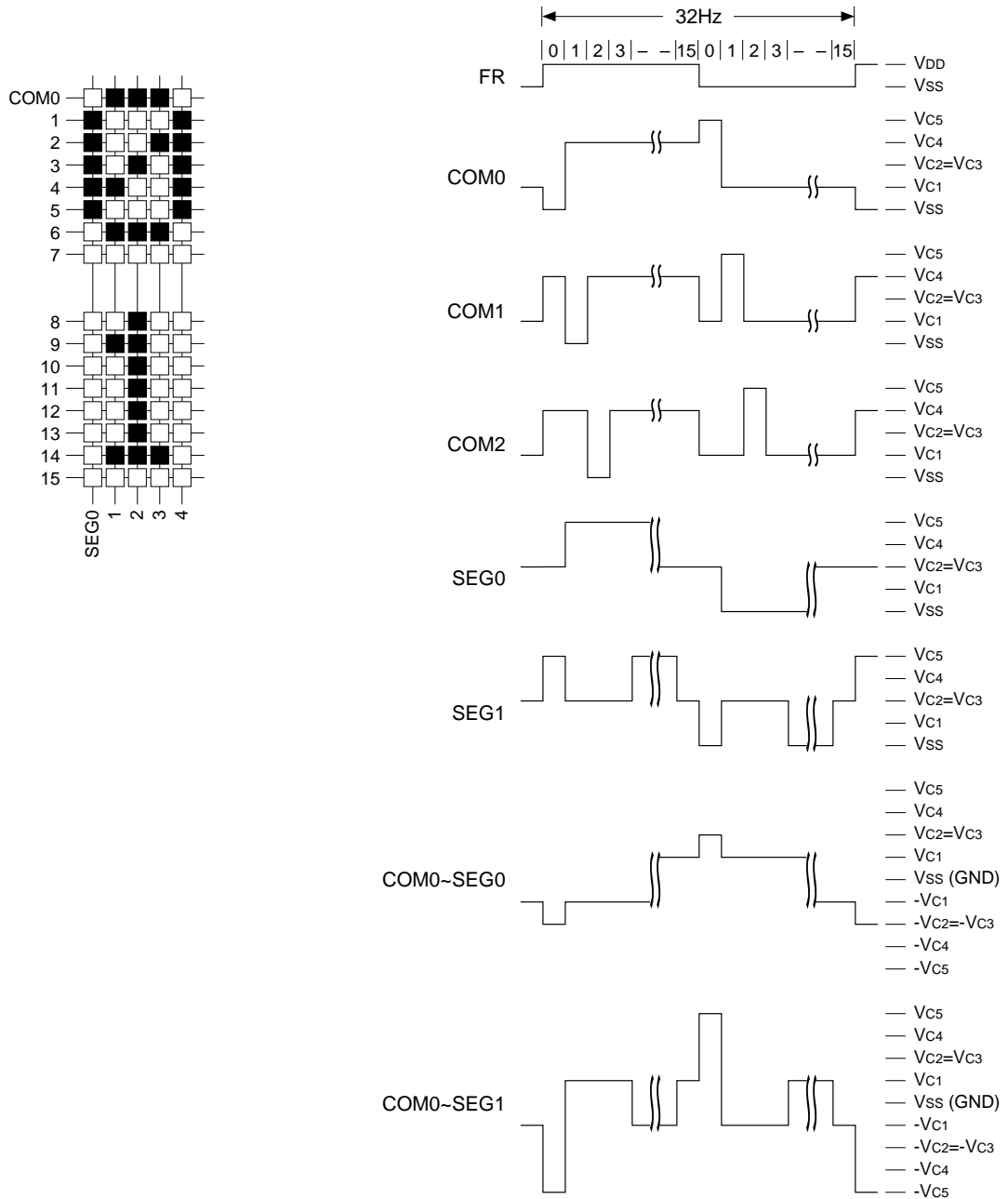


図4.6.3.3 1/16デューティLCD駆動波形 (FLCKS="00B")

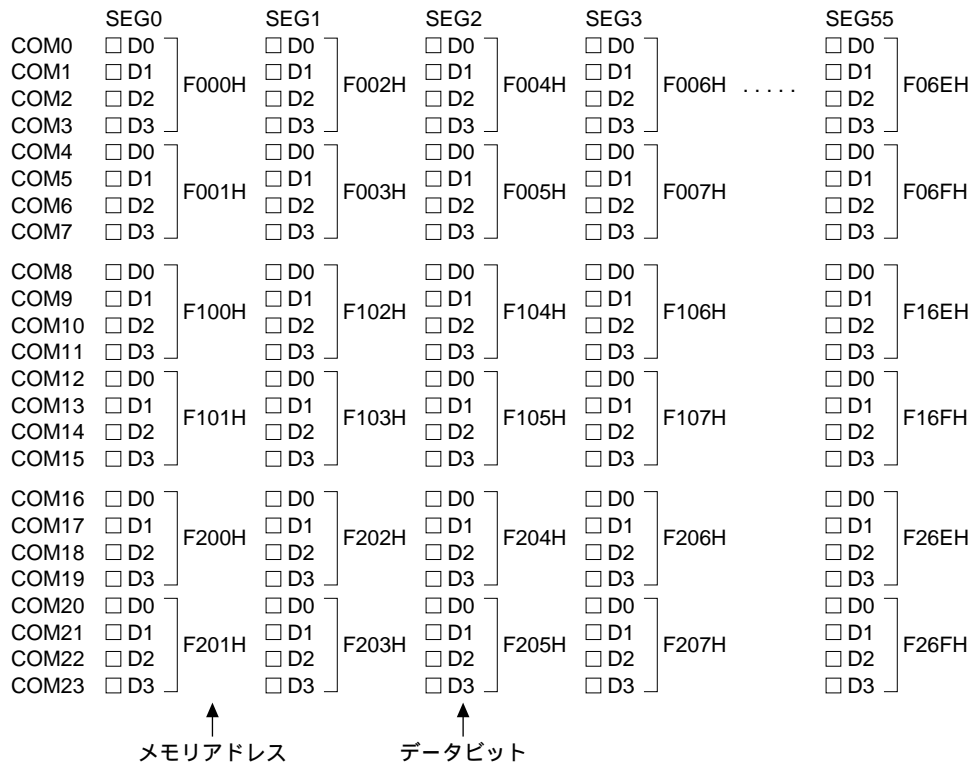


図4.6.4.2 表示メモリとLCDドットマトリクスに対応(1/24デューティ選択時)

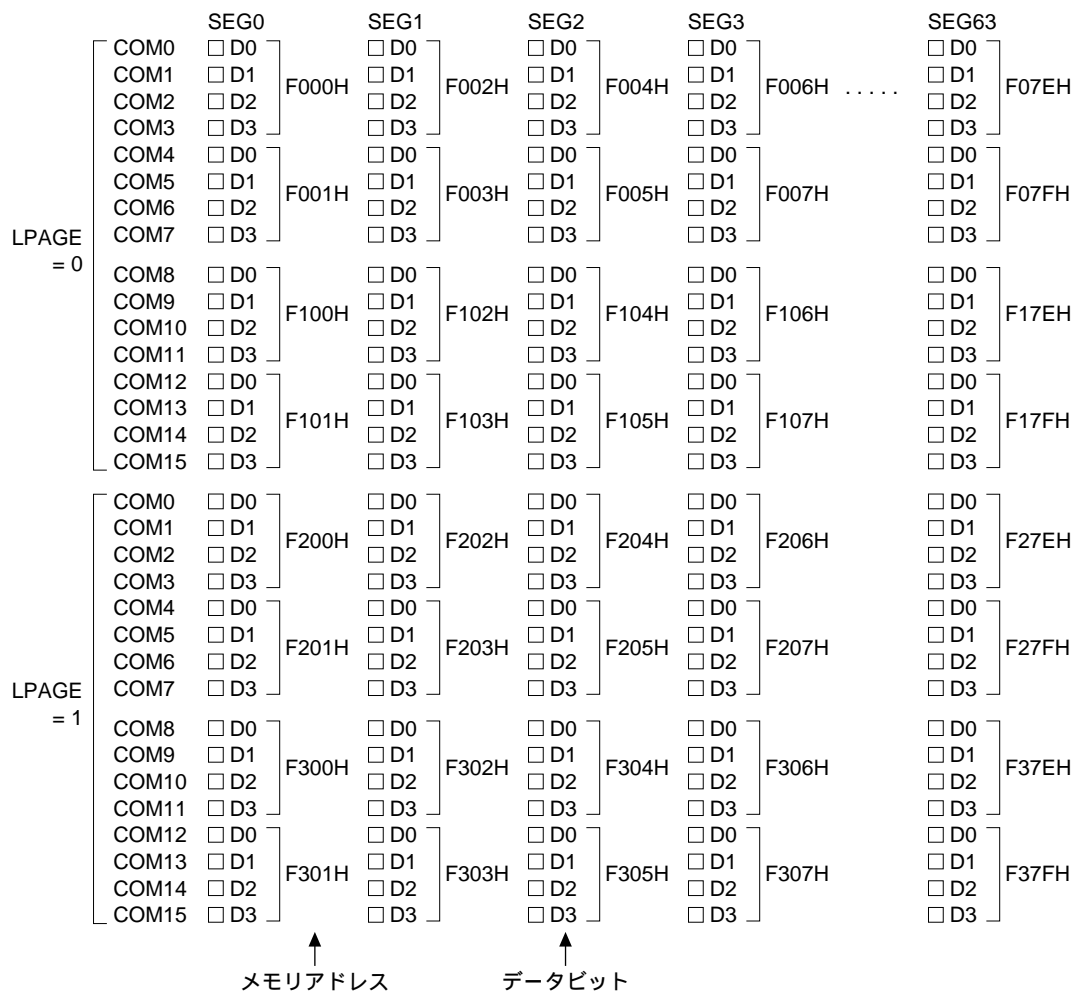


図4.6.4.3 表示メモリとLCDドットマトリクスの対応 (1/16デューティ選択時)

表示メモリのビットを"1"にすると対応するLCDのドットが点灯し、"0"にすると消灯します。

1/16デューティ選択時は2画面分の表示メモリを使用可能です。F000H～F17FHとF200H～F37FHのどちらの領域のデータを表示させるか、LPAGEレジスタで選択します。これにより、画面を瞬時に切り換えることができます。

イニシャルリセット時、表示メモリの内容は不定となりますので、ソフトウェアにより初期化する必要があります。表示メモリはリード/ライト可能となっており、LCD表示に使用しないアドレスは汎用レジスタとして使用することができます。

注: メモリ非実装領域 (F080H～F0FFH, F180H～F1FFH, F280H～F2FFH, F380H～F3FFH) をアクセスするようなプログラムを作成した場合、正常な動作を保証することはできません。

4.6.5 LCDコントラスト調整

LCDのコントラストをソフトウェアによって調整することができます

これはLCD系定電圧回路が出力する $V_{C1} \sim V_{C5}$ の電圧を制御することによって実現しています。コントラストはLC3～LC0レジスタによって16段階に調整可能です。

表4.6.5.1 LCDのコントラスト調整

No.	LC3	LC2	LC1	LC0	コントラスト
0	0	0	0	0	淡
1	0	0	0	1	↑
2	0	0	1	0	
3	0	0	1	1	
4	0	1	0	0	
5	0	1	0	1	
6	0	1	1	0	
7	0	1	1	1	
8	1	0	0	0	
9	1	0	0	1	
10	1	0	1	0	
11	1	0	1	1	
12	1	1	0	0	
13	1	1	0	1	
14	1	1	1	0	↓
15	1	1	1	1	濃

イニシャルリセット時、LC3～LC0は0000Bになります。希望のコントラストを得るにはソフトウェアによる初期化が必要です。

4.6.6 LCDドライバのI/Oメモリ

表4.6.6.1にLCDドライバの制御ビットとそのアドレスを、図4.6.6.1に表示メモリマップを示します。

表4.6.6.1 LCDドライバの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF02H	VDSEL	VCSEL	HLON	DBON	VDSEL	0	1	0	汎用レジスタ LCD系定電圧回路電源切り換え 汎用レジスタ 電源電圧昇圧回路On/Off
					VCSEL	0	Vb2	VbD	
					HLON	0	1	0	
					DBON	0	On	Off	
FF03H	VCHLMOD	VDHLMOD	General	LPWR	VCHLMOD	0	On	Off	LCD系定電圧回路重負荷保護モードOn/Off 内部(Vb1)定電圧回路重負荷保護モードOn/Off 汎用レジスタ LCD系定電圧回路On/Off
					VDHLMOD	0	On	Off	
					General	0	1	0	
					LPWR	0	On	Off	
FF12H	FLCKS1	FLCKS0	VCCKS1	VCCKS0	FLCKS1	0			フ レーム [FLCKS1, 0] 0 1 2 3 周波数選択 周波数 32Hz 24Hz 16Hz 8Hz VC昇圧 [VCCKS1, 0] 0 1 2, 3 周波数選択 周波数 Off 2kHz 禁止
					FLCKS0	0			
					VCCKS1	0			
					VCCKS0	0			
FF50H	General	LPAGE	DSPC1	DSPC0	General	0	1	0	汎用レジスタ 表示メモリ領域選択(1/16デューティ選択時) 1/24、1/32デューティ選択時は汎用レジスタとして機能 LCD表示 [DSPC1, 0] 0 1 2 3 モード選択 表示モード 通常 反転 全点灯 全消灯
					LPAGE	0	F200-F37F	F000-F17F	
					DSPC1	0			
					DSPC0	0			
FF51H	General	LDUTY2	LDUTY1	LDUTY0	General	0	1	0	汎用レジスタ LCD駆動 [LDUTY2~0] 0 1 2 デューティ デューティ 1/32(32Hz) 禁止 1/24(42Hz) デューティ [LDUTY2~0] 3 4 5~7 選択 デューティ 1/24(21Hz) 1/16(32Hz) 禁止
					LDUTY2	0			
					LDUTY1	0			
					LDUTY0	0			
FF52H	LC3	LC2	LC1	LC0	LC3	0			LCDコントラスト調整 [LC3~0] 0 ~ 15 コントラスト 淡 ~ 濃
					LC2	0			
					LC1	0			
					LC0	0			

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

1/32デューティ			1/24デューティ			1/16デューティ		
F000H ⋮ F05FH F060H F06FH F070H F07FH F080H ⋮ F0FFH F100H ⋮ F15FH F160H F16FH F170H F17FH F180H ⋮ F1FFH	表示データ領域 (COM0 ~ COM7)	SEG0 ⋮ SEG47	表示データ領域 (COM0 ~ COM7)	SEG0 ⋮ ⋮ SEG55	表示データ領域0 (COM0 ~ COM7)	SEG0 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ SEG63		
	未使用領域		未使用領域					
F200H ⋮ F25FH F260H F26FH F270H F27FH F280H ⋮ F2FFH	非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)			
F300H ⋮ F35FH F360H F36FH F370H F37FH F380H ⋮ F3FFH	表示データ領域 (COM8 ~ COM15)	SEG0 ⋮ SEG47	表示データ領域 (COM8 ~ COM15)	SEG0 ⋮ ⋮ SEG55	表示データ領域0 (COM8 ~ COM15)	SEG0 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ SEG63		
	未使用領域		未使用領域					
	非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)			
F400H ⋮ F45FH F460H F46FH F470H F47FH F480H ⋮ F4FFH	表示データ領域 (COM16 ~ COM23)	SEG0 ⋮ SEG47	表示データ領域 (COM16 ~ COM23)	SEG0 ⋮ ⋮ SEG55	表示データ領域1 (COM0 ~ COM7)	SEG0 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ SEG63		
	未使用領域		未使用領域					
	非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)			
F500H ⋮ F55FH F560H F56FH F570H F57FH F580H ⋮ F5FFH	表示データ領域 (COM24 ~ COM31)	SEG0 ⋮ SEG47	未使用領域	SEG0 ⋮ ⋮ SEG55	表示データ領域1 (COM8 ~ COM15)	SEG0 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ SEG63		
	未使用領域							
	非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)		非実装領域 (読み出し/書き込み禁止)			

図4.6.6.1 表示メモリマップ

DBON: 電源電圧昇圧回路ON/OFFレジスタ (FF02H・D0)

電源電圧昇圧回路を制御します。

"1"書き込み: ON
"0"書き込み: OFF
読み出し: 可能

DBONに"1"を書き込むと電源電圧昇圧回路がONし、 V_{DD} を約2倍に昇圧した V_{D2} を出力します。 V_{D2} でLCD系定電圧回路を駆動する場合 (V_{C2} 基準、 $V_{DD}=1.8\sim 2.5V$) にONします。

DBONに"0"を書き込むと電源電圧昇圧回路はOFFします。消費電流を低減するため、 V_{DD} でLCD系定電圧回路を駆動する場合はOFFにして使用してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

VCSEL: LCD系電源回路電源切り換えレジスタ (FF02H・D2)

LCD系定電圧回路の電源電圧を選択します。

"1"書き込み: V_{D2}
"0"書き込み: V_{DD}
読み出し: 可能

VCSELに"1"を書き込むと電源電圧昇圧回路が出力する V_{D2} でLCD系定電圧回路が動作します。この設定の前に、DBONに"1"を書き込み、電源電圧昇圧回路をONしておく必要があります。なお、電源電圧昇圧回路をONしてから電圧が安定するまでの約1msecの間は V_{D2} に切り換えしないでください。

VCSELに"0"を書き込んだ場合は、 V_{DD} でLCD系定電圧回路が動作します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

LPWR: LCD系定電圧回路ON/OFFレジスタ (FF03H・D0)

LCD系定電圧回路をON/OFFします。

"1"書き込み: ON
"0"書き込み: OFF
読み出し: 可能

LPWRに"1"を書き込むことにより、LCD系定電圧回路がONとなりLCD駆動電圧を発生します。"0"を書き込んだ場合、LCD駆動電圧はすべて V_{SS} となります。

LPWRに"1"を書き込んだ後、LCD系電圧回路が動作しLCD駆動電圧出力が安定するまで約100msecかかります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

VCHLMOD: LCD系定電圧回路重負荷保護モードON/OFFレジスタ (FF03H・D3)

LCD系定電圧回路の重負荷保護機能をON/OFFします。

"1"書き込み: ON
"0"書き込み: OFF
読み出し: 可能

VCHLMODに"1"を書き込むとLCD系定電圧回路が重負荷保護モードとなり、重負荷駆動時などの電源電圧変動による表示品質の劣化を抑えます。OSC3発振時、CPUのシステムクロックとしてOSC3使用時、ブザーやFOUTクロックの出力時などに有効です。ただし、重負荷保護モードでは、通常動作時より消費電流が増加します。したがって、必要などき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

VCCKS0, VCCKS1: VC昇圧周波数選択レジスタ (FF12H・D0, D1)
LCD系定電圧回路への昇圧クロック供給を制御します。

表4.6.6.2 昇圧クロック周波数選択

VCCKS1	VCCKS0	昇圧クロック制御
1	*	禁止
0	1	ON(2kHz)
0	0	OFF

LCD系定電圧回路は昇降圧動作に、クロックマネージャから送られる昇圧クロックを使用します。このクロック供給をこのレジスタによって制御します。LPWRに"1"を書き込む前にVCCKSを"01B"に設定してください。LCDを使用しない場合は消費電力を低減するため、VCCKSを"00B"に設定し、クロック供給を停止してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"00B"に設定されます。

FLCKS0, FLCKS1: フレーム周波数選択レジスタ (FF12H・D2, D3)
クロックマネージャから供給するフレームクロックの周波数を選択します。

表4.6.6.3 フレーム周波数の選択

FLCKS1	FLCKS0	フレーム周波数
1	1	8Hz
1	0	16Hz
0	1	24Hz
0	0	32Hz

(fosc1=32.768Hzの場合)

LDUTY0～LDUTY2で1/24デューティを選択した場合のフレーム周波数については、表4.6.6.5を参照してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"00B"に設定されます。

DSPC0, DSPC1: 表示モード選択レジスタ (FF50H・D0, D1)
表示モードを設定します。

表4.6.6.4 表示モード

DSPC1	DSPC0	表示モード
1	1	全白モード
1	0	全黒モード
0	1	反転モード
0	0	通常モード

通常モードは表示RAMに書き込まれている画像をそのまま出力します。

反転モードは表示RAMに書き込まれている画像を白黒反転して表示します。

全黒モードはLCDをスタティック駆動で全点灯(全体を黒く表示)します(LCDがノーマルホワイトの場合)。

全白モードはLCDをダイナミック駆動で全消灯(全体を白く表示)します(LCDがノーマルホワイトの場合)。

このレジスタの操作によって、表示RAMの内容は変更されません。

イニシャルリセット時、このレジスタは"00B"に設定されます。

LPAGE: 表示メモリ領域選択レジスタ (FF50H・D2)
1/16デューティ駆動時の表示メモリ領域を選択します。

"1"書き込み: F200H～F37FH

"0"書き込み: F000H～F17FH

読み出し: 可能

LPAGEに"1"を書き込むことによりF200H～F37FH(表示メモリの後半)のデータが表示され、"0"の場合は、F000H～F17FH(表示メモリの前半)のデータが表示されます。

LPAGEは1/16デューティ選択時のみ有効で、1/24または1/32デューティ選択時は汎用レジスタとして使用可能です。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

LDUTY0 ~ LDUTY2: LCD駆動デューティ切り換えレジスタ (FF51H・D0 ~ D2)
LCD駆動デューティを選択します。

表4.6.6.5 駆動デューティの設定

LDUTY2	LDUTY1	LDUTY0	デューティ	フレーム周波数				駆動バイアス (マスクオプション)
				FLCKS = 11B	FLCKS = 10B	FLCKS = 01B	FLCKS = 00B	
1	1	1	設定禁止	—	—	—	—	—
1	1	0	設定禁止	—	—	—	—	—
1	0	1	設定禁止	—	—	—	—	—
1	0	0	1/16	8Hz	16Hz	21.333Hz	32Hz	1/4バイアス
0	1	1	1/24	5.333Hz	10.666Hz	14.22Hz	21.333Hz	1/5バイアス
0	1	0	1/24	10.666Hz	21.333Hz	28.44Hz	42.666Hz	1/5バイアス
0	0	1	設定禁止	—	—	—	—	—
0	0	0	1/32	8Hz	16Hz	21.333Hz	32Hz	1/5バイアス

イニシャルリセット時、このレジスタは"000B"に設定されます。

LC3 ~ LC0: LCDコントラスト調整レジスタ (FF52H)
LCDのコントラストを調整します。

表4.6.6.6 LCDのコントラスト調整

No.	LC3	LC2	LC1	LC0	コントラスト
0	0	0	0	0	淡 ↑
1	0	0	0	1	
2	0	0	1	0	
3	0	0	1	1	
4	0	1	0	0	
5	0	1	0	1	
6	0	1	1	0	
7	0	1	1	1	
8	1	0	0	0	
9	1	0	0	1	
10	1	0	1	0	
11	1	0	1	1	
12	1	1	0	0	
13	1	1	0	1	
14	1	1	1	0	
15	1	1	1	1	濃 ↓

この設定によってLCD駆動電圧 $V_{C1} \sim V_{C5}$ が変化します。
イニシャルリセット時、このレジスタは"0000B"に設定されます。

4.6.7 プログラミング上の注意事項

- (1)メモリ非実装領域 F080H ~ F0FFH、F180H ~ F1FFH、F280H ~ F2FFH、F380H ~ F3FFH をアクセスするようなプログラムを作成した場合、正常な動作を保証することはできません。
- (2)LCD系定電圧回路をV_{D2}で動作させる場合、電源電圧昇圧回路をONしてから電圧が安定するまでの約1msecの間は、LCD系定電圧回路の電源電圧をVCSELによってV_{D2}に切り換えないでください。

4.7 計時タイム

4.7.1 計時タイムの構成

S1C6F632はOSC1(水晶発振)を原振とする計時タイムを内蔵しています。計時タイムは f_{OSC1} の分周クロック(256Hz)を入力クロックとする8ビットのバイナリカウンタで構成され、その8ビットデータ(128Hz~16Hzと8Hz~1Hz)をソフトウェアによって読み出すことができます。

図4.7.1.1に計時タイムのブロック図を示します。

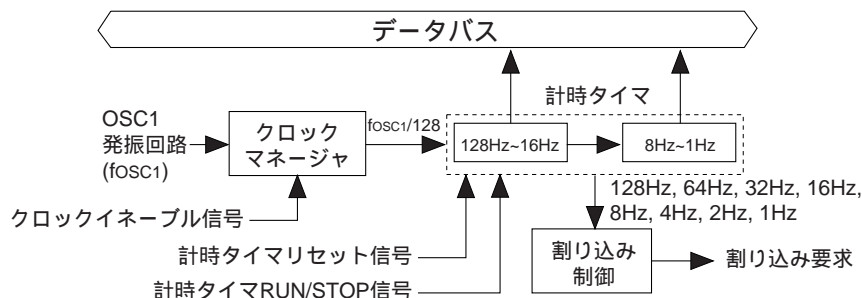


図4.7.1.1 計時タイムのブロック図

通常はこの計時タイムを、時計などのような各種の計時機能に用います。

4.7.2 クロックマネージャの制御

計時タイムの動作クロックはクロックマネージャがOSC1クロックを1/128に分周して生成します。計時タイムを動作させるには、RTCKEレジスタに"1"を書き込んでクロックを計時タイムに供給しておく必要があります。

表4.7.2.1 計時タイムクロックの制御

RTCKE	計時タイムクロック
1	$f_{OSC1} / 128$ (256Hz)
0	Off

計時タイムを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためRTCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

4.7.3 データの読み出しとホールド機能

8ビットのタイムデータはアドレスFF41HとFF42Hに次のように割り付けられています。

<FF41H> D0:TM0=128Hz D1:TM1=64Hz D2:TM2=32Hz D3:TM3=16Hz
 <FF42H> D0:TM4=8Hz D1:TM5=4Hz D2:TM6=2Hz D3:TM7=1Hz

計時タイムのデータは2つのアドレスに割り付けられているため、カウント中に下位データ(TM0~TM3: 128Hz~16Hz)から上位データ(TM4~TM7: 8Hz~1Hz)への桁上げが発生します。下位データと上位データの読み出しの間にこの桁上げが発生すると、2つを合わせた内容が正しい値とはなりません(下位データがFFHと読み出されていて、上位データはその時点から1つカウントアップされた値になってしまいます)。これを避けるために、S1C6F632では下位データを読み出した時点で上位データがラッチされるようになっていきます。ラッチされたデータは、次に下位データを読み出すまで保持されます。

注: 上位データは現在のカウントデータではなくラッチされた値が読み出されます。したがって、必ず下位データを先に読み出してください。

4.7.4 割り込み機能

計時タイマは128Hz、64Hz、32Hz、16Hz、8Hz、4Hz、2Hz、1Hzの各信号の立ち下がりエッジにおいて割り込みを発生させることができます。また、前記の各周波数に対して個別に割り込みをマスクするかしないかを、ソフトウェアで設定することができます。

図4.7.4.1に計時タイマのタイミングチャートを示します。

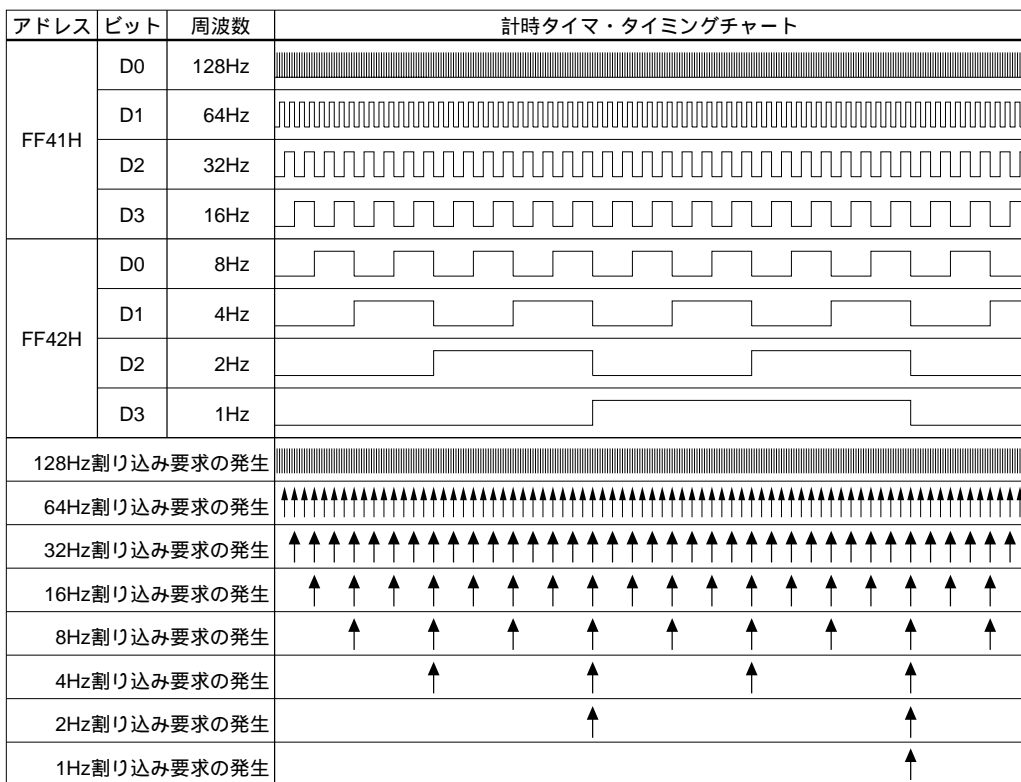


図4.7.4.1 計時タイマのタイミングチャート

図4.7.4.1に示すとおり、割り込みは各周波数(128Hz、64Hz、32Hz、16Hz、8Hz、4Hz、2Hz、1Hz)の信号の立ち下がりエッジによって発生します。また、この時点に対応する割り込み要因フラグ(IT0、IT1、IT2、IT3、IT4、IT5、IT6、IT7)が"1"にセットされます。各割り込みは、割り込みマスクレジスタ(EIT0、EIT1、EIT2、EIT3、EIT4、EIT5、EIT6、EIT7)によって、個別にマスクを選択することができます。ただし、割り込み要因フラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、対応する信号の立ち下がりエッジで"1"にセットされます。

4.7.5 計時タイマのI/Oメモリ

表4.7.5.1に計時タイマの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.7.5.1 計時タイマの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF16H	MDCKE	SGCKE	SWCKE	RTCKE	MDCKE	0	Enable	Disable	乗除算クロックイネーブル
					SGCKE	0	Enable	Disable	サウンドジェネレータクロックイネーブル
	R/W				SWCKE	0	Enable	Disable	ストップウォッチタイマクロックイネーブル
					RTCKE	0	Enable	Disable	計時タイマクロックイネーブル
FF40H	0	0	TMRST	TMRUN	0 *3 0 *3	— *2 — *2			未使用 未使用
	R		W	R/W	TMRST*3	Reset	Reset	Invalid	計時タイマリセット(書き込み時)
			TMRUN	0	Run	Stop	計時タイマRun/Stop		
FF41H	TM3	TM2	TM1	TM0	TM3	0			計時タイマデータ(16Hz)
					TM2	0			計時タイマデータ(32Hz)
	R				TM1	0			計時タイマデータ(64Hz)
					TM0	0			計時タイマデータ(128Hz)
FF42H	TM7	TM6	TM5	TM4	TM7	0			計時タイマデータ(1Hz)
					TM6	0			計時タイマデータ(2Hz)
	R				TM5	0			計時タイマデータ(4Hz)
					TM4	0			計時タイマデータ(8Hz)
FFEEH	EIT3	EIT2	EIT1	EIT0	EIT3	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ16Hz)
					EIT2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ32Hz)
	R/W				EIT1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ64Hz)
					EIT0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ128Hz)
FFEFH	EIT7	EIT6	EIT5	EIT4	EIT7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ1Hz)
					EIT6	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ2Hz)
	R/W				EIT5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ4Hz)
					EIT4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ8Hz)
FFFEH	IT3	IT2	IT1	IT0	IT3	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(計時タイマ16Hz)
					IT2	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(計時タイマ32Hz)
	R/W				IT1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(計時タイマ64Hz)
					IT0	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(計時タイマ128Hz)
FFFFH	IT7	IT6	IT5	IT4	IT7	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(計時タイマ1Hz)
					IT6	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(計時タイマ2Hz)
	R/W				IT5	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(計時タイマ4Hz)
					IT4	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(計時タイマ8Hz)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

RTCKE: 計時タイマクロックイネーブル(FF16H・D0)

計時タイマクロックの供給を制御します。

"1"書き込み: ON

"0"書き込み: OFF

読み出し: 可能

RTCKEに"1"を書き込むことによって、計時タイマの動作クロックがクロックマネージャから供給されます。計時タイマを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためRTCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

TMRUN: 計時タイマRUN/STOP制御レジスタ(FF40H・D0)

計時タイマのRUN/STOPを制御します。

"1"書き込み: RUN
 "0"書き込み: STOP
 読み出し: 可能

計時タイマはTMRUNに"1"を書き込むことによりRUNし、"0"の書き込みによりSTOPします。STOP状態ではリセットか次にRUN状態にするまで、タイマのデータは保持されます。また、STOP状態からRUN状態にすることにより保持していたデータから継続して、カウントを進めることができます。イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

TMRST: 計時タイマリセット(FF40H・D1)

計時タイマをリセットするビットです。

"1"書き込み: 計時タイマリセット
 "0"書き込み: ノーオペレーション
 読み出し: 常時"0"

計時タイマは、TMRSTに"1"を書き込むことによりリセットされます。計時タイマがRUN状態でリセットを行うとリセット直後にリスタートします。また、STOP状態の場合はリセットデータが保持されます。また、"0"の書き込みはノーオペレーションとなります。このビットは書き込み専用のため、読み出し時は常時"0"となります。

TM0 ~ TM7: タイマデータ(FF41H, FF42H)

計時タイマの128Hz ~ 1Hzのタイマデータが読み出せます。この8ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。

下位データ FF41H を読み出すことにより、その時点の上位データ FF42H がラッチされます。上位データは現在のカウントデータではなくラッチされた値が読み出されます。したがって、必ず下位データを先に読み出してください。

イニシャルリセット時、タイマデータは"00H"に初期化されます。

EIT0: 128Hz割り込みマスクレジスタ(FFEEH・D0)

EIT1: 64Hz割り込みマスクレジスタ(FFEEH・D1)

EIT2: 32Hz割り込みマスクレジスタ(FFEEH・D2)

EIT3: 16Hz割り込みマスクレジスタ(FFEEH・D3)

EIT4: 8Hz割り込みマスクレジスタ(FFEFH・D0)

EIT5: 4Hz割り込みマスクレジスタ(FFEFH・D1)

EIT6: 2Hz割り込みマスクレジスタ(FFEFH・D2)

EIT7: 1Hz割り込みマスクレジスタ(FFEFH・D3)

計時タイマの割り込みについて、マスクするかしないかを選択します。

"1"書き込み: イネーブル
 "0"書き込み: マスク
 読み出し: 可能

各周波数(128Hz、64Hz、32Hz、16Hz、8Hz、4Hz、2Hz、1Hz)に対して、割り込みをマスクするかしないかを、割り込みマスクレジスタEIT0(128Hz) EIT1(64Hz) EIT2(32Hz) EIT3(16Hz) EIT4(8Hz) EIT5(4Hz) EIT6(2Hz) EIT7(1Hz)により個別に選択できます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタはすべて"0"に設定されます。

IT0: 128Hz割り込み要因フラグ (FFFEH・D0)
 IT1: 64Hz割り込み要因フラグ (FFFEH・D1)
 IT2: 32Hz割り込み要因フラグ (FFFEH・D2)
 IT3: 16Hz割り込み要因フラグ (FFFEH・D3)
 IT4: 8Hz割り込み要因フラグ (FFFFH・D0)
 IT5: 4Hz割り込み要因フラグ (FFFFH・D1)
 IT6: 2Hz割り込み要因フラグ (FFFFH・D2)
 IT7: 1Hz割り込み要因フラグ (FFFFH・D3)
 計時タイマ割り込みの発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: 割り込み有
 "0"読み出し: 割り込み無
 "1"書き込み: 要因フラグをリセット
 "0"書き込み: 無効

割り込み要因フラグIT0、IT1、IT2、IT3、IT4、IT5、IT6、IT7は、それぞれ128Hz、64Hz、32Hz、16Hz、8Hz、4Hz、2Hz、1Hzの計時タイマ割り込みに対応します。これらのフラグによって計時タイマ割り込みの有無を、ソフトウェアで判断することができます。ただし、これらのフラグは割り込みをマスクしていても、対応する信号の立ち下がりエッジで"1"にセットされます。

これらのフラグは、"1"を書き込むことによって"0"にリセットされます。

割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

イニシャルリセット時、これらのフラグは"0"に設定されます。

4.7.6 プログラミング上の注意事項

- (1) データの読み出しは必ず下位データ(TM0 ~ TM3)から先に行ってください。
- (2) 計時タイマのカウントクロックとCPUのクロックは非同期に動作しているため、カウントデータの読み出しとカウントアップ動作のタイミングによっては、正しい値が得られない可能性があります。これを防ぐには、以下に示すいずれかの方法で計時タイマのカウントデータを読み出してください。
 - ・ カウントデータを2度続けて読み出して、データが正しいことを(2つが大きくずれていないことを)確認してください。
 - ・ 正確なカウントデータが必要な場合には、計時タイマを一旦停止させてから読み出してください。
- (3) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。
- (4) 計時タイマをリセット(TMRST="1")する際は、計時タイマを同時にRUN状態(TMRUN="1")に設定しないでください。同時に設定するとリセットできない場合があります。

4.8 ストップウォッチタイム

4.8.1 ストップウォッチタイムの構成

S1C6F632は、1/1,000sec単位のストップウォッチタイムを内蔵しています。ストップウォッチタイムはプリスケラより出力される1,000Hz信号を入力クロックとする4ビット3段のBCDカウンタで構成され、ソフトウェアにより1/1,000sec、1/100sec、1/10secの各4ビット単位でデータを読み出すことができます。また、入力ポートP10およびP11を使用して、キー入力によってストップウォッチタイムのRUN/STOPおよびLAPを制御するダイレクト入力機能も持っています。

図4.8.1.1にストップウォッチタイムのブロック図を示します。

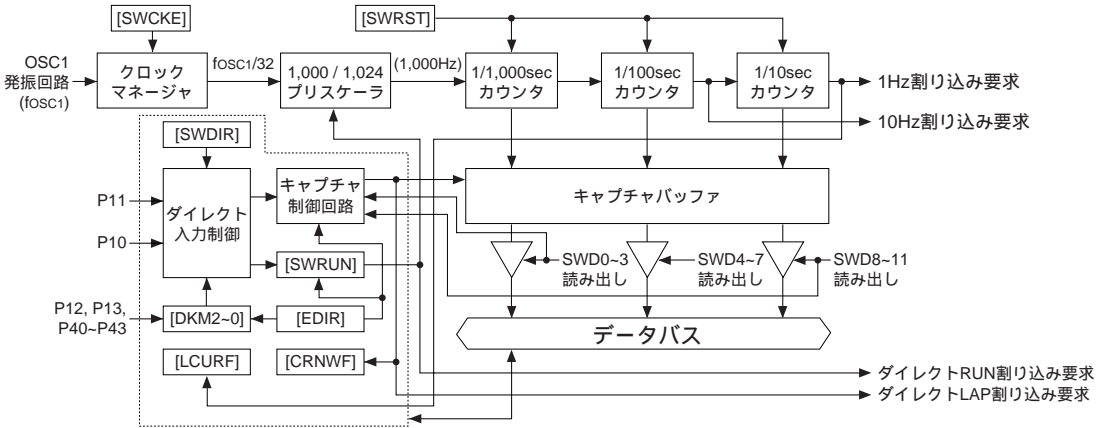


図4.8.1.1 ストップウォッチタイムのブロック図

ストップウォッチタイムは計時タイムとは別のタイムとして使用でき、特にデジタルウォッチのストップウォッチ機能などをソフトウェアで容易に実現することができます。

4.8.2 クロックマネージャの制御

ストップウォッチタイムの動作クロックはクロックマネージャがOSC1クロックを1/32に分周して生成します。計時タイムを動作させるには、SWCKEレジスタに"1"を書き込んでクロックをストップウォッチタイムに供給しておく必要があります。

表4.8.2.1 ストップウォッチタイムクロックの制御

SWCKE	ストップウォッチタイムクロック
1	fosc1 / 32 (1kHz)
0	Off

ストップウォッチタイムを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためSWCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

4.8.3 カウンタとプリスケアラ

ストップウォッチタイマは、それぞれ4ビットのBCDカウンタSWD0～3、SWD4～7およびSWD8～11で構成されています。

ストップウォッチタイマ前段のカウンタSWD0～3は、プリスケアラより出力される1,000Hz信号を入力クロックとして1/1,000secごとのカウントアップを行い、100Hz信号を発生します。中段のカウンタSWD4～7はSWD0～3が出力する100Hz信号をクロックとして1/100secごとのカウントアップを行い、10Hz信号を出力します。同様に、後段のカウンタSWD8～11は1/10secごとのカウントアップを行って1Hz信号を発生します。プリスケアラはOSC1発振回路の出力を分周した1,024Hzのクロックを入力し、1,000HzのSWD0～3カウンタクロックを出力します。1,024Hzから1,000Hzのクロックを作成するため、1秒間にプリスケアラに入力される1,024個のパルスから24個のパルスを抜き取るという方法をとっています。

カウンタが以下に示す値となった場合、その直後にプリスケアラに入力される1,024Hzのパルスが1個抜き取られます。

パルス補正が行われるカウンタ値(msec)

39, 79, 139, 179, 219, 259, 299, 319, 359, 399, 439, 479,
539, 579, 619, 659, 699, 719, 759, 799, 839, 879, 939, 979

図4.8.3.1にプリスケアラの動作を示します。

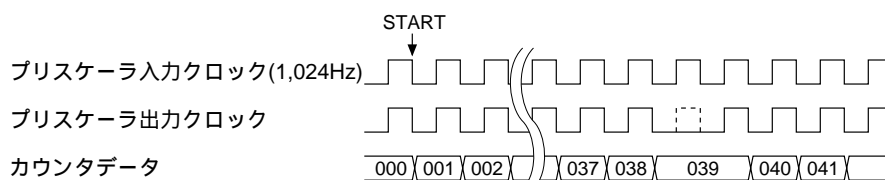


図4.8.3.1 プリスケアラの動作タイミング

上記の理由により、パルス補正時以外のカウントクロックは1,024Hz(0.9765625msec)となります。したがって、プリスケアラの出力クロック(1,000Hz) およびカウンタSWD0～3、SWD4～7が発生する100Hz、10Hz信号の周波数は近似値となります。

4.8.4 キャプチャバッファとホールド機能

ストップウォッチタイマの1/1,000secデータ、1/100secデータ、1/10secデータは、それぞれSWD0～3(FF4BH)、SWD4～7(FF4CH)、SWD8～11(FF4DH)から読み出すことができます。読み出しの際は各カウンタのデータがキャプチャバッファにラッチされ、3ワードの読み出しが終了するまでデータがホールドされます。これによって、3ワードの読み出しの途中で下位桁からの桁上げが発生した場合でも正しいデータを読み出すことができます。なお、キャプチャバッファへはSWD0～3(1/1,000sec)の読み出しを行った時点で3個のカウンタのデータが同時にラッチされ、SWD8～11(1/10sec)の読み出しが終了した時点でデータのホールドが解除されるようになっています。したがって、データの読み出しはSWD0～3 SWD4～7 SWD8～11の順に行ってください。データがホールドされていない状態でSWD4～7あるいはSWD8～11を先に読み出した場合は、ホールド機能が働かずカウンタのデータが直接読み出されます。ストップウォッチタイマがRUN状態でホールドされていないデータを読み出した場合、正しいデータかどうかを判断することができません。

ストップウォッチタイマには外部キー入力によるLAR(ラップ)機能があります(後述)。キャプチャバッファは、このLAR(ラップ)データをホールドするためにも使用されます。この場合も、SWD8～11が読み出されるまでデータがホールドされます。ただし、ホールドされているデータの読み出しを終了する前にLAR入力が行われた場合はその時点でキャプチャバッファの内容が更新されてしまいます。読み残していたデータは更新されて無効となりますので、SWD8～11を読み出してもホールド状態は解除されません。キャプチャバッファが更新されている状態でSWD8～11を読み出すと、その時点でキャプチャ更新フラグCRNWFが"1"にセットされますので、この場合は再度SWD0～3からの読み出しを行う必要があります。キャプチャ更新フラグはSWD8～11の読み出しごとに更新されます。

図4.8.4.1にデータのホールドと読み出しのタイミングを示します。

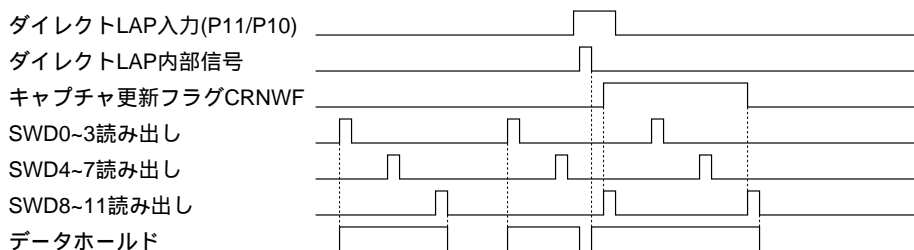


図4.8.4.1 データのホールドと読み出し

4.8.5 ストップウォッチタイムのRUN/STOPおよびリセット

ストップウォッチタイムはソフトウェアによってRUN/STOPの制御、およびリセットが行えます。

(1) ストップウォッチタイムのRUN/STOP

ストップウォッチタイムはレジスタSWRUNに"1"を書き込むことによってRUN、"0"の書き込みでSTOPします。ストップウォッチタイムをRUNさせると、その時点のカウンタの内容から継続してカウントアップを行います。STOPさせた場合は、その後もその時点のカウンタの内容を保持します。

レジスタSWRUNの書き込みによるストップウォッチタイムのRUN/STOPの動作は、プリスケアラの入力クロックと同じ1,024Hzの立ち下がりがエッジに同期して行われます。

なおSWRUNは読み出しも可能で、その場合はストップウォッチタイムの動作状態を示します。

図4.8.5.1にSWRUNレジスタ制御時の動作タイミングを示します。

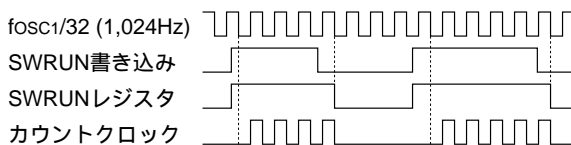


図4.8.5.1 SWRUNレジスタ制御時の動作タイミング

次項で説明するダイレクト入力機能を設定した場合は、RUN/STOPの制御を外部キー入力によって行います。その場合は、SWRUNがストップウォッチタイムの動作状態を示す読み出し専用のレジスタとなります。

(2) ストップウォッチタイムのリセット

ストップウォッチタイムはレジスタSWRSTに"1"を書き込むことによってリセットされ、カウンタは"000"にクリアされます。このリセットはキャプチャバッファに影響を与えませんので、ホールド状態のキャプチャバッファのデータはクリアされずにそのまま保持されます。なお、ストップウォッチタイムがRUN状態でリセットすると、カウンタが"000"の状態からカウント動作を継続します。STOP状態でリセットした場合は、次にRUNするまでカウンタは"000"を保持します。

4.8.6 ダイレクト入力機能とキーマスク

ストップウォッチタイマにはダイレクト入力機能があり、外部キー入力によってストップウォッチタイマのRUN/STOPおよびLAPを制御することができます。この機能はレジスタEDIRに"1"を書き込むことによって設定します。EDIRが"0"の場合は前項で説明したソフトウェア制御のみとなります。

(1) 入力ポートの選択

ダイレクト入力機能を使用する場合、入力ポートP10とP11をRUN、STOPおよびLAPキー入力に使用します。この割り当てはSWDIRレジスタで次のように選択できます。

表4.8.6.1 RUN/STOPとLAPキー入力ポート

SWDIR	P10	P11
0	RUN/STOP	LAP
1	LAP	RUN/STOP

(2) ダイレクトRUN

ダイレクト入力機能を設定した場合は、入力ポートP10/P11(SWDIRで選択)に接続したキーの入力によってストップウォッチタイマのRUN/STOPを制御することができます。P10/P11は通常の入力ポートとして働き、入力信号がストップウォッチの制御回路に送られます。

P10/P11キー入力はトグル動作となり、ストップウォッチタイマがSTOP状態で入力されるとRUN、RUN状態で入力されるとSTOPします。ストップウォッチタイマのRUN/STOPの状態はレジスタSWRUNを読み出すことで確認できます。また、このダイレクトRUN入力により割り込みが発生します。

キー入力信号はSWRUNレジスタ制御のときと同様に1,024Hz信号の立ち下がりエッジでサンプリングされます。チャタリング判定はキーOFF時に行われ、46.8msec ~ 62.5msec以下のチャタリングが除去されます。したがって、RUNとSTOPそれぞれのキー入力の間隔はこの時間以上が必要です。

図4.8.6.1にダイレクトRUN入力時の動作タイミングを示します。

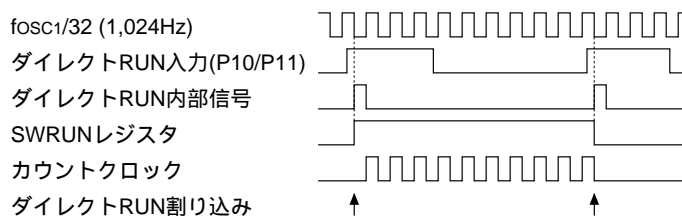


図4.8.6.1 ダイレクトRUN入力時の動作タイミング

(3) ダイレクトLAP

ダイレクトRUNと同様にLAPの制御もキー入力によって行えます。ダイレクト入力機能を設定すると、入力ポートP11/P10(SWDIRで選択)がLAPキーの入力ポートとなります。入力信号のサンプリングおよびチャタリング判定はダイレクトRUNの場合と同様です。

LAP入力が行われると、その時点のカウントデータがキャプチャバッファにラッチされ、データをホールドします。カウンタはカウント動作を継続します。また、このダイレクトLAP入力により割り込みが発生します。

前述したように、データはSWD8 ~ 11が読み出されるまでホールドされます。すでにデータがホールドされている状態でLAPの入力が行われた場合は、キャプチャバッファの内容が更新されてしまい、その後SWD8 ~ 11の読み出しを行った際にキャプチャ更新フラグCRNWFが"1"にセットされます。この場合は、SWD8 ~ 11の読み出しによってホールド状態は解除されずに、さらにホールド状態を継続します。LAPデータは、割り込み発生後に読み出しを行います。そのあとには必ずキャプチャ更新フラグを確認してください。キャプチャ更新フラグがセットされている場合は、更新されたデータがキャプチャバッファにホールドされていますので再度読み出しを行ってください。

また、SWD8 ~ 11のオーバーフローによって1sec桁への桁上げが必要になった場合、ストップウォッチタイマは1Hz割り込み要因フラグISW1を"1"にセットします。

この1Hz割り込み要因フラグISW1が"1"にセットされている間に、キャプチャバッファがホールド状態(SWD0～3読み出し時またはLAP入力時)になるとラップデータ桁上げ要求フラグが"1"にセットされ、LAP入力などの処理において1秒桁への桁上げが必要であることを示します。これは、ソフトウェアによる通常の処理方法として、1Hz割り込みによる1sec桁以上の処理よりLAPの処理が優先されると考えられますので、LAP処理による時間表示において1秒桁のデータが1秒だけ少なくなることを防ぐために必要となります。したがって、LAP処理前にラップデータ桁上げ要求フラグを確認してください。このフラグはキャプチャバッファがホールド状態になるごとに更新されます。

図4.8.6.2にダイレクトLAP入力時の動作タイミングを示します。

図4.8.6.3にダイレクトLAP入力時のデータホールドと読み出しのタイミングを示します。

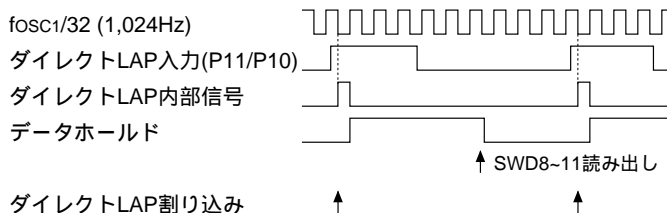


図4.8.6.2 ダイレクトLAP入力時の動作タイミング

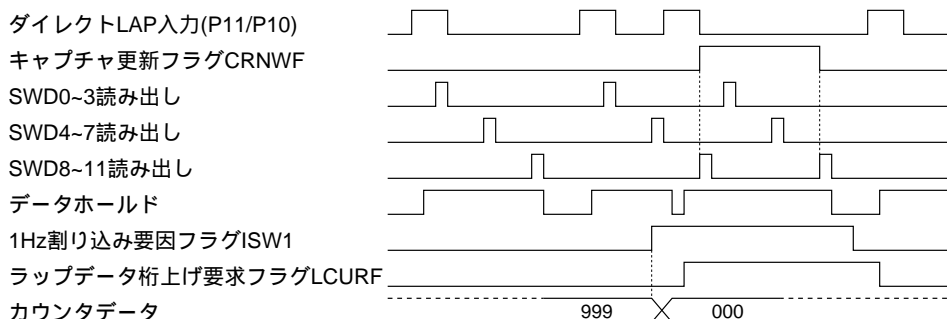


図4.8.6.3 ダイレクトLAP入力時のデータホールドと読み出し

(4) キーマスク

ストップウォッチのアプリケーションにおいて、ダイレクトRUNまたはダイレクトLAPを含むキーの組み合わせによって機能を制御する場合があります。たとえば、あるキーが押されている状態でRUNキーが入力された場合に、RUNキーをリセットや時計合わせ等の他の目的に使用するような場合です。このときにはダイレクトRUN、あるいはダイレクトLAPの機能を無効としてストップウォッチがその動作を行わないようにする必要があります。このために、キー入力の競合判定を行い、RUNおよびLAPを無効とするキーマスク機能が設けられています。この競合判定を行うキー入力の組み合わせをレジスタDKM0～2によって選択することができます。

表4.8.6.2 キーマスク選択

DKM2	DKM1	DKM0	競合判定組み合わせ
0	0	0	なし(リセット時)
0	0	1	P12
0	1	0	P12, P13
0	1	1	P12, P13, P40
1	0	0	P40
1	0	1	P40, P41
1	1	0	P40, P41, P42
1	1	1	P40, P41, P42, P43

RUNまたはLAP入力は以下の場合に無効となります。

1. 選択した組み合わせに含まれる1つ以上のキー(以下、マスクと記述)が入力されている状態でRUNまたはLAPが入力された場合
2. マスクが解除された時点でRUNまたはLAPが入力されている場合

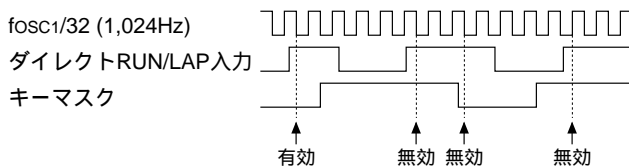


図4.8.6.4 キーマスクの動作

RUN、LAP入力が有効となるのは以下の場合です。

1. RUNまたはLAPのどちらか一方が単独で無入力状態から入力された場合
 2. RUNおよびLAPの両方が同時に無入力状態から入力された場合(RUN、LAP共に有効)
 3. RUNまたはLAPのどちらか一方が入力されている状態でもう一方が入力された場合(RUN、LAP共に有効)
 4. RUNまたはLAPのどちらか一方とマスクが同時に無入力状態から入力された場合
 5. RUNおよびLAPの両方とマスクが同時に無入力状態から入力された場合(RUN、LAP共に有効)
- * キーの同時入力とはキー入力のサンプリングが1,024Hzクロックの同じ立ち下がりエッジで行われたことをいいます。

4.8.7 割り込み機能

(1) 10Hz、1Hz割り込み

ストップウォッチタイマSWD4～7とSWD8～11はそれぞれのオーバーフローにより、10Hzと1Hzの割り込みを発生させることができます。また、それぞれの周波数に対して、個別に割り込みのマスクをするかしないかをソフトウェアで設定することができます。

図4.8.7.1にカウンタのタイミングチャートを示します。

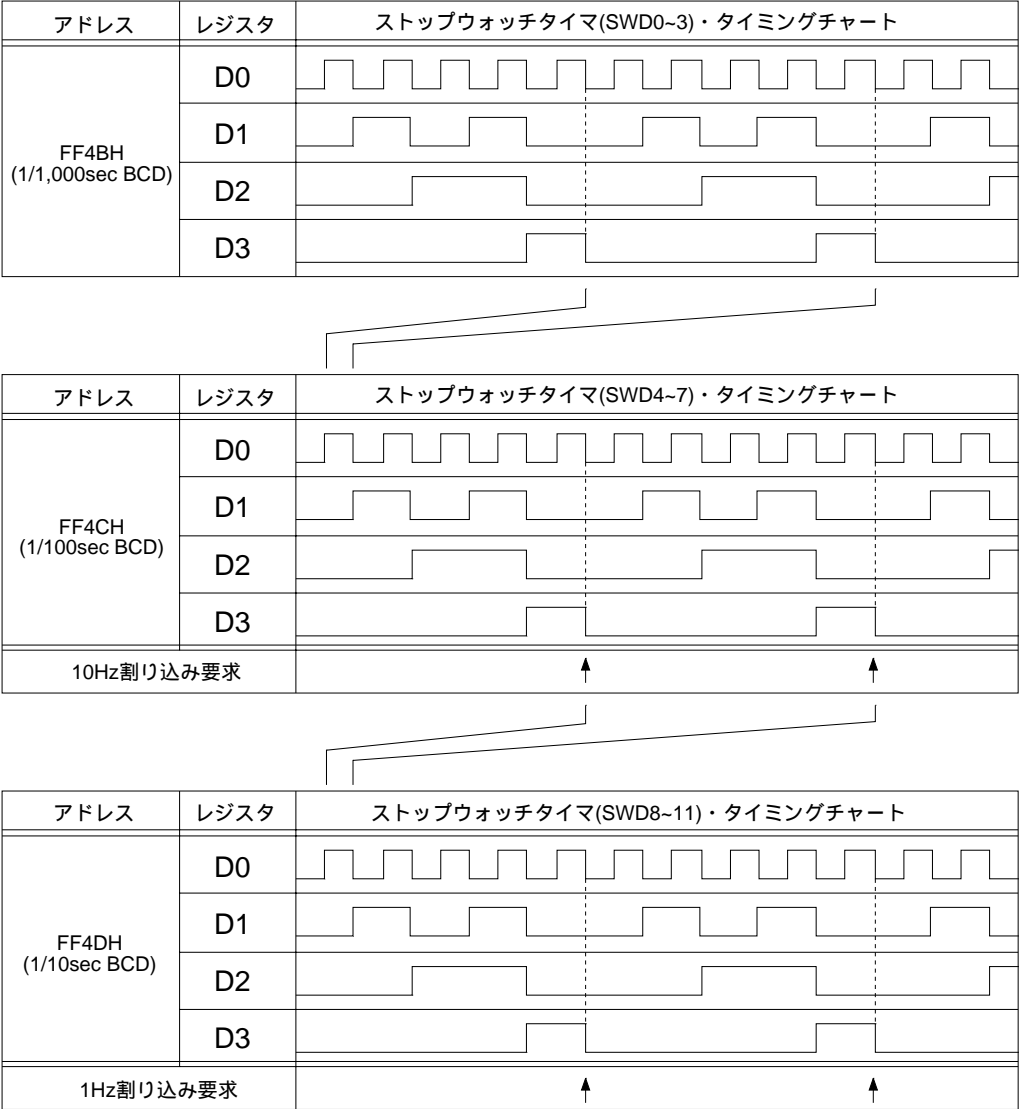


図4.8.7.1 カウンタのタイミングチャート

図4.8.7.1に示すとおり、割り込みはそれぞれのカウンタのオーバーフロー("9"から"0"への変化)によって発生します。また、この時点に対応する割り込み要因フラグ(ISW10、ISW1)が"1"にセットされます。それぞれの割り込みは、割り込みマスクレジスタ(EISW10、EISW1)によって、個別にマスクを選択することができます。ただし、割り込み要因フラグ(ISW10、ISW1)は割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、対応するカウンタのオーバーフローで"1"にセットされます。

(2) ダイレクトRUN、ダイレクトLAP割り込み

ダイレクト入力機能を設定している場合は、ダイレクトRUNおよびダイレクトLAPの入力により割り込みを発生させることができます。それぞれの割り込みは、ダイレクト信号を1,024Hz信号の立ち下がりでサンプリングした後のダイレクトRUN、ダイレクトLAPの各内部信号の立ち上がりエッジで発生し、その時点で割り込み要因フラグ(IRUN、ILAP)が"1"にセットされます。この割り込み要因もそれぞれに対応する割り込みマスクレジスタ(EIRUN、EILAP)によってマスクすることができます。ただし、割り込み要因フラグ(IRUN、ILAP)は割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、RUN、LAPの入力によって"1"にセットされます。

ダイレクトRUNとダイレクトLAPはP10ポートとP11ポートを使用します。このため、入出力兼用ポートP10～P13の割り込み条件の設定によっては、ダイレクト入力割り込みとP10～P13入力割り込みが同時に発生することがあります。したがって、ダイレクト入力割り込みを使用する場合は、P10およびP11入力によって入力割り込みが発生しないように割り込み選択レジスタSIP10およびSIP11を"0"に設定してください。

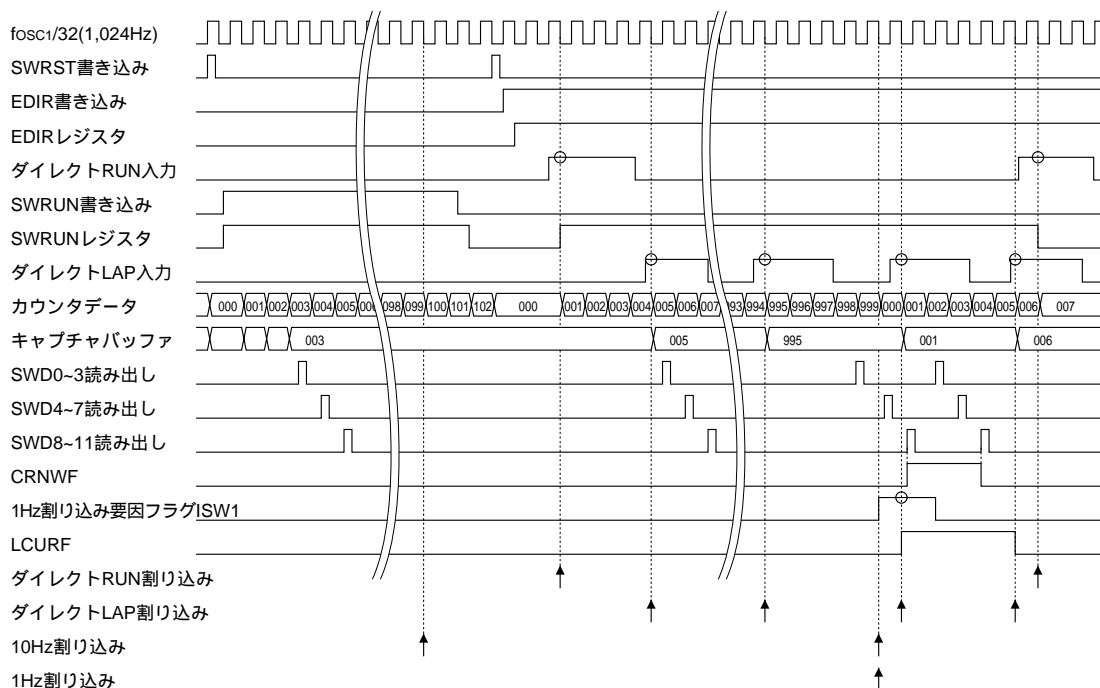


図4.8.7.2 ストップウォッチタイマのタイミングチャート

4.8.8 ストップウォッチタイムのI/Oメモリ

表4.8.8.1にストップウォッチタイムの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.8.8.1 ストップウォッチタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈						
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0			
FF16H	MDCKE	SGCKE	SWCKE	RTCKE	MDCKE	0	Enable	Disable	乗除算クロックイネーブル		
					SGCKE	0	Enable	Disable	サウンドジェネレータクロックイネーブル		
	R/W				SWCKE	0	Enable	Disable	ストップウォッチタイムクロックイネーブル		
					RTCKE	0	Enable	Disable	計時タイムクロックイネーブル		
FF48H	0	0	SWDIR	EDIR	0 *3	- *2			未使用		
					0 *3				- *2	未使用	
	R		R/W		SWDIR	0			ストップウォッチダイレクト入力切り換え 0: P10=Run/Stop, P11=Lap 1: P10=Lap, P11=Run/Stop		
					EDIR	0	Enable	Disable	ダイレクト入力イネーブル		
FF49H	0	DKM2	DKM1	DKM0	0 *3	- *2			未使用		
					DKM2				0		
	R		R/W		DKM1	0			キーマスク キーマスク なし P12 P12-13 P12-13,40		
					DKM0	0			選択 [DKM2-0] 4 5 6 7 キーマスク P40 P40~41 P40~42 P40~43		
FF4AH	LCURF	CRNWF	SWRUN	SWRST	LCURF	0	Request	No	ラップデータ桁上げ要求フラグ		
					CRNWF	0	Renewal	No	キャプチャ更新フラグ		
	R		R/W		W		SWRUN	0	Run	Stop	ストップウォッチタイムRun/Stop
							SWRST *3	Reset	Reset	Invalid	ストップウォッチタイムリセット(書き込み時)
FF4BH	SWD3	SWD2	SWD1	SWD0	SWD3	0			ストップウォッチタイムデータ BCD(1/1000sec)		
					SWD2	0					
	R				SWD1	0					
					SWD0	0					
FF4CH	SWD7	SWD6	SWD5	SWD4	SWD7	0			ストップウォッチタイムデータ BCD(1/100sec)		
					SWD6	0					
	R				SWD5	0					
					SWD4	0					
FF4DH	SWD11	SWD10	SWD9	SWD8	SWD11	0			ストップウォッチタイムデータ BCD(1/10sec)		
					SWD10	0					
	R				SWD9	0					
					SWD8	0					
FFEDH	EIRUN	EILAP	EISW1	EISW10	EIRUN	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(SWダイレクトRUN)		
					EILAP	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(SWダイレクトLAP)		
	R/W				EISW1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(ストップウォッチタイム1Hz)		
					EISW10	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(ストップウォッチタイム10Hz)		
FFFDH	IRUN	ILAP	ISW1	ISW10	IRUN	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(SWダイレクトRUN)		
					ILAP	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(SWダイレクトLAP)		
	R/W				ISW1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(ストップウォッチタイム1Hz)		
					ISW10	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(ストップウォッチタイム10Hz)		

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

SWCKE: ストップウォッチタイムクロックイネーブル(FF16H・D1)
ストップウォッチタイムクロックの供給を制御します。

"1"書き込み: ON

"0"書き込み: OFF

読み出し: 可能

SWCKEに"1"を書き込むことによって、ストップウォッチタイムの動作クロックがクロックマネージャから供給されます。ストップウォッチタイムを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためSWCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

EDIR: ダイレクト入力機能イネーブルレジスタ(FF48H・D0)

ダイレクト入力(RUN/LAP)機能を有効/無効に設定します。

"1"書き込み: 有効
 "0"書き込み: 無効
 読み出し: 可能

EDIRに"1"を書き込むことによりダイレクト入力機能が有効となり、外部キー入力によるRUN/STOP、LAPの制御が行えます。"0"を書き込んだ場合はダイレクト入力機能が無効となり、ストップウォッチタイマはソフトウェア制御となります。

なお、このレジスタにデータを書き込み後、実際の機能の切り換えは $f_{osc1}/32$ (1,024Hz) の立ち下がりエッジに同期して(最大977 μ sec後に)行われます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SWDIR: ダイレクト入力切り換えレジスタ(FF48H・D1)

P10ポート、P11ポートのダイレクト入力割り付けを切り換えます。

"1"書き込み: P10 = LAP, P11 = RUN/STOP
 "0"書き込み: P10 = RUN/STOP, P11 = LAP
 読み出し: 可能

ダイレクト入力用のキー割り付けを行います。EDIRに"1"を書き込むことによりP10、P11ポートの入力がRUN、STOP、LAP入力としてストップウォッチに取り込まれます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

DKM0 ~ DKM2: キーマスク選択(FF49H・D0 ~ D2)

ダイレクト入力機能設定時にRUN、LAP入力との競合判定を行うキー入力の組み合わせを選択します。

表4.8.8.2 キーマスク選択

DKM2	DKM1	DKM0	競合判定組み合わせ
0	0	0	なし(リセット時)
0	0	1	P12
0	1	0	P12, P13
0	1	1	P12, P13, P40
1	0	0	P40
1	0	1	P40, P41
1	1	0	P40, P41, P42
1	1	1	P40, P41, P42, P43

競合を検出した場合は、競合が解除されるまでRUN、LAP入力は受け付けられなくなります。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

SWRST: ストップウォッチタイマリセット(FF4AH・D0)

ストップウォッチタイマをリセットします。

"1"書き込み: ストップウォッチタイマリセット
 "0"書き込み: ノーオペレーション
 読み出し: 常時"0"

ストップウォッチタイマはSWRSTに"1"を書き込むことによりリセットされます。ストップウォッチタイマがRUN状態でリセットを行うとリセット直後にリスタートします。また、STOP状態の場合はリセットデータがカウンタに保持されます。

このリセットはキャプチャバッファに影響を与えないので、ホールド状態のキャプチャバッファのデータはクリアされずにそのまま保持されます。

このビットは書き込み専用のため、読み出し時は常時"0"となります。

SWRUN: ストップウォッチタイマRUN/STOP (FF4AH・D1)

ストップウォッチタイマのRUN/STOPの制御、および動作状態のモニタが行えます。

• 書き込み時

"1"書き込み: RUN

"0"書き込み: STOP

ストップウォッチタイマはSWRUNに"1"を書き込むことによりRUNし、"0"の書き込みによりSTOPします。STOP状態ではリセットか次にRUN状態にするまで、タイマのデータは保持されます。また、STOP状態からRUN状態にすることにより保持していたデータから継続して、カウントを進めることができます。このレジスタへの書き込みによるRUN/STOPの制御は、ダイレクト入力機能をディセーブルに設定してある場合にのみ有効で、ダイレクト入力機能設定時は無効となります。

• 読み出し時

"1"読み出し: RUN

"0"読み出し: STOP

読み出しはダイレクト入力機能の設定にかかわらず有効で、ストップウォッチタイマがRUN状態の場合に"1"、STOP状態で"0"となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

CRNWF: キャプチャ更新フラグ (FF4AH・D2)

キャプチャバッファの内容が更新されたことを示すフラグです。

"1"読み出し: 更新あり

"0"読み出し: 更新なし

書き込み: 無効

キャプチャバッファにホールドされたデータの読み出しが終了していない場合にLAP入力があると、キャプチャバッファの内容が更新されます。その状態でSWD8～11を読み出すとこのフラグが"1"にセットされ、さらにホールド状態が継続されます。したがって、LAP入力によってホールドされたデータを読み出した場合は、SWD8～11の読み出しの後にこのフラグの読み出しを行ってデータが更新されていないか確認してください。

このフラグはSWD8～11の読み出し時に更新されます。

イニシャルリセット時、このフラグは"0"に設定されます。

LCURF: ラップデータ桁上げ要求フラグ (FF4AH・D3)

データホールド時に発生している1sec桁への桁上げを示すフラグです。ダイレクト入力モード以外では無効です。

"1"読み出し: 桁上げ要

"0"読み出し: 桁上げ不要

書き込み: 無効

割り込み要因フラグISW1が"1"にセットされている間に、キャプチャバッファがホールド状態になるとLCURFが"1"にセットされ、ホールドされたデータが1sec桁への桁上げを必要としていることを示します。したがって、1Hzの割り込み処理よりもLAP入力などの処理を優先する場合には、処理前にこのフラグの読み出しを行って桁上げが必要か確認してください。

このフラグはキャプチャバッファがホールド状態になるごとに更新(セット/リセット)されます。

イニシャルリセット時、このフラグは"0"に設定されます。

SWD0～SWD3: ストップウォッチタイマデータ1/1,000sec (FF4BH)

キャプチャバッファ1/1,000sec桁のデータ(BCD)が読み出せます。

このデータを読み出すことにより、キャプチャバッファのホールド機能が働きます。

この4ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。

イニシャルリセット時、タイマデータは"0"に設定されます。

SWD4 ~ SWD7: ストップウォッチタイマデータ1/100sec(FF4CH)
キャプチャバッファ1/100sec桁のデータ(BCD)が読み出せます。
この4ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。
イニシャルリセット時、タイマデータは"0"に設定されます。

SWD8 ~ SWD11: ストップウォッチタイマデータ1/10sec(FF4DH)
キャプチャバッファ1/10sec桁のデータ(BCD)が読み出せます。
この4ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。
イニシャルリセット時、タイマデータは"0"に設定されます。

注: データの読み出しは必ず下位データ(SWD0 ~ 3)から先に行ってください。

EIRUN, EILAP, EISW1, EISW10: 割り込みマスクレジスタ(FFEDH)
ストップウォッチタイマの割り込みについて、マスクするかしないかを選択します。

"1"書き込み: イネーブル
"0"書き込み: マスク
読み出し: 可能

EIRUN、EILAP、EISW1、EISW10はそれぞれダイレクトRUN、ダイレクトLAP、1Hz、10Hzの割り込みに対応した割り込みマスクレジスタで、これらの割り込みをマスクするかしないかを個別に選択できます。
イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

IRUN, ILAP, ISW1, ISW10: 割り込み要因フラグ(FFFDH)
ストップウォッチタイマ割り込みの発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: 割り込み有
"0"読み出し: 割り込み無
"1"書き込み: 要因フラグをリセット
"0"書き込み: 無効

割り込み要因フラグIRUN、ILAP、ISW1、ISW10はそれぞれダイレクトRUN、ダイレクトLAP、1Hz、10Hzの割り込みに対応します。これらのフラグによってストップウォッチタイマ割り込みの有無を、ソフトウェアにより判断することができます。これらのフラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、対応する割り込み要因の発生により"1"にセットされます。

これらのフラグは、"1"を書き込むことによって"0"にリセットされます。

割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

イニシャルリセット時、これらのフラグは"0"に設定されます。

4.8.9 プログラミング上の注意事項

- (1) ストップウォッチタイムのリセット後、割り込み要因フラグをリセットしてください。
- (2) データの読み出しは必ずSWD0～3 → SWD4～7 → SWD8～11の順に行ってください。
- (3) LAP入力によってホールドされたデータを読み出した場合は、SWD8～11の読み出しの後にキャプチャ更新フラグCRNWFの読み出しを行ってデータが更新されていないか確認してください。
- (4) 1Hzの割り込み処理よりLAP入力などの処理を優先する場合には、処理前にラップデータ桁上げ要求フラグLCURFの読み出しを行って桁上げが必要か確認してください。
- (5) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

4.9 プログラマブルタイム

4.9.1 プログラマブルタイムの構成

S1C6F632は8ビット×2チャンネルのプログラマブルタイムを4系統(Ch.A ~ Ch.D)内蔵しています。各系統ごとに、8ビットタイム×2チャンネルまたは16ビットタイム×1チャンネルの構成にソフトウェアで設定可能です。

Ch.A: タイマ0とタイマ1(8ビット×2チャンネル) または タイマ0+タイマ1(16ビット×1チャンネル)

Ch.B: タイマ2とタイマ3(8ビット×2チャンネル) または タイマ2+タイマ3(16ビット×1チャンネル)

Ch.C: タイマ4とタイマ5(8ビット×2チャンネル) または タイマ4+タイマ5(16ビット×1チャンネル)

Ch.D: タイマ6とタイマ7(8ビット×2チャンネル) または タイマ6+タイマ7(16ビット×1チャンネル)

図4.9.1.1 ~ 4.9.1.4にプログラマブルタイムの構成を示します。

各タイムには、8ビットのダウンカウンタと、リロードデータレジスタが設けられています。ダウンカウンタはソフトウェアで選択した周波数の内部クロックでカウントダウンを行います。また、タイマ0、タイマ2、タイマ4、タイマ6は、P12、P41、P42、P43ポート端子から入力したクロックのカウントを行うイベントカウンタ機能も合わせ持っています。指定クロックのカウントによりアンダーフローが発生すると、アンダーフロー信号および割り込み信号を出力し、カウンタ初期値のプリセットを行います。リロードデータレジスタはダウンカウンタの初期値を設定するレジスタです。

タイマ1のアンダーフロー信号は、R/Fコンバータ、シリアルインタフェースのクロック源として使用できるため、R/Fコンバータのカウントクロックやシリアルデータ転送レートをプログラマブルに設定可能です。

各タイムには8ビットのコンペアデータレジスタも設けられています。このレジスタはダウンカウンタの内容と比較するためのデータを格納するレジスタです。タイムをPWMモードに設定すると、ダウンカウンタとコンペアデータレジスタの内容が一致した時点でコンペアマッチ信号が出力され、割り込みも発生します。アンダーフロー信号とコンペアマッチ信号からPWM波形を生成することができます。

プログラマブルタイムで生成した信号は、P13、P31、P32、P33ポート端子から外部に出力させることができます。

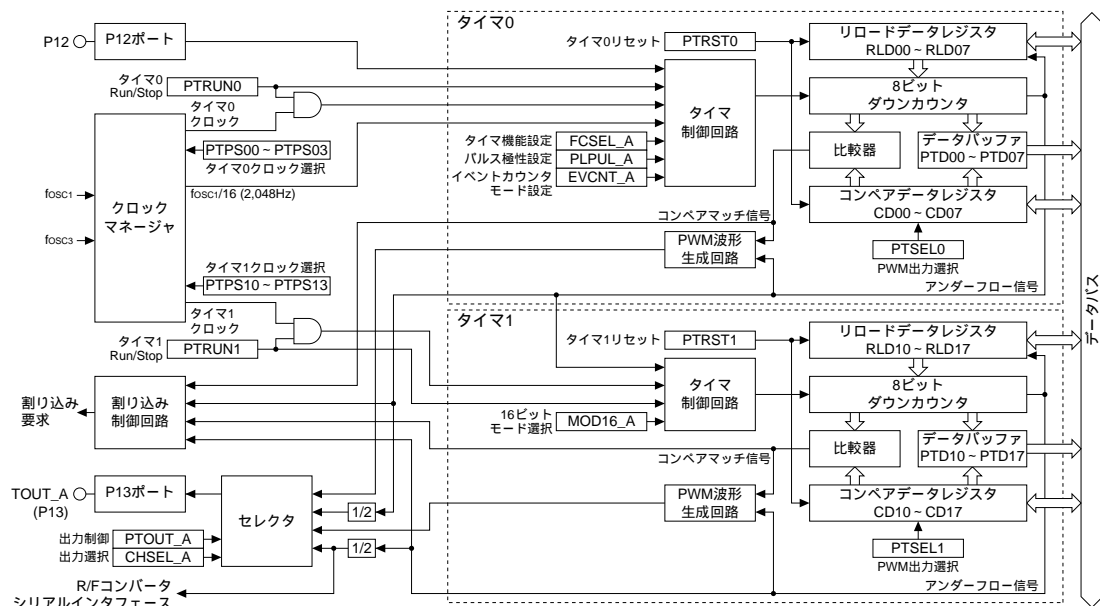


図4.9.1.1 プログラマブルタイムCh. Aの構成(タイマ0、タイマ1)

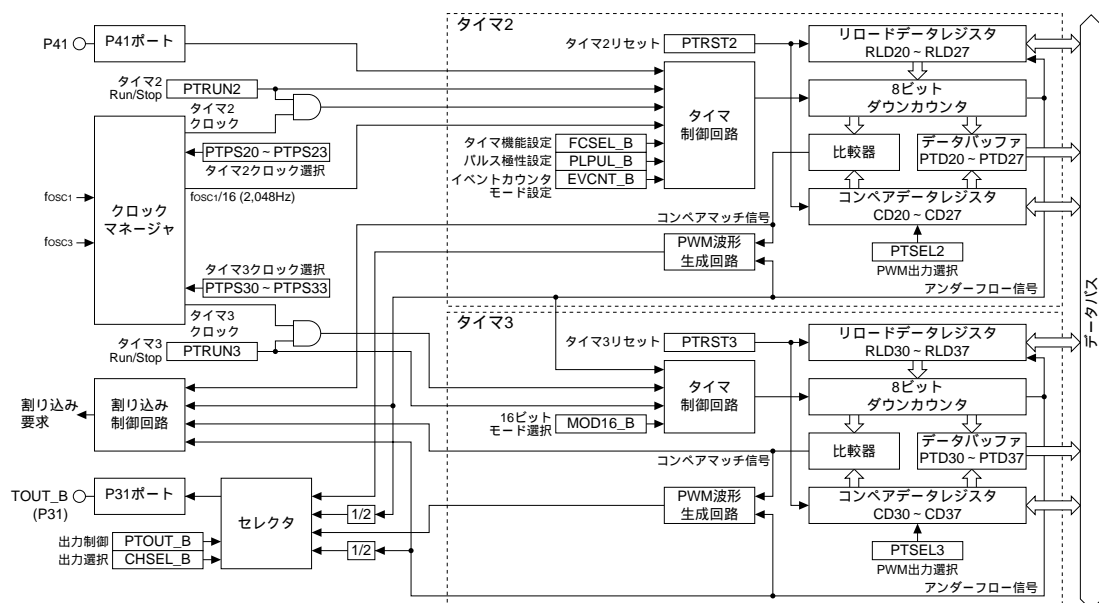


図4.9.1.2 プログラブルタイムCh. Bの構成(タイマ2、タイマ3)

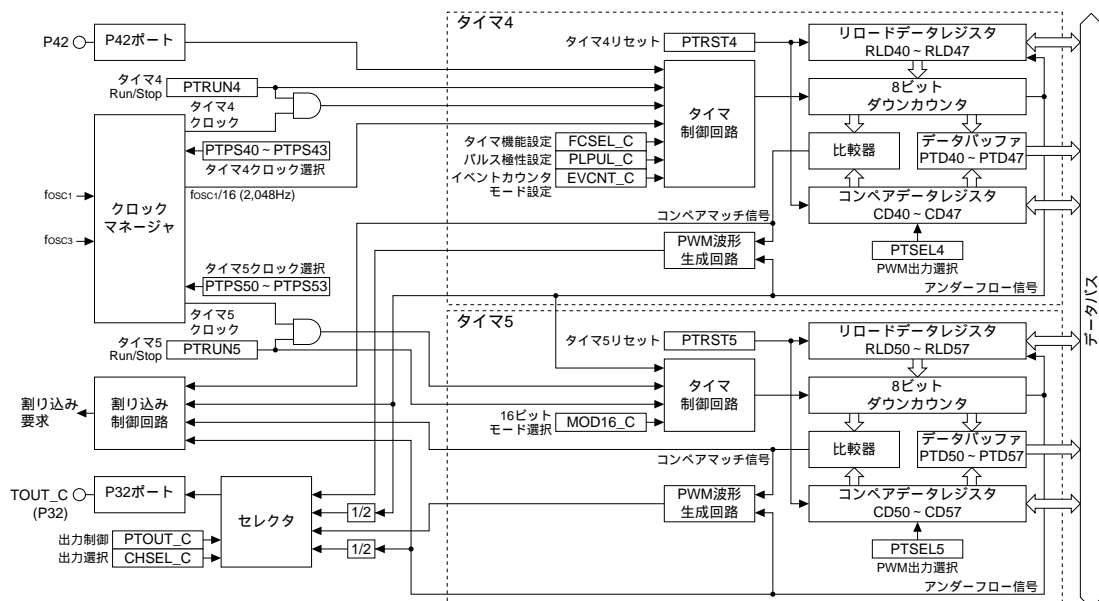


図4.9.1.3 プログラブルタイムCh. Cの構成(タイマ4、タイマ5)

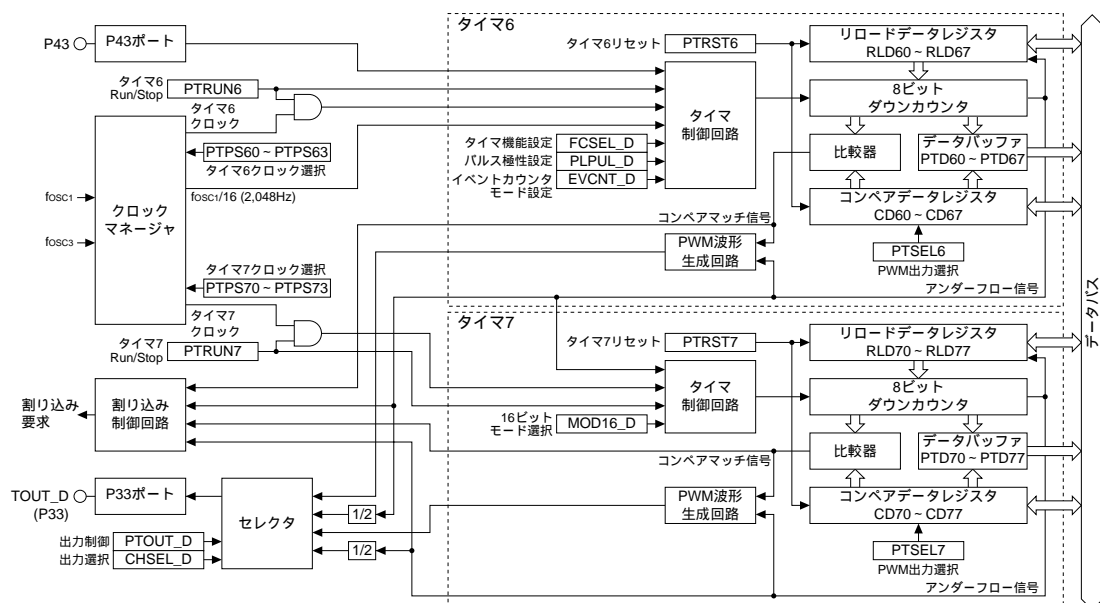


図4.9.1.4 プログラマブルタイムCh. Dの構成(タイマ6、タイマ7)

注: • 4系統のタイマ(Ch.A ~ Ch.D)の機能と構成は、レジスタ名、入出力ポートやその信号名を除き同一です。そこで、以下の説明はCh.A(タイマ0とタイマ1)を対象に行います。レジスタ名や信号名にはタイマ番号(0 ~ 7 またはCh名(A ~ D)が付けられていますが、以降の説明では特に必要な場合を除き、Ch.A(タイマ0とタイマ1)の名称を使用します。また、"x"をタイマ番号(0 ~ 7)として使用しています。

Ch.Aの記述はCh.B ~ Ch.Dにも適用されます。

例 Ch.A Ch.B、Ch.C、Ch.Dに置き換え可能

EVCNT_Aレジスタ EVCNT_B、EVCNT_C、EVCNT_Dレジスタに置き換え可能

TOUT_A TOUT_B、TOUT_C、TOUT_Dに置き換え可能

タイマ0、タイマ1、タイマxの記述は他のタイマにも適用されます。

例 タイマ0 タイマ2、タイマ4、タイマ6に置き換え可能

タイマ1 タイマ3、タイマ5、タイマ7に置き換え可能

タイマx タイマ0 ~ タイマ7に置き換え可能

PTRUNxレジスタ PTRUN0 ~ PTRUN7レジスタに置き換え可能

- TOUT_A ~ TOUT_D端子でバイポーラトランジスタなど大電流を消費する外付け部品を駆動する際は、外付け部品の動作がICの電源に影響しないように基板パターンを設計してください。詳しくは、"6.3 実装上の注意事項"の<出力端子>を参照してください。

4.9.2 クロックマネージャの制御

各タイマのダウンカウント用クロックはクロックマネージャがOSC1クロックまたはOSC3クロックを分周して生成します。クロックマネージャは表4.9.2.1に示す15種類のカウントクロックをプログラマブルタイムに供給可能で、使用するクロックをカウントクロック周波数選択レジスタPTPSx0 ~ PTPSx3でタイマごとに選択できるようになっています。イニシャルリセット時、PTPSxレジスタは"0H"に設定され、クロックマネージャからプログラマブルタイムへのクロック供給は停止状態になります。タイマ機能を使用する場合は、タイマを制御する前に、必要なクロックを選択してクロック供給を開始させてください。

表4.9.2.1 カウントクロック周波数の選択

PTPSx3	PTPSx2	PTPSx1	PTPSx0	タイマクロック
1	1	1	1	fosc3
1	1	1	0	fosc3 / 2
1	1	0	1	fosc3 / 4
1	1	0	0	fosc3 / 8
1	0	1	1	fosc3 / 16
1	0	1	0	fosc3 / 32
1	0	0	1	fosc3 / 64
1	0	0	0	fosc3 / 256
0	1	1	1	fosc1 (32kHz)
0	1	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	1	0	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	0	fosc1 / 16 (2kHz)
0	0	1	1	fosc1 / 32 (1kHz)
0	0	1	0	fosc1 / 64 (512Hz)
0	0	0	1	fosc1 / 256 (128Hz)
0	0	0	0	OFF

fosc1: OSC1発振周波数、()内はfosc1=32kHzの場合の周波数

fosc3: OSC3発振周波数

以下のタイマについては消費電流低減のため、PTPSxレジスタを"0H"にしてクロック供給を停止してください。

- ・ 使用しないタイマ
- ・ 外部クロックを入力してイベントカウンタとして使用するタイマ
- ・ 16ビットタイマ×1チャンネルとして使用する場合の上位8ビット側のタイマ(タイマ1/3/5/7)

4.9.3 カウンタの基本動作

ここでは、各タイマを個々に8ビットタイマとして使用する場合の基本動作を説明します。

各タイマにはそれぞれ、8ビットのダウンカウンタとリロードデータレジスタが設けられています。

リロードデータレジスタRLDx0～RLDx7はカウンタの初期値を設定するレジスタです。

ダウンカウンタは、リロードデータレジスタに設定された初期値を、タイマリセットビットPTRSTxへの"1"書き込みによってロードします。したがって、このロードされた初期値からカウントクロックによるダウンカウントが行われます。

各タイマにはそれぞれ、RUN/STOPを制御するレジスタPTRUNxが設けられています。リロードデータをカウンタにプリセットした後、本レジスタに"1"を書き込むことによってダウンカウントを開始します。"0"を書き込むとクロックの入力が禁止され、カウントを停止します。

このRUN/STOPの制御はカウンタのデータには影響を与えません。カウントの停止中もカウンタのデータは保持されており、そのデータから継続してカウントを開始させることができます。

カウンタのデータ読み出しはデータバッファPTDx0～PTDx7を介して行います。下位、上位4ビットずつソフトウェアにより任意のタイミングで読み出しが可能です。

ただし、このカウンタも計時タイマと同様に下位データ PTDx0～PTDx3、上位データ PTDx4～PTDx7 読み出し間の桁下げを防止するため、下位データの読み出しにより上位データがホールドされるようになっています。したがって、データの読み出しは必ず下位データから先に行ってください。

カウンタはダウンカウントが進んでアンダーフローが発生すると、リロードデータレジスタに設定された初期値をリロードします。初期値をリロード後は、その初期値からダウンカウントを継続します。

このアンダーフロー信号はカウンタのリロードのほか、割り込みの発生、外部へのパルス(TOUT_A信号)出力を制御します。またタイマ1(Ch.A)のアンダーフロー信号からはシリアルインタフェースとR/Fコンバータに供給するクロックが生成されます。

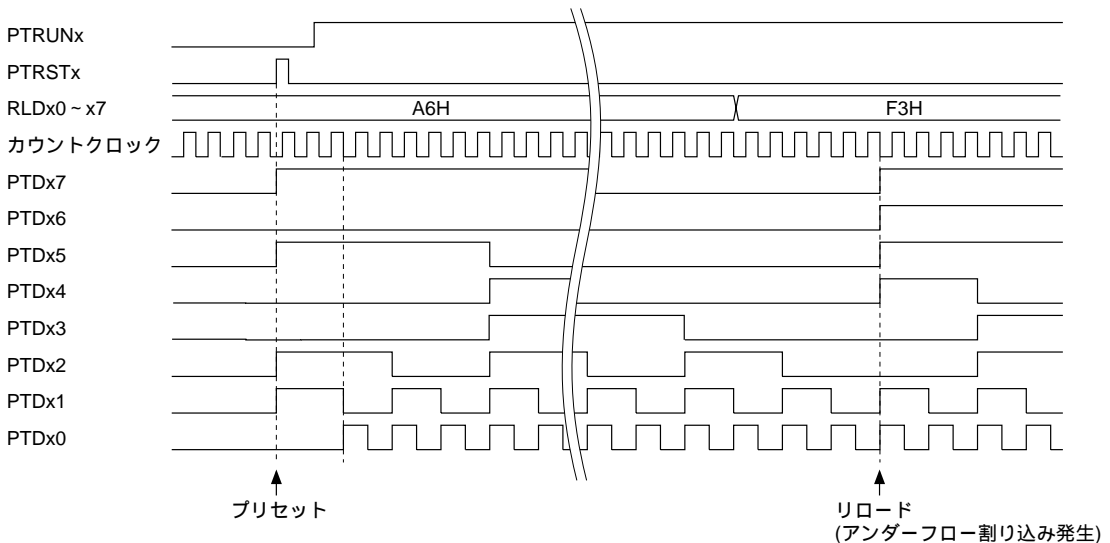


図4.9.3.1 カウンタの基本動作タイミング

4.9.4 イベントカウンタモード(タイマ0、タイマ2、タイマ4、タイマ6)

タイマ0には、入出力兼用ポート端子から外部クロックを入力してカウントを行うイベントカウンタ機能があります。タイマとクロック入力ポートの対応は以下のとおりです。

表4.9.4.1 イベントカウンタクロック入力ポート

タイマ	外部クロック名	入力端子	制御レジスタ
タイマ0 (Ch.A)	EVIN_A	P12	EVCNT_A
タイマ2 (Ch.B)	EVIN_B	P41	EVCNT_B
タイマ4 (Ch.C)	EVIN_C	P42	EVCNT_C
タイマ6 (Ch.D)	EVIN_D	P43	EVCNT_D

この機能は、カウンタモード選択レジスタEVCNT_Aに"1"を書き込むことによって選択されます。

これにより、対応する入出力兼用ポートが入力モードに設定され、入力信号がカウントクロックとしてタイマ0に送られます。

イニシャルリセット時はEVCNT_Aが"0"に設定され、タイマ0は内部クロックをカウントする通常のタイマとなります。

イベントカウンタモードでは、外部からタイマ0にクロックが供給されるため、カウントクロック周波数選択レジスタPTPS0レジスタの設定は無効となります。

ダウンカウントのタイミングは、パルス極性選択レジスタPLPUL_Aによって、立ち下がリエッジまたは立ち上がりエッジのどちらかが選択できます。レジスタPLPUL_Aに"0"を書き込んだ場合が立ち下がリエッジ、"1"を書き込んだ場合が立ち上がりエッジとなり、図4.9.4.1に示すタイミングでダウンカウントが行われます。

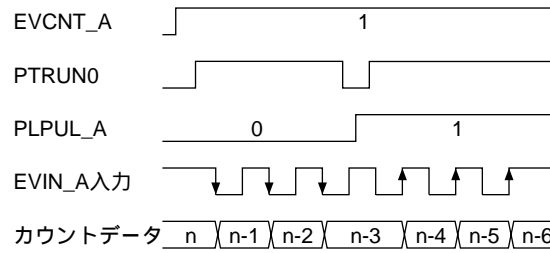


図4.9.4.1 イベントカウンタモードのタイミングチャート

イベントカウンタモードにはこのほかに、外部クロック (EVIN_A) 入力に対してチャタリング等のノイズを除去するノイズリジェクタ付加機能があります。この機能はタイマ機能選択レジスタFCSEL_Aに"1"を書き込むことによって選択されます。

ノイズリジェクタ付きを選択した場合は確実なカウントを行うために、LOWレベル/HIGHレベル共に0.98msec*以上のパルス幅を確保する必要があります。ノイズリジェクタは、EVIN_A端子の入力レベルが変化してから二度目の内部2,048Hz*信号の立ち下がリエッジにて、カウンタへのクロック供給を許可します。したがって、確実に除去できるノイズのパルス幅は0.48msec*以下となります。(*はfosc1 = 32.768kHzの場合の値です。)

図4.9.4.2にノイズリジェクタ付加時のダウンカウントタイミングを示します。

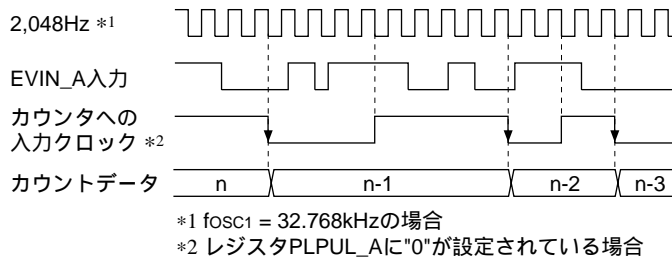


図4.9.4.2 ノイズリジェクタ付加時のダウンカウントタイミング

イベントカウンタモードの動作は、入力クロックが外部クロック (EVIN_A) となること以外は通常のタイマ動作と同等です。カウントの基本的な動作と制御については"4.9.3 カウンタの基本動作"を参照してください。

4.9.5 PWMモード(タイマ0 ~ タイマ7)

各タイマにはPWM波形を生成する機能があります。この機能を使用する場合は、PTSELxレジスタに"1"を書き込んで、対応するタイマをPWMモードに設定します。

PWM波形を制御するために、各タイマにはコンペアデータレジスタCDx0 ~ CDx7が設けられています。PWMモードでは、コンペアデータレジスタに設定したデータがカウントデータと比較され、一致した時点で内部のコンペアマッチ信号が生成されます。同時にコンペアマッチ割り込みも発生します。また、タイマから外部に出力されるパルスがアンダーフロー信号で立ち上がり、コンペアマッチ信号で立ち下がります。図4.9.5.1に示すように、リロードデータレジスタで出力信号の周期を、コンペアデータレジスタでデューティ比を制御してPWM波形を生成することができます。ただし、RLD(リロードデータ) > CD(コンペアデータ) CD 0としておく必要があります。RLD = CDの場合、出力信号はアンダーフロー以降立ち下がることなく"1"に固定されます。

これによって生成したPWM信号は、入出力兼用ポート端子(P12、P41、P42、P43)から出力させることができます(4.9.8項参照)。

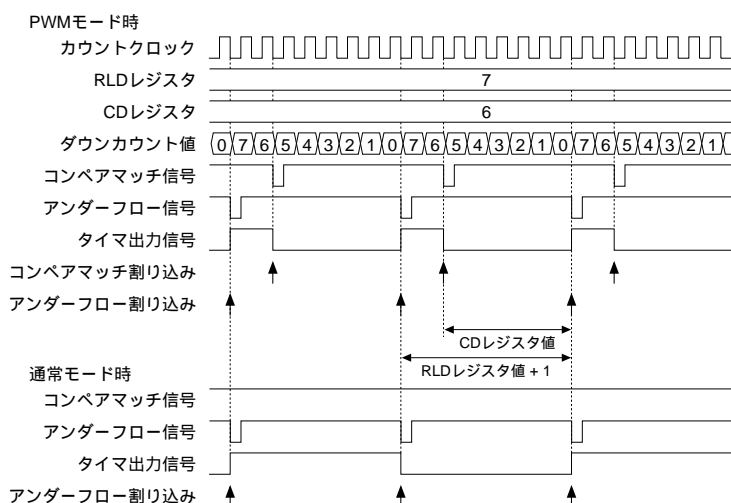


図4.9.5.1 PWM波形の生成

4.9.6 16ビットタイマモード(タイマ0+1、タイマ2+3、タイマ4+5、タイマ6+7)

タイマ0と1、タイマ2と3、タイマ4と5、タイマ6と7を連結して16ビットタイマとして使用することができます。

タイマ0とタイマ1を16ビットタイマとして使用する場合は、タイマ0の16ビットモード選択レジスタMOD16_Aに"1"を書き込みます。16ビットタイマは、タイマ0を下位バイト、タイマ1を上位バイトとして図4.9.6.1のように構成されます。

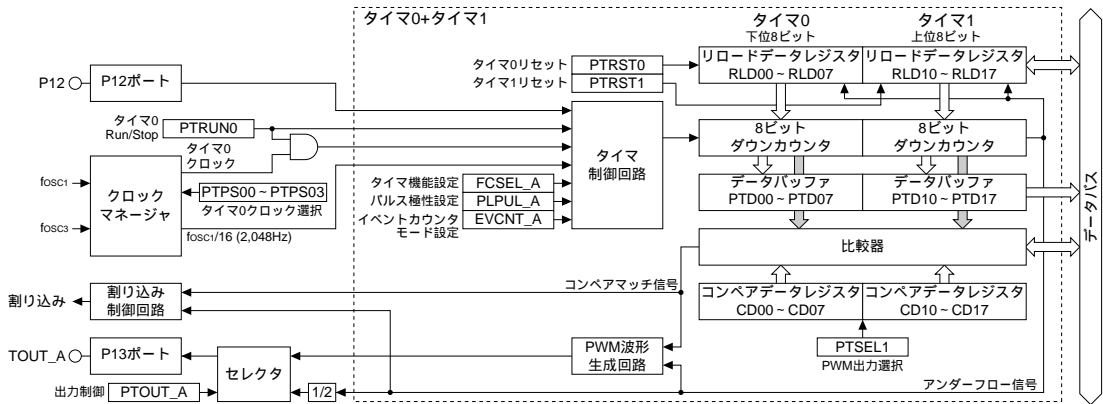


図4.9.6.1 16ビットタイマの構成(タイマ0+タイマ1)

16ビットタイマモードに設定すると、タイマのRUN/STOP制御、カウントクロック周波数の選択は、タイマ0のレジスタ設定が有効になります。イベントカウンタ機能も有効になります。タイマ1はタイマ0のアンダーフロー信号をカウントクロックとして使用するため、タイマ1用のRUN/STOP制御、カウントクロック周波数選択レジスタは無効になります。ただし、PWM出力機能はタイマ1の制御レジスタで選択する必要があります。TOUT_Aの出力には、自動的にタイマ1からの出力信号が選択されます(TOUT_A出力選択レジスタは無効になります)。リロードデータをプリセット (PTRSTx) する制御は、タイマ0とタイマ1それぞれに必要です。

なお、16ビットタイマのカウントデータの読み込み時は、必ず最下位データから読み出してください。

16ビットタイマモード時は、最下位データ PTD00 ~ PTD03 を読み出すことにより、上位データ PTD04 ~ PTD17 がラッチされます。カウンタは継続して動作しますが、ラッチされたカウントデータは、次に最下位データを読み出すまではホールドされます。したがって、最下位データ PTD00 ~ PTD03 を読み出し後は、上位データ PTD04 ~ PTD17 の読み出し順序に留意する必要はありません。最下位データ PTD00 ~ PTD03 以外の読み出しではホールド機能が働かないため、正しいデータを読み出すことができません。

タイマ2と3、タイマ4と5、タイマ6と7を16ビットタイマとして使用する場合は、制御方法は上記と同様です。

4.9.7 割り込み機能

プログラマブルタイムは、各タイマのアンダーフロー信号、およびコンペアマッチ信号によって割り込みを発生させることができます。割り込みタイミングについては図4.9.3.1および図4.9.5.1を参照してください。

注: コンペアマッチ割り込みは、各タイマをPWMモードに設定している場合にのみ発生します。

タイマのアンダーフロー信号/コンペアマッチ信号によって、対応する割り込み要因フラグIPTx/ICTCxが"1"にセットされ、割り込みが発生します。各割り込み要因フラグに対応した割り込みマスクレジスタEIPTx/EICTCxの設定により、割り込みをマスクすることもできます。ただし、割り込み要因フラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、対応するタイマのアンダーフロー/コンペアマッチで"1"にセットされます。

タイマ0とタイマ1を16ビットタイマとして使用している場合は、タイマ1のアンダーフローで割り込みが発生します。この場合、タイマ0のアンダーフローではIPT0はセットされません。コンペアマッチ割り込みの場合もタイマ1のICTC1を使用します。その他のタイマによる16ビットタイマモード時も同様です。

4.9.8 TOUT出力の設定

プログラマブルタイムCh. A(タイマ0、タイマ1)は、アンダーフロー信号とコンペアマッチ信号によってTOUT_A信号を発生させることができます。通常モードではアンダーフローを1/2分周した信号がTOUT_A信号として出力されます。PWMモードの場合は前述のとおり生成されたPWM信号がTOUT_A信号として出力されます。

表4.9.8.1 TOUT出力と制御レジスタ

出力クロック名	出力端子	出力制御レジスタ	出力選択レジスタ設定	出力タイマ
TOUT_A	P13	PTOUT_A	CHSEL_A="0" CHSEL_A="1"	タイマ0 タイマ1
TOUT_B	P31	PTOUT_B	CHSEL_B="0" CHSEL_B="1"	タイマ2 タイマ3
TOUT_C	P32	PTOUT_C	CHSEL_C="0" CHSEL_C="1"	タイマ4 タイマ5
TOUT_D	P33	PTOUT_D	CHSEL_D="0" CHSEL_D="1"	タイマ6 タイマ7

TOUT出力選択レジスタCHSEL_Aによって、タイマ0とタイマ1のどちらの出力を使用するか選択することができます。

16ビットタイマモード時にTOUT_A信号を生成する場合は、CHSEL_Aの設定にかかわらず常にタイマ1が選択されます。

各タイマが生成したTOUT信号は、外部デバイスに対するクロック供給などのために、P13、P31、P32、P33入出力兼用ポート端子から出力させることができます。

TOUT_A信号の出力はレジスタPTOUT_Aによって制御します。PTOUT_Aに"1"を設定するとTOUT_A信号が対応するポート端子から出力されます。TOUT出力時は入出力兼用ポートが自動的に出力モードに設定され、タイマから送られたTOUT_A信号を出力します。I/O制御レジスタ(IOC13/IOC31/IOC32/IOC33)およびデータレジスタ(P13/P31/P32/P33)の設定は無効になります。PTOUT_Aを"0"に設定した場合は、入出力兼用ポートの制御レジスタの設定が有効になります。

なお、TOUT_A信号はレジスタPTOUT_Aとは非同期に発生していますので、レジスタの設定による信号のON/OFF時には1/2サイクル以内のハザードが生じます。

図4.9.8.1にTOUT_A信号の出力波形を示します。

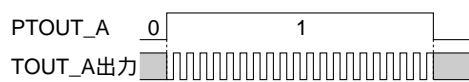


図4.9.8.1 TOUT_A信号の出力波形

Ch.B ~ Ch.DによるTOUT出力の制御も上記と同様です。

4.9.9 シリアルインタフェース, R/Fコンバータへのクロック出力

タイマ1のアンダーフローを1/2分周した信号をシリアルインタフェースおよびR/Fコンバータのクロック源として使用することができます。

タイマ1がRUN(PTRUN1="1")状態の間は、シリアルインタフェースおよびR/Fコンバータへ常にクロックが出力されますので、PTOUT_Aレジスタによる制御は不要です。

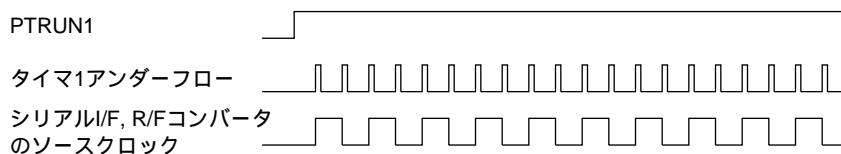


図4.9.9.1 シリアルインタフェース, R/Fコンバータへのクロック出力

シリアルインタフェースの転送速度に対するRLD1xレジスタへの設定値は次式のようになります。

$$RLD1x = \frac{f_{CNT1}}{2 * bps} - 1$$

fCNT1: PTSP1レジスタで設定したタイマ1カウントクロック周波数(表4.9.2.1参照)

bps: 転送速度

(RLD1xには00Hも設定可能)

シリアルインタフェースのクロック周波数は最大1MHzに制限されますので、OSC3を原振として使用する場合は注意してください。

4.9.10 プログラマブルタイムのI/Oメモリ

表4.9.10.1にプログラマブルタイムの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.9.10.1(a) プログラマブルタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF18H	PTPS03	PTPS02	PTPS01	PTPS00	PTPS03	0			プログラブルタイム0カウントクロック周波数選択 [PTPS03-00] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS03-00] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS03-00] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS02	0			
	R/W				PTPS01	0			
					PTPS00	0			
FF19H	PTPS13	PTPS12	PTPS11	PTPS10	PTPS13	0			プログラブルタイム1カウントクロック周波数選択 [PTPS13-10] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS13-10] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS13-10] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS12	0			
	R/W				PTPS11	0			
					PTPS10	0			
FF1AH	PTPS23	PTPS22	PTPS21	PTPS20	PTPS23	0			プログラブルタイム2カウントクロック周波数選択 [PTPS23-20] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS23-20] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS23-20] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS22	0			
	R/W				PTPS21	0			
					PTPS20	0			
FF1BH	PTPS33	PTPS32	PTPS31	PTPS30	PTPS33	0			プログラブルタイム3カウントクロック周波数選択 [PTPS33-30] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS33-30] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS33-30] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS32	0			
	R/W				PTPS31	0			
					PTPS30	0			
FF1CH	PTPS43	PTPS42	PTPS41	PTPS40	PTPS43	0			プログラブルタイム4カウントクロック周波数選択 [PTPS43-40] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS43-40] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS43-40] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS42	0			
	R/W				PTPS41	0			
					PTPS40	0			
FF1DH	PTPS53	PTPS52	PTPS51	PTPS50	PTPS53	0			プログラブルタイム5カウントクロック周波数選択 [PTPS53-50] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS53-50] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS53-50] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS52	0			
	R/W				PTPS51	0			
					PTPS50	0			
FF1EH	PTPS63	PTPS62	PTPS61	PTPS60	PTPS63	0			プログラブルタイム6カウントクロック周波数選択 [PTPS63-60] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS63-60] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS63-60] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS62	0			
	R/W				PTPS61	0			
					PTPS60	0			
FF1FH	PTPS73	PTPS72	PTPS71	PTPS70	PTPS73	0			プログラブルタイム7カウントクロック周波数選択 [PTPS73-70] 0 1 2 3 4 5 周波数 Off fosc1/256 fosc1/64 fosc1/32 fosc1/16 fosc1/4 [PTPS73-70] 6 7 8 9 10 周波数 fosc1/2 fosc1 fosc3/256 fosc3/64 fosc3/32 [PTPS73-70] 11 12 13 14 15 周波数 fosc3/16 fosc3/8 fosc3/4 fosc3/2 fosc3
					PTPS72	0			
	R/W				PTPS71	0			
					PTPS70	0			

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.9.10.1(b) プログラマブルタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈			
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0
FF80H	MOD16_A	EVCNT_A	FCSEL_A	PLPUL_A	MOD16_A	0	16 bits	8 bits
	R/W				EVCNT_A	0	Event ct.	Timer
					FCSEL_A	0	With NR	No NR
					PLPUL_A	0	↓	↓
FF81H	PTSEL1	PTSEL0	CHSEL_A	PTOUT_A	PTSEL1	0	PWM	Normal
	R/W				PTSEL0	0	PWM	Normal
					CHSEL_A	0	Timer 1	Timer 0
					PTOUT_A	0	On	Off
FF82H	PTRST1	PTRUN1	PTRST0	PTRUN0	PTRST1*3	- *2	Reset	Invalid
	W	R/W	W	R/W	PTRUN1	0	Run	Stop
					PTRST0*3	- *2	Reset	Invalid
					PTRUN0	0	Run	Stop
FF84H	RLD03	RLD02	RLD01	RLD00	RLD03	0		MSB
	R/W				RLD02	0		
					RLD01	0		
					RLD00	0		
FF85H	RLD07	RLD06	RLD05	RLD04	RLD07	0		MSB
	R/W				RLD06	0		
					RLD05	0		
					RLD04	0		
FF86H	RLD13	RLD12	RLD11	RLD10	RLD13	0		MSB
	R/W				RLD12	0		
					RLD11	0		
					RLD10	0		
FF87H	RLD17	RLD16	RLD15	RLD14	RLD17	0		MSB
	R/W				RLD16	0		
					RLD15	0		
					RLD14	0		
FF88H	PTD03	PTD02	PTD01	PTD00	PTD03	0		MSB
	R				PTD02	0		
					PTD01	0		
					PTD00	0		
FF89H	PTD07	PTD06	PTD05	PTD04	PTD07	0		MSB
	R				PTD06	0		
					PTD05	0		
					PTD04	0		
FF8AH	PTD13	PTD12	PTD11	PTD10	PTD13	0		MSB
	R				PTD12	0		
					PTD11	0		
					PTD10	0		
FF8BH	PTD17	PTD16	PTD15	PTD14	PTD17	0		MSB
	R				PTD16	0		
					PTD15	0		
					PTD14	0		
FF8CH	CD03	CD02	CD01	CD00	CD03	0		MSB
	R/W				CD02	0		
					CD01	0		
					CD00	0		
FF8DH	CD07	CD06	CD05	CD04	CD07	0		MSB
	R/W				CD06	0		
					CD05	0		
					CD04	0		
FF8EH	CD13	CD12	CD11	CD10	CD13	0		MSB
	R/W				CD12	0		
					CD11	0		
					CD10	0		
FF8FH	CD17	CD16	CD15	CD14	CD17	0		MSB
	R/W				CD16	0		
					CD15	0		
					CD14	0		

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.9.10.1(c) プログラマブルタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF90H	MOD16_B	EV CNT_B	FCSEL_B	PLPUL_B	MOD16_B	0	16 bits	8 bits	PTM2-3 16ビットモード選択
					EV CNT_B	0	Event ct.	Timer	PTM2カウンタモード選択
	R/W				FCSEL_B	0	With NR	No NR	PTM2機能選択(イベントカウンタモード時)
					PLPUL_B	0	↓	↓	PTM2パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
FF91H	PTSEL3	PTSEL2	CHSEL_B	PTOUT_B	PTSEL3	0	PWM	Normal	プログラマブルタイム3 PWM出力選択
					PTSEL2	0	PWM	Normal	プログラマブルタイム2 PWM出力選択
	R/W				CHSEL_B	0	Timer 3	Timer 2	PTM2-3 TOUT_B出力選択
					PTOUT_B	0	On	Off	PTM2-3 TOUT_B出力制御
FF92H	PTRST3	PTRUN3	PTRST2	PTRUN2	PTRST3*3	- *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイムタイマ3リセット(リロード)
					PTRUN3	0	Stop	Stop	プログラマブルタイムタイマ3 Run/Stop
	W	R/W	W	R/W	PTRST2*3	- *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイムタイマ2リセット(リロード)
					PTRUN2	0	Run	Stop	プログラマブルタイムタイマ2 Run/Stop
FF94H	RLD23	RLD22	RLD21	RLD20	RLD23	0			MSB
					RLD22	0			プログラマブルタイム2リロードデータ(下位4ビット)
					RLD21	0			
	R/W				RLD20	0			LSB
FF95H	RLD27	RLD26	RLD25	RLD24	RLD27	0			MSB
					RLD26	0			プログラマブルタイム2リロードデータ(上位4ビット)
					RLD25	0			
	R/W				RLD24	0			LSB
FF96H	RLD33	RLD32	RLD31	RLD30	RLD33	0			MSB
					RLD32	0			プログラマブルタイム3リロードデータ(下位4ビット)
					RLD31	0			
	R/W				RLD30	0			LSB
FF97H	RLD37	RLD36	RLD35	RLD34	RLD37	0			MSB
					RLD36	0			プログラマブルタイム3リロードデータ(上位4ビット)
					RLD35	0			
	R/W				RLD34	0			LSB
FF98H	PTD23	PTD22	PTD21	PTD20	PTD23	0			MSB
					PTD22	0			プログラマブルタイム2データ(下位4ビット)
					PTD21	0			
	R				PTD20	0			LSB
FF99H	PTD27	PTD26	PTD25	PTD24	PTD27	0			MSB
					PTD26	0			プログラマブルタイム2データ(上位4ビット)
					PTD25	0			
	R				PTD24	0			LSB
FF9AH	PTD33	PTD32	PTD31	PTD30	PTD33	0			MSB
					PTD32	0			プログラマブルタイム3データ(下位4ビット)
					PTD31	0			
	R				PTD30	0			LSB
FF9BH	PTD37	PTD36	PTD35	PTD34	PTD37	0			MSB
					PTD36	0			プログラマブルタイム3データ(上位4ビット)
					PTD35	0			
	R				PTD34	0			LSB
FF9CH	CD23	CD22	CD21	CD20	CD23	0			MSB
					CD22	0			プログラマブルタイム2コンペアデータ(下位4ビット)
					CD21	0			
	R/W				CD20	0			LSB
FF9DH	CD27	CD26	CD25	CD24	CD27	0			MSB
					CD26	0			プログラマブルタイム2コンペアデータ(上位4ビット)
					CD25	0			
	R/W				CD24	0			LSB
FF9EH	CD33	CD32	CD31	CD30	CD33	0			MSB
					CD32	0			プログラマブルタイム3コンペアデータ(下位4ビット)
					CD31	0			
	R/W				CD30	0			LSB
FF9FH	CD37	CD36	CD35	CD34	CD37	0			MSB
					CD36	0			プログラマブルタイム3コンペアデータ(上位4ビット)
					CD35	0			
	R/W				CD34	0			LSB

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.9.10.1(d) プログラマブルタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈			
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0
FFA0H	MOD16_C	EVCNT_C	FCSEL_C	PLPUL_C	MOD16_C	0	16 bits	8 bits
					EVCNT_C	0	Event ct.	Timer
					FCSEL_C	0	With NR	No NR
					PLPUL_C	0	↓	↓
FFA1H	PTSEL5	PTSEL4	CHSEL_C	PTOUT_C	PTSEL5	0	PWM	Normal
					PTSEL4	0	PWM	Normal
					CHSEL_C	0	Timer 5	Timer 4
					PTOUT_C	0	On	Off
FFA2H	PTRST5	PTRUN5	PTRST4	PTRUN4	PTRST5*3	-*2	Reset	Invalid
					PTRUN5	0	Run	Stop
					PTRST4*3	-*2	Reset	Invalid
					PTRUN4	0	Run	Stop
FFA4H	RLD43	RLD42	RLD41	RLD40	RLD43	0		MSB
					RLD42	0		
					RLD41	0		
					RLD40	0		LSB
FFA5H	RLD47	RLD46	RLD45	RLD44	RLD47	0		MSB
					RLD46	0		
					RLD45	0		
					RLD44	0		LSB
FFA6H	RLD53	RLD52	RLD51	RLD50	RLD53	0		MSB
					RLD52	0		
					RLD51	0		
					RLD50	0		LSB
FFA7H	RLD57	RLD56	RLD55	RLD54	RLD57	0		MSB
					RLD56	0		
					RLD55	0		
					RLD54	0		LSB
FFA8H	PTD43	PTD42	PTD41	PTD40	PTD43	0		MSB
					PTD42	0		
					PTD41	0		
					PTD40	0		LSB
FFA9H	PTD47	PTD46	PTD45	PTD44	PTD47	0		MSB
					PTD46	0		
					PTD45	0		
					PTD44	0		LSB
FFAAH	PTD53	PTD52	PTD51	PTD50	PTD53	0		MSB
					PTD52	0		
					PTD51	0		
					PTD50	0		LSB
FFABH	PTD57	PTD56	PTD55	PTD54	PTD57	0		MSB
					PTD56	0		
					PTD55	0		
					PTD54	0		LSB
FFACH	CD43	CD42	CD41	CD40	CD43	0		MSB
					CD42	0		
					CD41	0		
					CD40	0		LSB
FFADH	CD47	CD46	CD45	CD44	CD47	0		MSB
					CD46	0		
					CD45	0		
					CD44	0		LSB
FFAEH	CD53	CD52	CD51	CD50	CD53	0		MSB
					CD52	0		
					CD51	0		
					CD50	0		LSB
FFAFH	CD57	CD56	CD55	CD54	CD57	0		MSB
					CD56	0		
					CD55	0		
					CD54	0		LSB

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.9.10.1(e) プログラマブルタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFB0H	MOD16_D	EVCNT_D	FCSEL_D	PLPUL_D	MOD16_D	0	16 bits	8 bits	PTM6-7 16ビットモード選択
					EVCNT_D	0	Event ct.	Timer	PTM6カウンタモード選択
					FCSEL_D	0	With NR	No NR	PTM6機能選択(イベントカウンタモード時)
					PLPUL_D	0	↑	↓	PTM6パルス極性選択(イベントカウンタモード時)
FFB1H	PTSEL7	PTSEL6	CHSEL_D	PTOUT_D	PTSEL7	0	PWM	Normal	プログラマブルタイム7 PWM出力選択
					PTSEL6	0	PWM	Normal	プログラマブルタイム6 PWM出力選択
					CHSEL_D	0	Timer 7	Timer 6	PTM6-7 TOUT_D出力選択
					PTOUT_D	0	On	Off	PTM6-7 TOUT_D出力制御
FFB2H	PTRST7	PTRUN7	PTRST6	PTRUN6	PTRST7*3	- *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイム7リセット(リロード)
					PTRUN7	0	Run	Stop	プログラマブルタイム7 Run/Stop
					PTRST6*3	- *2	Reset	Invalid	プログラマブルタイム6リセット(リロード)
					PTRUN6	0	Run	Stop	プログラマブルタイム6 Run/Stop
FFB4H	RLD63	RLD62	RLD61	RLD60	RLD63	0			MSB
					RLD62	0			プログラマブルタイム6リロードデータ(下位4ビット)
					RLD61	0			
					RLD60	0			
FFB5H	RLD67	RLD66	RLD65	RLD64	RLD67	0			MSB
					RLD66	0			プログラマブルタイム6リロードデータ(上位4ビット)
					RLD65	0			
					RLD64	0			
FFB6H	RLD73	RLD72	RLD71	RLD70	RLD73	0			MSB
					RLD72	0			プログラマブルタイム7リロードデータ(下位4ビット)
					RLD71	0			
					RLD70	0			
FFB7H	RLD77	RLD76	RLD75	RLD74	RLD77	0			MSB
					RLD76	0			プログラマブルタイム7リロードデータ(上位4ビット)
					RLD75	0			
					RLD74	0			
FFB8H	PTD63	PTD62	PTD61	PTD60	PTD63	0			MSB
					PTD62	0			プログラマブルタイム6データ(下位4ビット)
					PTD61	0			
					PTD60	0			
FFB9H	PTD67	PTD66	PTD65	PTD64	PTD67	0			MSB
					PTD66	0			プログラマブルタイム6データ(上位4ビット)
					PTD65	0			
					PTD64	0			
FFBAH	PTD73	PTD72	PTD71	PTD70	PTD73	0			MSB
					PTD72	0			プログラマブルタイム7データ(下位4ビット)
					PTD71	0			
					PTD70	0			
FFBBH	PTD77	PTD76	PTD75	PTD74	PTD77	0			MSB
					PTD76	0			プログラマブルタイム7データ(上位4ビット)
					PTD75	0			
					PTD74	0			
FFBCH	CD63	CD62	CD61	CD60	CD63	0			MSB
					CD62	0			プログラマブルタイム6コンペアデータ(下位4ビット)
					CD61	0			
					CD60	0			
FFBDH	CD67	CD66	CD65	CD64	CD67	0			MSB
					CD66	0			プログラマブルタイム6コンペアデータ(上位4ビット)
					CD65	0			
					CD64	0			
FFBEH	CD73	CD72	CD71	CD70	CD73	0			MSB
					CD72	0			プログラマブルタイム7コンペアデータ(下位4ビット)
					CD71	0			
					CD70	0			
FFBFH	CD77	CD76	CD75	CD74	CD77	0			MSB
					CD76	0			プログラマブルタイム7コンペアデータ(上位4ビット)
					CD75	0			
					CD74	0			

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.9.10.1(f) プログラマブルタイムの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFE2H	General	General	EIPT0	EICTC0	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ0アンダーフロー)
					EICTC0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ0コンペアマッチ)
FFE3H	General	General	EIPT1	EICTC1	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ1アンダーフロー)
					EICTC1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ1コンペアマッチ)
FFE4H	General	General	EIPT2	EICTC2	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ2アンダーフロー)
					EICTC2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ2コンペアマッチ)
FFE5H	General	General	EIPT3	EICTC3	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT3	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ3アンダーフロー)
					EICTC3	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ3コンペアマッチ)
FFE6H	General	General	EIPT4	EICTC4	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ4アンダーフロー)
					EICTC4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ4コンペアマッチ)
FFE7H	General	General	EIPT5	EICTC5	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ5アンダーフロー)
					EICTC5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ5コンペアマッチ)
FFE8H	General	General	EIPT6	EICTC6	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT6	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ6アンダーフロー)
					EICTC6	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ6コンペアマッチ)
FFE9H	General	General	EIPT7	EICTC7	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
	R/W				EIPT7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ7アンダーフロー)
					EICTC7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ7コンペアマッチ)
FFF2H	0	0	IPT0	ICTC0	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	—*2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT0	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ0アンダーフロー)
					ICTC0	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ0コンペアマッチ)
FFF3H	0	0	IPT1	ICTC1	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	—*2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ1アンダーフロー)
					ICTC1	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ1コンペアマッチ)
FFF4H	0	0	IPT2	ICTC2	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	—*2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT2	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ2アンダーフロー)
					ICTC2	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ2コンペアマッチ)
FFF5H	0	0	IPT3	ICTC3	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	—*2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT3	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ3アンダーフロー)
					ICTC3	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ3コンペアマッチ)
FFF6H	0	0	IPT4	ICTC4	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	—*2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT4	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ4アンダーフロー)
					ICTC4	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ4コンペアマッチ)
FFF7H	0	0	IPT5	ICTC5	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	—*2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT5	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ5アンダーフロー)
					ICTC5	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ5コンペアマッチ)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.9.10.1(g) プログラマブルタイマの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFF8H	0	0	IPT6	ICTC6	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	— *2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT6	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ6アンダーフロー)
					ICTC6	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ6コンペアマッチ)
FFF9H	0	0	IPT7	ICTC7	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用
					0 *3	— *2	Yes	No	未使用
	R		R/W		IPT7	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ7アンダーフロー)
					ICTC7	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ7コンペアマッチ)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

PTPS00 ~ PTPS03: タイマ0カウントクロック周波数選択レジスタ(FF18H)

PTPS10 ~ PTPS13: タイマ1カウントクロック周波数選択レジスタ(FF19H)

PTPS20 ~ PTPS23: タイマ2カウントクロック周波数選択レジスタ(FF1AH)

PTPS30 ~ PTPS33: タイマ3カウントクロック周波数選択レジスタ(FF1BH)

PTPS40 ~ PTPS43: タイマ4カウントクロック周波数選択レジスタ(FF1CH)

PTPS50 ~ PTPS53: タイマ5カウントクロック周波数選択レジスタ(FF1DH)

PTPS60 ~ PTPS63: タイマ6カウントクロック周波数選択レジスタ(FF1EH)

PTPS70 ~ PTPS73: タイマ7カウントクロック周波数選択レジスタ(FF1FH)

各タイマのカウントクロック周波数を選択します。

表4.9.10.2 カウントクロック周波数の選択

PTPSx3	PTPSx2	PTPSx1	PTPSx0	タイマクロック
1	1	1	1	fosc3
1	1	1	0	fosc3 / 2
1	1	0	1	fosc3 / 4
1	1	0	0	fosc3 / 8
1	0	1	1	fosc3 / 16
1	0	1	0	fosc3 / 32
1	0	0	1	fosc3 / 64
1	0	0	0	fosc3 / 256
0	1	1	1	fosc1 (32kHz)
0	1	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	1	0	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	0	fosc1 / 16 (2kHz)
0	0	1	1	fosc1 / 32 (1kHz)
0	0	1	0	fosc1 / 64 (512Hz)
0	0	0	1	fosc1 / 256 (128Hz)
0	0	0	0	OFF

各タイマのダウンカウント用クロックはクロックマネージャがOSC1クロックまたはOSC3クロックを分周して表4.9.10.2に示す15種類を生成します。この中から各タイマに使用するクロックをPTPSx0 ~ PTPSx3で選択します。初期状態ではクロックの供給が停止していますので、タイマ機能を使用する場合は、タイマを制御する前に、必要なクロックを選択してクロック供給を開始させてください。

以下のタイマについては消費電流低減のため、PTPSxレジスタを"0H"にしてクロック供給を停止してください。

- ・ 使用しないタイマ
- ・ 外部クロックを入力してイベントカウンタとして使用するタイマ
- ・ 16ビットタイマ×1チャンネルとして使用する場合の上位8ビット側のタイマ(タイマ1/3/5/7)

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

PLPUL_A: タイマ0パルス極性選択レジスタ (FF80H・D0)

PLPUL_B: タイマ2パルス極性選択レジスタ (FF90H・D0)

PLPUL_C: タイマ4パルス極性選択レジスタ (FFA0H・D0)

PLPUL_D: タイマ6パルス極性選択レジスタ (FFB0H・D0)

イベントカウンタのカウントパルス極性を選択します。

"1"書き込み: 立ち上がりエッジ

"0"書き込み: 立ち下がりエッジ

読み出し: 可能

イベントカウンタモードのカウントのタイミングを、P12、P41、P42、P43入出力兼用ポート端子に入力される外部クロックの立ち下がりエッジとするか、立ち上がりエッジとするかを選択します。

このレジスタに"0"を書き込んだ場合は立ち下がりエッジ、"1"を書き込んだ場合は立ち上がりエッジがそれぞれ選択されます。

このレジスタの設定は、タイマをイベントカウンタモードで使用する場合にのみ有効です。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

FCSEL_A: タイマ0機能選択レジスタ (FF80H・D1)

FCSEL_B: タイマ2機能選択レジスタ (FF90H・D1)

FCSEL_C: タイマ4機能選択レジスタ (FFA0H・D1)

FCSEL_D: タイマ6機能選択レジスタ (FFB0H・D1)

イベントカウンタモードのクロック入力回路にノイズリジェクタを付加するかしないかを選択します。

"1"書き込み: ノイズリジェクタ付き

"0"書き込み: ノイズリジェクタなし

読み出し: 可能

このレジスタに"1"を書き込んだ場合はノイズリジェクタが付加され、0.98msec*以上のパルス幅の外部クロック (P12、P41、P42、P43から入力) によってカウントが行われます。ノイズリジェクタは、P12、P41、P42、P43入出力兼用ポート端子の入力レベルが変化してから二度目の内部2,048Hz*信号の立ち下がりエッジにて、カウンタへのクロック供給を許可します。したがって、確実に除去できるノイズのパルス幅は0.48msec*以下となります。(*はfosc1 = 32.768kHzの場合の値です。)

このレジスタに"0"を書き込んだ場合はノイズリジェクタは付加されず、P12、P41、P42、P43入出力兼用ポート端子に入力される外部クロックによって直接カウントが行われます。

このレジスタの設定は、タイマをイベントカウンタモードで使用する場合にのみ有効です。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

EVCNT_A: タイマ0カウンタモード選択レジスタ (FF80H・D2)

EVCNT_B: タイマ2カウンタモード選択レジスタ (FF90H・D2)

EVCNT_C: タイマ4カウンタモード選択レジスタ (FFA0H・D2)

EVCNT_D: タイマ6カウンタモード選択レジスタ (FFB0H・D2)

タイマのカウンタモードを選択します。

"1"書き込み: イベントカウンタモード

"0"書き込み: タイマモード

読み出し: 可能

タイマ0、タイマ2、タイマ4、タイマ6を、外部クロックをカウントするイベントカウンタとして使用するか、内部クロックをカウントする通常のタイマとして使用するかを選択します。

このレジスタに"1"を書き込んだ場合はイベントカウンタモードに設定されます。このモードでは、タイマ0、タイマ2、タイマ4、タイマ6がそれぞれP12、P41、P42、P43入出力兼用ポート端子から入力した外部クロックでカウントを行います。このレジスタに"0"を書き込んだ場合はタイマモードに設定されます。このモードでは、PTPSレジスタで選択した内部クロックでカウントを行います。

この選択は上記のタイマを16ビットタイマモードで使用する場合も有効です。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

MOD16_A: タイマ0-1 16ビットタイムモード選択レジスタ(FF80H・D3)
 MOD16_B: タイマ2-3 16ビットタイムモード選択レジスタ(FF90H・D3)
 MOD16_C: タイマ4-5 16ビットタイムモード選択レジスタ(FFA0H・D3)
 MOD16_D: タイマ6-7 16ビットタイムモード選択レジスタ(FFB0H・D3)
 8/16ビットタイムモードを選択します。

"1"書き込み: 16ビットタイムモード
 "0"書き込み: 8ビットタイムモード
 読み出し: 可能

タイマ0と1、タイマ2と3、タイマ4と5、タイマ6と7を、それぞれ独立した2チャンネルの8ビットタイムとして使用するか、連結させて1チャンネルの16ビットタイムとして使用するか選択します。このレジスタに"0"を書き込んだ場合は8ビットタイムモード、"1"を書き込んだ場合は16ビットタイムモードに設定されます。

たとえば、タイマ0とタイマ1を16ビットタイムモードで使用する場合、タイマ1はタイマ0(タイムモードまたはイベントカウンタモード)のアンダーフロー信号をカウントクロックとして動作します。タイムのRUN/STOP制御、カウントクロック周波数の選択は、タイマ0のレジスタ設定が有効(タイマ1のレジスタ設定は無効)になります。ただし、PWM出力機能はタイマ1の制御レジスタで選択する必要があります。リロードデータをプリセット(PTRSTx)する制御は、タイマ0とタイマ1それぞれに必要です。タイマ2と3、タイマ4と5、タイマ6と7を16ビットタイムとして使用する場合も同様です。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

PTOUT_A: TOUT_A出力制御レジスタ(FF81H・D0)
 PTOUT_B: TOUT_B出力制御レジスタ(FF91H・D0)
 PTOUT_C: TOUT_C出力制御レジスタ(FFA1H・D0)
 PTOUT_D: TOUT_D出力制御レジスタ(FFB1H・D0)
 TOUT信号の出力を制御します。

"1"書き込み: TOUT出力ON
 "0"書き込み: TOUT出力OFF
 読み出し: 可能

このレジスタに"1"を書き込むことによって対応するTOUT_A/TOUT_B/TOUT_C/TOUT_D信号がP13/P31/P32/P33端子から出力されます。TOUT出力時は入出力兼用ポートが自動的に出力モードに設定され、タイマから送られたTOUT信号を出力します。I/O制御レジスタ(IOC13/IOC31/IOC32/IOC33)およびデータレジスタ(P13/P31/P32/P33)の設定は無効になります。このレジスタを"0"に設定した場合は、入出力兼用ポートの制御レジスタの設定が有効になります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

CHSEL_A: TOUT_A出力選択レジスタ(FF81H・D1)
 CHSEL_B: TOUT_B出力選択レジスタ(FF91H・D1)
 CHSEL_C: TOUT_C出力選択レジスタ(FFA1H・D1)
 CHSEL_D: TOUT_D出力選択レジスタ(FFB1H・D1)
 TOUT信号を出力させるタイムを選択します。

"1"書き込み: 下位タイム(タイマ0/タイマ2/タイマ4/タイマ6)
 "0"書き込み: 上位タイム(タイマ1/タイマ3/タイマ5/タイマ7)
 読み出し: 可能

TOUT信号に下位タイム(タイマ0/タイマ2/タイマ4/タイマ6)の出力を使用するか、上位タイム(タイマ1/タイマ3/タイマ5/タイマ7)の出力を使用するか選択します。このレジスタに"0"を書き込んだ場合は下位タイムの出力、"1"を書き込んだ場合は上位タイムの出力がそれぞれ選択されます。

16ビットタイムモード時は、このレジスタの設定にかかわらず常に上位タイムの出力が選択されます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

PTSEL0: タイマ0 PWMモード選択レジスタ (FF81H・D2)
 PTSEL1: タイマ1 PWMモード選択レジスタ (FF81H・D3)
 PTSEL2: タイマ2 PWMモード選択レジスタ (FF91H・D2)
 PTSEL3: タイマ3 PWMモード選択レジスタ (FF91H・D3)
 PTSEL4: タイマ4 PWMモード選択レジスタ (FFA1H・D2)
 PTSEL5: タイマ5 PWMモード選択レジスタ (FFA1H・D3)
 PTSEL6: タイマ6 PWMモード選択レジスタ (FFB1H・D2)
 PTSEL7: タイマ7 PWMモード選択レジスタ (FFB1H・D3)
 タイマxをPWM出力用に設定します。

"1"書き込み: PWM出力
 "0"書き込み: 通常出力
 読み出し: 可能

PTSELxに"1"を書き込むとコンペアデータレジスタが有効となり、アンダーフロー信号とコンペアマッチ信号を使用してPWM波形が生成されます。"0"を書き込んだ場合、アンダーフロー信号のみを使用した通常のパルス出力が行われます。16ビットタイマモード場合、下位タイマ(タイマ0/タイマ2/タイマ4/タイマ6)のPTSELレジスタの設定は無効となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

PTRUN0: タイマ0 RUN/STOP制御レジスタ (FF82H・D0)
 PTRUN1: タイマ1 RUN/STOP制御レジスタ (FF82H・D2)
 PTRUN2: タイマ2 RUN/STOP制御レジスタ (FF92H・D0)
 PTRUN3: タイマ3 RUN/STOP制御レジスタ (FF92H・D2)
 PTRUN4: タイマ4 RUN/STOP制御レジスタ (FFA2H・D0)
 PTRUN5: タイマ5 RUN/STOP制御レジスタ (FFA2H・D2)
 PTRUN6: タイマ6 RUN/STOP制御レジスタ (FFB2H・D0)
 PTRUN7: タイマ7 RUN/STOP制御レジスタ (FFB2H・D2)

カウンタのRUN/STOPを制御します。

"1"書き込み: RUN
 "0"書き込み: STOP
 読み出し: 可能

タイマxのカウントはPTRUNxに"1"を書き込むことによってダウンカウントを開始し、"0"の書き込みにより停止します。

STOP状態ではリセットか次にRUN状態にするまで、カウンタのデータは保持されます。また、STOP状態からRUN状態にすることによって、保持していたデータから継続してカウントを進めることができます。

16ビットタイマモード場合、上位タイマ(タイマ1/タイマ3/タイマ5/タイマ7)のPTRUNレジスタの設定は無効となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

PTRST0: タイマ0リセット(リロード) (FF82H・D1)
 PTRST1: タイマ1リセット(リロード) (FF82H・D3)
 PTRST2: タイマ2リセット(リロード) (FF92H・D1)
 PTRST3: タイマ3リセット(リロード) (FF92H・D3)
 PTRST4: タイマ4リセット(リロード) (FFA2H・D1)
 PTRST5: タイマ5リセット(リロード) (FFA2H・D3)
 PTRST6: タイマ6リセット(リロード) (FFB2H・D1)
 PTRST7: タイマ7リセット(リロード) (FFB2H・D3)

タイマをリセットし、リロードデータをカウンタにプリセットします。

"1"書き込み: リセット
 "0"書き込み: ノーオペレーション
 読み出し: 常時"0"

PTRSTxに"1"を書き込むことによって、RLDx0 ~ RLDx7のリロードデータがタイマxのカウンタにプリセットされます。カウンタがRUN状態のときにプリセットを行うとリロードデータのプリセット直後にリスタートします。また、STOP状態の場合はプリセットされたリロードデータがそのまま保持されます。

"0"の書き込みはノーオペレーションとなります。

16ビットタイマモード場合もPTRSTxはすべて有効で、リロードデータは上位タイマ(タイマ1/タイマ3/タイマ5/タイマ7)と下位タイマ(タイマ0/タイマ2/タイマ4/タイマ6)それぞれにプリセットする必要があります。

PTRSTxは書き込み専用のため、読み出し時は常時"0"となります。

RLD00 ~ RLD07: タイマ0リロードデータレジスタ(FF84H, FF85H)

RLD10 ~ RLD17: タイマ1リロードデータレジスタ(FF86H, FF87H)

RLD20 ~ RLD27: タイマ2リロードデータレジスタ(FF94H, FF95H)

RLD30 ~ RLD37: タイマ3リロードデータレジスタ(FF96H, FF97H)

RLD40 ~ RLD47: タイマ4リロードデータレジスタ(FFA4H, FFA5H)

RLD50 ~ RLD57: タイマ5リロードデータレジスタ(FFA6H, FFA7H)

RLD60 ~ RLD67: タイマ6リロードデータレジスタ(FFB4H, FFB5H)

RLD70 ~ RLD77: タイマ7リロードデータレジスタ(FFB6H, FFB7H)

カウンタの初期値を設定します。

本レジスタに設定したリロードデータがそれぞれのカウンタにロードされ、それを初期値としてダウンカウンタが行われます。

リロードデータがカウンタにロードされる条件はPTRSTxに"1"を書き込んでプリセットを行う場合と、カウンタのアンダーフローによって自動的にリロードが行われる場合です。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"00H"に設定されます。

PTD00 ~ PTD07: タイマ0カウンタデータ(FF88H, FF89H)

PTD10 ~ PTD17: タイマ1カウンタデータ(FF8AH, FF8BH)

PTD20 ~ PTD27: タイマ2カウンタデータ(FF98H, FF99H)

PTD30 ~ PTD37: タイマ3カウンタデータ(FF9AH, FF9BH)

PTD40 ~ PTD47: タイマ4カウンタデータ(FFA8H, FFA9H)

PTD50 ~ PTD57: タイマ5カウンタデータ(FFAAH, FFABH)

PTD60 ~ PTD67: タイマ6カウンタデータ(FFB8H, FFB9H)

PTD70 ~ PTD77: タイマ7カウンタデータ(FFBAH, FFB BH)

プログラマブルタイマのデータが読み出せます。

タイマxのカウンタデータの下位4ビットがPTDx0 ~ PTDx3、上位4ビットがPTDx4 ~ PTDx7から読み出せます。下位4ビットの読み出しにより上位4ビットのホールド機能が働きますので、読み出しは必ず下位4ビットから先に行ってください。16ビットタイマモードの場合も、下位4ビットの読み出しにより上位12ビットのホールド機能が働きますので、読み出しは必ず下位4ビットから先に行ってください。本ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。

イニシャルリセット時、各カウンタデータは"00H"に設定されます。

CD00 ~ CD07: タイマ0コンペアデータレジスタ(FF8CH, FF8DH)

CD10 ~ CD17: タイマ1コンペアデータレジスタ(FF8EH, FF8FH)

CD20 ~ CD27: タイマ2コンペアデータレジスタ(FF9CH, FF9DH)

CD30 ~ CD37: タイマ3コンペアデータレジスタ(FF9EH, FF9FH)

CD40 ~ CD47: タイマ4コンペアデータレジスタ(FFACH, FFADH)

CD50 ~ CD57: タイマ5コンペアデータレジスタ(FFAEH, FFAFH)

CD60 ~ CD67: タイマ6コンペアデータレジスタ(FFBCH, FFB DH)

CD70 ~ CD77: タイマ7コンペアデータレジスタ(FFBEH, FFB FH)

PWM出力用のコンペアデータを設定します。

タイマをPWMモードに設定すると、本レジスタに設定したコンペアデータがカウンタのデータと比較され、一致した場合にコンペアマッチ信号が出力されます。その信号により割り込みが発生するとともにPWM波形のデューティ比が制御されます。

イニシャルリセット時、これらレジスタは"00H"に設定されます。

EIPT0, EICTC0: タイマ0割り込みマスクレジスタ (FFE2H・D1, D0)
 EIPT1, EICTC1: タイマ1割り込みマスクレジスタ (FFE3H・D1, D0)
 EIPT2, EICTC2: タイマ2割り込みマスクレジスタ (FFE4H・D1, D0)
 EIPT3, EICTC3: タイマ3割り込みマスクレジスタ (FFE5H・D1, D0)
 EIPT4, EICTC4: タイマ4割り込みマスクレジスタ (FFE6H・D1, D0)
 EIPT5, EICTC5: タイマ5割り込みマスクレジスタ (FFE7H・D1, D0)
 EIPT6, EICTC6: タイマ6割り込みマスクレジスタ (FFE8H・D1, D0)
 EIPT7, EICTC7: タイマ7割り込みマスクレジスタ (FFE9H・D1, D0)
 プログラマブルタイムの割り込みについて、マスクするかしないかを選択します。

"1"書き込み: イネーブル
 "0"書き込み: マスク
 読み出し: 可能

EIPTx, EICTCxはそれぞれタイマxのアンダーフロー、コンペアマッチの割り込み要因に対応する割り込みマスクレジスタで、"1"に設定した割り込みが許可され、"0"に設定した割り込みが禁止されます。
 イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

IPT0, ICTC0: タイマ0割り込み要因フラグ (FFF2H・D1, D0)
 IPT1, ICTC1: タイマ1割り込み要因フラグ (FFF3H・D1, D0)
 IPT2, ICTC2: タイマ2割り込み要因フラグ (FFF4H・D1, D0)
 IPT3, ICTC3: タイマ3割り込み要因フラグ (FFF5H・D1, D0)
 IPT4, ICTC4: タイマ4割り込み要因フラグ (FFF6H・D1, D0)
 IPT5, ICTC5: タイマ5割り込み要因フラグ (FFF7H・D1, D0)
 IPT6, ICTC6: タイマ6割り込み要因フラグ (FFF8H・D1, D0)
 IPT7, ICTC7: タイマ7割り込み要因フラグ (FFF9H・D1, D0)
 プログラマブルタイム割り込みの発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: 割り込み有
 "0"読み出し: 割り込み無
 "1"書き込み: 要因フラグをリセット
 "0"書き込み: 無効

IPTx, ICTCxはそれぞれタイマxのアンダーフロー、コンペアマッチの割り込みに対応する割り込み要因フラグで、それぞれの要因の発生により"1"にセットされます。

アンダーフロー割り込み要因は、カウンタがアンダーフローしたところで発生します。

コンペアマッチ割り込み要因は、タイマをPWMモードに設定している場合にカウンタのデータとコンペアデータが一致すると発生します。

これらのフラグによってプログラマブルタイム割り込みの有無を、ソフトウェアで判断することができます。
 ただし、これらのフラグは割り込みをマスクしていても、対応するタイマのアンダーフロー/コンペアマッチで"1"にセットされます。

これらのフラグは、"1"を書き込むことによって"0"にリセットされます。

割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(フラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

イニシャルリセット時、これらのフラグは"0"に設定されます。

4.9.11 プログラミング上の注意事項

- (1) カウントデータの読み出しは必ず下位4ビット(PTDx0 ~ PTDx3)から先に行ってください。下位4ビットの読み出し時に上位4ビット(PTDx4 ~ PTDx7)がラッチされ、次に下位4ビットを読み出すまでホールドされます。16ビットタイマモード時も同様に、下位4ビットの読み出しにより上位12ビットがホールドされますので、下位4ビットから先に読み出してください。なお、CPU(システムクロック)をOSC1クロック、各タイマのカウントクロックをOSC3クロックで動作させている場合により正確なカウント値を読み出すためには、タイマを一時停止させてからカウンタデータを読み出すことを推奨します。
- (2) タイマモードではPTRUNxへの書き込み後、入力クロックの立ち下がりエッジに同期して実際にRUN/STOP状態となります。したがって、PTRUNxに"0"を書き込んだ場合は、"-1"余分にカウントしたところでタイマが停止状態となります。また、このときPTRUNxは実際にタイマがSTOP状態となるまで、読み出しに対して"1"を保持します。

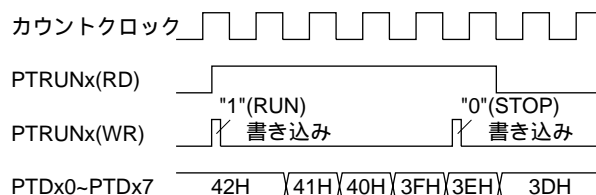


図4.9.11.1 RUN/STOP制御のタイミングチャート(タイマモード時)

イベントカウントモード時は、最初のイベントクロックからタイマはカウントダウンします。

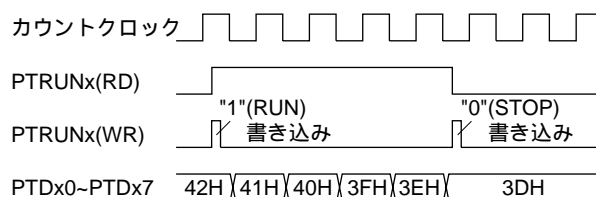


図4.9.11.2 RUN/STOP制御のタイミングチャート(イベントカウンタモード時)

- (3) TOUT_A ~ TOUT_D信号は出力制御レジスタPTOUT_A ~ PTOUT_Dとは非同期に発生していますので、PTOUT_A ~ PTOUT_Dの設定による信号のON/OFF時には1/2サイクル以内のハザードが生じます。
- (4) OSC3発振回路を原振とする場合は、プログラマブルタイマを使用する以前にOSC3発振回路をONさせる必要があります。
ただし、OSC3発振回路をONにしてから発振が安定するまでに5msec以上の時間を必要とします。したがって、プログラマブルタイマのカウント開始はOSC3発振ON後、十分な待ち時間をおいてから行ってください。OSC3の制御方法と注意事項については"4.4 発振回路"を参照してください。イニシャルリセット時、OSC3発振回路はOFF状態に設定されます。
- (5) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

- (6) プログラマブルタイマ動作中にプログラマブルタイマ割り込み発生間隔を変更する場合、以下の理由によりリロードデータを書き込むタイミングに注意が必要です。

プログラマブルタイマは入力クロックの立ち下がりエッジでダウンカウントを行い、そこでアンダーフローが発生した場合は同時に割り込みを発生します。その後、リロードデータをカウンタにセットする動作を開始し、入力クロックの次の立ち上がりエッジでカウンタデータが確定します(の区間)

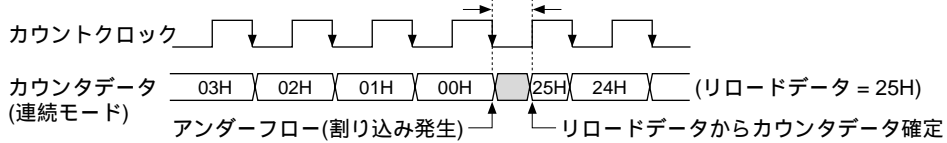


図4.9.11.3 プログラマブルタイマリロードタイミング

リロードデータを正しくカウンタにセットするために、割り込み発生後は の区間を含め、カウンタデータが確定するまではリロードデータの書き換えを行わないでください。入力クロックの源振にOSC1(低速クロック)を使用し、CPUがOSC3(高速クロック)で動作している場合は、特に注意が必要です。

- (7) プログラマブルタイマのカウンタクロックとCPUのクロックは非同期に動作しているため、カウンタデータの読み出しとカウントアップ動作のタイミングによっては、正しい値が得られない可能性があります。これを防ぐには、以下に示すいずれかの方法でプログラマブルタイマのカウンタデータを読み出してください。

- カウンタデータを2度続けて読み出して、データが正しいことを(2つが大きくずれていないことを)確認してください。
- 正確なカウンタデータが必要な場合には、プログラマブルタイマを一旦停止させてから読み出してください。

4.10 シリアルインタフェース

4.10.1 シリアルインタフェースの構成

S1C6F632はクロック同期型の8ビットシリアルインタフェースを内蔵しています。

CPUはSIN端子より入力されたシリアルデータを8ビットのシフトレジスタを介して読み取ることができます。また、同じ8ビットのシフトレジスタを介してパラレルデータをシリアル変換し、SOUT端子に出力することができます。

シリアルデータを入出力するための同期クロックは、マスタモード(内部クロックモード: 本CPUがシリアル入出力のマスタとなる場合)とスレーブモード(外部クロックモード: 本CPUがシリアル入出力のスレーブとなる場合)の種類の中から1つをソフトウェアにより選択できます。

図4.10.1.1にシリアルインタフェースの構成を示します。

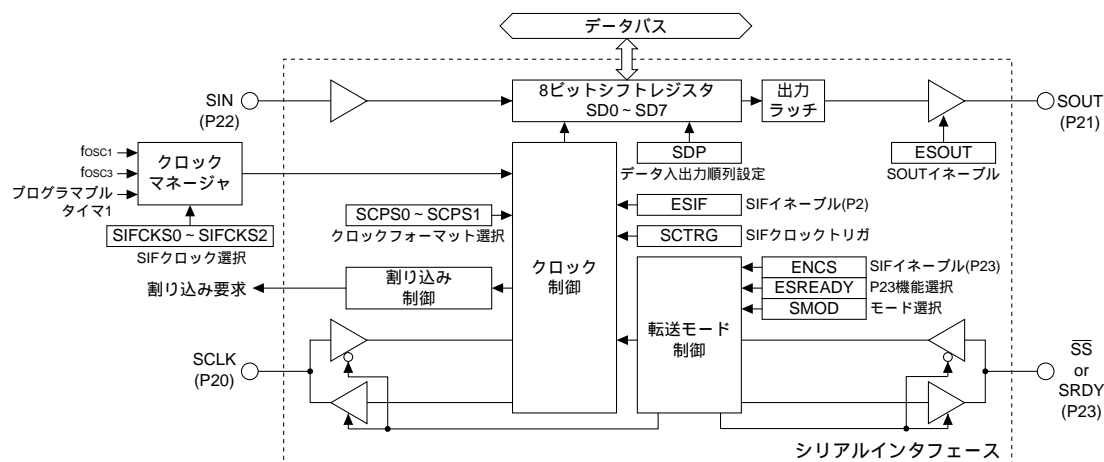


図4.10.1.1 シリアルインタフェースの構成

4.10.2 シリアル入出力端子

シリアルインタフェースで使用する端子と機能は、以下のとおりです。

SCLK(P20)

シリアルクロックを入出力します。ESIFレジスタに"1"を書き込んでシリアルインタフェースを有効にすると、P20端子がSCLK端子に切り換わります。マスタモードではSCLK端子が出力端子となり、データ転送時はIC内部で生成した同期クロックを出力します。スレーブモードでは、外部マスタデバイスが出力する同期クロックをSCLK端子から入力して動作します。

SIN(P22)

シリアルデータを入力します。ESIFレジスタに"1"を書き込んでシリアルインタフェースを有効にすると、P22端子がSIN端子に切り換わります。

SOUT(P21)

シリアルデータを出力します。ESIFレジスタに"1"を書き込んで、初期設定ではSOUT端子が有効になりません。SOUT出力を使用するには、ESOUTレジスタに"1"を書き込みます。シリアル入力のみを行う場合は、P21端子を入出力兼用ポート端子として使用することができます。

SRDY(P23)

スレーブモード時に、本シリアルインタフェースが送受信可能なことを示すSRDY信号をマスタデバイスに出力します。スレーブモードに設定した場合でも、初期状態ではSRDY端子が有効になりません。スレーブモード時のSRDY出力を使用するには、ENCSとESREADYに"1"を書き込みます。

SS(P23)

S1C6F632をSPIスレーブデバイスとして使用する場合に、 \overline{SS} (スレーブセレクト) 信号を入力します。 \overline{SS} 入力を使用するには、ENCSに"1"を、ESREADYに"0"を書き込みます。

シリアルインタフェースの入出力ポートは入出力兼用ポート(P20～P23)と兼用されており、イニシャルリセット時はすべて入出力兼用ポート端子に設定されます。シリアルインタフェースとして使用する場合はソフトウェアによって上記のとおり機能の切り換えを行います。最低でもESIFを"1"に設定する必要があります。切り換え操作によって、端子の入出力方向は自動的に設定されます。入出力兼用ポートの制御レジスタを操作する必要はありません。入出力兼用ポートのI/O制御レジスタやデータレジスタは端子の状態に影響を与えない汎用レジスタになります。ただし、シリアル入力に使用する端子に対応した入出力兼用ポートのプルアップ制御レジスタと入力インタフェースレベル選択レジスタはシリアル入力として使用する場合も有効です。

4.10.3 マスクオプション

シリアルインタフェースの入出力端子は入出力兼用ポート(P20～P23)と兼用されているため、入出力兼用ポートの端子仕様を選択するマスクオプションがシリアルインタフェースにも適用されます。

カスタムマスクオプション

シリアルインタフェースの入出力ポートの中で出力として使用されるSOUT端子、SCLK端子(マスタモード時)、SRDY端子(スレーブモード時)の出力仕様がそれぞれP21、P20、P23のマスクオプションで設定されます。出力仕様として、コンプリメンタリ出力またはPチャンネルオープンドレイン出力のいずれかが選択できます。ただし、Pチャンネルオープンドレイン出力を選択した場合でも、端子に電源電圧を超える電圧を印加することは禁止します。

また、入力として使用されるSIN端子、SCLK端子(スレーブモード時)、SS端子(SPIスレーブモード時)へのプルダウン抵抗の付加をP22、P20、P23のマスクオプションで選択できます。"プルダウンなし"を選択した場合には、フローティング状態が発生しないように注意してください。

標準マスクオプション(Type B、Type E、Type G)

各入出力兼用ポートの出力仕様はコンプリメンタリ出力に固定されています。

また、プルダウン抵抗もすべての端子に内蔵されています。

したがって、シリアルインタフェースの入出力ポートの中で出力として使用されるSOUT端子、SCLK端子(マスタモード時)、SRDY端子(スレーブモード時)の出力仕様はコンプリメンタリ出力のみとなります。また、入力として使用されるSIN端子、SCLK端子(スレーブモード時)、SS端子(SPIスレーブモード時)はプルダウン抵抗付きとなります。

プルダウン抵抗付加時のプルダウン制御

シリアル入力端子にプルダウン抵抗を付加した場合、プルダウンのON/OFF制御は入出力兼用ポートのプルダウン制御レジスタで行います。

SIN端子: PUL22レジスタ

SCLK端子: PUL20レジスタ

SS端子: PUL23レジスタ

制御の詳細については、"4.5 入出力兼用ポート"を参照してください。

4.10.4 シリアルインタフェースの動作モード

本シリアルインタフェースはマスタモード、スレーブモード、SPIスレーブモードの3種類の動作モードを持っています。

マスタモード

マスタモードはS1C6F632をシリアル転送のマスタデバイスとして使用するためのモードです。このモードでは、クロックマネージャより供給される内部クロックをシリアル転送用の同期クロックとして使用します。このクロックはSCLK(P20)端子からスレーブデバイスにも出力されます。スレーブデバイスからのレディ信号は、入出力兼用ポート(入力モード)から入力してソフトウェアで処理します。このモードに設定したS1C6F632をSPIマスタデバイスとして使用することもできます。その場合の \overline{SS} (スレーブセレクト)信号は入出力兼用ポート(出力モード)をソフトウェアで制御して出力します。

スレーブモード

スレーブモードはS1C6F632をシリアル転送のスレーブデバイスとして使用するためのモードです。このモードでは、外部マスタデバイスから送られる同期クロックをSCLK端子から入力してデータ転送を行います。データ転送は外部マスタデバイスによって制御されるため、本シリアルインタフェースが送受信可能なことを示すレディ信号をハードウェア制御によりSRDY端子から出力することができます。

SPIスレーブモード

SPIスレーブモードはS1C6F632をSPIスレーブデバイスとして使用するためのモードです。このモードでは、外部マスタデバイスから送られる同期クロックをSCLK端子から入力してデータ転送を行います。SPIでは、マスタデバイスが転送を行うスレーブデバイスを \overline{SS} (スレーブセレクト)信号により選択します。SPIスレーブモードではこの \overline{SS} 信号の入力に対応しています。

基本的なシリアル入出力部の接続例を図4.10.4.1に示します。

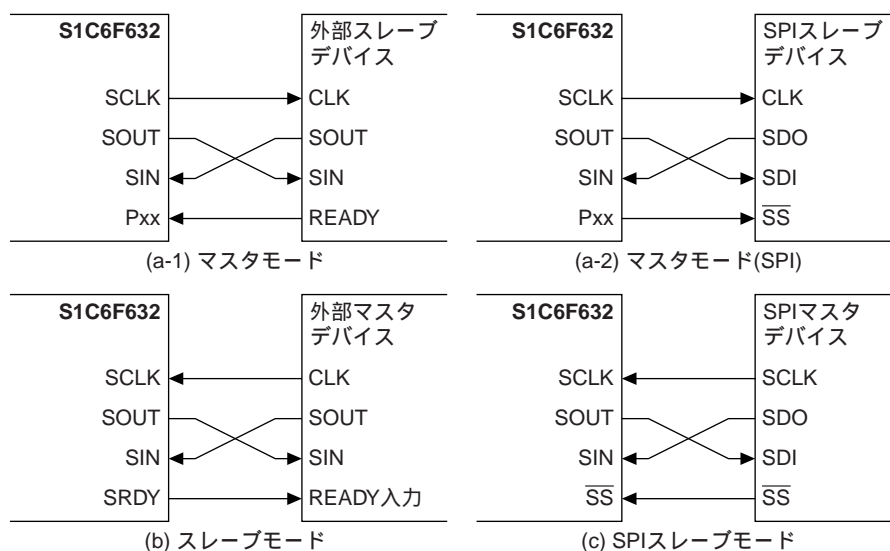


図4.10.4.1 基本的なシリアル入出力部の接続例

モードの設定には、SMOD、ENCS、ESREADYレジスタを使用します。

マスタモード: SMOD="1"、ENCS="0"、ESREADY="0"

スレーブモード: SMOD="0"、ENCS="1"、ESREADY="1"

SPIスレーブモード: SMOD="0"、ENCS="1"、ESREADY="0"

表4.10.4.1にモード設定と使用する端子構成の組み合わせを示します。

表4.10.4.1 モード設定とシリアルインタフェース端子の構成

ESIF	SMOD	ENCS	ESREADY	ESOUT	モード	P20端子	P21端子	P22端子	P23端子
1	1	1	1	*	マスタモード	設定禁止			
1	1	*	0	1		SCLK(O)	SOUT(O)	SIN(I)	P23(I/O)
1	1	0	1	1		SCLK(O)	SOUT(O)	SIN(I)	P23(I/O)
1	1	*	0	0		SCLK(O)	P21(I/O)	SIN(I)	P23(I/O)
1	1	0	1	0		SCLK(O)	P21(I/O)	SIN(I)	P23(I/O)
1	0	1	1	1	スレーブモード	SCLK(I)	SOUT(O)	SIN(I)	SRDY(O)
1	0	1	1	0		SCLK(I)	P21(I/O)	SIN(I)	SRDY(O)
1	0	0	*	1		SCLK(I)	SOUT(O)	SIN(I)	P23(I/O)
1	0	0	*	0		SCLK(I)	P21(I/O)	SIN(I)	P23(I/O)
1	0	1	0	1	SPIスレーブモード	SCLK(I)	SOUT(O)	SIN(I)	SS(I)
1	0	1	0	0		SCLK(I)	P21(I/O)	SIN(I)	SS(I)
0	*	*	*	*	シリアルI/F未使用	P20(I/O)	P21(I/O)	P22(I/O)	P23(I/O)

4.10.5 同期クロックの設定

クロックマネージャの制御

マスタモードで使用する場合、シリアルインタフェースはクロックマネージャから送られる内部クロックを同期クロックとして使用し、データ転送を行います。クロックマネージャはOSC1とOSC3を分周して6種類のシリアルインタフェース用クロックを生成します。これとプログラマブルタイマ1の出力クロックを合わせた7種類の中からマスタモードで使用するクロックを選択できるようになっています。

選択は、表4.10.5.1に示すとおり、SIFCKS0～SIFCKS2レジスタによって行います。

表4.10.5.1 シリアルインタフェースのクロック周波数

SIFCKS2	SIFCKS1	SIFCKS0	SIFクロック(マスタモード)
1	1	1	fosc3 / 4 *
1	1	0	fosc3 / 2 *
1	0	1	fosc3 / 1 *
1	0	0	プログラマブルタイマ1 *
0	1	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	0	1	fosc1 / 1 (32kHz)
0	0	0	OFF (スレーブモード) *

fosc1: OSC1発振周波数、()内の周波数は、fosc1=32kHzの場合

fosc3: OSC3発振周波数

* クロック周波数は最大1MHzに制限されます。

プログラマブルタイマ1を選択した場合は、プログラマブルタイマ1のアンダーフロー信号を1/2に分周した信号が同期クロックとして使用されます。この場合、シリアルインタフェースを動作させる前にプログラマブルタイマの制御が必要です。プログラマブルタイマについては"4.9 プログラマブルタイマ"を参照してください。

スレーブモード時はSIFCKS0～SIFCKS2を"000B"に固定してください。

イニシャルリセット時は内部クロックOFF(スレーブモード)が選択されます。

同期クロックフォーマットの選択

シリアルインタフェースの同期クロックフォーマット(極性とフェーズ)をSCPS0～SCPS1レジスタによって選択することができます。

表4.10.5.2 同期クロックフォーマットの選択

SCPS1	SCPS0	極性	フェーズ
1	1	負極性(SCLK)	立ち上がりエッジ(┐)
1	0	負極性(SCLK)	立ち下がりエッジ(┘)
0	1	正極性(SCLK)	立ち下がりエッジ(┘)
0	0	正極性(SCLK)	立ち上がりエッジ(┐)

イニシャルリセット時、クロック極性は正極性、フェーズは"立ち上がりエッジ"に設定されます。

同期クロックフォーマットの選択によるデータ送受信タイミングについては、図4.10.6.2を参照してください。

4.10.6 データの入出力と割り込み

S1C6F632のシリアルインタフェースは、内部の8ビットシフトレジスタを介してデータの入出力をすることができます。シフトレジスタのシフト動作は、SCLK(P20)端子より出力される(マスタモード)同期クロックか、SCLK(P20)端子に入力される(スレーブモード)同期クロックに同期して動作します。

シリアルインタフェースは8ビットのシリアルデータの入出力が終了すると割り込みを発生します。シリアルデータの入出力の検出は同期クロックSCLKをカウントすることで行っており、クロックが8個(8周期分)カウントされた時点で終了と判断して割り込みを発生します。

以下にシリアルデータの入出力方法について説明します。

シリアルデータの出力と割り込み

S1C6F632のシリアルインタフェースは8ビット単位でパラレルデータをシリアル出力することができます。パラレルデータをデータレジスタSD0～SD3とSD4～SD7にセットし、SCTRGビットを"1"にセットすると、同期クロックに同期してSOUT(P21)端子にシリアルデータが出力されます。このとき、同期クロックはマスタモードでは内部クロックがSCLK(P20)端子に出力され、スレーブモードでは外部クロックがSCLK(P20)端子より入力されます。

データのシフトタイミングは次のとおりです。

- 同期クロックに正極性(SCPS1 = "0")を選択した場合
SOUT(P21)端子のシリアル出力はSCLK(P20)端子から入力、または出力されるクロックの立ち上がりエッジで変化します。また、シフトレジスタのデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち上がりでシフトし、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち下がりでシフトします。
- 同期クロックに負極性(SCPS1 = "1")を選択した場合
SOUT(P21)端子のシリアル出力はSCLK(P20)端子から入力、または出力されるクロックの立ち下がりエッジで変化します。また、シフトレジスタのデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち下がりでシフトし、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち上がりでシフトします。

SD0からSD7までの8ビットのデータを出力し終わると割り込み要因フラグISIFがセットされ、割り込みが発生します。なお、割り込みマスクレジスタEISIFによって割り込みを禁止することもできます。ただし、割り込み要因フラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、8ビットデータの出力後"1"にセットされます。

シリアルデータの入力と割り込み

S1C6F632のシリアルインタフェースは8ビット単位でシリアルデータをパラレルデータとして入力することができます。

シリアルデータはSIN(P22)端子より入力され、同期クロックに同期してCPU内部の8ビットシフトレジスタに順次取り込まれます。同期クロックは、マスタモードでは内部クロックが使われ、スレーブモードでは外部クロックが使われます。

データのシフトタイミングは次のとおりです。

- 同期クロックに正極性(SCPS1 = "0")を選択した場合
内蔵シフトレジスタへのシリアルデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち上がりで取り込まれ、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち下がりで取り込まれます。シリアルデータが取り込まれるとともに、シフトレジスタ内のデータは順次シフトされます。
- 同期クロックに負極性(SCPS1 = "1")を選択した場合
内蔵シフトレジスタへのシリアルデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち下がりで取り込まれ、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち上がりで取り込まれます。シリアルデータが取り込まれるとともに、シフトレジスタ内のデータは順次シフトされます。

SD0からSD7までの8ビットのデータを入力し終わると割り込み要因フラグISIFがセットされ、割り込みが発生します。なお、割り込みマスクレジスタEISIFによって割り込みを禁止することもできます。ただし、割り込み要因フラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、8ビットデータの入力後"1"にセットされます。シフトレジスタに入力されたデータは、レジスタSD0～SD7からソフトウェアによって読み出すことができます。

シリアルデータの入出力順序

S1C6F632では、シリアルデータをLSB先頭で入出力するかMSB先頭で入出力するかSDレジスタにより切り換えることができます。LSBを先頭にした場合とMSBを先頭にした場合のブロック図を図4.10.6.1に示します。SDPの設定はSD0～SD7にデータを設定する前に行ってください。



図4.10.6.1 シリアルデータの入出力順序

SRDY信号

S1C6F632のシリアルインタフェースをスレーブモードで使用する場合には、マスタ側(外部の)シリアル入出力回路に対して本シリアルインタフェースが送受信可能かどうかを伝えるためのSRDY信号をSRDY(P23)端子より出力することができます。

SRDY出力を使用するには、ENCsとESREADYに"1"を書き込みます(SPIスレーブモードでは、この機能は使用できません)。

SRDY信号の出力タイミングは次のとおりです。

- 同期クロックに正極性(SCPS1 = "0")を選択した場合
 SRDY信号はS1C6F632のシリアル入出力回路が送信または受信可能な状態になったときに"1"(HIGH)となり、通常は"0"(LOW)となっています。
 SRDY信号はSCTRGに"1"を書き込んだ直後に"0"から"1"に変化し、SCLK(P20)端子に"1"が入力されると送信または受信を開始すると"1"から"0"に戻ります。
 また、シフトレジスタの上位ワード(SD4～SD7)に対してデータを読み出した、書き込んだりするとSRDY信号は"0"に戻ります。
- 同期クロックに負極性(SCPS1 = "1")を選択した場合
 SRDY信号はS1C6F632のシリアル入出力回路が送信または受信可能な状態になったときに"0"(LOW)となり、通常は"1"(HIGH)となっています。
 SRDY信号はSCTRGに"1"を書き込んだ直後に"1"から"0"に変化し、SCLK(P20)端子に"0"が入力されると送信または受信を開始すると"0"から"1"に戻ります。
 また、シフトレジスタの上位ワード(SD4～SD7)に対してデータを読み出した、書き込んだりするとSRDY信号は"1"に戻ります。

タイミングチャート

S1C6F632のシリアルインタフェースのタイミングチャートを図4.10.6.2に示します。

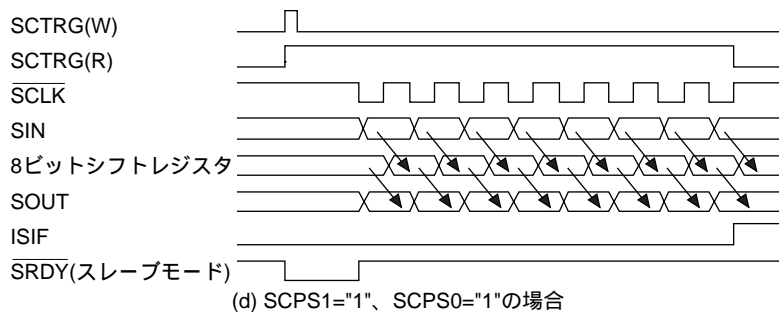
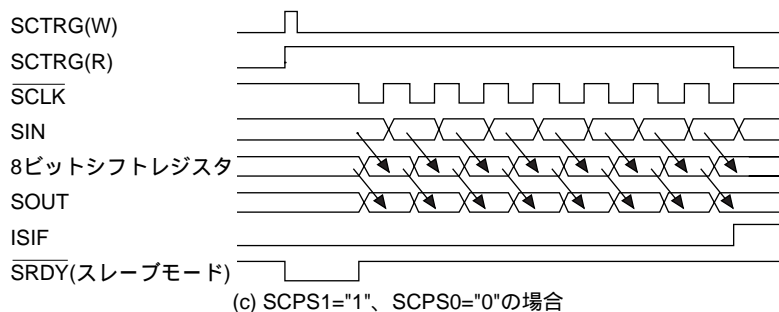
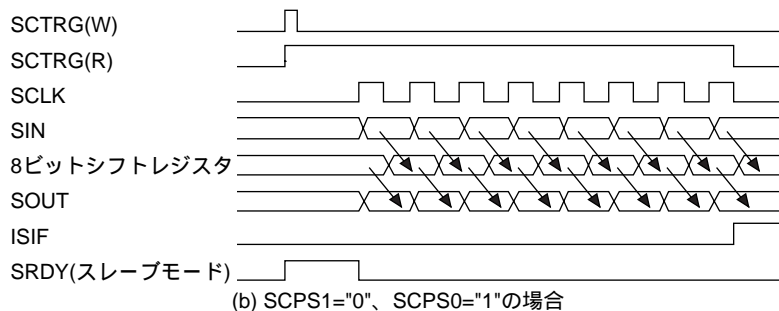
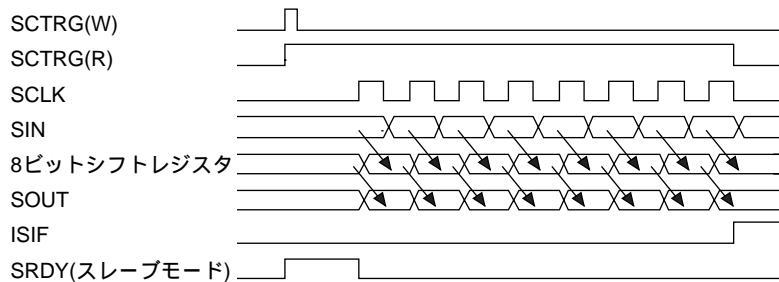


図4.10.6.2 シリアルインタフェースのタイミングチャート

4.10.7 SPI方式のデータ転送

本シリアルインタフェースはSPI方式のシリアルデータ転送にも対応可能です。

P23を \overline{SS} 端子に設定した場合にSRDY出力が使用できなくなることを除き、シリアルインタフェースのマスタモード、スレーブモードの機能はそのまま使用可能です。また、制御方法も同じです。これらの共通な内容については、"4.10.4 シリアルインタフェースの動作モード"および"4.10.6 データの入出力と割り込み"を参照してください。

SPIスレーブデバイスとして使用する場合

S1C6F632をSPIスレーブデバイスとして使用する場合は、本シリアルインタフェースをSPIスレーブモードに設定します。

ESIF="1"、SMOD="0"、ENCs="1"、ESREADY="0"、ESOUT="1"(SOUT使用時)

P23端子が \overline{SS} (スレーブセレクト)信号入力端子として機能します。

このモードで送受信を行うには、前述のスレーブモードと同じように、SCTRGに"1"を書き込んで本シリアルインタフェースを送受信可能状態に設定しておきます。外部マスタデバイスがスレーブセレクト信号(\overline{SS} (P23)端子)を入力をアクティブ(LOW)にした後に同期クロックの出力(SCLK端子)を入力を開始すると、本シリアルインタフェースは送受信動作を開始します。外部マスタデバイスはデータ入出力期間中、S1C6F632の \overline{SS} (P23)端子をアクティブにしておく必要があります。 \overline{SS} 信号がインアクティブの状態でも外部マスタデバイスからSCLK端子に同期クロックが入力されても、本シリアルインタフェースは送受信を開始しません。

SPIマスタデバイスとして使用する場合

S1C6F632をSPIマスタデバイスとして使用する場合は、本シリアルインタフェースをマスタモードに設定します。

ESIF="1"、SMOD="1"、ENCs="0"、ESREADY="0"、ESOUT="1"(SOUT使用時)

マスタモードでは \overline{SS} 信号出力端子が設定されませんので、任意の入出力兼用ポート端子1つを出力モードに設定し、 \overline{SS} 信号出力端子として使用してください。 \overline{SS} 信号出力はSCTRGに"1"を書き込む前にLOWにし、データ入出力期間中はLOWを保持します。8ビットのデータ入出力を終了後、 \overline{SS} 信号出力をHIGHにします。

タイミングチャート

SPI方式のデータ送受信タイミングチャートを図4.10.7.1に示します。

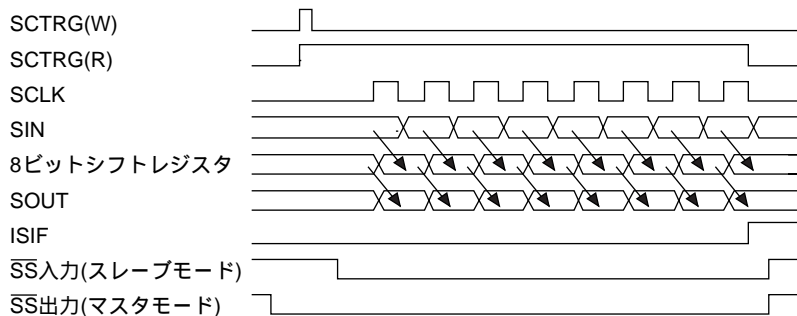


図4.10.7.1 SPI方式のタイミングチャート(SCPS1 = SCPS0 = "0"の場合)

- 注:
- S1C6F632のシリアルインタフェースは送信バッファおよび受信バッファを持っていませんので、1バイトの送受信ごとにデータを処理する必要があります。割り込み要因フラグは1バイトの送受信完了後にセットされますので、SPIデバイスとのデータ送受信開始をトリガとする割り込み処理はできません。
 - SPIスレーブモードでデータ送受信中に \overline{SS} 入力がインアクティブになった場合や、 \overline{SS} 入力がアクティブになる前にマスタデバイスがSCLK信号を出力した場合、本シリアルインタフェースは正常にデータを送受信することはできません。

4.10.8 シリアルインタフェースのI/Oメモリ

表4.10.8.1にシリアルインタフェースの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.10.8.1 シリアル入出力ポートの制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FF14H	General	SIFCKS2	SIFCKS1	SIFCKS0	General	0	1	0	汎用レジスタ シリアルI/F クロック 周波数選択
		SIFCKS2	SIFCKS1	SIFCKS0	SIFCKS2	0			
	R/W				SIFCKS1	0			
					SIFCKS0	0			
FF2AH	PUL23	PUL22	PUL21	PUL20	PUL23	1	On	Off	P23ブルダウン制御レジスタ SIF(スレープ、SS端子)選択時、SSブルダウン制御レジスタ SIF(スレープ、SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用 レジスタとして機能 P22ブルダウン制御レジスタ SIF選択時、SINブルダウン制御レジスタ P21ブルダウン制御レジスタ SIF(SOUTイネーブル)選択時、汎用レジスタとして機能 P20ブルダウン制御レジスタ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能 SIF(スレープ)選択時、SCLK(I)ブルダウン制御レジスタ
	PUL23	PUL22	PUL21	PUL20	PUL22	1	On	Off	
	R/W				PUL21	1	On	Off	
					PUL20	1	On	Off	
FF2BH	SMT23	SMT22	SMT21	SMT20	SMT23	1	Schmitt	CMOS	P23入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(スレープ、SS端子)選択時、SS入力インタフェース レベル選択レジスタ SIF(スレープ、SRDY端子)選択時、FOUT出力時は汎用 レジスタとして機能 P22入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF選択時、SIN入力インタフェースレベル選択レジスタ P21入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(SOUTイネーブル)選択時、汎用レジスタとして機能 P20入力インタフェースレベル選択レジスタ SIF(マスタ)選択時、汎用レジスタとして機能 SIF(スレープ)選択時、SCLK(I)入力インタフェース レベル選択レジスタ
	SMT23	SMT22	SMT21	SMT20	SMT22	1	Schmitt	CMOS	
	R/W				SMT21	1	Schmitt	CMOS	
					SMT20	1	Schmitt	CMOS	
FF58H	0	ESOUT	SCTRG	ESIF	0 *3	- *2			未使用 SOUTイネーブル シリアルI/Fクロックトリガ(書き込み時) シリアルI/Fクロックステータス(読み出し時) シリアルI/Fイネーブル(P2ポート機能選択)
	R	R/W			ESOUT	0	Enable	Disable	
FF59H	SCPS1	SCPS0	SDP	SMOD	SCPS1	0			シリアルI/Fクロック [SCPS1, 0] 極性 正 正 負 負 フォーマット選択 フェーズ 正 正 負 負 シリアルI/Fデータ入出力順列 シリアルI/Fモード選択
	SCPS1	SCPS0	SDP	SMOD	SCPS0	0			
	R/W				SDP	0	MSB first	LSB first	
					SMOD	0	Master	Slave	
FF5AH	0	0	ESREADY	ENCS	0 *3	- *2			未使用 未使用 SIF使用時 P23機能選択 SIFイネーブル (P23ポート機能選択)
	0	0	ESREADY	ENCS	ESREADY	0	SRDY	SS	
	R				ENCS	0	SIF	I/O	
					ENCS	0	SIF	I/O	
FF5BH	SD3	SD2	SD1	SD0	SD3	- *2	High	Low	MSB シリアルI/F送受信データ(下位4ビット) LSB
	SD3	SD2	SD1	SD0	SD2	- *2	High	Low	
	R/W				SD1	- *2	High	Low	
					SD0	- *2	High	Low	
FF5CH	SD7	SD6	SD5	SD4	SD7	- *2	High	Low	MSB シリアルI/F送受信データ(上位4ビット) LSB
	SD7	SD6	SD5	SD4	SD6	- *2	High	Low	
	R/W				SD5	- *2	High	Low	
					SD4	- *2	High	Low	
FFEAH	General	General	General	EISIF	General	0	1	0	汎用レジスタ 汎用レジスタ 汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(シリアルインタフェース)
	General	General	General	EISIF	General	0	1	0	
	R/W				General	0	1	0	
					EISIF	0	Enable	Mask	
FFFAH	0	0	0	ISIF	0 *3	- *2	(R)	(R)	未使用 未使用 未使用 割り込み要因フラグ(シリアルインタフェース)
	0	0	0	ISIF	0 *3	- *2	Yes	No	
	R				0 *3	- *2	(W)	(W)	
					ISIF	0	Reset	Invalid	

*1 イニシャルリセット時の初期値 *2 回路上設定されない *3 読み出し時は常時"0"

SIFCKS0 ~ SIFCKS2: シリアルインタフェースクロック周波数選択レジスタ(FF14H・D0 ~ D2)
マスタモード時の同期クロック周波数を選択します。

表4.10.8.2 シリアルインタフェースのクロック周波数

SIFCKS2	SIFCKS1	SIFCKS0	SIFクロック(マスタモード)
1	1	1	fosc3 / 4 *
1	1	0	fosc3 / 2 *
1	0	1	fosc3 / 1 *
1	0	0	プログラマブルタイマ1 *
0	1	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	0	1	fosc1 / 1 (32kHz)
0	0	0	OFF (スリープモード) *

fosc1: OSC1発振周波数、()内の周波数は、fosc1=32kHzの場合

fosc3: OSC3発振周波数

* クロック周波数は最大1MHzに制限されます。

プログラマブルタイマ1を選択した場合は、プログラマブルタイマ1のアンダーフロー信号を1/2分周した信号が同期クロックとして使用されます。この場合、シリアルインタフェースを動作させる前にプログラマブルタイマの制御が必要です。プログラマブルタイマについては"4.9 プログラマブルタイマ"を参照してください。スリープモード時は"000B"に固定してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"000B"に設定されます。

PUL20: SCLKプルダウン制御レジスタ(FF2AH・D0)

PUL22: SINプルダウン制御レジスタ(FF2AH・D2)

PUL23: SSプルダウン制御レジスタ(FF2AH・D3)

SIN端子、SCLK端子(スリープモード時)、SS端子(SPIスリープモード時)のプルダウンを設定します。

"1"書き込み: プルダウンON

"0"書き込み: プルダウンOFF

読み出し: 可能

SIN(P22) SCLK(P20) SS(P23)端子に内蔵されたプルダウン抵抗をONまたはOFFに設定します。(プルダウン抵抗はマスクオプションで選択したポートのみに付加されます。)

SCLKとSSのプルダウンはスリープモード時またはSPIスリープモード時にのみ有効で、マスタモード時はPUL20とPUL23レジスタを汎用レジスタとして使用することができます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"1"に設定され、プルダウン抵抗はONになります。

SMT20: SCLK入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF2BH・D0)

SMT22: SIN入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF2BH・D2)

SMT23: SS入力インタフェースレベル選択レジスタ(FF2BH・D3)

SIN端子、SCLK端子(スリープモード時)、SS端子(SPIスリープモード時)の入力インタフェースレベルを選択します。

"1"書き込み: CMOSシュミット

"0"書き込み: CMOSレベル

読み出し: 可能

SIN(P22) SCLK(P20) SS(P23)端子の入力インタフェースレベルを設定します。

SCLKとSSの入力インタフェースレベルの設定はスリープモード時またはSPIスリープモード時にのみ有効で、マスタモード時はSMT20とSMT23レジスタを汎用レジスタとして使用することができます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"1"に設定され、入力インタフェースはCMOSシュミットレベルになります。

ESIF: シリアルインタフェースイネーブルレジスタ(P2ポート機能選択)(FF58H・D0)
P20～P23をシリアルインタフェースの入出力ポートに設定します。

"1"書き込み: シリアルインタフェース
"0"書き込み: 入出力兼用ポート
読み出し: 可能

P20、P21、P22、P23がそれぞれSCLK、SOUT、SIN、SRDYまたはSSとして機能します。P23端子はスレープモードの場合にSRDY出力端子またはSS入力端子として機能し、マスタモードの場合は入出力兼用ポート端子として機能します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SCTRG: クロックトリガ/ステータス(FF58H・D1)
同期クロック SCLK の入力/出力開始トリガです。

• データ書き込み時

"1"書き込み: トリガ入力
"0"書き込み: ノーオペレーション

シリアルインタフェース起動回路にこのトリガ入力を与えると、同期クロック(SCLK)の入力/出力を開始します。トリガ条件として、SCTRGに"1"を書き込む以前に、データレジスタSD0～SD7の書き込み、または読み出しが行われている必要があります。(データレジスタSD0～SD7への書き込み/読み出しにより、シリアルインタフェースの内部回路は初期化されます。また、トリガをかける前に必ずESIFでシリアルインタフェースをイネーブルとしておいてください。

トリガ入力はシリアルインタフェースをRUN状態にすることに一度だけ与えてください。複数回のトリガ入力は誤動作につながりますので避けてください。

また、同期クロック SCLK が外部クロックの場合は、トリガ入力後に外部クロックの入力を開始してください。

• データ読み出し時

"1"読み出し: RUN(同期クロック入出力中)
"0"読み出し: STOP(同期クロック停止中)

同期クロックの動作状態は、このビットを読み出すことによって確認できます。

SCTRGに"1"を書き込むと、このデータは同期クロックの入出力が停止(8個カウント)するまでラッチされます。したがって、"1"を読み出した場合は、同期クロックが入出力動作中であることを示しています。

同期クロックの入出力が終了するとこのラッチは"0"にリセットされます。

イニシャルリセット時、このビットは"0"に設定されます。

ESOUT: SOUTイネーブルレジスタ(FF58H・D2)
P21からのシリアル出力を許可します。

"1"書き込み: イネーブル(SOUT)
"0"書き込み: ディセーブル(入出力兼用ポート)
読み出し: 可能

シリアルデータ入力のみを行う場合は、SOUT出力をディセーブルとしてP21を入出力兼用ポートとして使用することができます。シリアル出力を行う場合は、ESOUTに"1"を書き込んでP21をSOUT出力に設定してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SMOD: 動作モード選択レジスタ(FF59H・D0)

シリアルインタフェースの動作モードを、マスタモードにするかスレープモードにするか選択します。

"1"書き込み: マスタモード
"0"書き込み: スレープモード
読み出し: 可能

マスタモードでは内蔵シフトレジスタの同期クロックとして内部クロック(クロックマネージャで選択)を使用します。また、この内部クロックをSCLK(P20)端子に出力し、外部の(スレーブ側の)シリアル入出力回路を制御することができます。スレーブモードでは、外部の(マスタ側の)シリアル入出力回路より出力される同期クロックをSCLK(P20)端子より入力し、本シリアルインタフェースの同期クロックとして使用することができます。SMODに"1"を書き込むとマスタモードに、"0"を書き込むとスレーブモードに設定されます。イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SDP: データ入出力順列選択レジスタ(FF59H・D1)
シリアルデータの入出力順列を選択します。

"1"書き込み: MSB先頭
"0"書き込み: LSB先頭
読み出し: 可能

データの入出力をMSB先頭で行うか、LSB先頭で行うか選択します。
イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SCPS0, SCPS1: クロックフォーマット選択レジスタ(FF59H・D2, D3)
SIN(P22)端子から入力するシリアルデータの読み込みタイミングを選択します。

表4.10.8.3 同期クロックフォーマットの選択

SCPS1	SCPS0	極性	フェーズ
1	1	負極性(SCLK)	立ち上がりエッジ(┌)
1	0	負極性(SCLK)	立ち下がりエッジ(┐)
0	1	正極性(SCLK)	立ち下がりエッジ(┐)
0	0	正極性(SCLK)	立ち上がりエッジ(┌)

- 同期クロックに正極性(SCPS1 = "0")を選択した場合
データ入力時、内蔵シフトレジスタへのシリアルデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち上がりで取り込まれ、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち下がりで取り込まれます。シリアルデータが取り込まれるとともに、シフトレジスタ内のデータは順次シフトされます。

データ出力時、SOUT(P21)端子のシリアル出力はSCLK(P20)端子から入力、または出力されるクロックの立ち上がりエッジで変化します。また、シフトレジスタのデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち上がりでシフトし、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち下がりでシフトします。

- 同期クロックに負極性(SCPS1 = "1")を選択した場合
データ入力時、内蔵シフトレジスタへのシリアルデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち下がりで取り込まれ、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち上がりで取り込まれます。シリアルデータが取り込まれるとともに、シフトレジスタ内のデータは順次シフトされます。

データ出力時、SOUT(P21)端子のシリアル出力はSCLK(P20)端子から入力、または出力されるクロックの立ち下がりエッジで変化します。また、シフトレジスタのデータは、SCPS0レジスタが"0"のときはSCLK信号の立ち下がりでシフトし、SCPS0レジスタが"1"のときはSCLK信号の立ち上がりでシフトします。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

ENCS: シリアルインタフェースイネーブルレジスタ(P23ポート機能選択)(FF5AH・D0)
P23のシリアル入出力を許可します。ESREADYと組み合わせて使用します。

"1"書き込み: イネーブル(シリアルインタフェース)
"0"書き込み: ディセーブル(入出力兼用ポート)
読み出し: 可能

イネーブルに設定すると、スレーブモード(SMOD="0")時にP23をSRDY出力またはSS入力端子として使用することができます。
イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

ESREADY: P23ポート機能選択レジスタ(FF5AH・D1)

ENCS="1"の場合にP23ポートの機能を選択します。

"1"書き込み: SRDY出力

"0"書き込み: SS入力

読み出し: 可能

スレープモード(SMOD="0")時に、P23端子をSRDY出力またはSS入力端子のどちらに使用するか選択できます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

表4.10.8.4 P23ポート機能の選択

スレープモード時: SMOD="0"			マスタモード時: SMOD="1"		
ESREADY	ENCS	P23端子	ESREADY	ENCS	P23端子
*	0	P23(I/O)	*	0	P23(I/O)
0	1	SS(I)	0	1	P23(I/O)
1	1	SRDY(O)	1	1	設定禁止

SD0 ~ SD3, SD4 ~ SD7: シリアルインタフェースデータレジスタ(FF5BH, FF5CH)

シリアルデータの書き込み/読み出しを行います。

• データ書き込み時

"1"書き込み: HIGHレベル

"0"書き込み: LOWレベル

SOUT(P21)端子から出力するシリアルデータを書き込みます。SOUT(P21)端子からは"1"に設定されたビットがHIGH(V_{DD})レベル、"0"に設定されたビットがLOW(V_{SS})レベルとしてシリアル変換されたデータが出力されます。

• データ読み出し時

"1"読み出し: HIGHレベル

"0"読み出し: LOWレベル

SIN(P22)端子から入力されたシリアルデータを読み出します。

このレジスタからは、SIN(P22)端子から入力されたHIGH(V_{DD})レベルのビットを"1"、LOW(V_{SS})レベルのビットを"0"としてパラレル変換されたデータが読み出されます。データの読み出しは、シリアルインタフェースが停止中(同期クロックが入力/出力されていない状態)のときにのみ行ってください。

イニシャルリセット時、このレジスタ内のデータは不定です。

EISIF: シリアルインタフェース割り込みマスクレジスタ(FFEAH・D0)

シリアルインタフェースからの割り込みマスクを設定します。

"1"書き込み: イネーブル

"0"書き込み: マスク

読み出し: 可能

シリアルインタフェースの割り込みをマスクするかしないかを選択できます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

ISIF: シリアルインタフェース割り込み要因フラグ(FFFAH・D0)
シリアルインタフェースからの割り込みの発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: 割り込み有
"0"読み出し: 割り込み無
"1"書き込み: 要因フラグをリセット
"0"書き込み: 無効

このフラグによってシリアルインタフェース割り込みの有無を、ソフトウェアで判断することができます。このフラグは割り込みをマスクしていても、8ビットデータの入出力後に"1"にセットされます。

このフラグは、"1"を書き込むことによって"0"にリセットされます。

割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

イニシャルリセット時、このフラグは"0"に設定されます。

4.10.9 プログラミング上の注意事項

- (1) データレジスタSD0～SD7への書き込み、または読み出しはシリアルインタフェースが停止中(同期クロックが入力/出力されていない状態)のときのみ行ってください。
- (2) シリアルインタフェースの起動はトリガ条件として、SCTRGに"1"を書き込む以前に、データレジスタSD0～SD7の書き込み/読み出しが行われている必要があります。(データレジスタSD0～SD7への書き込み/読み出しによりシリアルインタフェースの内部回路は初期化されます。また、トリガをかける前に必ずESIFでシリアルインタフェースをイネーブルとしておいてください。
トリガはシリアルインタフェースをRUN状態にすることに一度だけ与えてください。また、同期クロックSCLKが外部クロックの場合は、トリガ後に外部クロックの入力を開始してください。
- (3) SDPIによる入出力順列(MSB先頭/LSB先頭)の設定は、SD0～SD7にデータを設定する前に行ってください。
- (4) プログラマブルタイマの出力クロックを同期クロックとして使用する場合、またはスレーブモードで使用する場合、同期クロックの周波数は最大1MHzに制限されますので注意してください。
- (5) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

4.11 サウンドジェネレータ

4.11.1 サウンドジェネレータの構成

S1C6F632はブザー信号を発生するサウンドジェネレータを内蔵しています。ここで発生したブザー信号はBZ端子から出力することができます。この出力で圧電ブザーを駆動することができます。

ブザー信号の周波数と音量をソフトウェアによりそれぞれ8段階に設定できるほか、デューティ比制御によるデジタルエンベロープを付加することができます。また、キー操作音等を出力するための、1ショット出力機能も持っています。

図4.11.1.1にサウンドジェネレータの構成を示します。

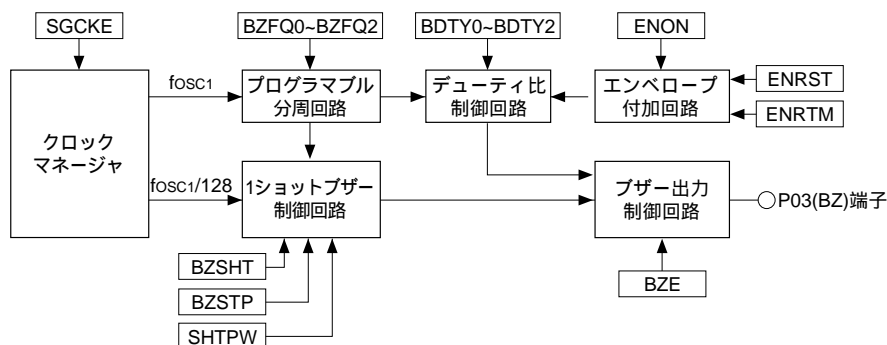


図4.11.1.1 サウンドジェネレータの構成

注: BZ端子でバイポーラトランジスタなど大電流を消費する外付け部品を駆動する際は、外付け部品の動作がICの電源に影響しないように基板パターンを設計してください。詳しくは、「6.3 実装上の注意事項」の<出力端子>を参照してください。

4.11.2 クロックマネージャの制御

ブザー信号を生成するためには、SGCKEレジスタに"1"を書き込んでクロックマネージャからサウンドジェネレータにクロックを供給しておく必要があります。

表4.11.2.1 サウンドジェネレータクロックの制御

SGCKE	サウンドジェネレータクロック
1	プログラマブル分周回路入力クロック: fosc1 (32kHz) 1ショットブザー制御回路入力クロック: fosc1 / 128 (256Hz)
0	OFF

サウンドジェネレータを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためSGCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

4.11.3 ブザー出力の制御

サウンドジェネレータで発生したBZ信号はBZ出力イネーブルレジスタBZEに"1"を設定することにより、P03(BZ)端子から出力されます。このとき、I/O制御レジスタIOC03およびデータレジスタP03の設定は無効になります。BZEが"0"の場合、P03ポートは汎用のDC入出力ポートとして機能します。

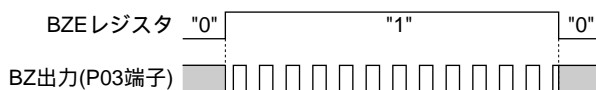


図4.11.3.1 ブザー信号出力タイミングチャート

注: ブザー信号はBZEレジスタとは非同期に発生していますので、BZEレジスタの設定による信号のON/OFF時にハザードを生じることがあります。

4.11.4 ブザー周波数と音量の設定

ブザー信号にはOSC1発振クロック(32.768kHz)の分周信号が用いられており、この分周比を変化させることによって8種類の周波数が選択できるようになっています。周波数の選択はブザー周波数選択レジスタBZFQ0～BZFQ2を表4.11.4.1のように設定することにより行います。

表4.11.4.1 ブザー信号の周波数設定

BZFQ2	BZFQ1	BZFQ0	ブザー周波数 (Hz)
0	0	0	4096.0
0	0	1	3276.8
0	1	0	2730.7
0	1	1	2340.6
1	0	0	2048.0
1	0	1	1638.4
1	1	0	1365.3
1	1	1	1170.3

ブザーの音量はブザー信号のデューティ比を制御することによって変化させています。

デューティ比はブザーデューティ選択レジスタBDTY0～BDTY2の設定により、表4.11.4.2に示す8種類の中から選択できます。

表4.11.4.2 デューティ比の設定

レベル	BDTY2	BDTY1	BDTY0	ブザー周波数 (Hz)によるデューティ比			
				4096.0 2048.0	3276.8 1638.4	2730.7 1365.3	2340.6 1170.3
レベル1(最大)	0	0	0	8/16	8/20	12/24	12/28
レベル2	0	0	1	7/16	7/20	11/24	11/28
レベル3	0	1	0	6/16	6/20	10/24	10/28
レベル4	0	1	1	5/16	5/20	9/24	9/28
レベル5	1	0	0	4/16	4/20	8/24	8/28
レベル6	1	0	1	3/16	3/20	7/24	7/28
レベル7	1	1	0	2/16	2/20	6/24	6/28
レベル8(最小)	1	1	1	1/16	1/20	5/24	5/28

デューティ比はパルス周期に対するパルス幅の比率のことで、HIGHレベル出力時間をTH、LOWレベル出力時間をTLとした場合は、 $TH/(TH+TL)$ となります。

BDTY0～BDTY2をすべて"0"に設定した場合にデューティ比が最大となり、音量も最大になります。逆にBDTY0～BDTY2をすべて"1"に設定した場合にデューティ比が最小となり、音量も最小になります。

なお、設定できるデューティ比は各周波数によって異なりますので表4.11.4.2を参照してください。

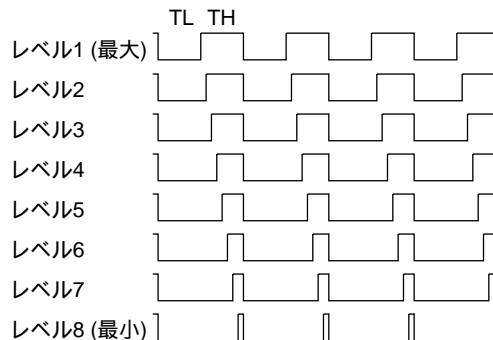


図4.11.4.1 ブザー信号波形のデューティ比

注: ブザー信号にデジタルエンベロープを付加した場合、デューティ比の制御が行われるため、BDTY0～BDTY2の設定は無効となります。

4.11.5 デジタルエンベロープ

ブザー信号にはデューティ比制御のデジタルエンベロープを付加することができます。

エンベロープは前項の表4.11.4.2の内容と同様のデューティ比をレベル1(最大)からレベル8(最小)に段階的に変化させることにより制御されます。

ブザー信号へのエンベロープの付加はレジスタENONに"1"を書き込むことで行われ、"0"が書き込まれた場合は付加されません。

ENONを"1"に設定後、ブザー信号の出力を開始する(BZEレジスタに"1"を書き込む)と、デューティ比がレベル1(最大)となり、レベル8まで段階的に変化します。レベル8(最小)まで減衰するとそのレベルに保持されます。また、エンベロープ付きのブザー信号出力中はレジスタENRSTに"1"を書き込むことによりデューティ比を最大に復帰させることができます。

エンベロープの減衰時間(デューティ比の変化する時間)はレジスタENRTMで選択できます。レベルが1段階変化する時間はENRTMに"0"を書き込んだ場合が62.5msec(16Hz)、"1"を書き込んだ場合が125msec(8Hz)になります。ただし、エンベロープONから最初の変化までは共に最大4msecの誤差があります。

図4.11.5.1にデジタルエンベロープのタイミングチャートを示します。

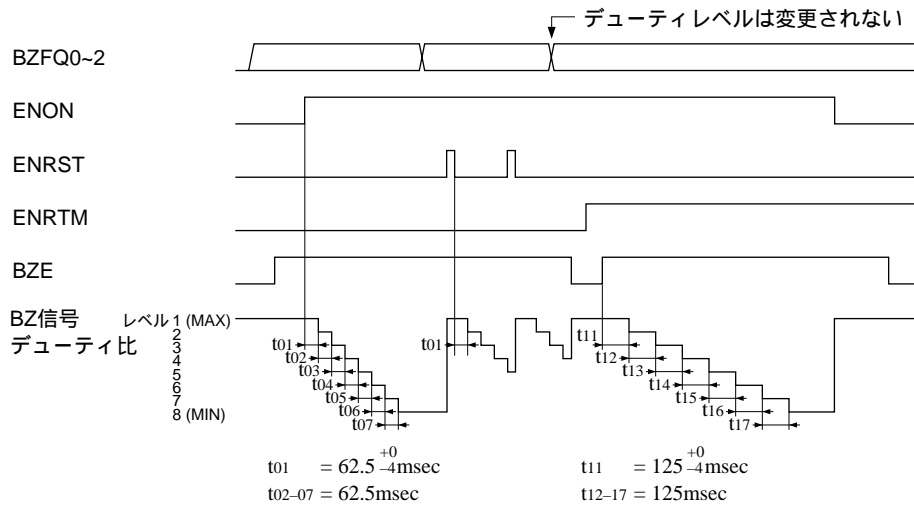


図4.11.5.1 デジタルエンベロープのタイミングチャート

4.11.6 1ショット出力

キー操作音などのように短時間のブザー信号を出力させるために、サウンドジェネレータは1ショット出力機能を持っています。

1ショットブザー信号の出力時間はSHTPWレジスタによって125msec、または31.25msecが選択できます。1ショットブザーの出力制御は1ショットブザートリガBZSHTに"1"を書き込むことにより行います。このトリガが与えられると、内部の256Hz信号に同期してブザー信号がブザー出力端子から出力されます。その後、設定時間が経過すると出力開始と同様に256Hz信号に同期してブザー信号がOFFとなります。BZSHTは読み出しも可能で、BZSHTが"1"の場合は1ショット出力回路が動作中(1ショット出力中)、"0"の場合は回路がREADY(出力が行える)状態であることを示します。

なお、1ショット出力を設定時間経過前に終了させることもできます。これは1ショットブザーストップBZSTPに"1"を書き込むことにより行います。この場合も256Hz信号に同期してブザー信号がOFFとなります。

1ショット出力中に再度BZSHTに"1"を書き込んだ場合は、その時点から256Hz信号に同期して新たに125msecまたは31.25msecの1ショット出力が行われます。

1ショット出力は短時間のため、エンベロープを付加することはできません。ただし、デューティ比の選択による音量と周波数は設定することができます。

通常のブザー出力中(BZE = "1"の間)は1ショット出力の制御は無効となります。

図4.11.6.1に1ショット出力のタイミングチャートを示します。

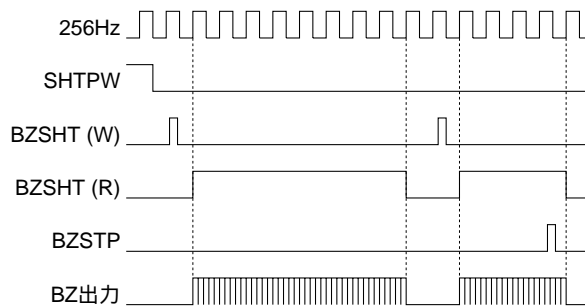


図4.11.6.1 1ショット出力のタイミングチャート

4.11.7 サウンドジェネレータのI/Oメモリ

表4.11.7.1にサウンドジェネレータの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.11.7.1 サウンドジェネレータの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈					
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0						
FF16H	MDCKE	SGCKE	SWCKE	RTCKE	MDCKE	0	Enable	Disable	乗除算クロックイネーブル					
					SGCKE	0	Enable	Disable	サウンドジェネレータクロックイネーブル					
					SWCKE	0	Enable	Disable	ストップウォッチタイマクロックイネーブル					
					RTCKE	0	Enable	Disable	計時タイマクロックイネーブル					
	R/W													
FF44H	ENRTM	ENRST	ENON	BZE	ENRTM	0	1 sec	0.5 sec	エンベロープ減衰時間選択					
					ENRST*3	Reset	Reset	Invalid	エンベロープリセット(書き込み時)					
					ENON	0	On	Off	エンベロープOn/Off					
					BZE	0	Enable	Disable	BZ出力イネーブル					
	R/W				W	R/W								
FF45H	0	BZSTP	BZSHT	SHTPW	0 *3	—*2			未使用					
					BZSTP*3	0	Stop	Invalid	1ショットブザーStop(書き込み時)					
					BZSHT	0	Trigger	Invalid	1ショットブザートリガ(書き込み時)					
					SHTPW	0	Busy	Ready	1ショットブザーステータス(読み出し時)					
	R	W	R/W			125 msec	31.25 msec	1ショットブザーパルス幅選択						
FF46H	0	BZFQ2	BZFQ1	BZFQ0	0 *3	—*2			未使用					
					BZFQ2	0			ブザー 周波数選択	[BZFQ2~0]	0	1	2	3
					BZFQ1	0				周波数(Hz)	4096.0	3276.8	2730.7	2340.6
					BZFQ0	0				[BZFQ2~0]	4	5	6	7
	R	R/W				周波数(Hz)	2048.0	1638.4		1365.3	1170.3			
FF47H	0	BDTY2	BDTY1	BDTY0	0 *3	—*2			未使用					
					BDTY2	0			ブザー信号デューティ比選択 (本編参照)					
					BDTY1	0								
					BDTY0	0								
	R	R/W												

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

SGCKE: サウンドジェネレータクロックイネーブル(FF16H・D2)

サウンドジェネレータへのクロックの供給を制御します。

"1"書き込み: ON

"0"書き込み: OFF

読み出し: 可能

SGCKEに"1"を書き込むことによって、サウンドジェネレータの動作クロックがクロックマネージャから供給されます。計時タイマを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためSGCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

BZE: BZ出力イネーブルレジスタ(FF44H・D0)

ブザー出力を制御します。

"1"書き込み: ブザー出力ON

"0"書き込み: ブザー出力OFF

読み出し: 可能

BZEに"1"書き込むことによってP03(BZ)端子からBZ信号が出力されます。このとき、I/O制御レジスタIOC03およびデータレジスタP03の設定は無効になります。BZEが"0"の場合、P03ポートは汎用のDC入出力ポートとして機能します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

ENON: エンベロープON/OFF制御レジスタ(FF44H・D1)

ブザー信号へのエンベロープ付加を制御します。

"1"書き込み: ON
 "0"書き込み: OFF
 読み出し: 可能

ENONレジスタに"1"を書き込むことにより、ブザー信号出力時にエンベロープが付加されます。"0"を書き込んだ場合、エンベロープは付加されません。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"が選択されます。

ENRST: エンベロープリセット(FF44H・D2)

エンベロープをリセットします。

"1"書き込み: リセット
 "0"書き込み: ノーオペレーション
 読み出し: 常時"0"

ENRSTに"1"を書き込むことによりエンベロープがリセットされ、デューティ比が最大となります。エンベロープが付加されていない場合(ENON = "0") およびブザー信号の出力が行われていない場合のリセットは無効となります。また"0"の書き込みも無効です。

ENRSTは書き込み専用のため、読み出し時は常時"0"となります。

ENRTM: エンベロープ減衰時間選択レジスタ(FF44H・D3)

ブザー信号に付加されたエンベロープの減衰時間を選択します。

"1"書き込み: 1.0sec(125msec×7 = 875msec)
 "0"書き込み: 0.5sec(62.5msec×7 = 437.5msec)
 読み出し: 可能

デジタルエンベロープの減衰時間はデューティ比の変化する時間で決められます。ENRTMに"1"を書き込んだ場合は125msec(8Hz)単位、"0"を書き込んだ場合は62.5msec(16Hz)単位となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SHTPW: 1ショットブザーパルス幅選択レジスタ(FF45H・D0)

1ショットブザーの出力時間を選択します。

"1"書き込み: 125msec
 "0"書き込み: 31.25msec
 読み出し: 可能

SHTPWレジスタに"1"を書き込むことにより1ショット出力時間が125msecに、"0"書き込みで31.25msecに設定されます。通常のブザー出力には影響を与えません。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

BZSHT: 1ショットブザートリガ/ステータス(FF45H・D1)

1ショットブザー出力の制御を行います。

• データ書き込み時

"1"書き込み: トリガ
 "0"書き込み: ノーオペレーション

BZSHTに"1"を書き込むことにより1ショット出力回路が動作し、ブザー信号が出力されます。この出力はSHTPWによって設定した時間の経過後に自動的にOFFとなります。

1ショット出力は通常のブザー出力がOFF(BZE = "0")の状態でのみ有効で、ON(BZE = "1")状態でのトリガは無効となります。1ショット出力中に再トリガを行った場合は、その時点からSHTPWによって設定した時間を計測し直します(時間延長)。

• データ読み出し時

"1"読み出し: BUSY

"0"読み出し: READY

読み出し時は1ショット出力回路の動作状態を示します。1ショット出力中にBZSHTは"1"となり、出力がOFFすると"0"になります。

イニシャルリセット時、このビットは"0"に設定されます。

BZSTP: 1ショットブザーSTOP(FF45H・D2)

1ショットブザー出力を停止させます。

"1"書き込み: STOP

"0"書き込み: ノーオペレーション

読み出し: 常時"0"

BZSTPに"1"を書き込むことにより、SHTPWによる設定時間が経過する前に1ショットブザー出力をOFFすることができます。"0"書き込みおよび1ショット出力中以外の"1"書き込みは無効です。

BZSTPは書き込み専用のため、読み出し時は常時"0"となります。

BZFQ0 ~ BZFQ2: ブザー周波数選択レジスタ(FF46H・D0 ~ D2)

ブザー信号の周波数を選択します。

表4.11.7.2 ブザー信号の周波数設定

BZFQ2	BZFQ1	BZFQ0	ブザー周波数 (Hz)
0	0	0	4096.0
0	0	1	3276.8
0	1	0	2730.7
0	1	1	2340.6
1	0	0	2048.0
1	0	1	1638.4
1	1	0	1365.3
1	1	1	1170.3

ブザー周波数は発振クロックを分周した上記8種類の中から選択します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

BDTY0 ~ BDTY2: デューティ比選択レジスタ(FF47H・D0 ~ D2)

ブザー信号のデューティ比を表4.11.7.3のとおり選択します。

表4.11.7.3 デューティ比の設定

レベル	BDTY2	BDTY1	BDTY0	ブザー周波数 (Hz)によるデューティ比			
				4096.0 2048.0	3276.8 1638.4	2730.7 1365.3	2340.6 1170.3
レベル1(最大)	0	0	0	8/16	8/20	12/24	12/28
レベル2	0	0	1	7/16	7/20	11/24	11/28
レベル3	0	1	0	6/16	6/20	10/24	10/28
レベル4	0	1	1	5/16	5/20	9/24	9/28
レベル5	1	0	0	4/16	4/20	8/24	8/28
レベル6	1	0	1	3/16	3/20	7/24	7/28
レベル7	1	1	0	2/16	2/20	6/24	6/28
レベル8(最小)	1	1	1	1/16	1/20	5/24	5/28

このデューティ比を選択することによりブザーの音量を設定することができます。

ただし、エンベロープをON(ENON="1")に設定している場合は、この設定は無効となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

4.11.8 プログラミング上の注意事項

- (1)ブザー信号はBZEレジスタとは非同期に発生していますので、BZEレジスタの設定による信号のON/OFF時にハザードを生じる場合があります。
- (2)1ショット出力は通常のブザー出力がOFF(BZE = "0")の状態でのみ有効で、ON(BZE = "1")状態でのトリガは無効となります。

4.12 整数乗除算器

4.12.1 整数乗除算器の構成

S1C6F632は符号なし整数乗除算器を内蔵しています。この乗除算器は8ビット×8ビットの乗算、または16ビット÷8ビットの除算を行い、その演算結果とともに、結果に従って3種類のフラグ状態を返します。図4.12.1.1に整数乗除算器の構成を示します。

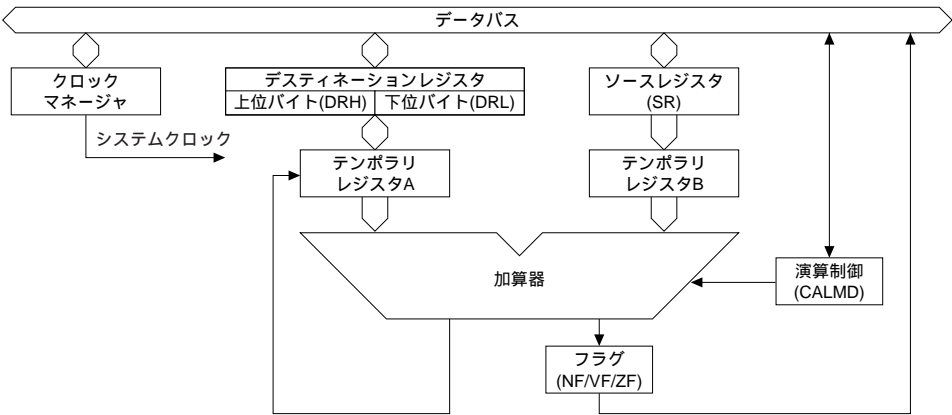


図4.12.1.1 整数乗除算器の構成

4.12.2 クロックマネージャの制御

整数乗除算器はクロックマネージャから供給されるクロック(OSCC、CLKCHGで選択されたCPU動作クロック)で動作します。整数乗除算器を動作させる前に、MDCKEに"1"を書き込んでクロックマネージャからクロックを供給してください。

表4.12.2.1 整数乗除算器クロックの制御

MDCKE	整数乗除算器クロック
1	CLKCHG="0"の場合: fosc1 (32kHz) OSCC="1"、CLKCHG="1"の場合: fosc3
0	OFF

整数乗除算器を動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためMDCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

4.12.3 乗算モード

ソースレジスタSRに乗数、デスティネーションレジスタ下位8ビットDRLに被乗数を設定し、演算モード選択レジスタCALMDに"0"を書き込むことで、乗算を実行します。レジスタCALMDへの書き込みから10 CPUクロック後に演算は終了し、積が16ビット値としてデスティネーションレジスタDRH/DRLに書き込まれます。同時に、演算フラグビットNF/VF/ZFが結果に従って更新されます。以下に演算フラグビットの変化条件と乗算結果の一例を示します。

Nフラグ: DRHの最上位ビットが"1"のときにセットされ、"0"のときはリセットされます。

Vフラグ: 乗算後は常にリセットされます。

Zフラグ: DRH/DRLの16ビット値が0000Hのときにセットされ、それ以外の値のときはリセットされます。

乗算実行例

DRL(被乗数)	SR(乗数)	DRH/DRL(積)	NF	VF	ZF
00H	64H	0000H	0	0	1
64H	58H	2260H	0	0	0
C8H	58H	44C0H	0	0	0
C8H	A5H	80E8H	1	0	0

4.12.4 除算モード

ソースレジスタSRに除数、デスティネーションレジスタDRH/DRLに被除数を設定し、演算モード選択レジスタCALMDに"1"を書き込むことで、除算を実行します。レジスタCALMDへの書き込みから10 CPUクロック後に演算は終了し、商がデスティネーションレジスタ下位8ビットDRLに、剰余がデスティネーションレジスタ上位8ビットDRHにそれぞれ書き込まれます。同時に、演算フラグビットNF/VF/ZFが結果に従って更新されます。

ただし、商が8ビットを超える場合は、オーバーフローとなってレジスタDRH/DRLは更新されず、被除数がそのまま保持されます。

以下に演算フラグビットの変化条件と除算結果の一例を示します。

Nフラグ: DRLの最上位ビットが"1"のときにセットされ、"0"のときはリセットされます。

Vフラグ: 商が8ビットを超える場合にセットされ、8ビット以内の場合はリセットされます。

Zフラグ: DRLの8ビット値が00Hのときにセットされ、それ以外の値のときはリセットされます。

除算実行例

DRH/DRL(被除数)	SR(除数)	DRL(商)	DRH(剰余)	NF	VF	ZF
1A16H	64H	42H	4EH	0	0	0
332CH	64H	83H	00H	1	0	0
0000H	58H	00H	00H	0	0	1
2468H	13H	68H	24H	1	1	0

上記例では、"2468H" ÷ "13H"の商が8ビットを超えるためオーバーフローが発生し、DRH/DRLには被除数の値がそのまま保持されます。この例のようにオーバーフローが発生した場合は、次のように除算を2回に分けて実行することで、正しい結果が得られます。

1. 被除数の上位8ビット(24H)を除数(13H)で除算し、商(01H)をメモリに退避

DRH/DRL(被除数)	SR(除数)	DRL(商)	DRH(剰余)	NF	VF	ZF
0024H	13H	01H	11H	0	0	0

2. 剰余(11H)をDRHに残したまま、DRLに被除数の下位8ビット(68H)を設定して再度除算を実行

DRH/DRL(被除数)	SR(除数)	DRL(商)	DRH(剰余)	NF	VF	ZF
1168H	13H	EAH	0AH	1	0	0

結果は、商 = 01EAH(初回のDRLの結果と2回目のDRLの結果の16ビット合成値)、剰余 = 0AHとなり、正しい演算結果が得られます。ただし、演算フラグビットNF/VF/ZFは各ステージでの演算結果に従って変化しますので、最終的な演算結果は反映されません。

注: ハードウェアは除算結果を検定していませんので、必ずソフトウェアで確認してください。

4.12.5 実行サイクル

演算には乗算、除算ともに10 CPUクロックの実行時間が必要です。したがって、演算結果をデスティネーションレジスタDRH/DRLから読み出せるのは、レジスタCALMDへの書き込み(演算スタート)から、5バスサイクル後となります。演算フラグビットNF/VF/ZFについても同様です。

以下に、演算処理のプログラム例を示します。

```

    ldb    %ext, src_data@h
    ldb    %x1, src_data@l      ;演算対象データのRAMアドレス指定
    ldb    %ext, au@h
    ldb    %y1, au@l            ;乗除算器の先頭アドレス指定
;
    ldb    %ba, [%x]+
    ldb    [%y]+, %ba            ;レジスタSRへのデータ設定
    ldb    %ba, [%x]+
    ldb    [%y]+, %ba            ;レジスタDRLへのデータ設定
    ldb    %ba, [%x]+
    ldb    [%y]+, %ba            ;レジスタDRHへのデータ設定
;
    ld     [%y], 0b0001          ;演算スタート( 除算モード選択 )
;
    ldb    %ext, rslt_data@h
    ldb    %x1, rslt_data@l      ;演算結果のストア先アドレス指定
    nop
    nop
    nop                          ;演算終了待ちのためのダミー命令
;
    bit    [%y], 0b0100
    jrnz   overflow             ;フラグVFが"1"のとき、エラー処理へ分岐
;
    add    %y, -4                ;レジスタDRLの再指定
;
    ldb    %ba, [%y]+
    ldb    [%x]+, %ba            ;演算結果( 商 )のRAMへのストア
    ldb    %ba, [%y]+
    ldb    [%x]+, %ba            ;演算結果( 剰余 )のRAMへのストア

```

4.12.6 整数乗除算器のI/Oメモリ

表4.12.6.1に整数乗除算器の制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.12.6.1 整数乗除算器の制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF16H	MDCKE	SGCKE	SWCKE	RTCKE	MDCKE	0	Enable	Disable	整数乗除算器クロックイネーブル サウンドジェネレータクロックイネーブル ストップウォッチタイマクロックイネーブル 計時タイマクロックイネーブル
					SGCKE	0	Enable	Disable	
	R/W				SWCKE	0	Enable	Disable	
					RTCKE	0	Enable	Disable	
FF70H	SR3	SR2	SR1	SR0	SR3	−*2			ソースレジスタ(下位4ビット) LSB
					SR2	−*2			
	R/W				SR1	−*2			
					SR0	−*2			
FF71H	SR7	SR6	SR5	SR4	SR7	−*2			MSB ソースレジスタ(上位4ビット)
					SR6	−*2			
	R/W				SR5	−*2			
					SR4	−*2			
FF72H	DRL3	DRL2	DRL1	DRL0	DRL3	−*2			デスティネーションレジスタ下位8ビット (下位4ビット) LSB
					DRL2	−*2			
	R/W				DRL1	−*2			
					DRL0	−*2			
FF73H	DRL7	DRL6	DRL5	DRL4	DRL7	−*2			MSB デスティネーションレジスタ下位8ビット (上位4ビット)
					DRL6	−*2			
	R/W				DRL5	−*2			
					DRL4	−*2			
FF74H	DRH3	DRH2	DRH1	DRH0	DRH3	−*2			デスティネーションレジスタ上位8ビット (下位4ビット) LSB
					DRH2	−*2			
	R/W				DRH1	−*2			
					DRH0	−*2			
FF75H	DRH7	DRH6	DRH5	DRH4	DRH7	−*2			MSB デスティネーションレジスタ上位8ビット (上位4ビット)
					DRH6	−*2			
	R/W				DRH5	−*2			
					DRH4	−*2			
FF76H	NF	VF	ZF	CALMD	NF	0	Negative	Positive	ネガティブフラグ オーバーフローフラグ ゼロフラグ 実行ステータス(読み出し時) 演算モード選択(書き込み時)
					VF	0	Overflow	No	
					ZF	0	Zero	No	
	R		R/W	CALMD	0	Run	Stop		

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

MDCKE: 整数乗除算器クロックイネーブル(FF16H・D3)

整数乗除算器へのクロックの供給を制御します。

"1"書き込み: ON

"0"書き込み: OFF

読み出し: 可能

MDCKEに"1"を書き込むことによって、整数乗除算器の動作クロック OSCC、CLKCHGで選択されたCPU動作クロックがクロックマネージャから供給されます。整数乗除算器を動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためMDCKEを"0"に設定してクロック供給を停止してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SR0 ~ SR7: ソースレジスタ(FF70H, FF71H)

乗数、または除数を設定するレジスタです。

SR0 ~ SR3に下位4ビット、SR4 ~ SR7に上位4ビットのデータを設定します。

本レジスタは、最後に書き込まれた値を次の書き込みまで保持しますので、固定の乗除数で連続して演算を行う場合は、演算ごとに再設定する必要はありません。

イニシャルリセット時の本レジスタの値は不定です。

DRL0 ~ DRL7: デスティネーションレジスタ下位8ビット (FF72H, FF73H)

被乗数、または被除数の下位8ビットを設定するレジスタです。

DRL0 ~ DRL3にそのバイトデータの下位4ビット、DRL4 ~ DRL7に上位4ビットを設定します。

本レジスタに書き込まれた値は、スタート(FF76H・D0への書き込み)動作によって演算回路にロードされ、10 CPUクロック (5バスサイクル) 後に、乗算では積の下位8ビット、除算では商が書き戻されます。

ただし、除算でオーバーフローが発生した場合は商が書き戻されず、元の被除数の下位8ビットの値を保持します。

イニシャルリセット時の本レジスタの値は不定です。

DRH0 ~ DRH7: デスティネーションレジスタ上位8ビット (FF74H, FF75H)

被除数の上位8ビットを設定するレジスタです。

DRH0 ~ DRH3にそのバイトデータの下位4ビット、DRH4 ~ DRH7に上位4ビットを設定します。

乗算時は本レジスタの値は無視され、乗算スタート(FF76H・D0への"0"書き込み)動作の10 CPUクロック (5バスサイクル) 後に、積の上位8ビットが書き込まれます。

除算時は本レジスタに書き込まれた値が、除算スタート(FF76H・D0への"1"書き込み)動作によって演算回路にロードされ、10 CPUクロック (5バスサイクル) 後に、剰余が書き戻されます。

ただし、除算でオーバーフローが発生した場合は剰余が書き戻されず、元の被除数の上位8ビットの値を保持します。

イニシャルリセット時の本レジスタの値は不定です。

CALMD: 演算モード選択レジスタ/実行ステータス (FF76H・D0)

演算モードの選択と、演算スタートを制御します。

"1"書き込み: 除算モードを選択/実行

"0"書き込み: 乗算モードを選択/実行

"1"読み出し: 演算実行中

"0"読み出し: 演算完了

本レジスタへの書き込みにより指定の演算を開始します。その後、演算が終了するまで本レジスタの読み出しは"1"となり、演算完了後"0"となります。

イニシャルリセット後、本レジスタは"0"が読み出されます。

ZF: ゼロフラグ (FF76H・D1)

演算結果がゼロか否かを示すフラグです。

"1"読み出し: 演算結果がゼロ

"0"読み出し: 演算結果がゼロ以外

書き込み: 無効

本ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。

イニシャルリセット時、本フラグは"0"に設定されます。

VF: オーバーフローフラグ (FF76H・D2)

除算結果のオーバーフロー状態を示すフラグです。

"1"読み出し: オーバーフロー発生

"0"読み出し: オーバーフローなし

書き込み: 無効

乗算の実行後、本ビットは常に"0"に設定されます。

本ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。

イニシャルリセット時、本フラグは"0"に設定されます。

NF: ネガティブフラグ(FF76H・D3)

演算結果の正負を示すフラグです。

"1"読み出し: 演算結果が負の数(結果の最上位ビットが"1")

"0"読み出し: 演算結果が正の数(結果の最上位ビットが"0")

書き込み: 無効

本ビットは読み出し専用のため、書き込み動作は無効となります。

イニシャルリセット時、本フラグは"0"に設定されます。

4.12.7 プログラミング上の注意事項

演算モード選択レジスタCALMDへの書き込みから、演算結果がデスティネーションレジスタDRH/DRL、および演算フラグビットNF/VF/ZFに書き戻されるまで、10 CPUクロック(5バスサイクル)の時間が必要です。この時間経過以前のDRH/DRLへの読み書き、およびNF/VF/ZFの読み出しは行わないでください。

4.13 R/Fコンバータ

4.13.1 R/Fコンバータの構成

S1C6F632はA/Dコンバータとして使用可能なCR発振方式のR/Fコンバータを内蔵しています。

このR/Fコンバータには2系統 (チャンネル0およびチャンネル1) のCR発振回路が設けられおり、それぞれに異なるセンサ等を接続することによって2種類のR/F変換回路を構成することができます。

チャンネル0はサーミスタ等の抵抗性センサを用いたDC印可によるR/R 抵抗/周波数 変換回路、チャンネル1はチャンネル0と同様のR/F変換回路、または湿度センサなどのAC印可が必要な抵抗性センサを用いたR/F変換回路として使用することができます。このどちらのチャンネルを使用するか、およびチャンネル1におけるセンサの種類はソフトウェアによって選択します。

センサ入力端子に接続された抵抗性センサの抵抗値 (外付け基準抵抗に対しての相対値) はCR発振回路によって周波数に変換され、そのクロック数は内蔵の計測カウンタによってカウントされます。計測カウンタの値を読み出すことによって、センサが検出した値をデジタル変換したデータが得られます。

このR/Fコンバータを使用することにより、温度/湿度測定回路等の各種のセンサ回路が容易に実現できます。

図4.13.1.1にR/Fコンバータの構成を示します。

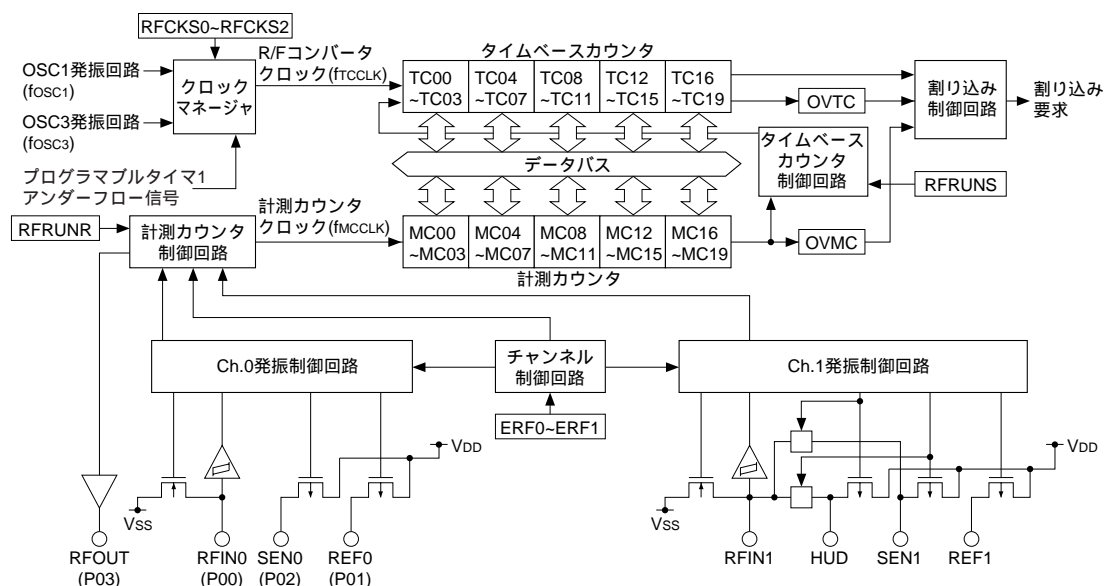


図4.13.1.1 R/Fコンバータの構成

4.13.2 クロックマネージャの制御

R/Fコンバータはクロックマネージャから送られるクロックを動作クロック、およびタイムベースカウンタのカウントクロックとして使用します。クロックマネージャはOSC1とOSC3を分周して6種類のR/Fコンバータ用クロックを生成します。これとプログラマブルタイマ1の出力クロックを合わせた7種類の中からR/Fコンバータで使用するクロックを選択できるようになっています。

選択は、表4.13.2.1に示すとおり RFCKS0～RFCKS2レジスタによって行います。

表4.13.2.1 R/Fコンバータのクロック周波数

RFCKS2	RFCKS1	RFCKS0	R/Fコンバータクロック
1	1	1	fosc3 / 4
1	1	0	fosc3 / 2
1	0	1	fosc3 / 1
1	0	0	プログラマブルタイマ1
0	1	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	0	1	fosc1 / 1 (32kHz)
0	0	0	OFF

fosc1: OSC1発振周波数、()内の周波数は、fosc1=32kHzの場合

fosc3: OSC3発振周波数

プログラマブルタイマ1を選択した場合は、プログラマブルタイマ1のアンダーフロー信号を1/2分周した信号がR/Fコンバータクロックとして使用されます。この場合、R/Fコンバータを動作させる前にプログラマブルタイマの制御が必要です。プログラマブルタイマについては"4.9 プログラマブルタイマ"を参照してください。

R/Fコンバータを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるためRFCKS0～RFCKS2を"000B"に設定してクロック供給を停止してください。

4.13.3 接続端子とCR発振回路

R/Fコンバータチャンネル0の入出力端子およびRFOUT出力端子は入出力兼用ポート(P00～P03)と兼用されており、R/Fコンバータ用端子として使用する場合はソフトウェアによって機能の切り換えを行います。ERF0～ERF1レジスタを"00B"以外に設定することにより、P00、P01、P02をそれぞれRFIN0、REF0、SEN0端子として使用することができます。

P03ポートからのRFOUT出力はRFOUTレジスタに"1"を書き込んだ場合に有効で、"0"の場合はP03が入出力兼用ポートとして機能します。

P00～P03端子とR/F変換入出力との対応は以下のとおりです。

表4.13.3.1 入出力端子の機能設定

端子名	R/Fコンバータ使用時
P00	RFIN0
P01	REF0
P02	SEN0
P03	RFOUT

注: イニシャルリセット時、P00～P03は入出力兼用ポートに設定されます。

R/Fコンバータチャンネル0を使用する場合は、初期化ルーチンの中で機能の切り換え(ERF0～ERF1="01B"、RFOUT="1")を行ってください。

R/Fコンバータにはチャンネル0、チャンネル1の2系統のCR発振回路が内蔵されており、外付けの抵抗と容量によってCR発振を行います。

R/F変換値を得るカウンタはチャンネル0およびチャンネル1に共通となっているため、R/F変換を行うCR発振回路を切り換えることによって2系統の動作を実現しています。チャンネルとR/F変換を行うセンサの種類はレジスタERF0およびERF1であらかじめ設定しておきます。

表4.13.3.2 チャンネルとセンサタイプの設定

ERF1	ERF0	チャンネルとセンサタイプ
1	1	Ch.1 DC
1	0	Ch.1 AC
0	1	Ch.0 DC
0	0	I/O

DC: サーミスタ等の抵抗性センサを用いたDC印可を行うR/F変換

AC: 湿度センサなどの抵抗性センサを用いたAC印可を行うR/F変換

(1) サーミスタなどの抵抗性センサを用いたDC印可を行うR/F変換

チャンネル0は常にこの変換方式となっており、チャンネル1はレジスタERFxを"11B"に設定することにより選択されます。この方式はサーミスタによる温度測定など、通常の抵抗性センサ(DC印加)を用いてR/F変換を行う場合に選択します。イニシャルリセット時のチャンネル1は、この変換方式に設定されます。

図4.13.3.1に外付け素子の接続図を示します。

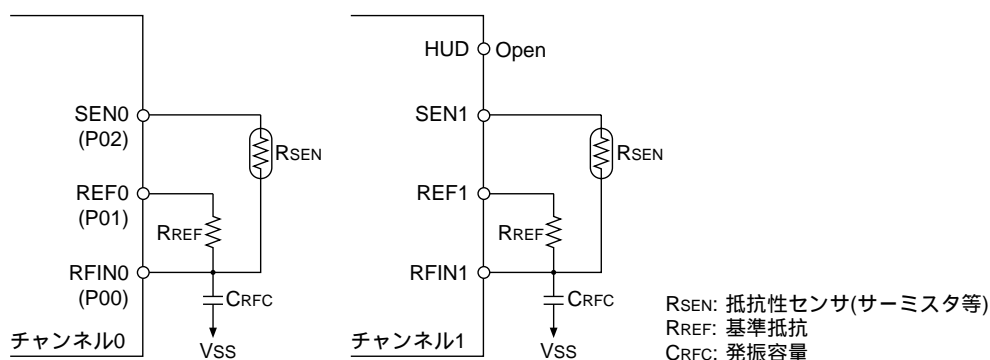


図4.13.3.1 R/F変換時の接続図

CR発振波形はシュミットトリガにより整形され計測カウンタに送られます。この計測カウンタに送られるクロックは、センサ発振時にRFOUT端子からも出力されますので、発振周波数をオシロスコープ等で確認することができます。このモニタは発振周波数に影響を与えないので、R/F変換の精度調整に利用できます。

図4.13.3.2に発振波形とRFOUTの出力波形を示します。

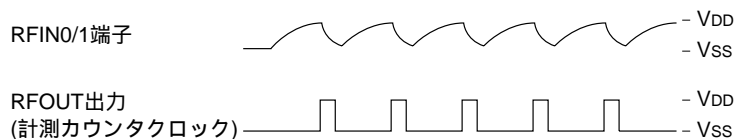


図4.13.3.2 発振波形

(2) 抵抗性湿度センサなどを用いたAC印可を行うR/F変換

この変換方式はチャンネル1でのみ可能で、レジスタERFxを"10B"に設定することにより選択されます。この方式は基本的に(1)のR/F変換と同様ですが、長時間DC印可ができない湿度センサなどにAC印可を行う回路が働くようになっています。基準抵抗による発振動作は(1)のR/F変換と同様です。図4.13.3.3に外付け素子の接続図を示します。

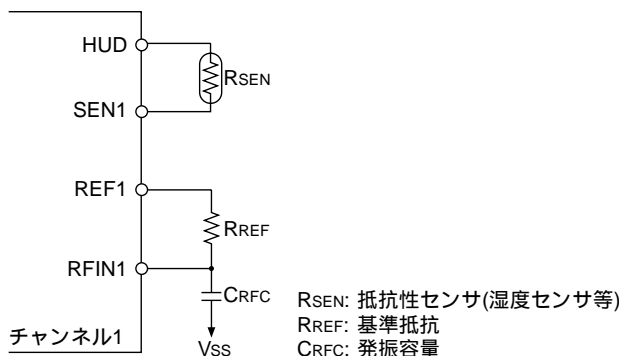


図4.13.3.3 抵抗性湿度センサの接続図

発振波形は図4.13.3.2と同様です。

4.13.4 R/F変換

(1) カウンタ

R/Fコンバータには2種類のカウンタが内蔵されています。1つは前記の発振クロックをカウントする計測カウンタMCxxで、もう1つは内部クロックにより基準カウントを行うタイムベースカウンタTCxxです。

計測カウンタは基準抵抗とセンサによるCR発振クロックをカウントする20ビットアップカウンタで、R/F変換結果はこのカウンタを読み出すことにより得られます。タイムベースカウンタは、基準抵抗とセンサの発振時間を合わせるための20ビットのアップ/ダウンカウンタで、RFCKSxレジスタで選択したR/FコンバータクロックOSC1またはOSC3をカウントします。どちらのカウンタも、4ビット単位で読み出しおよび書き込みが可能です。

最初に基準抵抗のR/F変換を行います。発振を開始させると計測カウンタはカウントアップを、タイムベースカウンタはカウントダウンを開始します。2つのカウンタは計測カウンタがオーバーフローした("00000H"となった)時点でカウントを停止します。タイムベースカウンタに"00000H"をセットしてR/F変換を開始させることにより、基準抵抗による発振時間が、カウンタ停止後にタイムベースカウンタを読み出すことで得られます。

次にセンサのR/F変換を行います。計測カウンタは"00000H"からカウントアップを、タイムベースカウンタは基準発振時にカウントした値からカウントアップを開始します。2つのカウンタはタイムベースカウンタがオーバーフローした("00000H"となった)時点でカウントを停止します。センサの発振時間は基準発振時間と同じになります。

したがって、カウントを開始する前に適当な初期値を補数("00000H"から減算した値)に変換して計測カウンタにセットしておくことにより、基準抵抗とセンサの発振周波数の差を容易に求めることができます。たとえば、基準抵抗とセンサの抵抗値がまったく同じだった場合、補数に変換する前の初期値と同じ値が計測カウンタから得られます。

タイムベースカウンタは、カウンタ値の読み出しとプリセットが可能です。基準発振終了時の値を読み出してメモリにセーブしておくことにより、その後の基準発振を省略することができます。その場合は、メモリにセーブした値をタイムベースカウンタにセットし、計測カウンタを"00000H"にしてセンサの発振を開始させます。

注: 計測カウンタにデータを書き込む場合は、必ず下位のアドレスから(FF62H→FF63H→FF64H→FF65H→FF66H)5ワードすべてを書き込んでください。また、計測カウンタへの書き込みにはLD命令を使用してください。リードモディファイライト命令(AND、OR、ADD、SUB等)は使用しないでください。

基準抵抗の発振時間は計測カウンタがオーバーフローするまでの時間となるため、R/F変換を開始する前に適当な初期値を設定しておく必要があります。この初期値を小さな値にしておくかカウント期間が長くとれ、検出の精度は上がります。初期値は補数 "00000H" から減算した値 に変換して計測カウンタに設定します。R/F変換が終了した計測カウンタの内容がセンサが検出したデータとなりますので、その値と補数に変換する前の初期値との差をプログラムで処理して目的の数値を算出してください。

以上の動作を図4.13.4.3に示します。

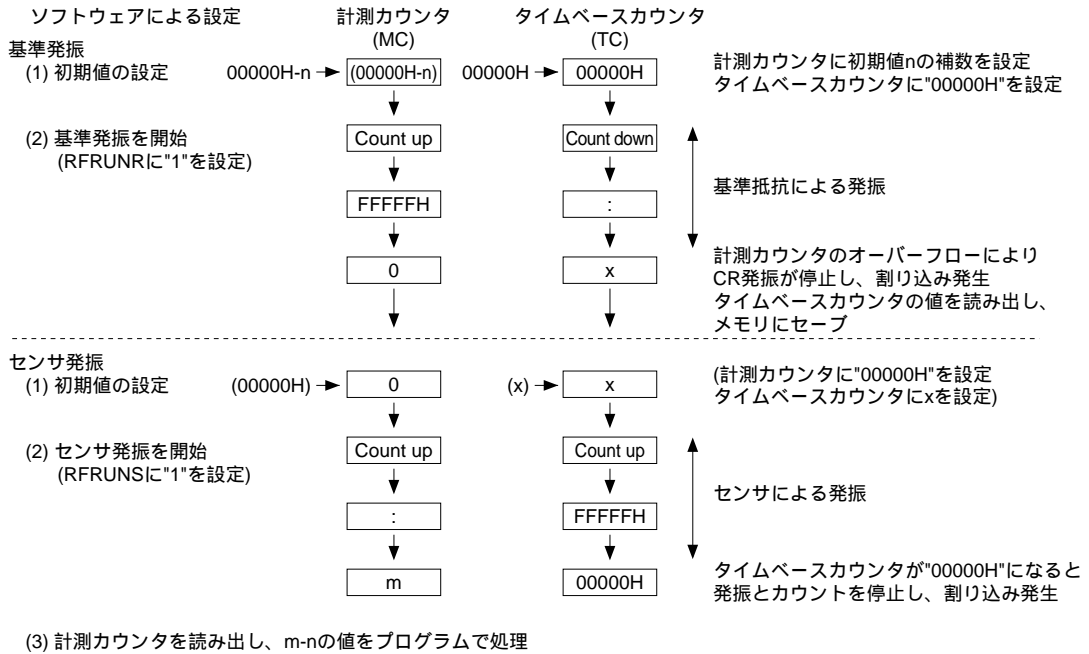


図4.13.4.3 R/F変換のシーケンス

注: 計測カウンタの初期値は、測定範囲およびカウンタのオーバーフローに注意して設定してください。

4.13.5 割り込み機能

R/FコンバータにはR/F変換終了時とエラー発生時に割り込みを発生させる機能があります。

基準発振時は計測カウンタが"00000H"になると双方のカウンタのカウント動作が停止し、RFRUNRが"0"に設定されます。同時に割り込み要因フラグIRFRが"1"にセットされます。

センサ発振時はタイムベースカウンタが"00000H"になると双方のカウンタのカウント動作が停止し、RFRUNSが"0"に設定されます。同時に割り込み要因フラグIRFSが"1"にセットされます。

また、センサ発振中に計測カウンタがオーバーフローした場合も双方のカウンタのカウント動作が停止し、RFRUNSが"0"に設定されます。この場合は割り込み要因フラグIRFEが"1"にセットされます。同時にOVMCフラグも"1"にセットされます。

基準発振中にタイムベースカウンタがオーバーフローした場合、双方のカウンタのカウント動作が停止し、RFRUNRが"0"に設定されます。この場合は割り込み要因フラグIRFEが"1"にセットされます。同時にOVTCフラグも"1"にセットされます。

これらの割り込み要因は割り込みマスクレジスタEIRFR、EIRFS、EIRFEによるマスクが可能で、"1"に設定している場合にCPUに対して割り込みが発生します。割り込みマスクレジスタを"0"に設定している場合、割り込み要因フラグは"1"にセットされますが、CPUに対する割り込みは発生しません。なお、割り込み要因フラグは"1"を書き込むことにより"0"にリセットされます。

図4.13.5.1 ~ 図4.13.5.4にR/Fコンバータの割り込みタイミングを示します。

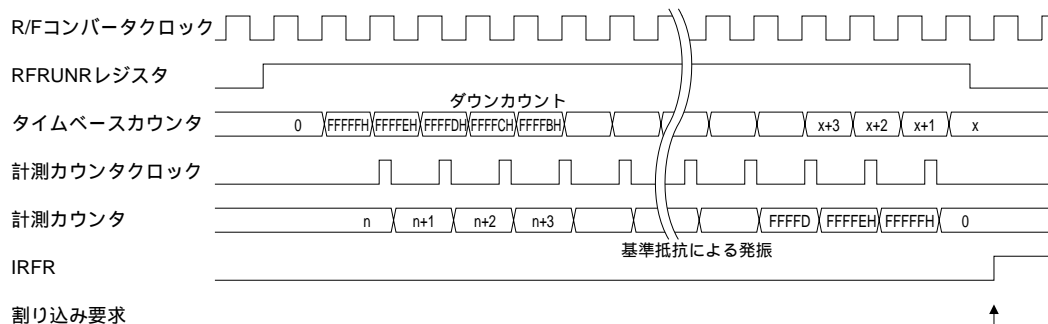


図4.13.5.1 基準発振完了割り込み

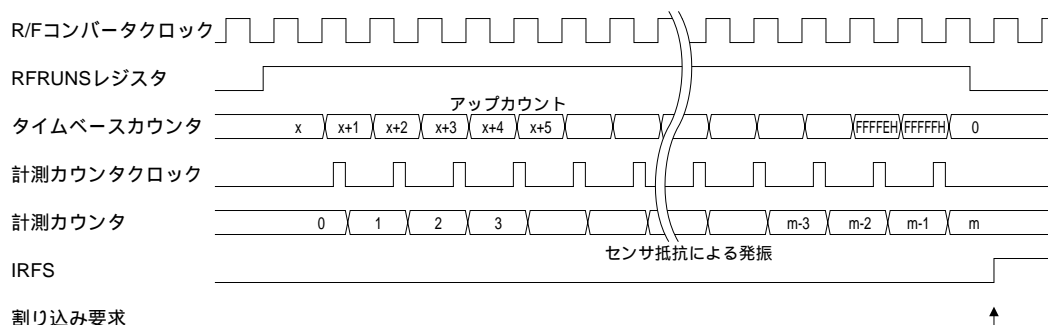


図4.13.5.2 センサ発振完了割り込み

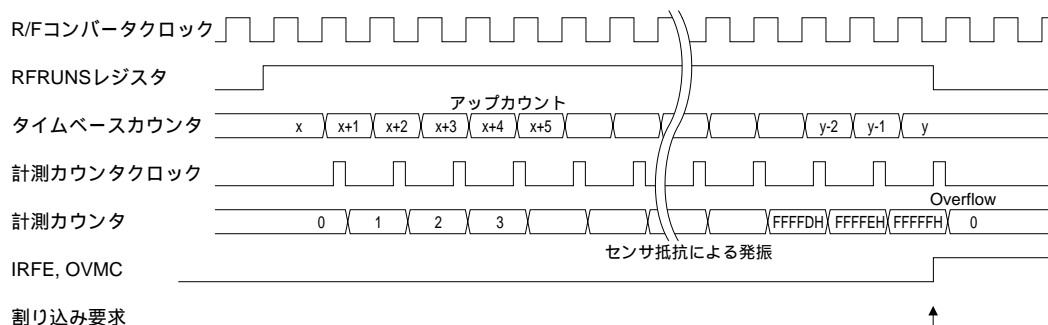


図4.13.5.3 計測カウンタオーバーフローによるエラー割り込み

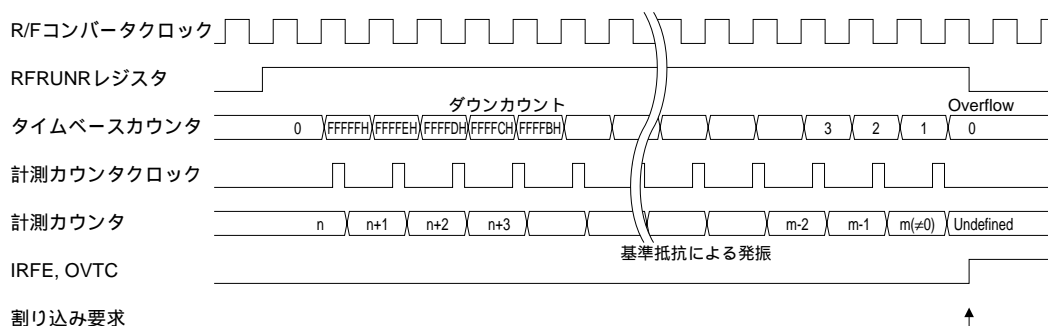


図4.13.5.4 タイムベースカウンタオーバーフローによるエラー割り込み

注: エラー割り込みが発生した場合、オーバーフローフラグ(OVMC, OVTC)に"1"を書き込んで"0"にリセットしてください。これらのフラグがリセットされない場合、再度同じエラー割り込みが発生してしまいます。

4.13.6 連続発振機能

RFCNTレジスタに"1"を設定することで、基準発振、センサ発振の停止条件によらずに発振を継続させることができます。RFOUTレジスタの設定と併せて使用することで、CR発振周波数が容易に測定できるようになります。

4.13.7 R/FコンバータのI/Oメモリ

表4.13.7.1にR/Fコンバータの制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.13.7.1(a) R/Fコンバータの制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FF15H	General	RFCKS2	RFCKS1	RFCKS0	General	0	1	0	汎用レジスタ R/Fコンバータ クロック 周波数選択 [RFCKS2~0] 0 1 2 3 Off fosc1 fosc1/2 fosc1/4 [RFCKS2~0] 4 5 6 7 周波数 PT1 fosc3 fosc3/2 fosc3/4
					RFCKS2	0			
					RFCKS1	0			
					RFCKS0	0			
FF60H	R/W	RFCNT	RFOUT	ERF1	ERF0	0	Continue	Normal	連続発振イネーブル RFOUTイネーブル R/F変換 [ERF1, 0] 0 1 2 3 選択 R/F変換 I/O Ch.0 DC Ch.1 AC Ch.1 DC
						0	Enable	Disable	
						0			
						0			
FF61H	R/W	OVTC	OVMC	RFRUNR	RFRUNS	0	Overflow	Non-ov	タイムベースカウンタオーバーフローフラグ 計測カウンタオーバーフローフラグ 基準発振Run制御/ステータス センサ発振Run制御/ステータス
						0	Overflow	Non-ov	
						0	Run	Stop	
						0	Run	Stop	
FF62H	R/W	MC3	MC2	MC1	MC0	-*2			計測カウンタ(MC0 ~ MC3) LSB
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF63H	R/W	MC7	MC6	MC5	MC4	-*2			計測カウンタ(MC4 ~ MC7)
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF64H	R/W	MC11	MC10	MC9	MC8	-*2			計測カウンタ(MC8 ~ MC11)
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF65H	R/W	MC15	MC14	MC13	MC12	-*2			計測カウンタ(MC12 ~ MC15)
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF66H	R/W	MC19	MC18	MC17	MC16	-*2			MSB 計測カウンタ(MC16 ~ MC19)
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF67H	R/W	TC3	TC2	TC1	TC0	-*2			タイムベースカウンタデータ(TC0 ~ TC3)
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF68H	R/W	TC7	TC6	TC5	TC4	-*2			タイムベースカウンタデータ(TC4 ~ TC7)
						-*2			
						-*2			
						-*2			
FF69H	R/W	TC11	TC10	TC9	TC8	-*2			タイムベースカウンタデータ(TC8 ~ TC11)
						-*2			
						-*2			
						-*2			

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

表4.13.7.1(b) R/Fコンバータの制御ビット

アドレス	レジスタ								注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FF6AH	TC15	TC14	TC13	TC12	TC15	–*2			タイムベースカウンタデータ(TC12 ~ TC15)
					TC14	–*2			
					TC13	–*2			
					TC12	–*2			
FF6BH	TC19	TC18	TC17	TC16	TC19	–*2			MSB タイムベースカウンタデータ(TC16 ~ TC19)
					TC18	–*2			
					TC17	–*2			
					TC16	–*2			
FFE1H	General	EIRFE	EIRFR	EIRFS	General	0	1	0	汎用レジスタ 割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータエラー) 割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータ基準発振完了) 割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータセンサ発振完了)
					EIRFE	0	Enable	Mask	
					EIRFR	0	Enable	Mask	
					EIRFS	0	Enable	Mask	
FFF1H	0	IRFE	IRFR	IRFS	0*3	–*2	(R)	(R)	未使用 割り込み要因フラグ(R/Fコンバータエラー) 割り込み要因フラグ(R/Fコンバータ基準発振完了) 割り込み要因フラグ(R/Fコンバータセンサ発振完了)
					IRFE	0	Yes	No	
					IRFR	0	(W)	(W)	
					IRFS	0	Reset	Invalid	

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

RFCKS0 ~ RFCKS2: R/Fコンバータクロック周波数選択レジスタ (FF15H・D0 ~ D2)
R/Fコンバータのクロック周波数を選択します。

表4.13.7.2 R/Fコンバータのクロック周波数

RFCKS2	RFCKS1	RFCKS0	R/Fコンバータクロック
1	1	1	fosc3 / 4
1	1	0	fosc3 / 2
1	0	1	fosc3 / 1
1	0	0	プログラブルタイマ1
0	1	1	fosc1 / 4 (8kHz)
0	1	0	fosc1 / 2 (16kHz)
0	0	1	fosc1 / 1 (32kHz)
0	0	0	OFF

fosc1: OSC1発振周波数、()内の周波数は、fosc1=32kHzの場合

fosc3: OSC3発振周波数

プログラブルタイマ1を選択した場合は、プログラブルタイマ1のアンダーフロー信号を1/2分周した信号がR/Fコンバータクロックとして使用されます。この場合、シリアルインタフェースを動作させる前にプログラブルタイマの制御が必要です。プログラブルタイマについては"4.9 プログラブルタイマ"を参照してください。

R/Fコンバータを動作させる必要がないときは、消費電流を低減させるため"000B"に設定してクロック供給を停止してください。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"000B"に設定されます。

ERF0, ERF1: R/F変換選択レジスタ (FF60H・D0, D1)

R/F変換を行うチャンネルとセンサの種類を選択します。

表4.13.7.3 チャンネルとセンサタイプの設定

ERF1	ERF0	チャンネルとセンサタイプ
1	1	Ch.1 DC
1	0	Ch.1 AC
0	1	Ch.0 DC
0	0	I/O

DC: サーミスタ等の抵抗性センサを用いたDC印可を行うR/F変換

AC: 湿度センサなどの抵抗性センサを用いたAC印可を行うR/F変換

R/Fコンバータチャンネル0の入出力端子は入出力兼用ポート(P00 ~ P02)と兼用されており、本レジスタを"00B"以外に設定することにより、P00、P01、P02をそれぞれRFIN0、REF0、SEN0端子として使用することができます。

イニシャルリセット時、このレジスタは"00B"に設定されます。

RFOUT: RFOUTイネーブルレジスタ(FF60H・D2)

P03からのRFOUT出力を許可します。

"1"書き込み: イネーブル(RFOUT)
 "0"書き込み: ディセーブル(入出力兼用ポート)
 読み出し: 可能

RFOUT出力を行う場合は、RFOUTに"1"を書き込んでP03をRFOUT出力に設定してください。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

RFCNT: 連続発振イネーブルレジスタ(FF60H・D3)

R/Fコンバータを連続発振させます。

"1"書き込み: 連続発振
 "0"書き込み: 通常発振
 読み出し: 可能

RFCNTに"1"を書き込むことで、基準発振、センサ発振の停止条件によらずに発振を継続させることができます。RFOUTレジスタの設定と併せて使用することで、CR発振周波数が容易に測定できるようになります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

RFRUNS: センサ発振RUN制御/ステータス(FF61H・D0)

センサのR/F変換を開始させると共に動作状態を示します。

"1"書き込み: R/F変換開始
 "0"書き込み: 発振停止
 "1"読み出し: R/F変換中
 "0"読み出し: 停止中

RFRUNSに"1"を書き込むことによりセンサのR/F変換を開始します。R/F変換中はこのレジスタに"1"が保持され、R/F変換が終了した時点で"0"に設定されます。R/F変換中にRFRUNSに"0"を書き込むと、発振が停止します。

センサ発振中にERF0 ~ ERF1でチャンネル1のAC、DC印可の切り換えを行ってもRFRUNSはリセットされません。この場合は"0"を書き込んでリセットしてください。

RFRUNSとRFRUNRを同時に"1"に設定した場合は、RFRUNRが有効となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

RFRUNR: 基準発振RUN制御/ステータス(FF61H・D1)

基準抵抗のR/F変換を開始させると共に動作状態を示します。

"1"書き込み: R/F変換開始
 "0"書き込み: 発振停止
 "1"読み出し: R/F変換中
 "0"読み出し: 停止中

RFRUNRに"1"を書き込むことにより基準抵抗のR/F変換を開始します。R/F変換中はこのレジスタに"1"が保持され、R/F変換が終了した時点で"0"に設定されます。R/F変換中にRFRUNRに"0"を書き込むと、発振が停止します。

基準発振中にERF0 ~ ERF1でチャンネル1のAC、DC印可の切り換えを行ってもRFRUNRはリセットされません。この場合は"0"を書き込んでリセットしてください。チャンネルを切り換えた場合はRFRUNRがリセットされます。

RFRUNSとRFRUNRを同時に"1"に設定した場合は、RFRUNRが有効となります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

OVMC: 計測カウンタオーバーフローフラグ (FF61H・D2)
計測カウンタのオーバーフロー発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: オーバーフロー発生
"0"読み出し: オーバーフローなし
"1"書き込み: "0"にリセット
"0"書き込み: 無効

センサの発振をカウント中に計測カウンタにオーバーフローが発生した場合、OVMCが"1"にセットされます。同時にエラー割り込みも発生します。このフラグはR/F変換開始時および"1"の書き込みによりリセットされます。

イニシャルリセット時、このフラグは"0"に設定されます。

OVTC: タイムベースカウンタオーバーフローフラグ (FF61H・D3)
タイムベースカウンタのオーバーフロー発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: オーバーフロー発生
"0"読み出し: オーバーフローなし
"1"書き込み: "0"にリセット
"0"書き込み: 無効

基準抵抗の発振中にタイムベースカウンタにオーバーフローが発生した場合、OVTCが"1"にセットされます。同時にエラー割り込みも発生します。このフラグはR/F変換開始時および"1"の書き込みによりリセットされます。

イニシャルリセット時、このフラグは"0"に設定されます。

MC0 ~ MC19: 計測カウンタ (FF62H ~ FF66H)

CR発振クロックによりカウントアップする計測カウンタで、4ビット単位で書き込み/読み出しが可能です。基準抵抗による発振を行う場合は発振を開始する前に、カウントするクロック数の補数を書き込んでおきます。基準抵抗による発振によってこのカウンタがオーバーフローし、カウント値が"00000H"になると発振およびカウント動作が停止します。

センサによる発振を行う場合は発振を開始する前に、"00000H"を書き込んでおきます (基準発振に引き続いて行う場合は不要)。センサ発振とカウント動作はタイムベースカウンタがオーバーフローした時点で停止します。停止したカウンタの値を読み出すことによって基準抵抗との差が得られますので、それをプログラムで処理して目的の数値を算出してください。

なお、基準発振前に書き込む初期値は、測定範囲およびカウンタのオーバーフローに注意して設定してください。

イニシャルリセット時、このカウンタの内容は不定となります。

TC0 ~ TC19: タイムベースカウンタ (FF67H ~ FF6BH)

基準抵抗とセンサのCR発振時間を合わせるためのタイムベースカウンタで、4ビット単位で書き込み/読み出しが可能です。

基準抵抗による発振時はカウントダウンを行い、センサによる発振時は"00000H"までのカウントアップを行います。双方のカウント時間を合わせるため、基準発振を開始する前にはこのカウンタに"00000H"を書き込んでおく必要があります。基準発振のカウント値は基準発振終了時に読み出してメモリにセーブしてください。センサ発振を開始する前に、その値をこのカウンタに設定します。

イニシャルリセット時、このカウンタの内容は不定となります。

注: 計測カウンタおよびタイムベースカウンタにデータを書き込む場合は、必ず下位のアドレスから (FF62H→FF63H→FF64H→FF65H→FF66H、FF67H→FF68H→FF69H→FF6AH→FF6BH) 5ワードすべてを書き込んでください。また、カウンタへの書き込みにはLD命令を使用してください。リードモディファイライト命令 (AND、OR、ADD、SUB等) は使用しないでください。下位4ビット以外を先に書き込むと、正しい値に設定されません。

EIRFS, EIRFR, EIRFE: 割り込みマスクレジスタ (FFE1H・D0 ~ D2)
R/Fコンバータの割り込みについてマスクするかしないかを選択します。

"1"書き込み: イネーブル
"0"書き込み: マスク
読み出し: 可能

EIRFS、EIRFR、EIRFEはそれぞれセンサ発振完了、基準発振完了およびエラー割り込みに対応する割り込みマスクレジスタで、"1"を書き込むことによりR/Fコンバータ割り込みが許可され、"0"を書き込むことにより割り込みがマスクされます。

イニシャルリセット時、これらのレジスタは"0"に設定されます。

IRFS, IRFR, IRFE: 割り込み要因フラグ (FFF1H・D0 ~ D2)
R/Fコンバータ割り込みの発生状態を示すフラグです。

"1"読み出し: 割り込み有
"0"読み出し: 割り込み無
"1"書き込み: 要因フラグをリセット
"0"書き込み: 無効

IRFRは基準抵抗のR/F変換が終了した場合に"1"にセットされます。

IRFSはセンサのR/F変換が終了した場合に"1"にセットされます。

IRFEは基準抵抗の発振カウント中にタイムベースカウンタがオーバーフローした場合、またはセンサの発振カウント中に計測カウンタがオーバーフローした場合に"1"にセットされます。

これらのフラグによりR/Fコンバータ割り込みの有無をソフトウェアで判断することができます。なお、このフラグは割り込みマスクレジスタの設定にかかわらず、上記の条件で"1"にセットされます。

これらのフラグは、"1"を書き込むことによって"0"にリセットされます。

割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

イニシャルリセット時、これらのフラグは"0"に設定されます。

4.13.8 プログラミング上の注意事項

- (1) カウンタのオーバーフローによりエラー割り込みが発生した場合、オーバーフローフラグ(OVMC、OVTC)に"1"を書き込んで"0"にリセットしてください。これらのフラグがリセットされない場合、再度同じ割り込みが発生してしまいます。
- (2) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。
- (3) 計測カウンタおよびタイムベースカウンタにデータを書き込む場合は、必ず下位のアドレスから(FF62H→FF63H→FF64H→FF65H→FF66H、FF67H→FF68H→FF69H→FF6AH→FF6BH) 5ワードすべてを書き込んでください。また、カウンタへの書き込みにはLD命令を使用してください。リードモディファイライト命令(AND、OR、ADD、SUB等)は使用しないでください。下位4ビット以外を先に書き込むと、正しい値に設定されません。
- (4) R/F変換終了(割り込み発生)後に再度R/F変換を実施する場合は、R/Fコンバータクロック周期(fosc1選択時は31μsec)以上経過した後に変換を開始(RFRUNR/RFRUNS="1")してください。
特にCPUクロックにOSC3が選択され、R/Fコンバータクロックにfosc1 ~ fosc1/4が選択されている場合は注意が必要です。

4.14 SVD(電源電圧検出)回路

4.14.1 SVD回路の構成

S1C6F632にはSVD(電源電圧検出)回路が内蔵されており、ソフトウェアによって電源電圧低下を知ることができます。SVD回路のON/OFFおよび比較電圧の設定は、ソフトウェアによって行えます。

SVD回路の構成は図4.14.1.1のとおりです。

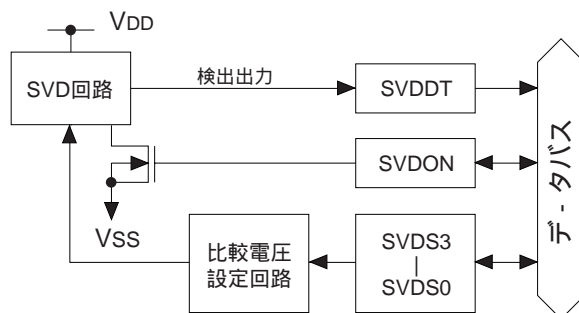


図4.14.1.1 SVD回路の構成

4.14.2 SVD動作

SVD回路はソフトウェアによって設定した比較電圧と電源電圧(VDD端子 - VSS端子)の比較を行い、その結果をSVDDTラッチにセットします。このSVDDTラッチのデータを読み出すことにより、電源電圧が正常か、あるいは低下していることをソフトウェアによって判断できます。

比較電圧はレジスタSVDS3 ~ SVDS0によって表4.14.2.1の15種類に設定できます。

表4.14.2.1 比較電圧値

SVDS3	SVDS2	SVDS1	SVDS0	比較電圧(V)
1	1	1	1	3.2
1	1	1	0	3.1
1	1	0	1	3.0
1	1	0	0	2.9
1	0	1	1	2.8
1	0	1	0	2.7
1	0	0	1	2.6
1	0	0	0	2.5
0	1	1	1	2.4
0	1	1	0	2.3
0	1	0	1	2.2
0	1	0	0	2.1
0	0	1	1	2.0
0	0	1	0	1.9
0	0	0	1	1.8
0	0	0	0	禁止

SVD回路による電源電圧の検出動作はレジスタSVDONに"1"を書き込むことによって開始します。その後SVDONに"0"を書き込むことにより、SVD回路は検出結果をSVDDTラッチにセットして検出動作を停止(回路をOFF)します。

なお、安定した検出結果を得るためには少なくとも500μsec以上SVD回路をONにする必要があります。したがって、電源電圧の検出は次のシーケンスで行ってください。

1. SVDONを"1"にセット
2. 500μsec以上保持
3. SVDONを"0"にセット
4. SVDDTの読み出し

なお、SVD動作時は消費電流が大きくなりますので、必要なとき以外は必ずSVD回路をOFFに設定してください。

4.14.3 SVD回路のI/Oメモリ

表4.14.3.1にSVD回路の制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.14.3.1 SVD回路の制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FF04H	SVDS3	SVDS2	SVDS1	SVDS0	SVDS3	0			SVD比較電圧 [SVDS3~0] 0 1 2 3 4 5 6 7 電圧(V) 禁止 1.8 1.9 2.0 2.1 2.2 2.3 2.4 [SVDS3~0] 8 9 10 11 12 13 14 15 電圧(V) 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3.0 3.1 3.2
					SVDS2	0			
	R/W				SVDS1	0			
					SVDS0	0			
FF05H	0	0	SVDDT	SVDON	0 *3	— *2			未使用 未使用 SVD検出データ SVD回路On/Off
					0 *3	— *2			
	R			R/W	SVDDT	0	Low	Normal	
					SVDON	0	On	Off	

*1 イニシャルリセット時の初期値

*2 回路上設定されない

*3 読み出し時は常時"0"

SVDS3 ~ SVDS0: SVD比較電圧設定レジスタ(FF04H)

SVDの比較電圧を表4.14.2.1に示すとおり設定します。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SVDON: SVD検出ON/OFF制御レジスタ(FF05H・D0)

SVD回路のON/OFFを制御します。

"1"書き込み: SVD回路 ON

"0"書き込み: SVD回路 OFF

読み出し: 可能

SVDONを"1"にセットすることによりSVD検出が行われ、SVDONを"0"にリセットした直後にSVDDTラッチへ検出結果が書き込まれます。なお、安定したSVD検出結果を得るためには、少なくとも500μsec以上SVD回路をONにする必要があります。

イニシャルリセット時、このレジスタは"0"に設定されます。

SVDDT: SVD検出結果(FF05H・D1)

SVDによる検出結果がセットされます。

"0"読み出し: 比較電圧より電源電圧($V_{DD} - V_{SS}$)が高い

"1"読み出し: 比較電圧より電源電圧($V_{DD} - V_{SS}$)が低い

書き込み: 無効

SVDONを"0"にした時点の検出結果を読み出すことができます。

イニシャルリセット時、SVDDTは"0"に設定されます。

4.14.4 プログラミング上の注意事項

- (1) SVD回路はONさせてから安定した結果が得られるまでに500μsecの時間を必要とします。このため、SVDONに"1"を書き込み後、500μsec以上経過後にSVDONに"0"を書き込んでSVDDTを読み出してください。
- (2) SVD検出動作時は消費電流が大きくなりますので、必要なとき以外は必ずSVD検出をOFFに設定してください。

4.15 割り込みとHALT/SLEEP

<割り込みの種類>

S1C6F632には以下の7種類の割り込みが設定されています。

外部割り込み	・キー割り込み	(8系統)
内部割り込み	・ウォッチドッグタイマ割り込み	(NMI、1系統)
	・プログラマブルタイマ割り込み	(16系統)
	・シリアルインタフェース割り込み	(1系統)
	・計時タイマ割り込み	(8系統)
	・ストップウォッチタイマ割り込み	(4系統)
	・R/Fコンバータ割り込み	(3系統)

割り込みを許可するためにはインタラプトフラグを"1"にセット(EI)し、あわせて必要な系統の割り込みマスクレジスタも"1"にセット(イネーブル)する必要があります。

割り込みが発生するとインタラプトフラグは自動的に"0"にリセット(DI)され、以後の割り込みは禁止されます。

ウォッチドッグタイマ割り込みはNMI(ノンマスクابل割り込み)のため、インタラプトフラグの設定にかかわらず、割り込みが発生します。このため、割り込みマスクレジスタも用意されていません。ただし、ウォッチドッグタイマはソフトウェアにより動作を停止させることができますので、NMIを発生させないようにすることができます。

図4.15.1に割り込み回路の構成を示します。

注: イニシャルリセット時、NMIを含むすべての割り込みはスタックポイントSP1、SP2の両方がソフトウェアで設定されるまでマスクされます。また、SP1、SP2を設定後どちらか一方を再設定すると、もう一方が再設定されるまで割り込み(NMIを含む)は再びマスクされます。したがって、SP1およびSP2の設定は必ずペアで行ってください。

<HALT/SLEEP>

S1C6F632は必要なとき以外の消費電流を大幅に低減させるHALT機能およびSLEEP機能を持っています。

CPUはHALT命令が入力されるとHALT状態に入り、CPUの動作を停止します。ただし、発振回路は動作していますので、タイマのカウント等は継続して行われます。CPUのHALT状態からの再起動はNMIを含むハードウェア割り込み要求が発生することにより行われます。

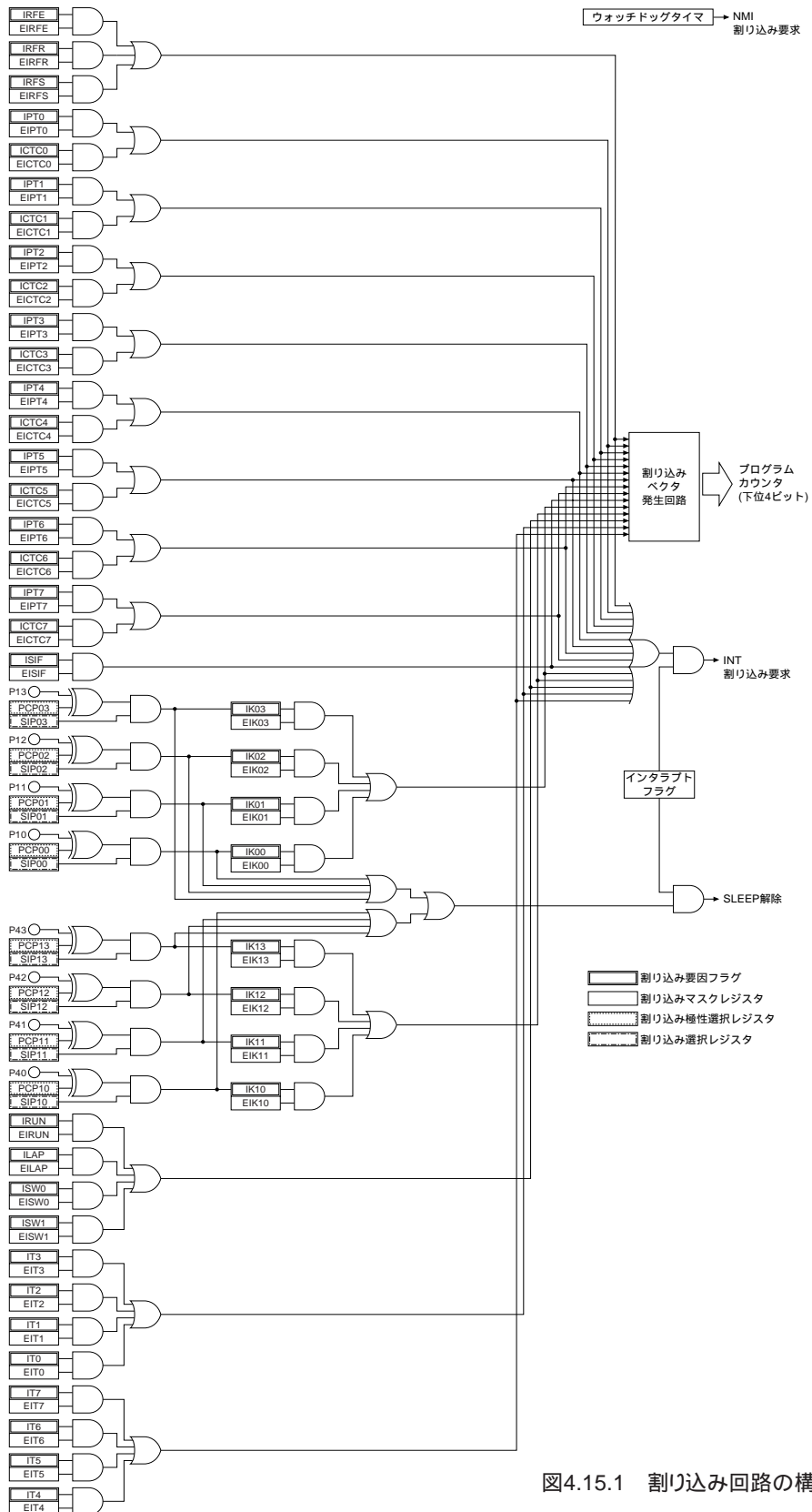
CPUのSLP命令によって移行するSLEEP状態では、HALT状態と同様CPUの動作を停止するとともにOSC1/OSC3発振回路も停止します。

CPUのSLEEP状態からの再起動は、P1xポートまたはP4xポートのキー入力割り込み要求が発生することのみに限られます。したがって、SLP命令を実行する前に、インタラプトフラグおよびSLEEP解除に使用する入出力兼用ポートの制御レジスタを以下のとおり設定しておく必要があります。

- ・インタラプトフラグ(Iフラグ) = "1"(割り込みを許可)
- ・割り込み選択レジスタSIPxx = "1"(Pxx入出力兼用ポート割り込みを選択)
- ・割り込みマスクレジスタEIKxx = "1"(Pxx入出力兼用ポート割り込みを許可)
- ・ノイズリジェクタ選択レジスタNRSPxx = "00"(ノイズリジェクタをバイパス)

SLEEP状態が入出力兼用ポートの割り込みによって解除されると、発振の安定を待つCPUの動作(入力割り込みの処理)を再開します。

HALT/SLEEP状態への移行と解除のタイミング等については、"S1C63000コアCPUマニュアル"を参照してください。



4.15.1 割り込みの要因

割り込み要求が発生する要因を表4.15.1.1に示します。

各々の割り込み要因により、対応する割り込み要因フラグが"1"にセットされます。

CPUに対する割り込みは、以下の条件が成立している場合に割り込み要因フラグが"1"にセットされたときに発生します。

- 対応する割り込みマスクレジスタが"1"(イネーブル)
- インタラプトフラグが"1"(EI)

割り込み要因フラグは"1"書き込みにより"0"にリセットされます。

イニシャルリセット時、割り込み要因フラグは"0"にリセットされます。

* ウォッチドッグタイマはNMIのため、上記の条件とは無関係に割り込みが発生します。割り込み要因フラグも用意されていません。

表4.15.1.1 割り込み要因

割り込み要因	割り込み要因フラグ
R/Fコンバータ(エラー)	IRFE (FFF1H•D2)
R/Fコンバータ(基準発振完了)	IRFR (FFF1H•D1)
R/Fコンバータ(センサ発振完了)	IRFS (FFF1H•D0)
プログラマブルタイマ0(アンダーフロー)	IPT0 (FFF2H•D1)
プログラマブルタイマ0(コンペアマッチ)	ICTC0 (FFF2H•D0)
プログラマブルタイマ1(アンダーフロー)	IPT1 (FFF3H•D1)
プログラマブルタイマ1(コンペアマッチ)	ICTC1 (FFF3H•D0)
プログラマブルタイマ2(アンダーフロー)	IPT2 (FFF4H•D1)
プログラマブルタイマ2(コンペアマッチ)	ICTC2 (FFF4H•D0)
プログラマブルタイマ3(アンダーフロー)	IPT3 (FFF5H•D1)
プログラマブルタイマ3(コンペアマッチ)	ICTC3 (FFF5H•D0)
プログラマブルタイマ4(アンダーフロー)	IPT4 (FFF6H•D1)
プログラマブルタイマ4(コンペアマッチ)	ICTC4 (FFF6H•D0)
プログラマブルタイマ5(アンダーフロー)	IPT5 (FFF7H•D1)
プログラマブルタイマ5(コンペアマッチ)	ICTC5 (FFF7H•D0)
プログラマブルタイマ6(アンダーフロー)	IPT6 (FFF8H•D1)
プログラマブルタイマ6(コンペアマッチ)	ICTC6 (FFF8H•D0)
プログラマブルタイマ7(アンダーフロー)	IPT7 (FFF9H•D1)
プログラマブルタイマ7(コンペアマッチ)	ICTC7 (FFF9H•D0)
シリアルインタフェース(データ8ビット入出力終了)	ISIF (FFFAH•D0)
キー入力割り込み<P13>	IK03 (FFFBH•D3)
キー入力割り込み<P12>	IK02 (FFFBH•D2)
キー入力割り込み<P11>	IK01 (FFFBH•D1)
キー入力割り込み<P10>	IK00 (FFFBH•D0)
キー入力割り込み<P43>	IK13 (FFFCH•D3)
キー入力割り込み<P42>	IK12 (FFFCH•D2)
キー入力割り込み<P41>	IK11 (FFFCH•D1)
キー入力割り込み<P40>	IK10 (FFFCH•D0)
ストップウォッチタイマ(ダイレクトRUN)	IRUN (FFFDH•D3)
ストップウォッチタイマ(ダイレクトLAP)	ILAP (FFFDH•D2)
ストップウォッチタイマ(1Hz)	ISW1 (FFFDH•D1)
ストップウォッチタイマ(10Hz)	ISW10 (FFFDH•D0)
計時タイマ16Hz(立ち下がりエッジ)	IT3 (FFFEH•D3)
計時タイマ32Hz(立ち下がりエッジ)	IT2 (FFFEH•D2)
計時タイマ64Hz(立ち下がりエッジ)	IT1 (FFFEH•D1)
計時タイマ128Hz(立ち下がりエッジ)	IT0 (FFFEH•D0)
計時タイマ1Hz(立ち下がりエッジ)	IT7 (FFFFH•D3)
計時タイマ2Hz(立ち下がりエッジ)	IT6 (FFFFH•D2)
計時タイマ4Hz(立ち下がりエッジ)	IT5 (FFFFH•D1)
計時タイマ8Hz(立ち下がりエッジ)	IT4 (FFFFH•D0)

注: 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(フラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。

4.15.2 割り込みの個別マスク

割り込み要因フラグは、対応する割り込みマスクレジスタによりマスクできます。

割り込みマスクレジスタは読み出し/書き込みが可能なレジスタであり、"1"書き込みでイネブル(割り込み許可)、"0"書き込みでマスク(割り込み禁止)となります。

イニシャルリセット時、割り込みマスクレジスタは"0"にリセットされます。

表4.15.2.1に割り込みマスクレジスタと割り込み要因フラグの対応を示します。

表4.15.2.1 割り込みマスクレジスタと割り込み要因フラグ

割り込みマスクレジスタ		割り込み要因フラグ	
EIRFE	(FFE1H•D2)	IRFE	(FFF1H•D2)
EIRFR	(FFE1H•D1)	IRFR	(FFF1H•D1)
EIRFS	(FFE1H•D0)	IRFS	(FFF1H•D0)
EIPT0	(FFE2H•D1)	IPT0	(FFF2H•D1)
EICTC0	(FFE2H•D0)	ICTC0	(FFF2H•D0)
EIPT1	(FFE3H•D1)	IPT1	(FFF3H•D1)
EICTC1	(FFE3H•D0)	ICTC1	(FFF3H•D0)
EIPT2	(FFE4H•D1)	IPT2	(FFF4H•D1)
EICTC2	(FFE4H•D0)	ICTC2	(FFF4H•D0)
EIPT3	(FFE5H•D1)	IPT3	(FFF5H•D1)
EICTC3	(FFE5H•D0)	ICTC3	(FFF5H•D0)
EIPT4	(FFE6H•D1)	IPT4	(FFF6H•D1)
EICTC4	(FFE6H•D0)	ICTC4	(FFF6H•D0)
EIPT5	(FFE7H•D1)	IPT5	(FFF7H•D1)
EICTC5	(FFE7H•D0)	ICTC5	(FFF7H•D0)
EIPT6	(FFE8H•D1)	IPT6	(FFF8H•D1)
EICTC6	(FFE8H•D0)	ICTC6	(FFF8H•D0)
EIPT7	(FFE9H•D1)	IPT7	(FFF9H•D1)
EICTC7	(FFE9H•D0)	ICTC7	(FFF9H•D0)
EISEIF	(FFEAH•D0)	ISIF	(FFFAH•D0)
EIK03	(FFEBH•D3)	IK03	(FFFBH•D3)
EIK02	(FFEBH•D2)	IK02	(FFFBH•D2)
EIK01	(FFEBH•D1)	IK01	(FFFBH•D1)
EIK00	(FFEBH•D0)	IK00	(FFFBH•D0)
EIK13	(FFECH•D3)	IK13	(FFFBH•D3)
EIK12	(FFECH•D2)	IK12	(FFFBH•D2)
EIK11	(FFECH•D1)	IK11	(FFFBH•D1)
EIK10	(FFECH•D0)	IK10	(FFFBH•D0)
EIRUN	(FFEDH•D3)	IRUN	(FFFDH•D3)
EILAP	(FFEDH•D2)	ILAP	(FFFDH•D2)
EISW1	(FFEDH•D1)	ISW1	(FFFDH•D1)
EISW10	(FFEDH•D0)	ISW10	(FFFDH•D0)
EIT3	(FFEEH•D3)	IT3	(FFFEH•D3)
EIT2	(FFEEH•D2)	IT2	(FFFEH•D2)
EIT1	(FFEEH•D1)	IT1	(FFFEH•D1)
EIT0	(FFEEH•D0)	IT0	(FFFEH•D0)
EIT7	(FFEFH•D3)	IT7	(FFFFH•D3)
EIT6	(FFEFH•D2)	IT6	(FFFFH•D2)
EIT5	(FFEFH•D1)	IT5	(FFFFH•D1)
EIT4	(FFEFH•D0)	IT4	(FFFFH•D0)

4.15.3 割り込みベクタ

CPUに割り込み要求が入力されると、CPUは割り込み処理を開始します。
割り込み処理は実行中のプログラムの終了後、以下の手順で行われます。

1. フラグレジスタを退避後、Iフラグをリセット
2. 次に実行すべきプログラムのアドレスデータ(プログラムカウンタの値)をスタック領域(RAM)に退避
3. 割り込み要求による割り込みベクタの値(0100H~010FH)をプログラムカウンタにセット
4. 指定されたアドレスのプログラムを実行(ソフトウェアによる割り込み処理ルーチンの実行)

表4.15.3.1に割り込み要求と割り込みベクタの対応を示します。

表4.15.3.1 割り込み要求と割り込みベクタ

割り込みベクタ	割り込み要因	優先順位
0100H	ウォッチドッグタイマ	高い ↑
0101H	R/Fコンバータ	
0102H	プログラマブルタイマ0	
0103H	プログラマブルタイマ1	
0104H	プログラマブルタイマ2	
0105H	プログラマブルタイマ3	
0106H	プログラマブルタイマ4	
0107H	プログラマブルタイマ5	
0108H	プログラマブルタイマ6	
0109H	プログラマブルタイマ7	
010AH	シリアルインタフェース	↓ 低い
010BH	キー入力割り込み<P1>	
010CH	キー入力割り込み<P4>	
010DH	ストップウォッチタイマ	
010EH	計時タイマ(128Hz, 64Hz, 32Hz, 16Hz)	
010FH	計時タイマ(8Hz, 4Hz, 2Hz, 1Hz)	

プログラムカウンタ(PC)の下位4ビットが割り込み要求による間接アドレス指定となります。

注: 割り込み処理ルーチンは、割り込みベクタアドレス(100H~10FH)より+7FH~+80Hの範囲内に配置してください。これが困難な場合は、上記の範囲内に中継ポイント(ベクタによる分岐先)を設け、そこから割り込みルーチンの本体に分岐させてください。

例:

```

;*****
;** interrupt vector area **
;*****

.org 0x0100
JR INT_DUMMY ;WATCH DOG TIMER INTERRUPT VECTOR(0x100)
JR INT_RFC ;RFC INTERRUPT VECTOR(0x101)
JR INT_DUMMY ;PTIMER0 INTERRUPT VECTOR(0x102)
JR INT_DUMMY ;PTIMER1 INTERRUPT VECTOR(0x103)
JR INT_DUMMY ;PTIMER2 INTERRUPT VECTOR(0x104)
JR INT_DUMMY ;PTIMER3 INTERRUPT VECTOR(0x105)
JR INT_DUMMY ;PTIMER4 INTERRUPT VECTOR(0x106)
JR INT_DUMMY ;PTIMER5 INTERRUPT VECTOR(0x107)
JR INT_DUMMY ;PTIMER6 INTERRUPT VECTOR(0x108)
JR INT_DUMMY ;PTIMER7 INTERRUPT VECTOR(0x109)
JR INT_DUMMY ;SIO INTERRUPT VECTOR(0x10A)
JR INT_DUMMY ;P1x PORT INTERRUPT VECTOR(0x10B)
JR INT_DUMMY ;P4x PORT INTERRUPT VECTOR(0x10C)
JR INT_DUMMY ;STOPWATCH INTERRUPT VECTOR(0x10D)
JR INT_DUMMY ;CLOCK TIMER1 INTERRUPT VECTOR(0x10E)
JR INT_DUMMY ;CLOCK TIMER2 INTERRUPT VECTOR(0x10F)

```

```
*****
** subinterrupt vector area **
*****
    .org 0x120
INT_RFC:
    CALR  INTRFC      ;call Interrupt RFC
    RETI
INT_DUMMY:
    RETI

*****
** Interrupt RFC **
*****
    .org 0x800
INTRFC:
    LDB  %y1,P5CTL0@1
    LDB  %x1,ITC_RFC1@1
    LD   [%y],[%x]    ;Port Output
    RET
```

4.15.4 割り込みのI/Oメモリ

表4.15.4.1に割り込みに関する制御ビットとそのアドレスを示します。

表4.15.4.1(a) 割り込みの制御ビット

アドレス	レジスタ				Name	Init *1	1	0	注 釈
	D3	D2	D1	D0					
FF3CH	SIP03	SIP02	SIP01	SIP00	SIP03	0	Enable	Disable	P10 ~ P13割り込み選択レジスタ
					SIP02	0	Enable	Disable	
					SIP01	0	Enable	Disable	
					SIP00	0	Enable	Disable	
FF3DH	PCP03	PCP02	PCP01	PCP00	PCP03	1			P10 ~ P13割り込み極性選択レジスタ
					PCP02	1			
					PCP01	1			
					PCP00	1			
FF3EH	SIP13	SIP12	SIP11	SIP10	SIP13	0	Enable	Disable	P40 ~ P43割り込み選択レジスタ
					SIP12	0	Enable	Disable	
					SIP11	0	Enable	Disable	
					SIP10	0	Enable	Disable	
FF3FH	PCP13	PCP12	PCP11	PCP10	PCP13	1			P40 ~ P43割り込み極性選択レジスタ
					PCP12	1			
					PCP11	1			
					PCP10	1			
FFE1H	General	EIRFE	EIRFR	EIRFS	General	0	1	0	汎用レジスタ
					EIRFE	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータエラー)
					EIRFR	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(R/Fコンバータ基準発振完了)
FFE2H	General	General	EIPT0	EICTC0	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					EIPT0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ0アンダーフロー)
FFE3H	General	General	EIPT1	EICTC1	EICTC0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ0コンペアマッチ)
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFE4H	General	General	EIPT2	EICTC2	EIPT1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ1アンダーフロー)
					EICTC1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ1コンペアマッチ)
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFE5H	General	General	EIPT3	EICTC3	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					EIPT2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ2アンダーフロー)
FFE6H	General	General	EIPT4	EICTC4	EICTC2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ2コンペアマッチ)
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFE7H	General	General	EIPT5	EICTC5	EIPT4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ4アンダーフロー)
					EICTC4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ4コンペアマッチ)
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFE8H	General	General	EIPT6	EICTC6	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					EIPT5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ5アンダーフロー)
FFE9H	General	General	EIPT7	EICTC7	EICTC5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ5コンペアマッチ)
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFEAH	General	General	General	EISIF	EIPT7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ7アンダーフロー)
					EICTC7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(タイマ7コンペアマッチ)
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFEAH	General	General	General	EISIF	General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
					General	0	1	0	汎用レジスタ
FFEAH	General	General	General	EISIF	EISIF	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(シリアルインタフェース)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.15.4.1(b) 割り込みの制御ビット

アドレス	レジスタ				注 釈				
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0	
FFEBH	EIK03	EIK02	EIK01	EIK00	EIK03	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み3<P13>)
	R/W				EIK02	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み2<P12>)
					EIK01	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み1<P11>)
					EIK00	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み0<P10>)
FFECH	EIK13	EIK12	EIK11	EIK10	EIK13	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み7<P43>)
	R/W				EIK12	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み6<P42>)
					EIK11	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み5<P41>)
					EIK10	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(キー入力割り込み4<P40>)
FFEDH	EIRUN	EILAP	EISW1	EISW10	EIRUN	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(SWダイレクトRUN)
	R/W				EILAP	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(SWダイレクトLAP)
					EISW1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(ストップウォッチタイマ1Hz)
					EISW10	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(ストップウォッチタイマ10Hz)
FFEEH	EIT3	EIT2	EIT1	EIT0	EIT3	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ16Hz)
	R/W				EIT2	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ32Hz)
					EIT1	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ64Hz)
					EIT0	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ128Hz)
FFFEH	EIT7	EIT6	EIT5	EIT4	EIT7	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ1Hz)
	R/W				EIT6	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ2Hz)
					EIT5	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ4Hz)
					EIT4	0	Enable	Mask	割り込みマスクレジスタ(計時タイマ8Hz)
FFF1H	0	IRFE	IRFR	IRFS	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			IRFE	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(R/Fコンバータエラー)
					IRFR	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(R/Fコンバータ基準発振完了)
					IRFS	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(R/Fコンバータセンサ発振完了)
FFF2H	0	0	IPT0	ICTC0	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT0	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ0アンダーフロー)
					ICTC0	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ0コンペアマッチ)
FFF3H	0	0	IPT1	ICTC1	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ1アンダーフロー)
					ICTC1	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ1コンペアマッチ)
FFF4H	0	0	IPT2	ICTC2	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT2	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ2アンダーフロー)
					ICTC2	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ2コンペアマッチ)
FFF5H	0	0	IPT3	ICTC3	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT3	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ3アンダーフロー)
					ICTC3	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ3コンペアマッチ)
FFF6H	0	0	IPT4	ICTC4	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT4	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ4アンダーフロー)
					ICTC4	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ4コンペアマッチ)
FFF7H	0	0	IPT5	ICTC5	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT5	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ5アンダーフロー)
					ICTC5	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ5コンペアマッチ)
FFF8H	0	0	IPT6	ICTC6	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT6	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ6アンダーフロー)
					ICTC6	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ6コンペアマッチ)
FFF9H	0	0	IPT7	ICTC7	0 *3	—*2	(R)	(R)	未使用
	R	R/W			0 *3	—*2	Yes	No	未使用
					IPT7	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(タイマ7アンダーフロー)
					ICTC7	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(タイマ7コンペアマッチ)

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

表4.15.4.1(c) 割り込みの制御ビット

アドレス	レジスタ									注 釈
	D3	D2	D1	D0	Name	Init *1	1	0		
FFFAH	0	0	0	ISIF	0 *3	— *2	(R)	(R)	未使用	
				R	R/W	0 *3	— *2	Yes	No	未使用
						ISIF	0	(W)	(W)	未使用
FFFBH	IK03	IK02	IK01	IK00	IK03	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み3<P13>)	
	R/W	IK02	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み2<P12>)				
		IK01	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み1<P11>)				
		IK00	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み0<P10>)				
FFFCH	IK13	IK12	IK11	IK10	IK13	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み7<P43>)	
	R/W	IK12	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み6<P42>)				
		IK11	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み5<P41>)				
		IK10	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(キー入力割り込み4<P40>)				
FFFDH	IRUN	ILAP	ISW1	ISW10	IRUN	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(SWダイレクトRUN)	
	R/W	ILAP	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(SWダイレクトLAP)				
		ISW1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(ストップウォッチタイマ1Hz)				
		ISW10	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(ストップウォッチタイマ10Hz)				
FFFEH	IT3	IT2	IT1	IT0	IT3	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(計時タイマ16Hz)	
	R/W	IT2	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(計時タイマ32Hz)				
		IT1	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(計時タイマ64Hz)				
		IT0	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(計時タイマ128Hz)				
FFFFH	IT7	IT6	IT5	IT4	IT7	0	(R)	(R)	割り込み要因フラグ(計時タイマ1Hz)	
	R/W	IT6	0	Yes	No	割り込み要因フラグ(計時タイマ2Hz)				
		IT5	0	(W)	(W)	割り込み要因フラグ(計時タイマ4Hz)				
		IT4	0	Reset	Invalid	割り込み要因フラグ(計時タイマ8Hz)				

*1 イニシャルリセット時の初期値

*3 読み出し時は常時"0"

*2 回路上設定されない

SIP03 ~ SIP00, SIP13 ~ SIP10: 割り込み選択レジスタ(FF3CH, FF3EH)
 PCP03 ~ PCP00, PCP13 ~ PCP10: 割り込み極性選択レジスタ(FF3DH, FF3FH)
 EIK03 ~ EIK00, EIK13 ~ EIK10: 割り込みマスクレジスタ(FFE3BH, FFE3EH)
 IK03 ~ IK00, IK13 ~ IK10: 割り込み要因フラグ(FFFBH, FFFCH)
 ... "4.5 入出力兼用ポート" 参照

EIRFE, EIRFR, EIRFS: 割り込みマスクレジスタ(FFE1H・D2, D1, D0)
 IRFE, IRFR, IRFS: 割り込み要因フラグ(FFF1H・D2, D1, D0)
 ... "4.13 R/Fコンバータ" 参照

EIPT0, EICTC0: 割り込みマスクレジスタ(FFE2H・D1, D0)
 EIPT1, EICTC1: 割り込みマスクレジスタ(FFE3H・D1, D0)
 EIPT2, EICTC2: 割り込みマスクレジスタ(FFE4H・D1, D0)
 EIPT3, EICTC3: 割り込みマスクレジスタ(FFE5H・D1, D0)
 EIPT4, EICTC4: 割り込みマスクレジスタ(FFE6H・D1, D0)
 EIPT5, EICTC5: 割り込みマスクレジスタ(FFE7H・D1, D0)
 EIPT6, EICTC6: 割り込みマスクレジスタ(FFE8H・D1, D0)
 EIPT7, EICTC7: 割り込みマスクレジスタ(FFE9H・D1, D0)
 IPT0, ICTC0: 割り込み要因フラグ(FFF2H・D1, D0)
 IPT1, ICTC1: 割り込み要因フラグ(FFF3H・D1, D0)
 IPT2, ICTC2: 割り込み要因フラグ(FFF4H・D1, D0)
 IPT3, ICTC3: 割り込み要因フラグ(FFF5H・D1, D0)
 IPT4, ICTC4: 割り込み要因フラグ(FFF6H・D1, D0)
 IPT5, ICTC5: 割り込み要因フラグ(FFF7H・D1, D0)
 IPT6, ICTC6: 割り込み要因フラグ(FFF8H・D1, D0)
 IPT7, ICTC7: 割り込み要因フラグ(FFF9H・D1, D0)
 ... "4.9 プログラマブルタイマ" 参照

EISIF: 割り込みマスクレジスタ(FFEAH・D0)

ISIF: 割り込み要因フラグ(FFFAH・D0)

..."4.10 シリアルインタフェース"参照

EIRUN, EILAP, EISW1, EISW10: 割り込みマスクレジスタ(FFEDH)

IRUN, ILAP, ISW1, ISW10: 割り込み要因フラグ(FFFDH)

..."4.8 ストップウォッチタイマ"参照

EIT3 ~ EIT0, EIT7 ~ EIT4: 割り込みマスクレジスタ(FFEEH, FFEFH)

IT3 ~ IT0, IT7 ~ IT4: 割り込み要因フラグ(FFFEh, FFFFH)

..."4.7 計時タイマ"参照

4.15.5 プログラミング上の注意事項

- (1) 各割り込み要因フラグは、各割り込みマスクレジスタを"0"に設定していても、割り込み条件成立によりセットされます。
- (2) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。
- (3) イニシャルリセット時、NMIを含むすべての割り込みはスタックポインタSP1、SP2の両方がソフトウェアで設定されるまでマスクされます。また、SP1、SP2を設定後どちらか一方を再設定すると、もう一方が再設定されるまで割り込み(NMIを含む)は再びマスクされます。したがって、SP1およびSP2の設定は必ずペアで行ってください。
- (4) SLEEP機能を使用する場合、SLP命令を実行する前にインタラプトフラグおよびSLEEP解除に使用する入出力兼用ポートの制御レジスタを以下のとおり設定しておく必要があります。
 - インタラプトフラグ(Iフラグ)= "1"(割り込みを許可)
 - 割り込み選択レジスタSIPxx = "1"(Pxx入出力兼用ポート割り込みを選択)
 - 割り込みマスクレジスタEIKxx = "1"(Pxx入出力兼用ポート割り込みを許可)
 - ノイズリジェクタ選択レジスタNRSPxx = "00"(ノイズリジェクタをバイパス)
- (5) 割り込み処理ルーチンは、割り込みベクタアドレス(100H ~ 10FH)より7FH ~ +80Hの範囲内に配置してください。これが困難な場合は、上記の範囲内に中継ポイント(ベクタによる分岐先)を設け、そこから割り込みルーチンの本体に分岐させてください。

5 Flash EEPROM

S1C6F632にはFlash EEPROMが内蔵されており、S1C6F632をターゲット基板に実装した状態でROMのプログラミング(消去/書き込み/検証等)が可能です。

Flash EEPROMの仕様を表5.1に示します。

表5.1 Flash EEPROMの仕様

書き換え回数	1000回(Min.)*1
消去時データ状態	1
プログラミング電圧範囲	V _{DD} = 2.7 ~ 3.6V (V _{D1} = 2.5V)
セキュリティ機能	書き込み/消去禁止、On Board Writer読み出し禁止*2

*1 書き換え回数: 消去+書き込み、または書き込みのみを1回とし、10年保持保証時

*2 On Board Writerによってのみ設定可能

その他のFlash EEPROMの特性に関しては、"8 電気的特性"を参照してください。

本製品はSilicon Storage Technology, Inc.よりライセンスされたSuperFlash® Technologyを使用しています。

Flash EEPROMのプログラミングは、On Board Writer(製品名: S5U1C88000W3/S5U1C88000W4)を接続して行います。

図5.1または5.2のようにターゲット基板上に10ピンコネクタ(S5U1C88000W4使用時)または16ピンコネクタ(S5U1C88000W3使用時)を実装し、On Board Writerと接続することで、PC上でROMプログラミングを制御することが可能です。On Board WriterによるROMプログラミング時はS1C6F632がOn Board Writerから供給されるクロックにより動作するため、通常動作時のOSC1/OSC3発振周波数はROMプログラミングの制御には影響を与えません。また、On Board Writerに接続されないその他の端子は、イニシャルリセット時の状態を保持します。

On Board Writerを使用したROMプログラミングの方法については、"Appendix B PROMプログラミング"を参照してください。

- 注:
- 通常動作時は、DMOD、DTXD、DRXD、DCLK端子をオープンにしてください。特にDMOD端子については、内蔵抵抗によりプルダウンされていますが、外部からHIGHレベルにならないように注意が必要です。
 - On Board Writerによるプログラミング時は、OSC1とOSC3が発振可能な状態にあることが必要です。

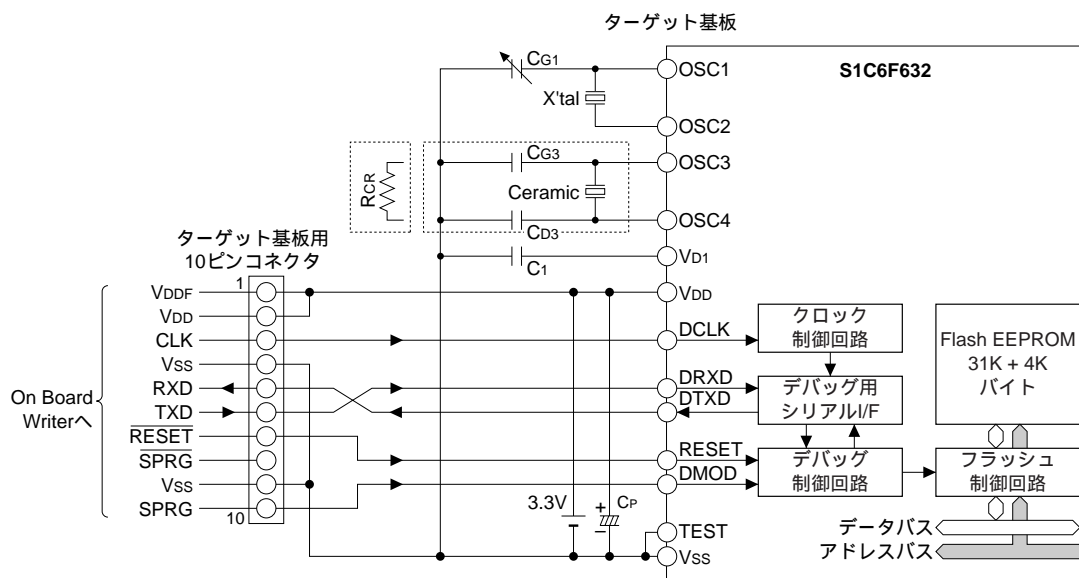


図5.1 10ピンコネクタ結線例とROMプログラミング制御回路の構成 (S5U1C88000W4使用時)

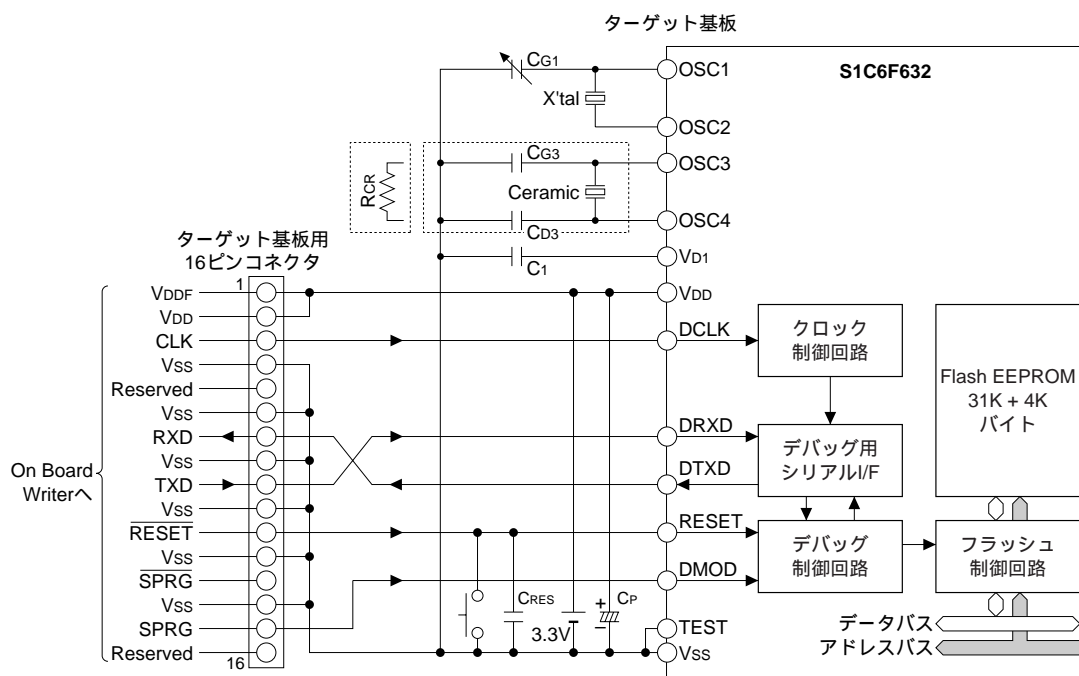


図5.2 16ピンコネクタ結線例とROMプログラミング制御回路の構成 (S5U1C88000W3使用時)

6 注意事項のまとめ

6.1 低消費電流化のための注意事項

S1C6F632は、低消費電流化のため回路系ごとに制御レジスタを持っています。

この制御レジスタにより必要最小限の回路系を動作させるプログラムとすることで、低消費電流化が実現できます。

以下に動作を制御できる回路系とその制御レジスタ等を説明しますので、プログラムを組む上で参考としてください。

表6.1.1 回路系と制御レジスタ

回路系(および項目)	制御レジスタ等
CPU	HALT, SLP命令
CPU動作周波数	CLKCHG, OSCC
LCD系電圧回路	LPWR
SVD回路	SVDON

消費電流については"8 電気的特性"を参照してください。

イニシャルリセット時の各回路系の状態は以下のとおりです。

CPU:	動作状態
CPU動作周波数:	低速側(CLKCHG = "0") OSC3発振回路停止状態(OSCC = "0")
LCD系電圧回路:	OFF状態(LPWR = "0")
SVD回路:	OFF状態(SVDON = "0")

また、LCDパネルの特性により消費電流が数 μ Aのオーダーで異なりますので、パネルの選択にも注意が必要です。

6.2 個別機能についての注意事項のまとめ

以下に各機能の注意事項を個別にまとめます。内容に十分留意した上でプログラミングを行ってください。

メモリ、スタック

- (1) メモリマップの未使用領域にはメモリが実装されていません。また、周辺I/O領域にも非実装領域、未使用(アクセス禁止)領域が存在します。これらの領域をアクセスするようなプログラムを作成した場合は、正常な動作を保証することはできません。
周辺I/O領域については表4.1.1に示すI/Oメモリマップを参照してください。
- (2) データメモリの一部をサブルーチンコールやレジスタ退避時のスタック領域としても使用しますので、データ領域とスタック領域が重ならないように注意してください。
- (3) S1C63000コアCPUは、4ビットデータ用スタックポインタ (SP2) および16ビットデータ用スタックポインタ (SP1) によりスタック処理を行います。SP1によるスタック処理では16ビットデータアクセスが行われますので、このスタック領域の設定は4ビット/16ビットアクセスが可能な領域内(0100H ~ 01FFH)で行ってください。スタックポインタは、SP1が0000H ~ 1FFFH、SP2が0000H ~ 00FFHの範囲でサイクリックに動作します。このため、SP1はS1C6F632の4ビット/16ビットアクセス領域を外れた0200H以上、あるいは00FFH以下の領域にも設定される可能性がありますので注意してください。SP1によるスタック操作以外のメモリアクセスは4ビットデータアクセスとなります。
また、イニシャルリセット時は、スタックポインタSP1、SP2の両方がソフトウェアで設定されるまでNMIを含むすべての割り込みがマスクされます。また、SP1、SP2を設定後どちらか一方を再設定すると、もう一方が再設定されるまでNMIを含む割り込みは再びマスクされます。したがって、SP1およびSP2の設定は必ずペアで行ってください。

電源制御

- (1) 電源電圧昇圧回路をONしてから出力電圧V_{D2}が安定するまでに約1msecの時間を要します。この間は、LCD系定電圧回路の電源をV_{D2}に切り換ええないでください。
- (2) 重負荷保護モードでは、通常動作時より消費電流が多くなります。したがって、必要なとき以外はソフトウェアで重負荷保護モードに設定しないでください。

ウォッチドッグタイマ

ウォッチドッグタイマを使用する場合、3秒周期以内にソフトウェアでウォッチドッグタイマをリセットする必要があります。イニシャルリセットによりウォッチドッグタイマは動作状態に設定されますので、使用しない場合は割り込み(NMI)発生前にウォッチドッグタイマをディセーブル(使用しない)に設定してください。

発振回路

- (1) CPUの高速動作を必要としない場合は低消費電力化のため、以下に示す設定内容にしたがって周辺回路を動作させてください。
 - CPU動作クロックOSC1
 - OSC3発振回路 OFF (一部の周辺回路に対してOSC3クロックが必要ない場合)
- (2) OSC3発振回路をONにしてから発振が安定するまでに、1msec ~ 数10msecの時間を必要とします。したがって、CPUの動作クロック切り換え(OSC1→OSC3)はOSC3発振ONの後、十分な待ち時間をおいてから行ってください。(発振開始時間は発振子、外付け部品によって変動します。"8 電気的特性"に発振開始時間の一例を示しますので参照してください。)
- (3) OSC3からOSC1へのクロック切り換えと、OSC3発振OFFは別々の命令で行ってください。1命令で同時に処理すると、CPUの誤動作につながります。
- (4) S1C6F632はSLEEP機能に対応しており、SLEEP時にOSC1とOSC3発振回路が共に停止します。SLEEPモードから起床した時点でCPUが誤動作しないようにするため、SLEEPモードへはCPUがOSC1クロックで動作している状態で移行してください。

入出力兼用ポート

- (1) 入力モード時にポートの入力をHIGHレベルからプルダウン抵抗でLOWレベルに変化させる場合、プルダウン抵抗と入力ゲート容量の積定数によって波形立ち下がり遅延が生じます。このため、入力データの取り込みを行う際は、適切な待ち時間を設定してください。
特に、キーマトリクス構成時のキースキャン等に注意が必要です。
この待ち時間は次の式で算出される時間以上としてください。
$$10 \times (\text{端子容量} 5\text{pF} + \text{寄生容量} ?\text{pF}) \times R (\text{プルダウン抵抗} 375\text{k}\Omega \text{ Max.})$$
- (2) SLP命令を実行する前には、必ずノイズリジェクタをOFFに設定してください。
- (3) SLEEPモードからは入力割り込み要因の発生によってのみ起床可能です。したがって、SLP命令を実行する前に、SLEEP解除に使用するポートの割り込み選択レジスタをセット(SLPxx = "1")しておく必要があります。また、SLEEP解除後に入力ポート割り込み処理を実行するためには、SLP命令を実行する前に、該当ポートの割り込みマスクレジスタもイネーブル状態にセット(EIKxx = "1")しておく必要があります。
- (4) TOUT_A ~ TOUT_D信号、FOUT信号のON/OFF時は、出力波形にハザードが出る場合があります。
- (5) FOUT信号の周波数としてfosc3を選択した場合は、信号出力前にOSC3発振回路の制御が必要です。制御方法と注意事項については"4.4 発振回路"を参照してください。
- (6) ポートの機能設定は、ポートを使用する回路(入力割り込み、キー同時押しリセット、シリアルインタフェース、イベントカウンタ入力、ストップウォッチダイレクトRUN/LAP入力)がディセーブルの状態で行ってください。

LCDドライバ

- (1) メモリ非実装領域(F080H ~ F0FFH, F180H ~ F1FFH, F280H ~ F2FFH, F380H ~ F3FFH)をアクセスするようなプログラムを作成した場合、正常な動作を保証することはできません。
- (2) LCD系定電圧回路をV_{D2}で動作させる場合、電源電圧昇圧回路をONしてから電圧が安定するまでの約1msecの間は、LCD系定電圧回路の電源電圧をVCSELによってV_{D2}に切り換えしないでください。

計時タイマ

- (1) データの読み出しは必ず下位データ(TM0 ~ TM3)から先に行ってください。
- (2) 計時タイマのカウンタクロックとCPUのクロックは非同期に動作しているため、カウントデータの読み出しとカウントアップ動作のタイミングによっては、正しい値が得られない可能性があります。これを防ぐには、以下に示すいずれかの方法で計時タイマのカウントデータを読み出してください。
 - ・ カウントデータを2度続けて読み出して、データが正しいことを(2つが大きくずれていないことを)確認してください。
 - ・ 正確なカウントデータが必要な場合には、計時タイマを一旦停止させてから読み出してください。
- (3) 計時タイマをリセット(TMRST="1")する際は、計時タイマを同時にRUN状態(TMRUN="1")に設定しないでください。同時に設定するとリセットできない場合があります。

ストップウォッチタイマ

- (1) ストップウォッチタイマのリセット後、割り込み要因フラグをリセットしてください。
- (2) データの読み出しは必ずSWD0 ~ 3 → SWD4 ~ 7 → SWD8 ~ 11の順に行ってください。
- (3) LAP入力によってホールドされたデータを読み出した場合は、SWD8 ~ 11の読み出しの後にキャプチャ更新フラグCRNWFの読み出しを行ってデータが更新されていないか確認してください。
- (4) 1Hzの割り込み処理より先LAP入力などの処理を優先する場合には、処理前にラップデータ桁上げ要求フラグLCURFの読み出しを行って桁上げが必要か確認してください。

プログラブルタイマ

- (1) カウントデータの読み出しは必ず下位4ビット(PTDx0 ~ PTDx3)から先に行ってください。下位4ビットの読み出し時に上位4ビット(PTDx4 ~ PTDx7)がラッチされ、次に下位4ビットを読み出すまでホールドされます。16ビットタイマモード時も同様に、下位4ビットの読み出しにより上位12ビットがホールドされますので、下位4ビットから先に読み出してください。

なお、CPU(システムクロック)をOSC1クロック、各タイマのカウントクロックをOSC3クロックで動作させている場合により正確なカウント値を読み出すためには、タイマを一時停止させてからカウンタデータを読み出すことを推奨します。

- (2) タイマモードではPTRUNxへの書き込み後、入力クロックの立ち下がりがリッジに同期して実際にRUN/STOP状態となります。したがって、PTRUNxに"0"を書き込んだ場合は、"-1"余分にカウントしたところでタイマが停止状態となります。また、このときPTRUNxは実際にタイマがSTOP状態となるまで、読み出しに対して"1"を保持します。

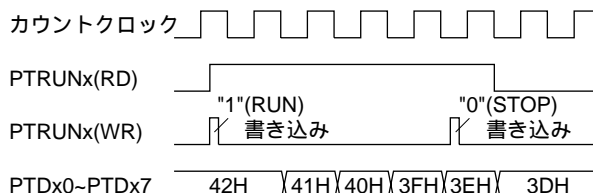


図6.2.1 RUN/STOP制御のタイミングチャート(タイマモード時)

イベントカウントモード時は、最初のイベントクロックからタイマはカウントダウンします。

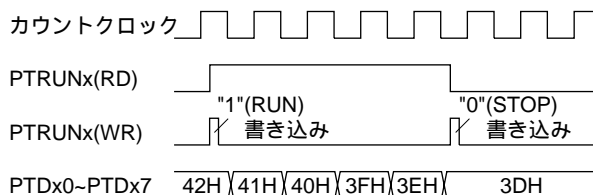


図6.2.2 RUN/STOP制御のタイミングチャート(イベントカウンタモード時)

- (3) TOUT_A ~ TOUT_D信号は出力制御レジスタPTOUT_A ~ PTOUT_Dとは非同期に発生していますので、PTOUT_A ~ PTOUT_Dの設定による信号のON/OFF時には1/2サイクル以内のハザードが生じます。

- (4) OSC3発振回路を原振とする場合は、プログラブルタイマを使用する以前にOSC3発振回路をONさせる必要があります。

ただし、OSC3発振回路をONにしてから発振が安定するまでに5msec以上の時間を必要とします。したがって、プログラブルタイマのカウント開始はOSC3発振ON後、十分な待ち時間をおいてから行ってください。

OSC3の制御方法と注意事項については"4.4 発振回路"を参照してください。イニシャルリセット時、OSC3発振回路はOFF状態に設定されます。

- (5) プログラブルタイマ動作中にプログラブルタイマ割り込み発生間隔を変更する場合、以下の理由によりリロードデータを書き込むタイミングに注意が必要です。

プログラブルタイマは入力クロックの立ち下がりがリッジでダウンカウントを行い、そこでアンダーフローが発生した場合は同時に割り込みを発生します。その後、リロードデータをカウンタにセットする動作を開始し、入力クロックの次の立ち上がりリッジでカウンタデータが確定します(の区間)。

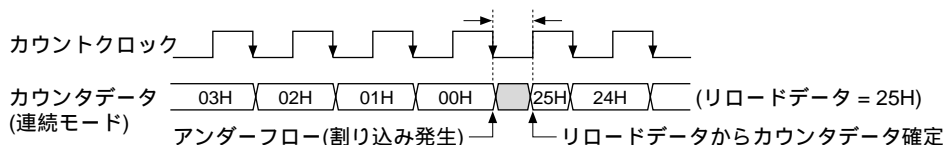


図6.2.3 プログラブルタイマリロードタイミング

リロードデータを正しくカウンタにセットするために、割り込み発生後は の区間を含め、カウンタデータが確定するまではリロードデータの書き換えを行わないでください。入力クロックの源振にOSC1(低速クロック)を使用し、CPUがOSC3(高速クロック)で動作している場合は、特に注意が必要です。

- (6) プログラブルタイマのカウンタクロックとCPUのクロックは非同期に動作しているため、カウンタデータの読み出しとカウンタアップ動作のタイミングによっては、正しい値が得られない可能性があります。これを防ぐには、以下に示すいずれかの方法でプログラブルタイマのカウンタデータを読み出してください。
- カウンタデータを2度続けて読み出して、データが正しいことを(2つが大きくずれていないことを)確認してください。
 - 正確なカウンタデータが必要な場合には、プログラブルタイマを一旦停止させてから読み出してください。

シリアルインタフェース

- (1) データレジスタSD0～SD7への書き込み、または読み出しはシリアルインタフェースが停止中(同期クロックが入力/出力されていない状態)のときのみ行ってください。
- (2) シリアルインタフェースの起動はトリガ条件として、SCTRGに"1"を書き込む以前に、データレジスタSD0～SD7の書き込み/読み出しが行われている必要があります。(データレジスタSD0～SD7への書き込み/読み出しにより、シリアルインタフェースの内部回路は初期化されます。また、トリガをかける前に必ずESIFでシリアルインタフェースをイネーブルとしておいてください。
トリガはシリアルインタフェースをRUN状態にすることに一度だけ与えてください。また、同期クロックSCLKが外部クロックの場合は、トリガ後に外部クロックの入力を開始してください。)
- (3) SDPIによる入出力順序(MSB先頭/LSB先頭)の設定は、SD0～SD7にデータを設定する前に行ってください。
- (4) プログラブルタイマの出力クロックを同期クロックとして使用する場合、またはスレープモードで使用する場合、同期クロックの周波数は最大1MHzに制限されますので注意してください。

サウンドジェネレータ

- (1) ブザー信号はBZEレジスタとは非同期に発生していますので、BZEレジスタの設定による信号のON/OFF時にハザードを生じる場合があります。
- (2) 1ショット出力は通常のブザー出力がOFF(BZE = "0")の状態でのみ有効で、ON(BZE = "1")状態でのトリガは無効となります。

整数乗除算器

演算モード選択レジスタCALMDへの書き込みから、演算結果がデスティネーションレジスタDRH/DRL、および演算フラグビットNF/VF/ZFに書き戻されるまで、10 CPUクロック(5バスサイクル)の時間が必要です。この時間経過以前のDRH/DRLへの読み書き、およびNF/VF/ZFの読み出しは行わないでください。

R/Fコンバータ

- (1) カウンタのオーバーフローにより割り込みが発生した場合、オーバーフローフラグ(OVMC、OVTC)に"1"を書き込んで"0"にリセットしてください。これらのフラグがリセットされない場合、再度同じ割り込みが発生してしまいます。
- (2) 計測カウンタおよびタイムベースカウンタにデータを書き込む場合は、必ず下位のアドレスから(FF62H→FF63H→FF64H→FF65H→FF66H、FF67H→FF68H→FF69H→FF6AH→FF6BH)5ワードすべてを書き込んでください。また、カウンタへの書き込みにはLD命令を使用してください。リードモディファイライト命令(AND、OR、ADD、SUB等)は使用しないでください。下位4ビット以外を先に書き込むと、正しい値に設定されません。
- (3) R/F変換終了(割り込み発生)後に再度R/F変換を実施する場合は、R/Fコンバータクロック周期(f_{osc1} 選択時は31μsec)以上経過した後に変換を開始(RFRUNR/RFRUNS="1")してください。
特にCPUクロックにOSC3が選択され、R/Fコンバータクロックに $f_{osc1} \sim f_{osc1}/4$ が選択されている場合は注意が必要です。

SVD回路

- (1) SVD回路はONさせてから安定した結果が得られるまでに500 μ secの時間を必要とします。このため、SVDONに"1"を書き込み後、500 μ sec以上経過後にSVDONに"0"を書き込んでSVDDTを読み出してください。
- (2) SVD検出動作時は消費電流が大きくなりますので、必要なとき以外は必ずSVD検出をOFFに設定してください。

Flash EEPROM

- (1) 通常動作時は、DMOD、DTXD、DRXD、DCLK端子をオープンにしてください。特にDMOD端子については、内蔵抵抗によりプルアップされていますが、外部からLOWレベルにならないように注意が必要です。
- (2) On Board Writerによるプログラミング時は、OSC1とOSC3が発振可能な状態にあることが必要です。

割り込み

- (1) 各割り込み要因フラグは、各割り込みマスクレジスタを"0"に設定していても、割り込み条件成立によりセットされます。
- (2) 割り込み発生後、割り込み要因フラグをリセットせずに割り込み許可(Iフラグ="1")に設定あるいはRETI命令を実行すると再度同一の割り込みが発生してしまいます。したがって、割り込み処理ルーチン内では、割り込み許可状態に移行する前に割り込み要因フラグのリセット("1"書き込み)を行ってください。
- (3) イニシャルリセット時、NMIを含むすべての割り込みはスタックポインタSP1、SP2の両方がソフトウェアで設定されるまでマスクされます。また、SP1、SP2を設定後どちらか一方を再設定すると、もう一方が再設定されるまで割り込み(NMIを含む)は再びマスクされます。したがって、SP1およびSP2の設定は必ずペアで行ってください。
- (4) SLEEP機能を使用する場合、SLP命令を実行する前にインタラプトフラグおよびSLEEP解除に使用する入出力兼用ポートの制御レジスタを以下のとおり設定しておく必要があります。
 - ・インタラプトフラグ(Iフラグ) = "1"(割り込みを許可)
 - ・割り込み選択レジスタSIPxx = "1"(Pxx入出力兼用ポート割り込みを選択)
 - ・割り込みマスクレジスタEIKxx = "1"(Pxx入出力兼用ポート割り込みを許可)
 - ・ノイズリジェクタ選択レジスタNRSPxx = "00"(ノイズリジェクタをバイパス)
- (5) 割り込み処理ルーチンは、割り込みベクタアドレス(100H ~ 10FH)より7FH ~ +80Hの範囲内に配置してください。これが困難な場合は、上記の範囲内に中継ポイント(ベクタによる分岐先)を設け、そこから割り込みルーチンの本体に分岐させてください。

6.3 実装上の注意事項

発振回路

発振特性は諸条件(使用部品、基板パターン等)により変化します。

特にセラミック発振子または水晶振動子を使用する場合は、容量や抵抗などの定数は発振子メーカーの推奨値を使用してください。

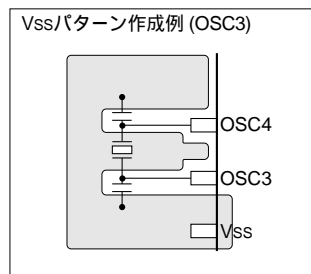
ノイズによる発振クロックの乱れは誤動作の原因となります。これを防止するため次の点に配慮してください。

- (1) OSC1、OSC3、OSC2、OSC4端子に接続する発振子、抵抗、コンデンサ等の部品は、できるだけ最短で接続してください。

- (2) OSC1、OSC3、OSC2、OSC4端子およびこれらの端子に接続された部品の周辺部は右図のようにVssパターンをできるだけ広く作成してください。

また、このVssパターンは発振用途以外に使用しないでください。

OSC1(OSC3) - VDD間のリーク電流による発振回路の不安定動作を防止するため、基板パターンにおいて、OSC1(OSC3)はVDD電源や信号線とは十分な距離を確保してください。



リセット回路

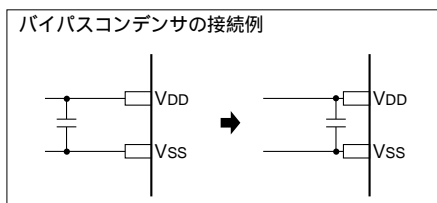
パワーオン時、RESET端子に入力されるリセット信号は諸条件(電源の立ち上がり時間、使用部品、基板パターン等)により変化します。容量や抵抗などの定数は応用製品にて十分確認を行い、決定してください。また、RESET端子のプルダウン抵抗を使用する場合には、抵抗値のばらつきを十分考慮した定数設定が必要です。

ノイズによる動作中のリセットを防ぐため、RESET端子に接続するコンデンサ、抵抗等の部品は、できるだけ最短で接続してください。

電源回路

ノイズによる急激な電源変動は誤動作の原因となります。これを防止するため次の点に配慮してください。

- (1) 電源からVDD、Vss端子へはできるだけ短くかつ太いパターンで接続してください。
- (2) VDD - Vssのバイパスコンデンサを接続する場合、VDD端子とVss端子をできるだけ最短で接続してください。



- (3) VD1、VD2、VC1、VC2、VC3、VC4、VC5端子に接続するコンデンサ、抵抗等の部品はできるだけ最短で接続してください。特にVC1、VC2、VC3、VC4、VC5の各電圧はLCD駆動として用いるため表示品質に影響を与えます。

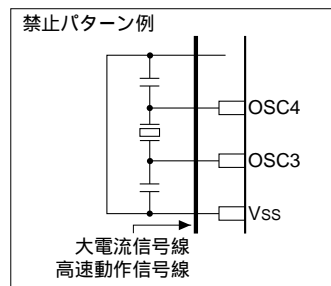
LCDドライバを使用しない場合は、VC1、VC2、VC3、VC4、VC5端子を開放としてください。

信号線の配置

相互インダクタンスによって生じる電磁誘導ノイズを防止するために、発振部、アナログ入力部等のノイズに弱い回路近くには、大電流信号線を配置しないでください。

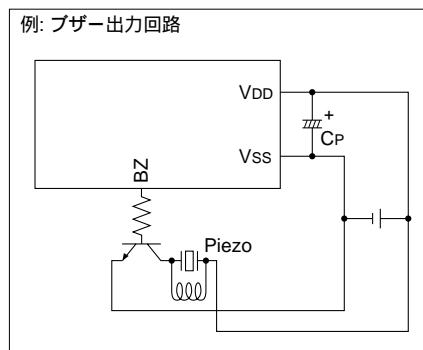
高速動作する信号線と、長くかつ平行にまたは交差させて別の信号線を配置することは、信号間の相互干渉によって発生するノイズにより誤動作の原因となります。

特に、発振部、アナログ入力部等のノイズに弱い回路近くには、高速に動作する信号線を配置しないでください。



出力端子

大電流を消費する外付け部品を駆動する際、外付け部品の動作がICの電源に影響をおよぼし、IC内蔵の電源回路の電圧が変化することがあります。特にBZ出力、タイマ出力等の周期的な信号でバイポーラトランジスタを駆動する場合、LCD系定電圧回路の電圧が変動し、液晶表示のコントラストが変わることがあります。これを防止するため、電源からICのVDD、VSS端子への配線パターンと大電流を消費する外付け部品への配線パターンを分離してください。また、使用する外付け部品はできるだけ消費電流の少ないものを選択してください。



光に対する取り扱い(ベアチップ実装の場合)

半導体素子は、光が照射されると特性が変化します。このため、ICに光が当たると誤動作を起こしたり、不揮発性メモリのデータが消去される可能性があります。

光に対するICの誤動作を防ぐため、本ICが実装される基板および製品について、以下に示す内容を考慮してください。

- (1) 実使用時にICの遮光性が考慮された構造となるよう、設計および実装を行ってください。
- (2) 検査工程では、ICの遮光性が考慮された環境設計を行ってください。
- (3) ICの遮光は、ICチップの表面、裏面および側面について考慮してください。
- (4) ICチップ状態での保管は開封後1週間以内とし、この期限までに実装をお願いします。ICチップ状態での保管の必要がある場合は、必ず遮光の措置を講じてください。
- (5) 実装工程において通常のリフロー条件を超えるような熱ストレスが印加される場合、製品出荷前に不揮発性メモリのデータ保持に関して十分な評価をお願いします。



シンボル	名称	推奨値
C1	VSS~V _{D1} 間キャパシタ	0.1μF
C2	VSS~V _{C1} 間キャパシタ	0.1μF
C3	VSS~V _{C2} 間キャパシタ	0.1μF
C4	VSS~V _{C3} 間キャパシタ	0.1μF
C5	VSS~V _{C4} 間キャパシタ	0.1μF
C6	VSS~V _{C5} 間キャパシタ	0.1μF
C7~C9	昇圧キャパシタ	0.1μF
C10	VSS~V _{D2} 間キャパシタ	0.1μF
C11	昇圧キャパシタ	0.1μF
C _P	電源間キャパシタ	3.3μF
C _{res}	RESET端子キャパシタ	0.47μF

S1C6F632 TECHNICAL MANUAL

8 電気的特性

8.1 絶対最大定格

(V_{SS}=0V)

項 目	記号	条件	定 格 値	単位
電源電圧	V _{DD}		-0.3 ~ +4.0	V
液晶電源電圧	V _{CS}		-0.3 ~ +6.0	V
入力電圧	V _I		-0.3 ~ V _{DD} + 0.3	V
出力電圧	V _O		-0.3 ~ V _{DD} + 0.3	V
高レベル出力電流	I _{OH}	1端子	-5	mA
		全端子合計	-20	mA
低レベル出力電流	I _{OL}	1端子	5	mA
		全端子合計	20	mA
許容損失 *1	P _D		200	mW
動作温度	T _{opr}		-20 ~ +70	°C
保存温度	T _{stg}		-65 ~ +150	°C
半田付け温度・時間	T _{sol}		260°C, 10sec (リード部)	—

*1 プラスチックパッケージ(QFP20-144pin)の場合

8.2 推奨動作条件

(T_a=-20 ~ 70°C)

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
電源電圧	V _{DD}	通常動作モード, V _{SS} =0V	1.8	—	3.6	V
		Flashプログラミングモード	2.7	—	3.6	V
動作周波数	f _{OSC1}	水晶発振	—	32,768	—	kHz
	f _{OSC3}	CR発振(R外付け)	30	—	2,200	kHz
		セラミック発振	30	—	4,200	kHz
V _{SS} ~ V _{D1} 間キャパシタ	C ₁	*1	—	0.1	—	μF
V _{SS} ~ V _{C1} 間キャパシタ	C ₂	*1	—	0.1	—	μF
V _{SS} ~ V _{C2} 間キャパシタ	C ₃	*1	—	0.1	—	μF
V _{SS} ~ V _{C3} 間キャパシタ	C ₄	*1, *2	—	0.1	—	μF
V _{SS} ~ V _{C4} 間キャパシタ	C ₅	*1	—	0.1	—	μF
V _{SS} ~ V _{C5} 間キャパシタ	C ₆	*1	—	0.1	—	μF
CA ~ CB間キャパシタ	C ₇	*1	—	0.1	—	μF
CA ~ CC間キャパシタ	C ₈	*1	—	0.1	—	μF
CD ~ CE間キャパシタ	C ₉	*1	—	0.1	—	μF
V _{SS} ~ V _{D2} 間キャパシタ	C ₁₀	*1	—	0.1	—	μF
CF ~ CG間キャパシタ	C ₁₁	*1	—	0.1	—	μF

*1 LCD駆動電源を使用しない場合は、キャパシタは必要ありません。また、V_{C1} ~ V_{C5}およびCA ~ CGは開放としてください。*2 1/4バイアス選択時はC₄は必要ありません。V_{C3}は開放としてください。

Flash EEPROM書き込み/消去

特記なき場合

V_{DD}=2.7~3.6V(V_{D1}=2.5V), V_{SS}=0V, T_a=25

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
書き換え回数	C _{FEP}	データ保持10年保証時 *1	1,000	—	—	回

*1 消去+書き込み、または書き込みのみを1回とする

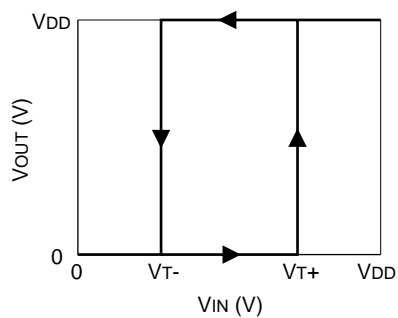
8.3 DC特性

特記なき場合

 $V_{DD}=1.8\sim 3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=-20\sim 70^{\circ}C$

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
高レベル入力電圧	V_{IH}	P_{XX}	$0.8 \cdot V_{DD}$	—	V_{DD}	V
低レベル入力電圧	V_{IL}	P_{XX}	0	—	$0.2 \cdot V_{DD}$	V
高レベルシュミット入力電圧(1)	V_{T1+}	RESET	$0.5 \cdot V_{DD}$	—	$0.9 \cdot V_{DD}$	V
低レベルシュミット入力電圧(1)	V_{T1-}	RESET	$0.1 \cdot V_{DD}$	—	$0.5 \cdot V_{DD}$	V
高レベルシュミット入力電圧(2)	V_{T2+}	$P_{XX} * 1$	$0.5 \cdot V_{DD}$	—	$0.9 \cdot V_{DD}$	V
低レベルシュミット入力電圧(2)	V_{T2-}	$P_{XX} * 1$	$0.1 \cdot V_{DD}$	—	$0.5 \cdot V_{DD}$	V
高レベル出力電流	I_{OH}	P_{XX} , $V_{OH}=0.9 \cdot V_{DD}$	—	—	-0.5	mA
低レベル出力電流	I_{OL}	P_{XX} , $V_{OL}=0.1 \cdot V_{DD}$	0.5	—	—	mA
入力リーク電流	I_{LI}	P_{XX} , RESET	-1	—	1	μA
出力リーク電流	I_{LO}	P_{XX}	-1	—	1	μA
入力プルダウン抵抗	R_{IN}	P_{XX} , RESET	100	—	500	k Ω
入力端子容量	C_{IN}	P_{XX} , $V_{IN}=0V$, $f=1MHz$, $T_a=25$	—	—	15	pF
セグメント、コモン出力電流	I_{SEGH}	SEG_{XX} , COM_{XX} , $V_{SEGH}=V_{C5}-0.1V$	—	—	-5	μA
	I_{SEGL}	SEG_{XX} , COM_{XX} , $V_{SEGL}=0.1V$	5	—	—	μA

*1 シュミットレベル入力を有効にした場合



8.4 アナログ回路特性・消費電流

LCD駆動電圧(1/5バイアス, V_{C2} 基準)

特記なき場合

$V_{DD}=1.8\sim3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25^\circ C$, $C_1\sim C_{11}=0.1\mu F$, 市松模様出力時, パネル負荷なし

$V_{DD}=1.8\sim2.5V$ 時は電源電圧昇圧回路使用

項 目	記号	条 件		Min.	Typ.	Max.	単位
LCD駆動電圧	Vc1	Vss-Vc1間に1MΩの負荷抵抗を接続		0.180・Vc5	—	0.220・Vc5	V
	Vc2	Vss-Vc2間に1MΩの負荷抵抗を接続		0.378・Vc5	—	0.433・Vc5	V
	Vc3	Vss-Vc3間に1MΩの負荷抵抗を接続		0.576・Vc5	—	0.657・Vc5	V
	Vc4	Vss-Vc4間に1MΩの負荷抵抗を接続		0.754・Vc5	—	0.862・Vc5	V
	Vc5	Vss-Vc5間に1MΩの負荷抵抗を接続	LC0~3="0"	Typ. ×0.94	4.20	Typ. ×1.06	V
			LC0~3="1"		4.30		
			LC0~3="2"		4.40		
			LC0~3="3"		4.50		
			LC0~3="4"		4.60		
			LC0~3="5"		4.70		
			LC0~3="6"		4.80		
			LC0~3="7"		4.90		
			LC0~3="8"		5.00		
			LC0~3="9"		5.10		
			LC0~3="10"		5.20		
			LC0~3="11"		5.30		
			LC0~3="12"		5.40		
			LC0~3="13"		5.50		
			LC0~3="14"		5.60		
LC0~3="15"	5.70						

LCD駆動電圧(1/4バイアス, V_{C2} 基準)

特記なき場合

$V_{DD}=1.8\sim3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25^\circ C$, $C_1\sim C_3=0.1\mu F$, $C_5\sim C_{11}=0.1\mu F$, 市松模様出力時, パネル負荷なし

$V_{DD}=1.8\sim2.5V$ 時は電源電圧昇圧回路使用

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位	
LCD駆動電圧	V _{C1}	V _{SS} -V _{C1} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	0.237・V _{C5}	—	0.270・V _{C5}	V	
	V _{C2}	V _{SS} -V _{C2} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	0.473・V _{C5}	—	0.540・V _{C5}	V	
	V _{C4}	V _{SS} -V _{C4} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	0.701・V _{C5}	—	0.797・V _{C5}	V	
	V _{C5}	V _{SS} -V _{C5} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	LC0~3="0"	Typ. ×0.94	3.59	Typ. ×1.06	V
			LC0~3="1"		3.67		
			LC0~3="2"		3.76		
			LC0~3="3"		3.84		
			LC0~3="4"		3.92		
			LC0~3="5"		4.00		
			LC0~3="6"		4.08		
			LC0~3="7"		4.16		
			LC0~3="8"		4.24		
			LC0~3="9"		4.32		
			LC0~3="10"		4.40		
			LC0~3="11"		4.48		
			LC0~3="12"		4.56		
			LC0~3="13"		4.64		
			LC0~3="14"		4.72		
			LC0~3="15"		4.81		

LCD駆動電圧(1/4バイアス, V_{C1} 基準)

特記なき場合

 $V_{DD}=1.8\sim 3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25^\circ C$, $C_1\sim C_3=0.1\mu F$, $C_5\sim C_{11}=0.1\mu F$, 市松模様出力時, パネル負荷なし

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位	
LCD駆動電圧	V _{C1}	V _{SS} -V _{C1} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	0.233・V _{C5}	—	0.267・V _{C5}	V	
	V _{C2}	V _{SS} -V _{C2} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	0.470・V _{C5}	—	0.535・V _{C5}	V	
	V _{C4}	V _{SS} -V _{C4} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	0.710・V _{C5}	—	0.806・V _{C5}	V	
	V _{C5}	V _{SS} -V _{C5} 間に1MΩの負荷抵抗を接続	LC0~3="0"	Typ. ×0.94	3.74	Typ. ×1.06	V
			LC0~3="1"		3.80		
			LC0~3="2"		3.86		
			LC0~3="3"		3.99		
			LC0~3="4"		4.05		
			LC0~3="5"		4.11		
			LC0~3="6"		4.18		
			LC0~3="7"		4.24		
			LC0~3="8"		4.30		
			LC0~3="9"		4.37		
			LC0~3="10"		4.43		
			LC0~3="11"		4.49		
			LC0~3="12"		4.56		
			LC0~3="13"		4.62		
			LC0~3="14"		4.68		
			LC0~3="15"		4.81		

SVD回路

特記なき場合

 $V_{DD}=1.8\sim 3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25^\circ C$

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
SVD電圧	V_{SVD}	SVDS0~3="0"(使用不可)	Typ. $\times 0.96$	—	Typ. $\times 1.04$	V
		SVDS0~3="1"		1.8		
		SVDS0~3="2"		1.9		
		SVDS0~3="3"		2.0		
		SVDS0~3="4"		2.1		
		SVDS0~3="5"		2.2		
		SVDS0~3="6"		2.3		
		SVDS0~3="7"		2.4		
		SVDS0~3="8"		2.5		
		SVDS0~3="9"		2.6		
		SVDS0~3="10"		2.7		
		SVDS0~3="11"		2.8		
		SVDS0~3="12"		2.9		
		SVDS0~3="13"		3.0		
		SVDS0~3="14"		3.1		
		SVDS0~3="15"		3.2		
SVD回路応答時間	t_{SVD}		—	—	500	μs

R/Fコンバータ回路

特記なき場合

 $V_{DD}=1.8\sim 3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25^\circ C$

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
基準発振/センサ発振周波数 *1	f_{RFCLK}	$T_a=-20\sim 70^\circ C$	1	—	2,000	kHz
基準発振/センサ発振周波数IC偏差 *2	$\Delta f_{RFCLK}/AIC$		-40	—	40	%
基準抵抗/センサ抵抗値 *3	R_{REF}, R_{SEN}		10	—	—	k Ω
基準容量/容量性センサ容量値 *3	C_{RFC}, C_{SEN}		100	—	2,000	pF
タイムベースカウンタクロック周波数	f_{TCCLK}		—	—	4.2	MHz

*1 1kHz以下の周波数に設定すると、リーク電流による発振周波数のばらつきにより、周波数IC偏差が大きくなる可能性があります。

*2 IC製造ばらつき、電圧ばらつき、測定環境の基板、抵抗、容量ばらつきを含みます(温度によるばらつきは除く)。

*3 この範囲外の抵抗、容量でもCR発振は行えます(グラフ参照)が、基板やICの寄生素子の影響により、周波数IC偏差が大きくなる可能性があります。

消費電流

特記なき場合

V_{DD}=1.8~3.6V, V_{SS}=0V, V_{D1}=1.8V, DBON=0(V_{D2}=OFF), FLCKS_x=32Hz, T_a=25°C, C₁~C₁₁=0.1μF, パネル負荷なし

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
SLEEP時消費電流	ISPL	SLEEP移行前: OSC1=ON, OSC3=OFF	—	0.7	2.5	μA
HALT時消費電流	IHALT1	OSC1=32kHz水晶, OSC3=OFF	—	2	5	μA
	IHALT2	OSC1=32kHz水晶, OSC3=4MHzセラミック	—	110	200	μA
	IHALT3	OSC1=32kHz水晶, OSC3=2MHz CR	—	160	320	μA
実行時消費電流	IEXE1	OSC1=32kHz水晶, OSC3=OFF, CPUclk=OSC1	—	9	18	μA
	IEXE2	OSC1=32kHz水晶, OSC3=4MHzセラミック, CPUclk=OSC3	—	960	1800	μA
	IEXE3	OSC1=32kHz水晶, OSC3=2MHz CR, CPUclk=OSC3	—	600	1100	μA
重負荷保護モード 実行時消費電流	IEXE1H	OSC1=32kHz水晶, OSC3=OFF, CPUclk=OSC1, HLMOD=1	—	16	30	μA
LCD回路電流 (1/5バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD11	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, V _{DD} =2.5~3.6V *1	—	4	10	μA
重負荷保護モード LCD回路電流 (1/5バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD11H	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, V _{DD} =2.5~3.6V, HLMOD=1 *2	—	18	30	μA
電源電圧昇圧時 LCD回路電流 (1/5バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD12	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, DBON=1, V _{DD} =1.8~2.5V *3	—	8	20	μA
重負荷保護モード, 電源電圧昇圧時 LCD回路電流 (1/5バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD12H	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, DBON=1, V _{DD} =1.8~2.5V, HLMOD=1 *4	—	38	60	μA
LCD回路電流 (1/4バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD21	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, V _{DD} =2.5~3.6V *1	—	2	5	μA
重負荷保護モード LCD回路電流 (1/4バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD21H	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, V _{DD} =2.5~3.6V, HLMOD=1 *2	—	12	25	μA
電源電圧昇圧時 LCD回路電流 (1/4バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD22	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, DBON=1, V _{DD} =1.8~2.5V *3	—	4	10	μA
重負荷保護モード, 電源電圧昇圧時 LCD回路電流 (1/4バイアス, V _{C2} 基準)	ILCD22H	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, DBON=1, V _{DD} =1.8~2.5V, HLMOD=1 *4	—	23	50	μA
LCD回路電流 (1/4バイアス, V _{C1} 基準)	ILCD31	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, V _{DD} =1.8~3.6V *1	—	2.5	6	μA
重負荷保護モード LCD回路電流 (1/4バイアス, V _{C1} 基準)	ILCD31H	LCDCx=全点灯, LCx=FH, f _{OSC1} =32.768kHz, V _{DD} =1.8~3.6V, HLMOD=1 *2	—	8	20	μA
SVD回路電流	ISVD	V _{DD} =3.6V *5	—	8	15	μA
R/Fコンバータ回路電流	IRF	V _{DD} =3.6V, C _{REF} =C _{SEN} =1000pF, R _{REF} =R _{SEN} =10kΩ *6	—	220	330	μA

*1 LCD回路動作時にHALT時/実行時消費電流に加算されます。

消費電流は表示パターン、パネル負荷によって増加します。

*2 LCD回路動作時に重負荷保護モード実行時消費電流に加算されます。

消費電流は表示パターン、パネル負荷によって増加します。

*3 電源電圧昇圧回路+LCD回路動作時にHALT時/実行時消費電流に加算されます。

消費電流は表示パターン、パネル負荷によって増加します。

*4 電源電圧昇圧回路+LCD回路動作時に重負荷保護モード実行時消費電流に加算されます。

消費電流は表示パターン、パネル負荷によって増加します。

*5 SVD回路動作時に実行時消費電流/重負荷保護モード実行時消費電流に加算されます。

*6 R/Fコンバータ回路動作時に実行時消費電流に加算されます。

8.5 発振特性

発振特性は諸条件(使用部品、基板パターン等)により変化します。以下の特性は参考値としてご使用ください。

OSC1 水晶発振回路

特記なき場合

$V_{DD}=1.8\sim3.6V$, $V_{SS}=0V$, 水晶発振子=C-002RX($R_1=30k\Omega$ (Typ.), $C_L=12.5pF$), $C_{G1}=25pF$ 外付け, C_{D1} =内蔵, $T_a=25^\circ C$

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
発振開始時間	tsta		—	—	3	s
外付けゲート容量	C_{G1}	基板容量などを含む	0	—	25	pF
内蔵ドレイン容量	C_{D1}	チップの場合	—	20	—	pF
周波数IC偏差	$\Delta f/\Delta IC$	V_{DD} =一定	-10	—	10	%
周波数電源電圧偏差	$\Delta f/\Delta V$		—	—	1	ppm/V
周波数調整範囲	$\Delta f/\Delta C_G$	V_{DD} =一定, $C_G=0\sim25pF$	25	—	—	ppm

OSC3 セラミック発振回路

特記なき場合

$V_{DD}=1.8\sim3.6V$, $V_{SS}=0V$, セラミック発振子=TBD, $C_{G3}=C_{D3}=30pF$, $T_a=25^\circ C$

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
発振開始時間	tsta		—	—	1	ms

OSC3 CR発振回路(R外付け)

特記なき場合

$V_{DD}=1.8\sim3.6V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25^\circ C$

項 目	記号	条 件	Min.	Typ.	Max.	単位
発振開始時間	tsta		—	—	1	ms
周波数IC偏差	$\Delta f/\Delta IC$	R_{CR} =一定	-25	—	25	%

8.6 シリアルインタフェースAC特性

1 マスタモード (32kHz動作時)

条件: $V_{DD}=3.0V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=-20 \sim 70^{\circ}C$, $V_{IH1}=0.8V_{DD}$, $V_{IL1}=0.2V_{DD}$, $V_{OH}=0.8V_{DD}$, $V_{OL}=0.2V_{DD}$

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位
送信データ出力遅延時間	t _{sm_d}	–	–	5	μs
受信データ入力セットアップ時間	t _{sm_s}	10	–	–	μs
受信データ入力ホールド時間	t _{sm_h}	5	–	–	μs

2 マスタモード (4MHz動作時)

条件: $V_{DD}=3.0V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=-20 \sim 70^{\circ}C$, $V_{IH1}=0.8V_{DD}$, $V_{IL1}=0.2V_{DD}$, $V_{OH}=0.8V_{DD}$, $V_{OL}=0.2V_{DD}$

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位
送信データ出力遅延時間	t _{sm_d}	–	–	200	ns
受信データ入力セットアップ時間	t _{sm_s}	400	–	–	ns
受信データ入力ホールド時間	t _{sm_h}	200	–	–	ns

クロック周波数は最大1MHzに制限されます。

3 スレーブモード (32kHz動作時)

条件: $V_{DD}=3.0V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=-20 \sim 70^{\circ}C$, $V_{IH1}=0.8V_{DD}$, $V_{IL1}=0.2V_{DD}$, $V_{OH}=0.8V_{DD}$, $V_{OL}=0.2V_{DD}$

項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位
送信データ出力遅延時間	t _{ss_d}	–	–	10	μs
受信データ入力セットアップ時間	t _{ss_s}	10	–	–	μs
受信データ入力ホールド時間	t _{ss_h}	5	–	–	μs

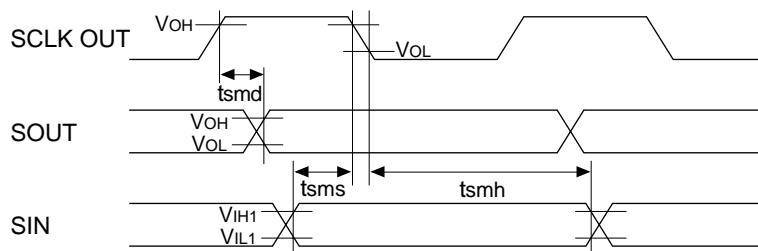
4 スレーブモード (4MHz動作時)

条件: $V_{DD}=3.0V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=-20 \sim 70^{\circ}C$, $V_{IH1}=0.8V_{DD}$, $V_{IL1}=0.2V_{DD}$, $V_{OH}=0.8V_{DD}$, $V_{OL}=0.2V_{DD}$

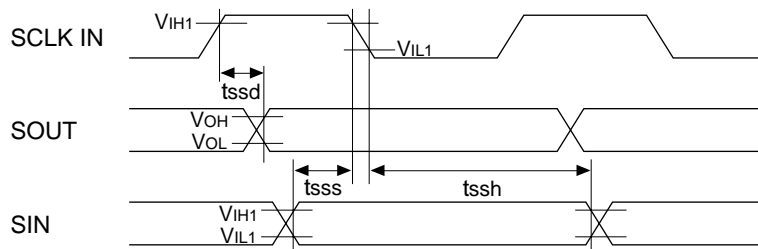
項 目	記号	Min.	Typ.	Max.	単位
送信データ出力遅延時間	t _{ss_d}	–	–	500	ns
受信データ入力セットアップ時間	t _{ss_s}	400	–	–	ns
受信データ入力ホールド時間	t _{ss_h}	200	–	–	ns

クロック周波数は最大1MHzに制限されます。

<マスタモード>

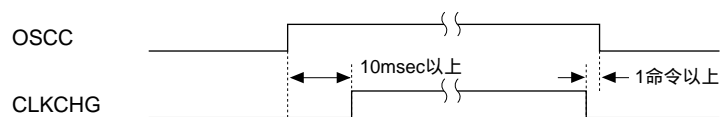


<スレーブモード>



8.7 タイミングチャート

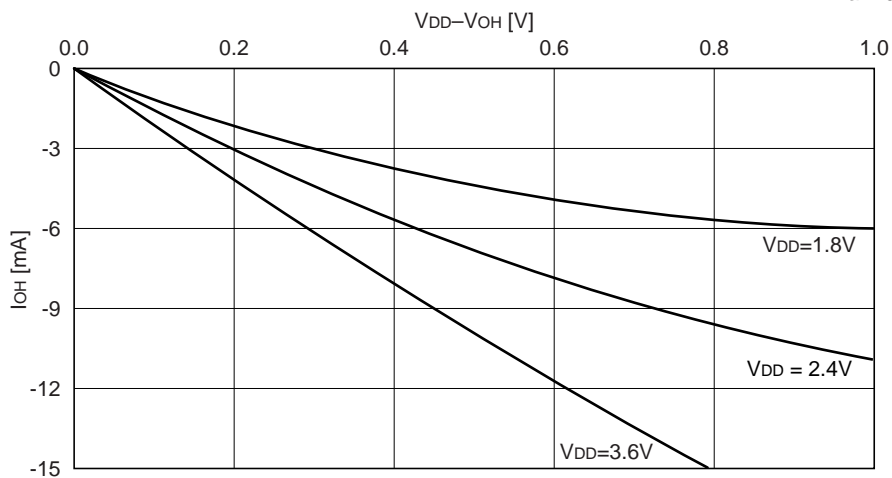
システムクロック切り換えタイミングチャート



8.8 特性グラフ(参考値)

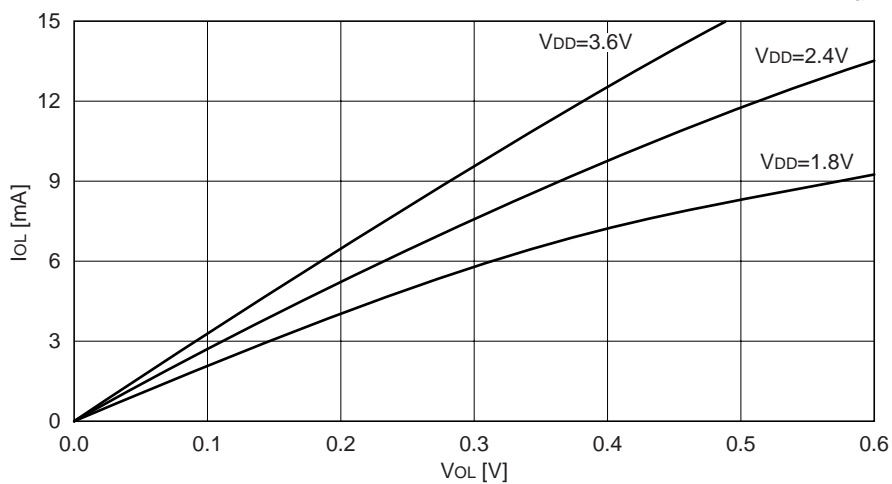
高レベル出力電流特性

Ta=70°C, Max値



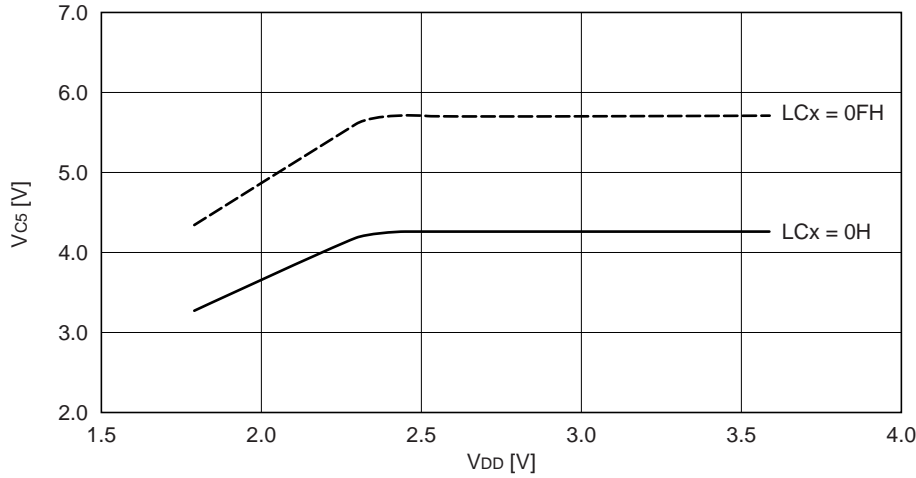
低レベル出力電流特性

Ta=70°C, Min値



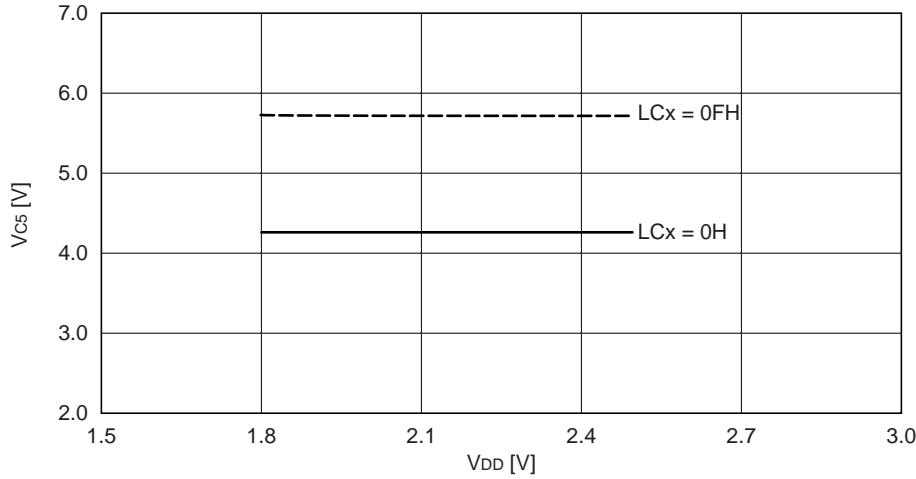
LCD駆動電圧電源電圧特性 (1/5バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時)

$T_a=25^\circ\text{C}$, Typ値



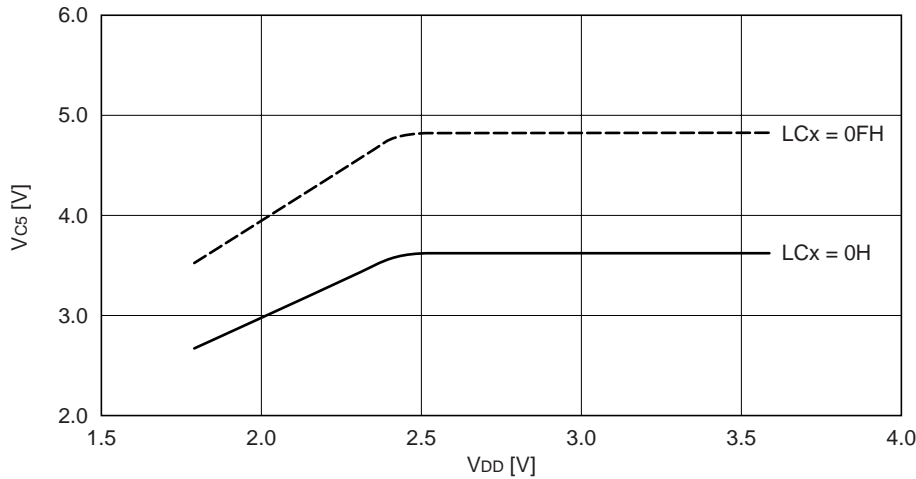
LCD駆動電圧電源電圧特性 (1/5バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路使用時)

$T_a=25^\circ\text{C}$, Typ値



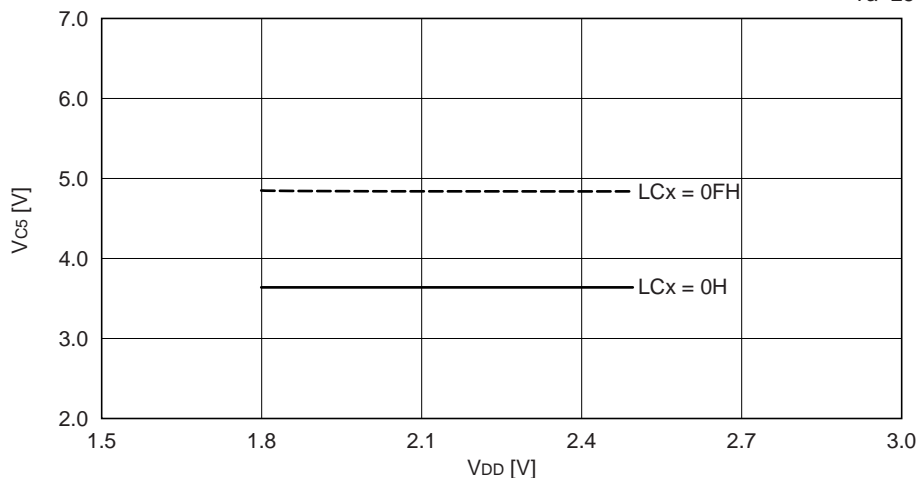
LCD駆動電圧電源電圧特性 (1/4バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時)

$T_a=25^\circ\text{C}$, Typ値

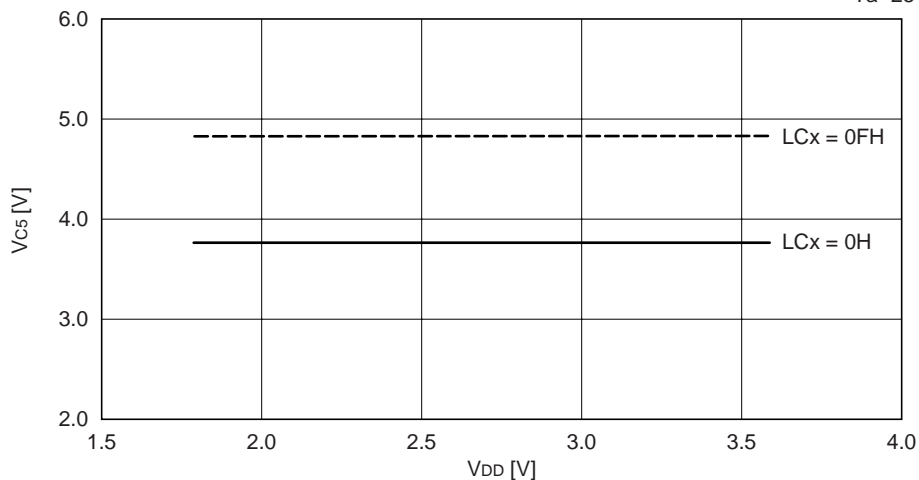
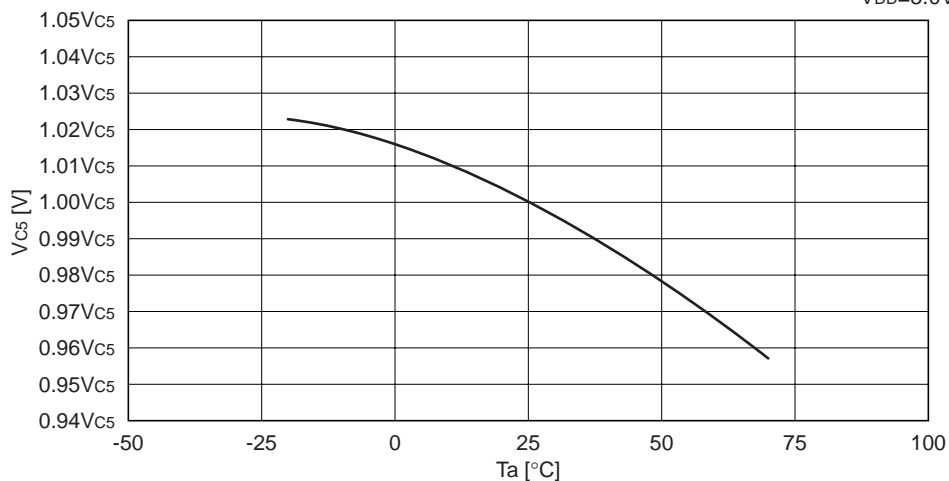


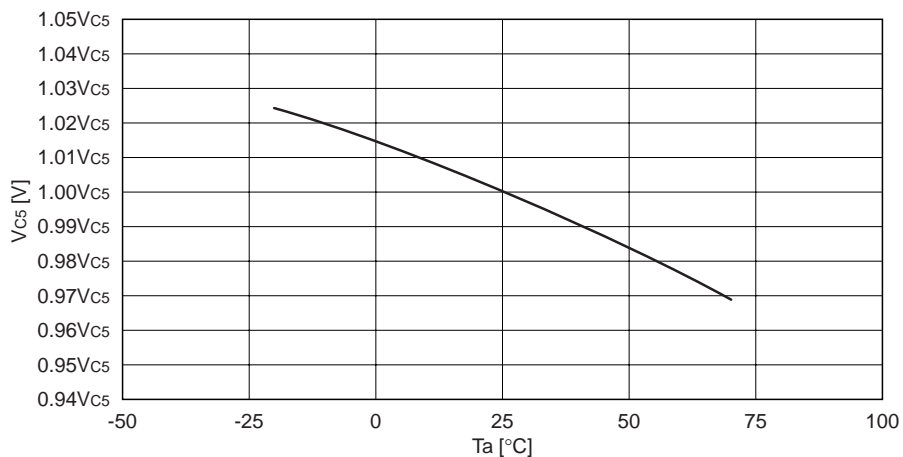
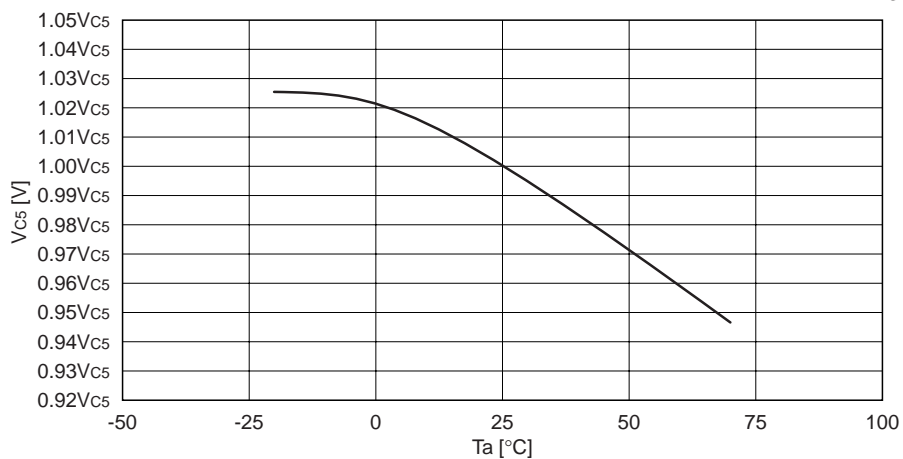
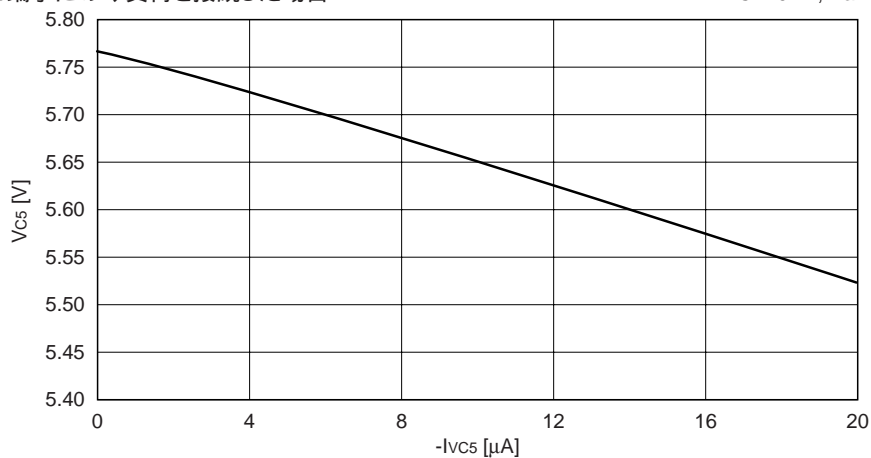
LCD駆動電圧電源電圧特性(1/4バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路使用時)

Ta=25°C, Typ値

LCD駆動電圧電源電圧特性(1/4バイアス, V_{C1} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時)

Ta=25°C, Typ値

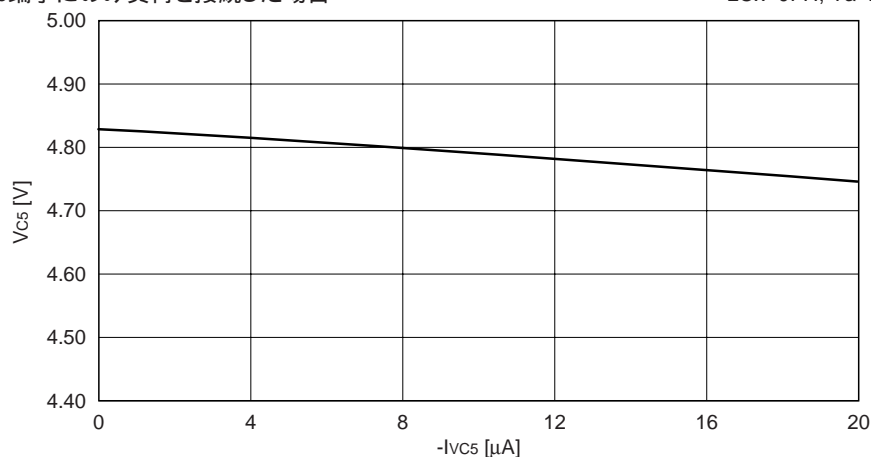
LCD駆動電圧温度特性(1/5バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時) $V_{DD}=3.0V$, Typ値

LCD駆動電圧温度特性 (1/4バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時) $V_{DD}=3.0V$, Typ値LCD駆動電圧温度特性 (1/4バイアス, V_{C1} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時) $V_{DD}=3.0V$, Typ値LCD駆動電圧負荷特性 (1/5バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時) V_{C5} 端子にのみ負荷を接続した場合 $LCx=0FH$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値

LCD駆動電圧負荷特性(1/4バイアス, V_{C2} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時)

V_{C5} 端子にのみ負荷を接続した場合

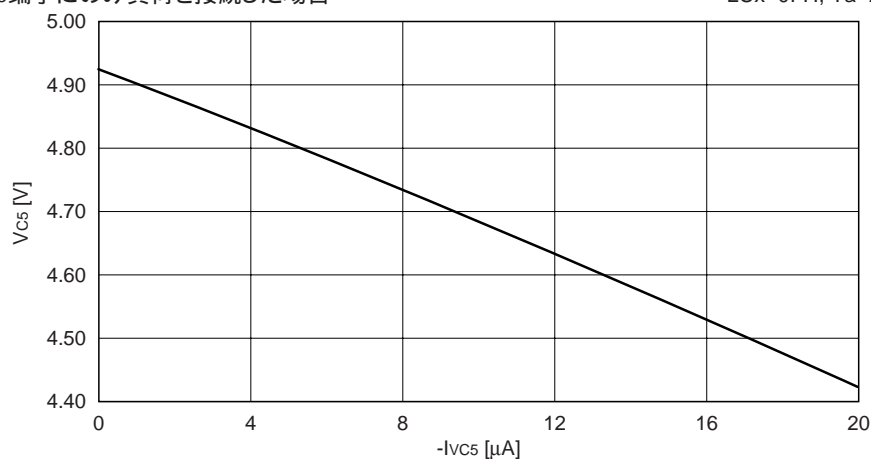
$LCx=0FH$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値



LCD駆動電圧負荷特性(1/4バイアス, V_{C1} 基準, 電源電圧昇圧回路未使用時)

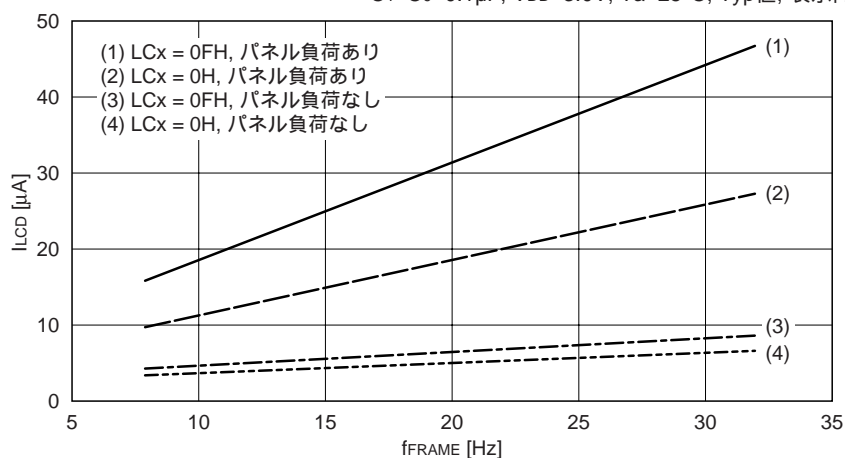
V_{C5} 端子にのみ負荷を接続した場合

$LCx=0FH$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値



LCD駆動電流フレーム周波数特性(1/5バイアス, V_{C2} 基準)

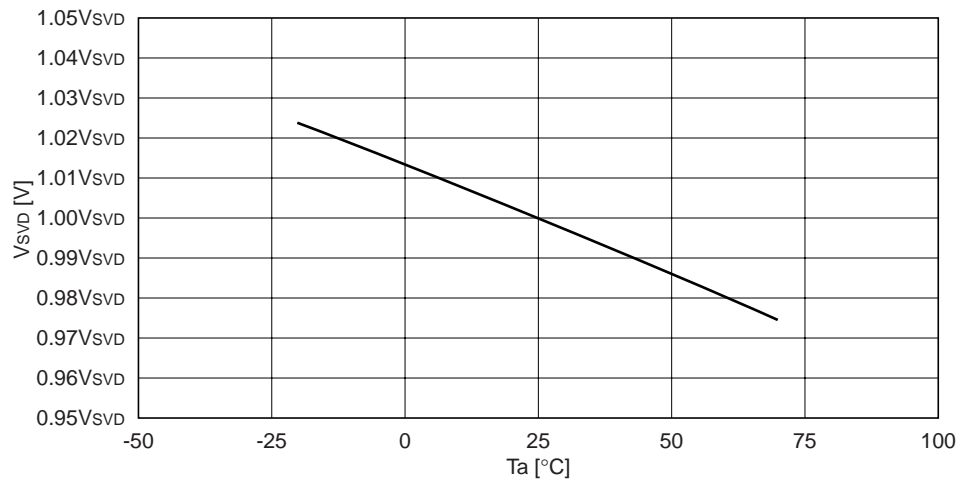
$C1\sim C9=0.1\mu F$, $V_{DD}=3.0V$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値, 表示内容: 市松模様



注: 本データは参考値です。パネルにより電流値は変わりますので、使用するパネルで実際の特性を確認してください。

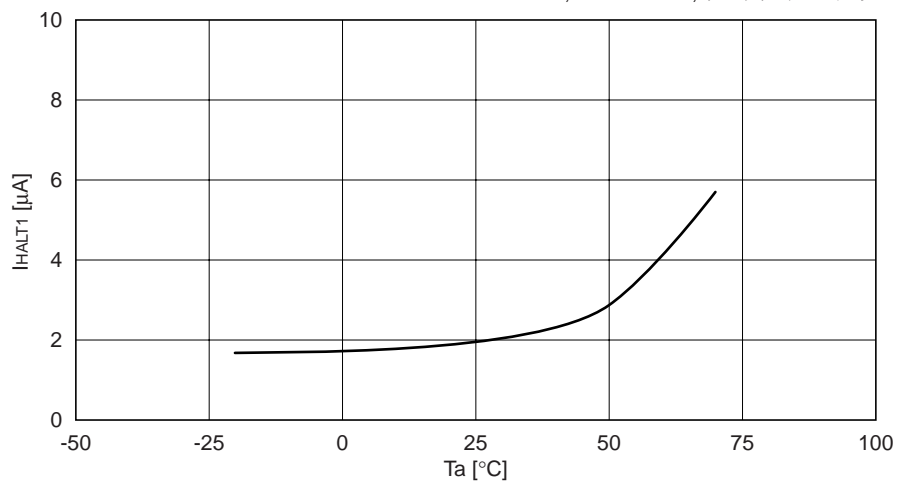
SVD検出電圧温度特性

SVDSx=0FH, Typ値



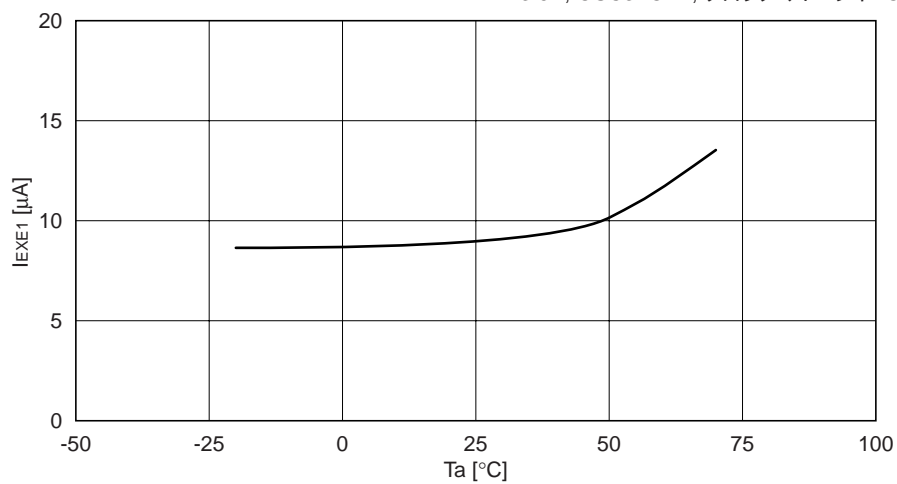
HALT時消費電流温度特性(OSC1動作時) 水晶発振, $f_{OSC1}=32.768\text{kHz}$

$V_{DD}=3.6\text{V}$, $OSC3=OFF$, クロックマネージャ=OFF, Typ値

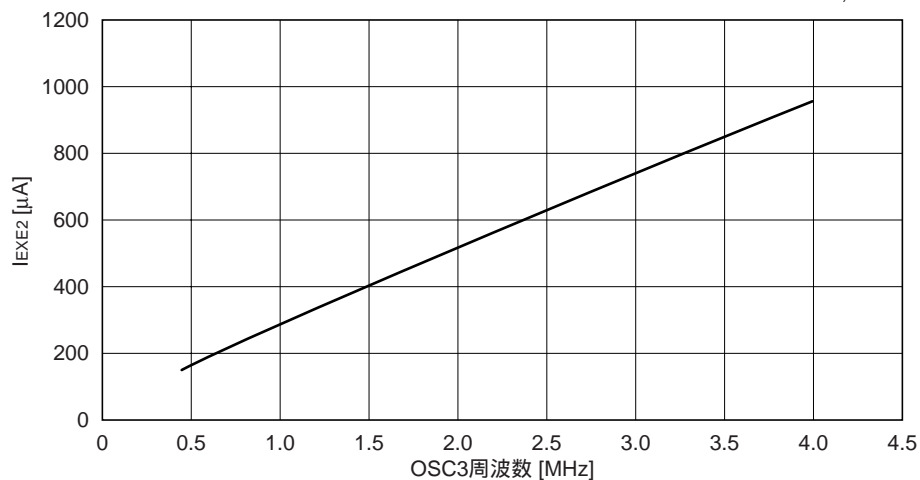


実行時消費電流温度特性(OSC1動作時) 水晶発振, $f_{OSC1}=32.768\text{kHz}$

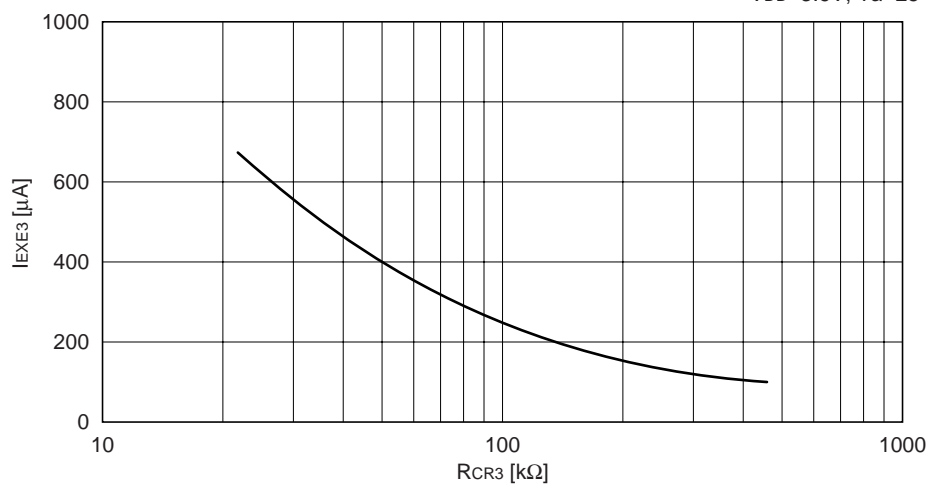
$V_{DD}=3.6\text{V}$, $OSC3=OFF$, クロックマネージャ=OFF, Typ値



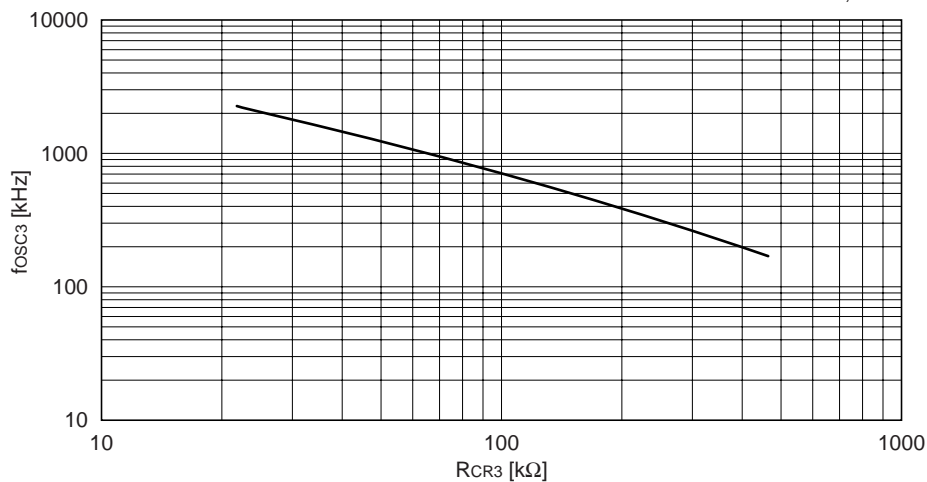
実行時消費電流周波数特性(OSC3動作時) セラミック発振

 $V_{DD}=3.6V$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値

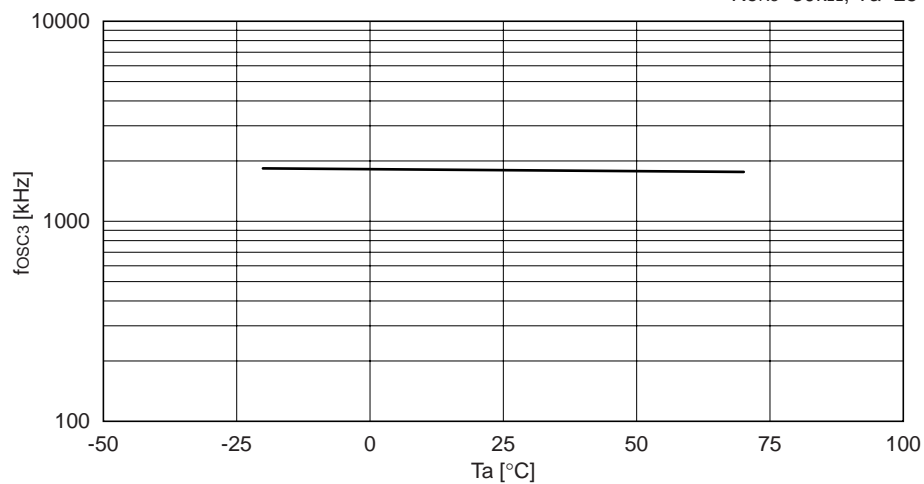
実行時消費電流抵抗特性(OSC3動作時) CR発振

 $V_{DD}=3.6V$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値

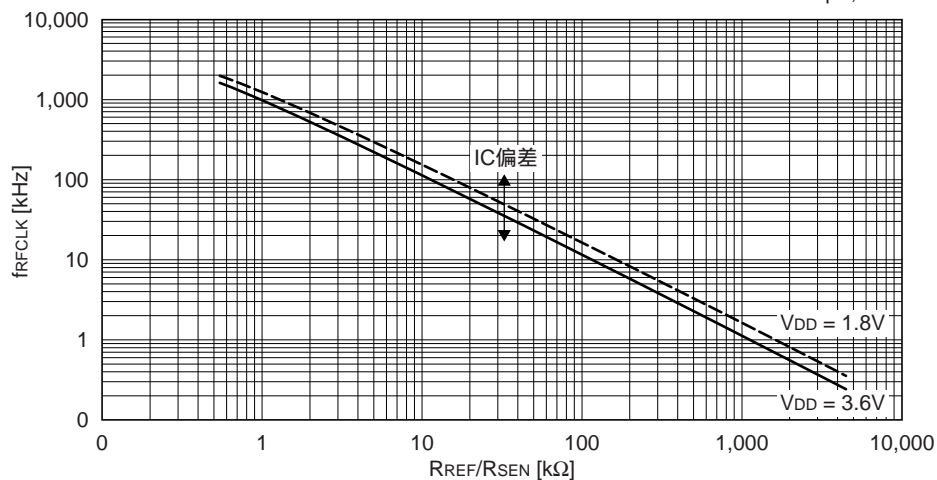
発振周波数抵抗特性(OSC3) CR発振

 $V_{DD}=3.6V$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値

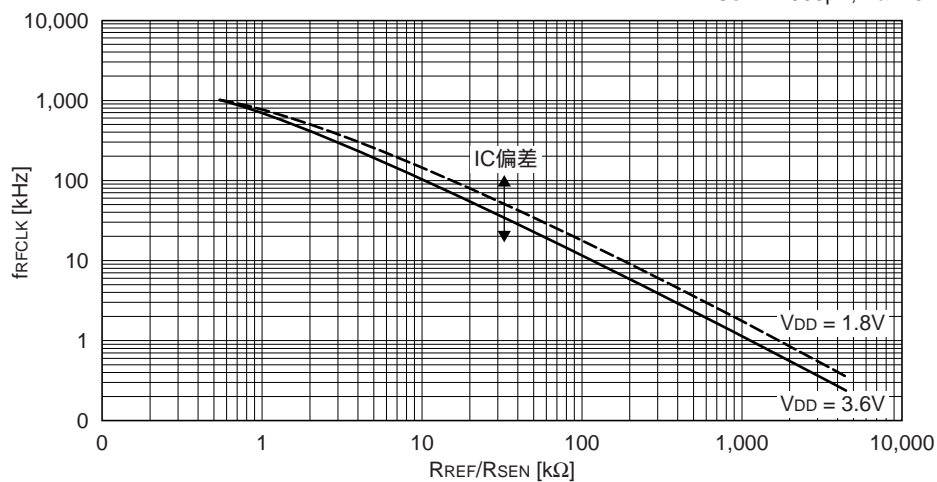
発振周波数温度特性(OSC3) CR発振

 $R_{CR3}=30k\Omega$, $T_a=25^{\circ}C$, Typ値

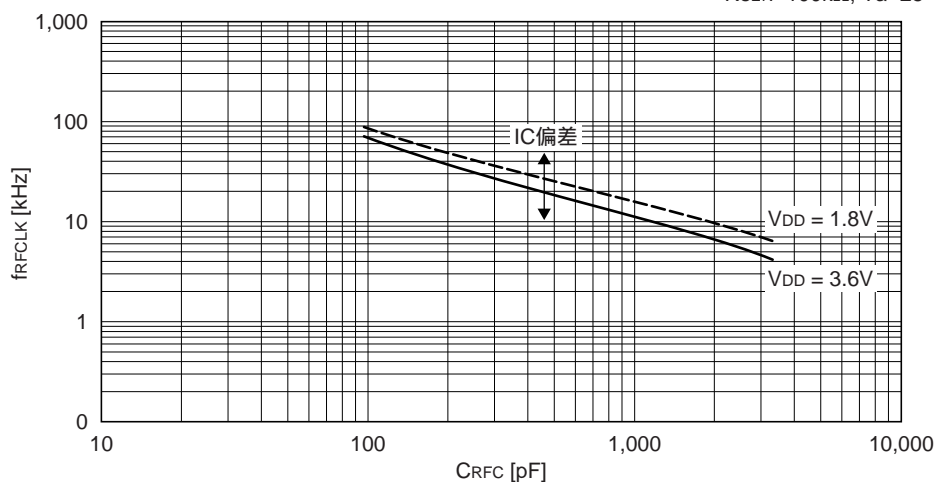
計測カウンタクロック周波数 - 基準/抵抗性センサ抵抗特性(DC発振モード)

 $C_{SEN}=1000\text{pF}$, $T_a=25^\circ\text{C}$, Typ値

計測カウンタクロック周波数 - 基準/抵抗性センサ抵抗特性(AC発振モード)

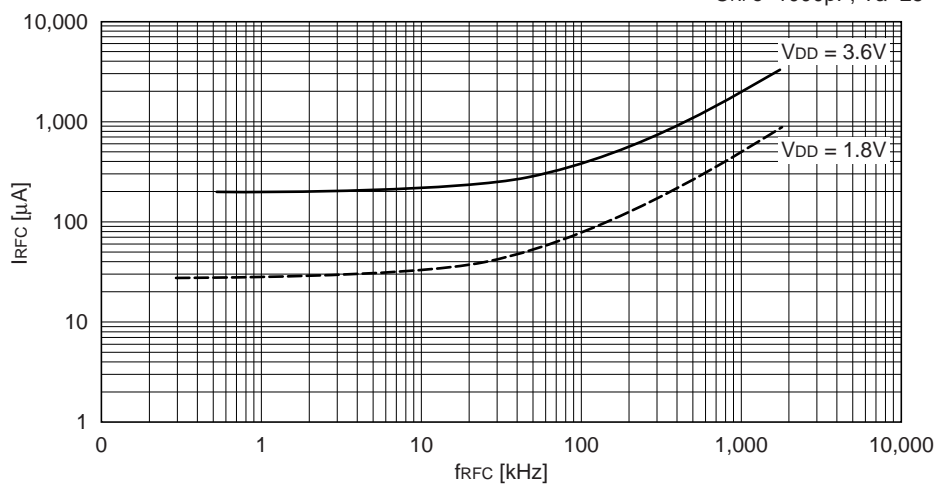
 $C_{SEN}=1000\text{pF}$, $T_a=25^\circ\text{C}$, Typ値

計測カウンタクロック周波数 - 発振容量特性(DC/AC発振モード)

R_{SEN}=100k Ω , Ta=25°C, Typ値

R/Fコンバータ回路消費電流 - 周波数特性(DC/AC発振モード)

CRFC=1000pF, Ta=25°C, Typ値

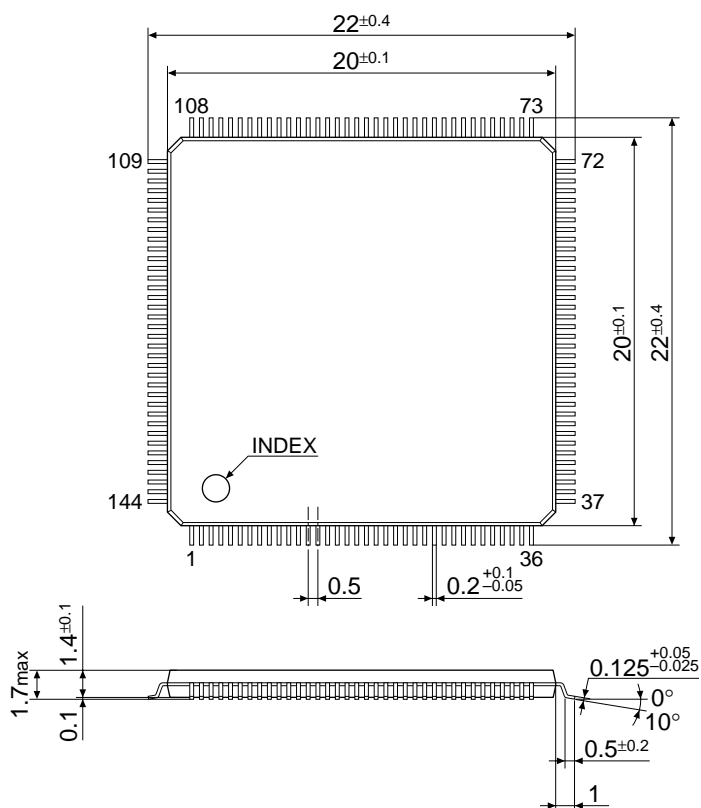


9 パッケージ

9.1 プラスチックパッケージ

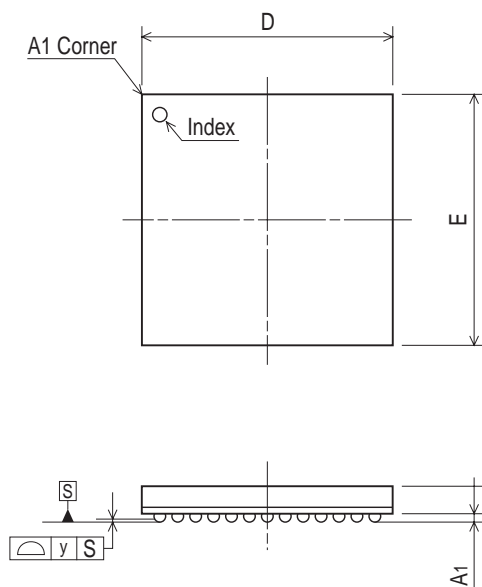
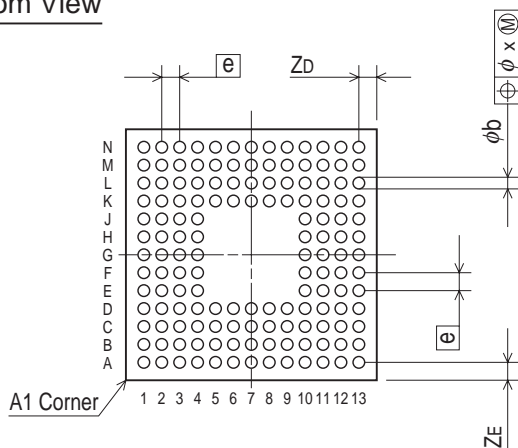
QFP20-144pin

(単位: mm)



寸法については予告なく変更する場合があります。

VFBA7HX144

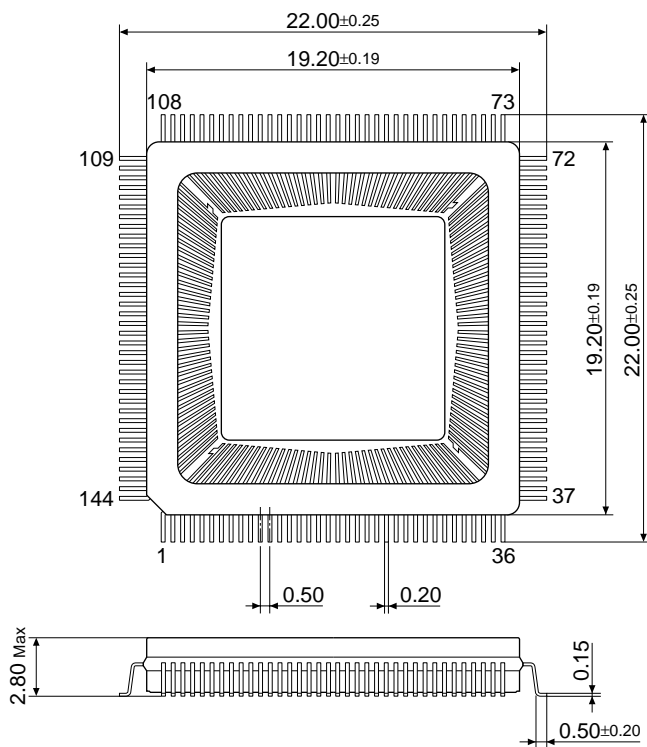
Top ViewBottom View

Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min.	Nom.	Max.
D	–	7	–
E	–	7	–
A	–	–	1.0
A1	–	0.23	–
e	–	0.5	–
b	0.26	–	0.36
X	–	–	0.08
y	–	–	0.1
ZD	–	0.5	–
ZE	–	0.5	–

9.2 テストサンプル用セラミックパッケージ

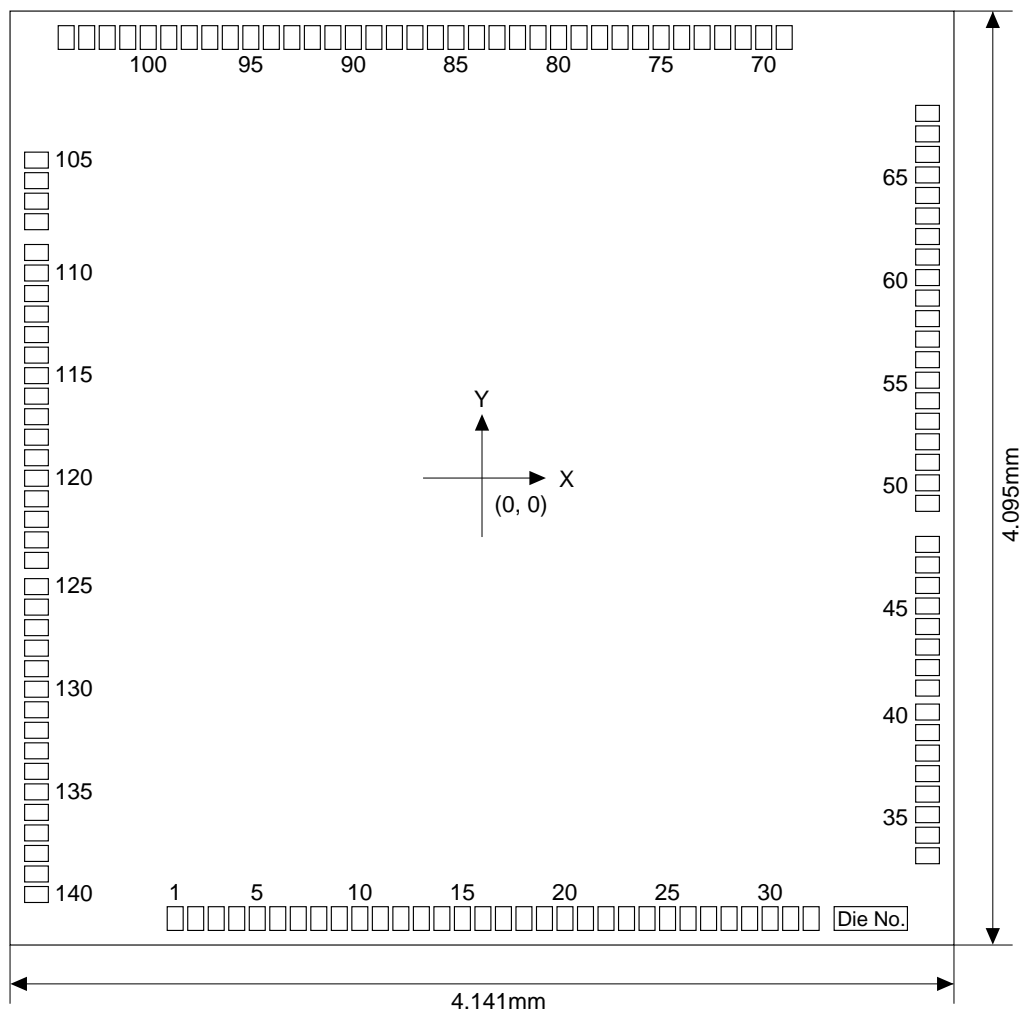
QFP17-144pin

(単位: mm)



10 パッド配置

10.1 パッド配置図



チップ厚: 400μm
 パッド開口部: 90×68μm

10.2 パッド座標

単位: μm

No.	パッド名	X	Y	No.	パッド名	X	Y	No.	パッド名	X	Y
1	SEG16	-1346.0	-1931.5	48	COM16/SEG63	1954.5	-291.0	95	P13/TOUT_A	-1014.2	1931.5
2	SEG17	-1256.0	-1931.5	49	Vss	1954.5	-111.0	96	P12/EVIN_A	-1104.2	1931.5
3	SEG18	-1166.0	-1931.5	50	VD2	1954.5	-21.0	97	P11/RUN/LAP	-1194.2	1931.5
4	SEG19	-1076.0	-1931.5	51	CG	1954.5	69.0	98	P10/RUN/LAP	-1284.2	1931.5
5	SEG20	-986.0	-1931.5	52	CF	1954.5	159.0	99	P03/RFOUT/BZ	-1374.2	1931.5
6	SEG21	-896.0	-1931.5	53	CE	1954.5	249.0	100	VDD	-1464.2	1931.5
7	SEG22	-806.0	-1931.5	54	CD	1954.5	339.0	101	P02/SEN0	-1554.2	1931.5
8	SEG23	-716.0	-1931.5	55	CC	1954.5	429.0	102	P01/REF0	-1644.2	1931.5
9	SEG24	-626.0	-1931.5	56	CB	1954.5	519.0	103	P00/RFIN0	-1734.2	1931.5
10	SEG25	-536.0	-1931.5	57	CA	1954.5	609.0	104	Vss	-1824.2	1931.5
11	SEG26	-446.0	-1931.5	58	Vc5	1954.5	699.0	105	RFIN1	-1954.5	1394.0
12	SEG27	-356.0	-1931.5	59	Vc4	1954.5	789.0	106	REF1	-1954.5	1304.0
13	SEG28	-266.0	-1931.5	60	Vc3	1954.5	879.0	107	SEN1	-1954.5	1214.0
14	SEG29	-176.0	-1931.5	61	Vc2	1954.5	969.0	108	HUD	-1954.5	1124.0
15	SEG30	-86.0	-1931.5	62	Vc1	1954.5	1059.0	109	COM0	-1954.5	989.0
16	SEG31	4.0	-1931.5	63	VDD	1954.5	1149.0	110	COM1	-1954.5	899.0
17	SEG32	94.0	-1931.5	64	OSC3	1954.5	1239.0	111	COM2	-1954.5	809.0
18	SEG33	184.0	-1931.5	65	OSC4	1954.5	1329.0	112	COM3	-1954.5	719.0
19	SEG34	274.0	-1931.5	66	Vss	1954.5	1419.0	113	COM4	-1954.5	629.0
20	SEG35	364.0	-1931.5	67	OSC1	1954.5	1509.0	114	COM5	-1954.5	539.0
21	SEG36	454.0	-1931.5	68	OSC2	1954.5	1599.0	115	COM6	-1954.5	449.0
22	SEG37	544.0	-1931.5	69	VD1	1325.8	1931.5	116	COM7	-1954.5	359.0
23	SEG38	634.0	-1931.5	70	TEST1	1235.8	1931.5	117	COM8	-1954.5	269.0
24	SEG39	724.0	-1931.5	71	TEST2	1145.8	1931.5	118	COM9	-1954.5	179.0
25	SEG40	814.0	-1931.5	72	TEST3	1055.8	1931.5	119	COM10	-1954.5	89.0
26	SEG41	904.0	-1931.5	73	DMOD	965.8	1931.5	120	COM11	-1954.5	-1.0
27	SEG42	994.0	-1931.5	74	DRXD	875.8	1931.5	121	COM12	-1954.5	-91.0
28	SEG43	1084.0	-1931.5	75	DTXD	785.8	1931.5	122	COM13	-1954.5	-181.0
29	SEG44	1174.0	-1931.5	76	DCLK	695.8	1931.5	123	COM14	-1954.5	-271.0
30	SEG45	1264.0	-1931.5	77	TEST	605.8	1931.5	124	COM15	-1954.5	-361.0
31	SEG46	1354.0	-1931.5	78	RESET	515.8	1931.5	125	SEG0	-1954.5	-476.0
32	SEG47	1444.0	-1931.5	79	P53	425.8	1931.5	126	SEG1	-1954.5	-566.0
33	COM31/SEG48	1954.5	-1656.0	80	P52	335.8	1931.5	127	SEG2	-1954.5	-656.0
34	COM30/SEG49	1954.5	-1566.0	81	P51	245.8	1931.5	128	SEG3	-1954.5	-746.0
35	COM29/SEG50	1954.5	-1476.0	82	P50	155.8	1931.5	129	SEG4	-1954.5	-836.0
36	COM28/SEG51	1954.5	-1386.0	83	P43/EVIN_D	65.8	1931.5	130	SEG5	-1954.5	-926.0
37	COM27/SEG52	1954.5	-1296.0	84	P42/EVIN_C	-24.2	1931.5	131	SEG6	-1954.5	-1016.0
38	COM26/SEG53	1954.5	-1206.0	85	P41/EVIN_B	-114.2	1931.5	132	SEG7	-1954.5	-1106.0
39	COM25/SEG54	1954.5	-1116.0	86	P40	-204.2	1931.5	133	SEG8	-1954.5	-1196.0
40	COM24/SEG55	1954.5	-1026.0	87	P33/TOUT_D	-294.2	1931.5	134	SEG9	-1954.5	-1286.0
41	COM23/SEG56	1954.5	-921.0	88	P32/TOUT_C	-384.2	1931.5	135	SEG10	-1954.5	-1376.0
42	COM22/SEG57	1954.5	-831.0	89	P31/TOUT_B	-474.2	1931.5	136	SEG11	-1954.5	-1466.0
43	COM21/SEG58	1954.5	-741.0	90	P30	-564.2	1931.5	137	SEG12	-1954.5	-1556.0
44	COM20/SEG59	1954.5	-651.0	91	P23/SRDY/SS/FOUT	-654.2	1931.5	138	SEG13	-1954.5	-1646.0
45	COM19/SEG60	1954.5	-561.0	92	P22/SIN	-744.2	1931.5	139	SEG14	-1954.5	-1736.0
46	COM18/SEG61	1954.5	-471.0	93	P21/SOUT	-834.2	1931.5	140	SEG15	-1954.5	-1826.0
47	COM17/SEG62	1954.5	-381.0	94	P20/SCLK	-924.2	1931.5	—	—	—	—

Appendix A Peripheral Circuit Board for S1C6F632

ここでは、4-bit Single Chip Microcomputer S1C63 FamilyのデバッグツールであるICE (S5U1C63000H2/ S5U1C63000H6) に装着してエミュレーション機能を提供するPeripheral Circuit Board for S1C6F632(S5U1C63000P6、S5U1C6F632P2) の使用方法を説明します。

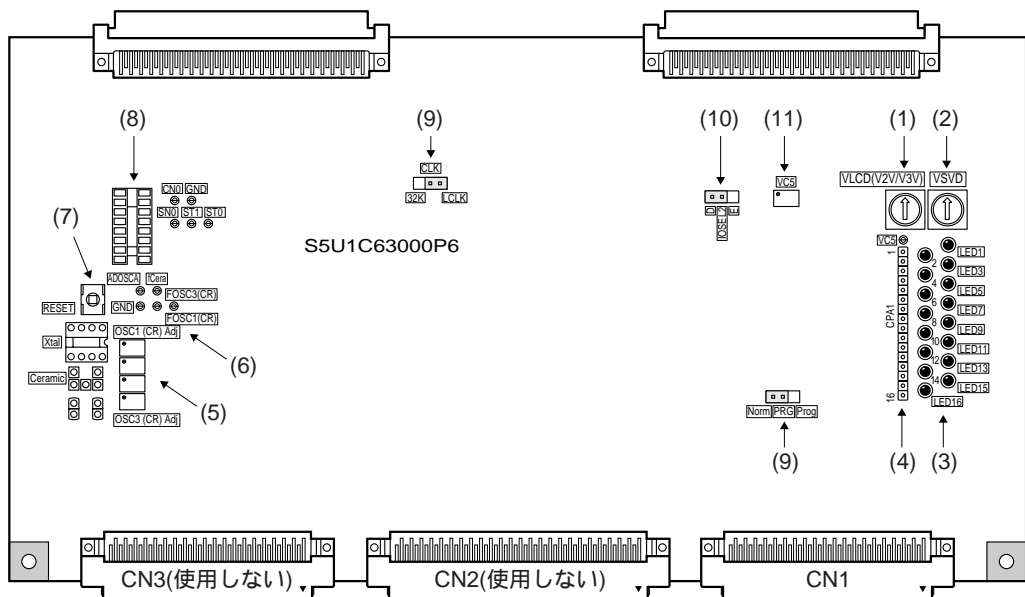
なお、本文はS1C63 Family Peripheral Circuit Board(S5U1C63000P6) にS1C6F632用回路データがダウンロードされているものについて適用されます。各機種用回路データのダウンロード方法については、A.3項を参照してください。また、ICEの機能、操作などの詳細については、S5U1C63000Hマニュアルを参照してください。

注: S5U1C63000P1は、S1C6F632の開発には使用できません。

A.1 各部の名称と機能

A.1.1 S5U1C63000P6

S5U1C63000P6は、S1C63 FamilyマイクロコンピュータのコアCPU以外の周辺回路を提供する基板です。以下、各部の名称と機能について説明します。



(1) VLCD

使用しません。

(2) VSVD

電源電圧検出機能 (SVD) の動作を確認するため、擬似的に電源電圧を変化させるボリュームです。

(3) レジスタモニタLED

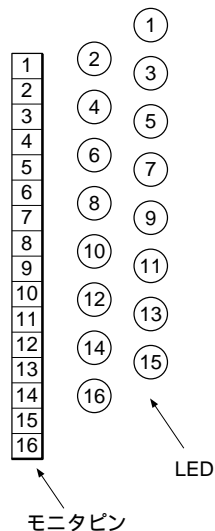
以下の各レジスタに対応しており "1" のとき点灯、"0" のとき消灯します。

OSCC, CLKCHG, DBON, VCSEL, VCHLMOD, VDHLMOD, SVDON, SVDS0 ~ SVDS3

(4) レジスタモニタピン

以下の各レジスタに対応しており、"1"のときHIGHレベル、"0"のときLOWレベル出力となります。

モニタピン		LED	
Pin No.	名称	LED No.	名称
1	DONE *1	1	DONE *1
2	OSCC	2	OSCC
3	CLKCHG	3	CLKCHG
4	FF02H・D3ビット *2	4	FF02H・D3ビット *2
5	VCSEL	5	VCSEL
6	FF02H・D1ビット *2	6	FF02H・D1ビット *2
7	DBON	7	DBON
8	VCHLMOD	8	VCHLMOD
9	VDHLMOD	9	VDHLMOD
10	SVDON	10	SVDON
11	SVDS0	11	SVDS0
12	SVDS1	12	SVDS1
13	SVDS2	13	SVDS2
14	SVDS3	14	SVDS3
15	—	15	—
16	—	16	—

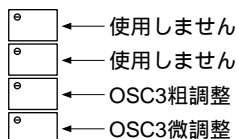


*1 DONE: 本ボードの初期化が正常に完了した場合にHIGHレベル出力、点灯します。

*2 S1C6F632においては、汎用レジスタに割り当てられています。

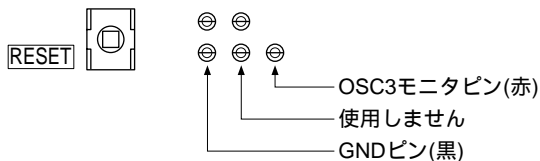
(5) CR発振周波数調整ボリューム

このボリュームによりOSC3発振周波数を調整することができます。マスクオプションによってOSC3をCR発振回路またはセラミック発振回路のどちらに設定した場合でも有効です。調整可能範囲は約100kHz～8MHzになります。なお、実ICの動作周波数範囲はこの調整可能範囲とは異なりますので、「8 電気的特性」を参照の上、適切な動作周波数を選択してください。



(6) CR発振周波数モニタピン

CR発振回路からのクロック波形をオシロスコープなどでモニタすることができます。なお、このピンからは、発振回路の動作制御にかかわらず、常にクロックが出力されています。



(7) RESETスイッチ

本ボードの回路を初期化し、ICEにリセット信号を与えます。

(8) 外付け部品接続ソケット

使用しません。

(9) CLK、PRGスイッチ

回路データのダウンロード中、処理が完了しないままICEの電源が遮断されてしまった場合、再度ICEの電源を投入しても本ボード側の回路構成が不完全なままとなり、デバッグが起動しなくなることがあります。このような場合はICEの電源をいったん落とし、CLKを32K側に、PRGスイッチをProg側にそれぞれ設定してから再度ICEの電源を投入します。これによりデバッグは起動可能になりますので、この状態で回路データをダウンロードしてください。回路データのダウンロード完了後はいったんICEの電源を落とし、CLKをLCLK側に、PRGをNorm側にそれぞれ戻して、再度ICEの電源を投入してください。

(10) JOSEL2

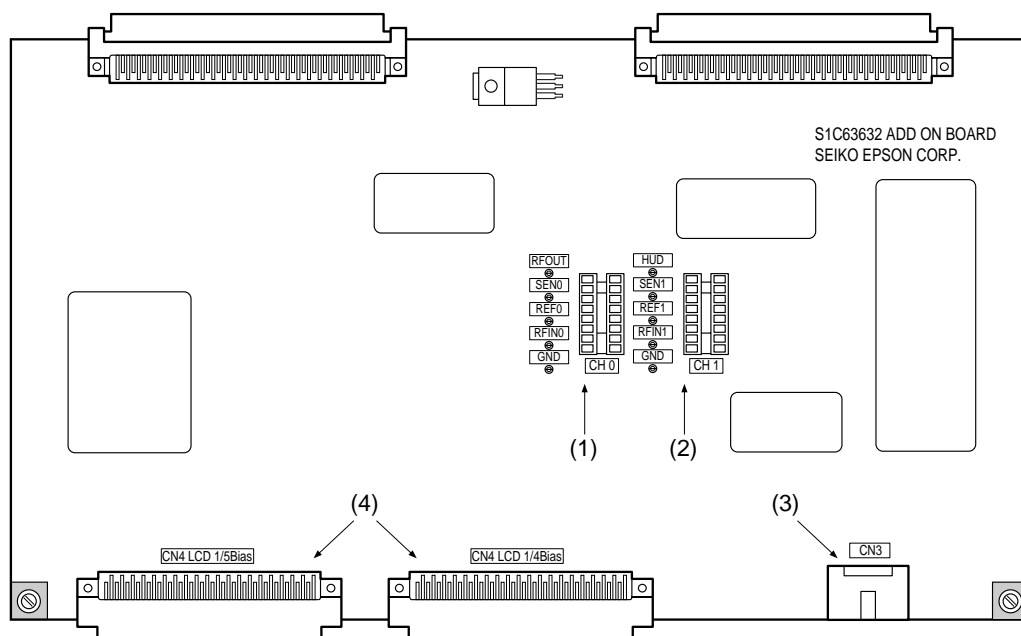
回路データをダウンロードする場合は、"E"側に設定してください。それ以外の場合は、"D"側に設定してください。

(11) VC5

使用しません。

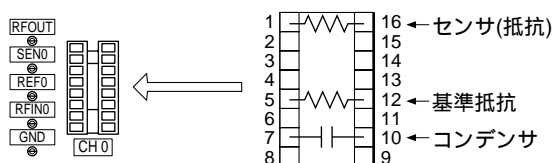
A.1.2 S5U1C6F632P2

S5U1C6F632P2は、サーミスタなどの抵抗性センサ、抵抗性湿度センサに対応したR/Fコンバータの機能とLCDドライバの機能を提供する基板です。以下、各部の名称と機能について説明します。



(1) R/Fコンバータモニタピン、外付け部品接続ソケット(チャンネル0)

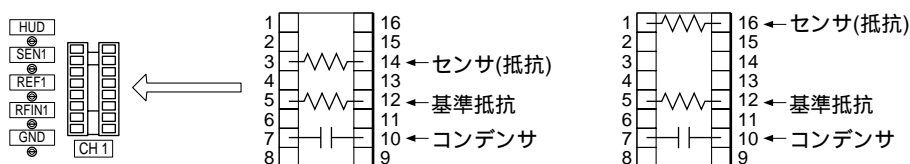
R/Fコンバータチャンネル0の動作をモニタするためのピンと、外付け抵抗、コンデンサを接続するためのソケットです。S5U1C6F632P2に添付されているプラットフォームに抵抗とコンデンサを実装し、基板ソケットに装着します。



サーミスタなどの抵抗性センサ
(DC印加)の接続

(2) R/Fコンバータモニタピン、外付け部品接続ソケット(チャンネル1)

R/Fコンバータチャンネル1の動作をモニタするためのピンと、外付け抵抗、コンデンサを接続するためのソケットです。S5U1C6F632P2に添付されているプラットフォームに抵抗とコンデンサを実装し、基板ソケットに装着します。



抵抗性湿度センサ
(AC印加)の接続

サーミスタなどの抵抗性センサ
(DC印加)の接続

使用するセンサにより、上記のように接続位置が変わります。
AC印加とDC印加の抵抗性センサを同時に接続すると誤動作の原因になります。

(3)CN3(P0 I/Oコネクタ)

P00 ~ P03ポートの信号を入出力するユーザインタフェースコネクタです。実ICでは、P00 ~ P03端子がR/Fコンバータチャンネル0用の端子も兼ねていますが、本ボードでは(1)のR/Fコンバータ用ソケット/モニタピンと別に用意されています。そのため、R/Fコンバータチャンネル0使用時は本コネクタを使用せず、開放としてください。

(4)CN4(LCDコネクタ)

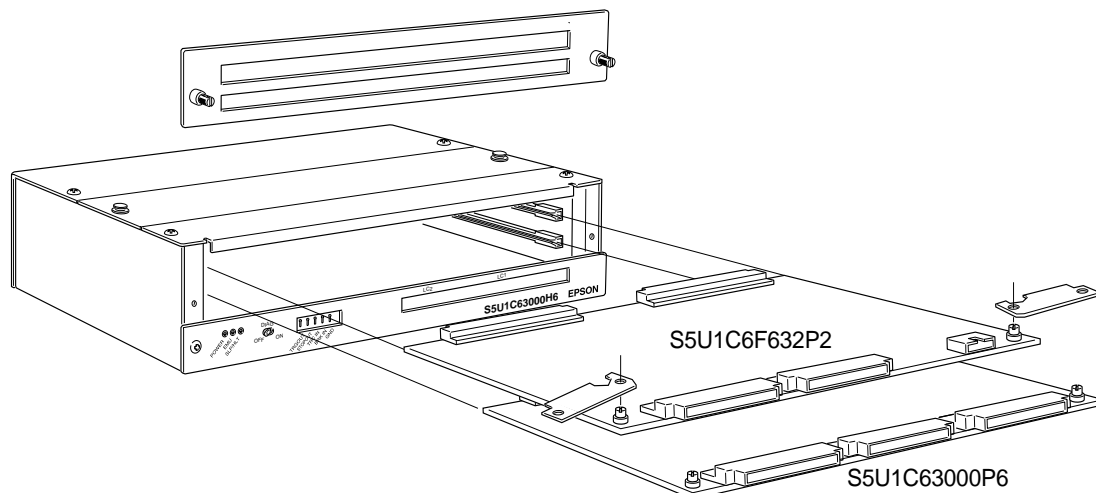
LCDドライバのCOM/SEG信号を出力するユーザインタフェースコネクタです。LCD駆動方式が1/5バイアス用と1/4バイアス用の2つのコネクタが用意されていますので、必ずどちらか一方のターゲットシステムの仕様に合ったコネクタのみを使用してください。両方のコネクタへの同時接続は、誤動作や故障の原因になります。

A.2 ターゲットシステムとの接続

ここではターゲットシステムとの接続方法を説明します。

S5U1C63000P6ボードをICEの上から2段目のスロットに、S5U1C6F632P2ボードを最上部のスロットに挿入します。

S5U1C63000P6に回路データがダウンロードされていない場合は、S5U1C6F632P2を挿入する前に、A.3項のダウンロードを行ってください。

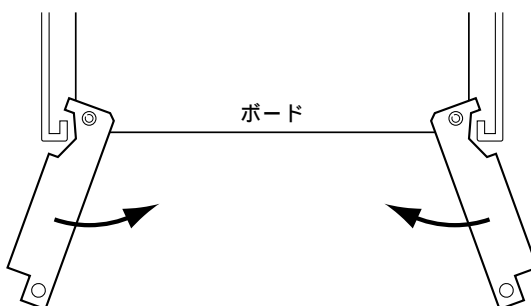


図A.2.1 ICEへのボードの装着

S5U1C63000P6/6F632P2の装着

右図のようにICEに付属している治具をセットします。この治具をテコにして、内側に向かって左右均等に倒します。ボードがICEのスロット内に確実に納まったことを確認して、治具を外します。

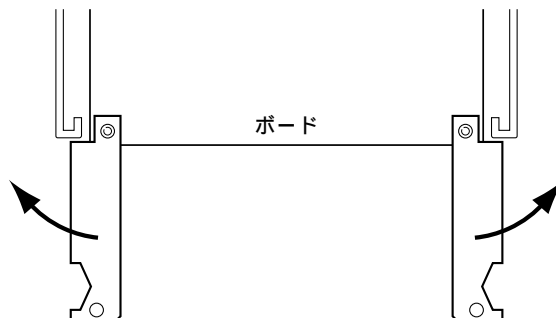
図A.2.2 ボードの装着



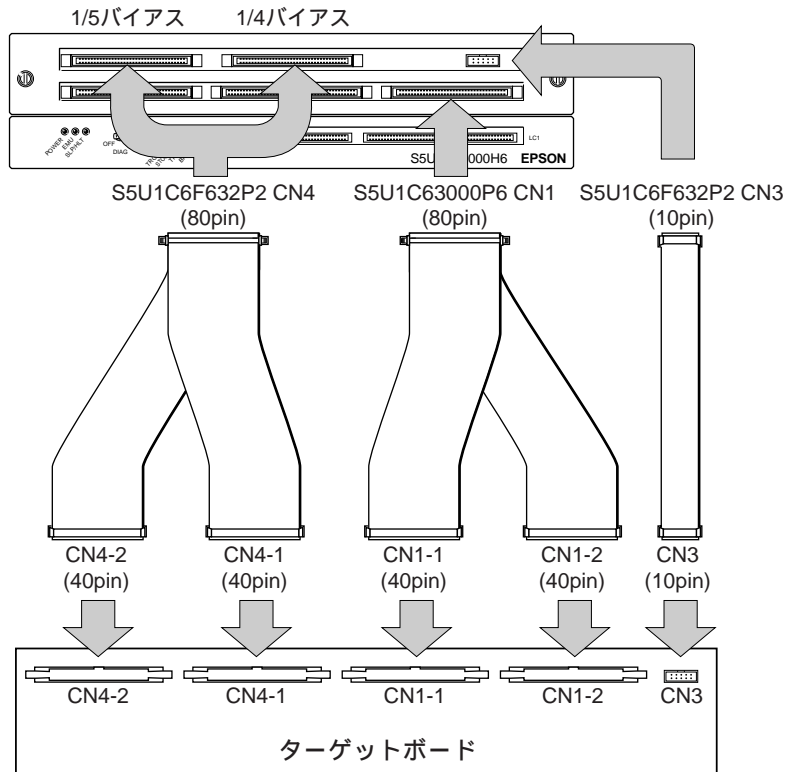
S5U1C63000P6/6F632P2の脱着

右図のようにICEに付属している治具をセットします。この治具をテコにして、外側に向かって左右均等に倒します。ボードがICEのバックボードコネクタから外れたことを確認して、ボードを引き出します。

図A.2.3 ボードの脱着



S5U1C63000P6、S5U1C6F632P2とターゲットシステムの接続は、添付のI/O接続ケーブルを用いて行います。なお、本コネクタには電源 ($V_{DD}=+3.3V$) が供給されていますので、ご注意ください。



図A.2.4 ターゲットシステムとの接続

表A.2.1 S5U1C63000P6 I/Oコネクタのピン配列表

40pin CN1-1コネクタ		40pin CN1-2コネクタ	
No.	端子名称	No.	端子名称
1	VDD (=3.3V)	1	VDD (=3.3V)
2	VDD (=3.3V)	2	VDD (=3.3V)
3	接続不可	3	接続不可
4	接続不可	4	接続不可
5	接続不可	5	接続不可
6	接続不可	6	接続不可
7	接続不可	7	接続不可
8	接続不可	8	接続不可
9	接続不可	9	接続不可
10	接続不可	10	接続不可
11	Vss	11	Vss
12	Vss	12	Vss
13	P10	13	接続不可
14	P11	14	接続不可
15	P12	15	接続不可
16	P13	16	接続不可
17	P20	17	接続不可
18	P21	18	接続不可
19	P22	19	接続不可
20	P23	20	接続不可
21	VDD (=3.3V)	21	VDD (=3.3V)
22	VDD (=3.3V)	22	VDD (=3.3V)
23	P30	23	接続不可
24	P31	24	接続不可
25	P32	25	接続不可
26	P33	26	接続不可
27	P40	27	接続不可
28	P41	28	接続不可
29	P42	29	接続不可
30	P43	30	接続不可
31	Vss	31	Vss
32	Vss	32	Vss
33	P50	33	接続不可
34	P51	34	接続不可
35	P52	35	接続不可
36	P53	36	接続不可
37	接続不可	37	接続不可
38	接続不可	38	RESET
39	Vss	39	Vss
40	Vss	40	Vss

表A.2.2 S5U1C6F632P2 I/Oコネクタのピン配列表

10pin CN3コネクタ		40pin CN4-1コネクタ		40pin CN4-2コネクタ	
No.	端子名称	No.	端子名称	No.	端子名称
1	V _{DD} (=3.3V)	1	COM0	1	SEG24
2	V _{DD} (=3.3V)	2	COM1	2	SEG25
3	P00	3	COM2	3	SEG26
4	P01	4	COM3	4	SEG27
5	P02	5	COM4	5	SEG28
6	P03	6	COM5	6	SEG29
7	接続不可	7	COM6	7	SEG30
8	接続不可	8	COM7	8	SEG31
9	V _{SS}	9	COM8	9	SEG32
10	V _{SS}	10	COM9	10	SEG33
		11	COM10	11	SEG34
		12	COM11	12	SEG35
		13	COM12	13	SEG36
		14	COM13	14	SEG37
		15	COM14	15	SEG38
		16	COM15	16	SEG39
		17	SEG0	17	SEG40
		18	SEG1	18	SEG41
		19	SEG2	19	SEG42
		20	SEG3	20	SEG43
		21	SEG4	21	SEG44
		22	SEG5	22	SEG45
		23	SEG6	23	SEG46
		24	SEG7	24	SEG47
		25	SEG8	25	COM31/SEG48
		26	SEG9	26	COM30/SEG49
		27	SEG10	27	COM29/SEG50
		28	SEG11	28	COM28/SEG51
		29	SEG12	29	COM27/SEG52
		30	SEG13	30	COM26/SEG53
		31	SEG14	31	COM25/SEG54
		32	SEG15	32	COM24/SEG55
		33	SEG16	33	COM23/SEG56
		34	SEG17	34	COM22/SEG57
		35	SEG18	35	COM21/SEG58
		36	SEG19	36	COM20/SEG59
		37	SEG20	37	COM19/SEG60
		38	SEG21	38	COM18/SEG61
		39	SEG22	39	COM17/SEG62
		40	SEG23	40	COM16/SEG63

A.3 S5U1C63000P6へのダウンロード

注: S1C6F632用回路データはS5U1C63000P6専用で、従来のS5U1C63000P1にはダウンロードできません。

A.3.1 新ICE(S5U1C63000H2/S5U1C63000H6)使用時における回路データのダウンロード

S5U1C63000P6には、工場出荷時に出荷検査用回路が書き込まれておりますので、S1C6F632の回路データをダウンロードしてください。以下に回路データのダウンロード方法を説明します。

- 1) ICE(S5U1C63000H2/S5U1C63000H6)上面のカバーを外し、S5U1C63000P6ボード上のDIPスイッチIOSEL2を"E"側にセットします。
- 2) ICEをホストPCと接続し、ホストPCの起動とICEの電源投入を行います。
- 3) アセンブラパッケージ(S5U1C63000H2の場合はVer. 5以上、S5U1C63000H6の場合はVer. 9以上)に含まれるデバグを起動します。ICEとデバグの操作方法については、ICEに添付のマニュアルと、アセンブラパッケージに付属のマニュアルを参照してください。
- 4) 各回路データファイル(~.mot)を本ボードにダウンロードします。デバグのコマンドウィンドウから以下のように入力してください。

```
>XFER          ( オールイレーズ )
>XFWR <file name> ( 指定ファイルのダウンロード )*
>XFCEP <file name> ( 指定ファイルとダウンロードデータの比較 )
```

* ダウンロードはS5U1C63000H2の場合は15分程度、S5U1C63000H6の場合は3分程度がかかります。

- 5) デバグを終了させ、ICEの電源を一旦切ります。
- 6) S5U1C63000P6ボード上のDIPスイッチIOSEL2を"D"側にセットします。
- 7) ICEの電源を再投入し、デバグを起動し直してご使用ください。

A.4 使用上の注意

Peripheral Circuit Boardを正しく使用していただくために、以下の事項に注意してください。

A.4.1 操作上の注意事項

- (1) ケーブルの接続と切り離しは、接続する機器すべての電源をOFFにした状態で行ってください。
- (2) 入出力兼用ポート(P10～P13)をすべてHIGHレベルにした状態で、電源投入およびマスクオプションデータのロードを行わないでください。キー同時押しリセット機能が働く可能性があります。
- (3) デバッグを行う場合は、その前に必ずマスクオプションデータをロードしてください。

A.4.2 実ICとの相違点

(1) I/Oについての相違

インタフェース電源

S5U1C63000P6とターゲットシステムのインタフェース電圧は+3.3Vに固定されています。このため、実際のICと同一のインタフェース電圧が必要な場合は、ターゲットシステム側においてレベルシフタ回路などを付加して対応してください。

各出力ポートの駆動能力

S5U1C63000P6における各出力ポートの駆動能力は、実際のICに比べて高くなっていますので、“8 電気的特性”を参照し、各出力端子の駆動能力を確認した上で、システムおよびソフトウェアの設計を行ってください。

各ポートの保護ダイオード

すべてのI/Oポートには保護用ダイオードが V_{DD} と V_{SS} に対して入っており、ターゲットシステムとのインタフェース信号は+3.3Vに固定されます。このため、出力ポートをオープンドレインに設定し、 V_{DD} を超える電圧レベルとのインタフェースをとることはできません。

ブルダウン抵抗値

S5U1C63000P6のブルダウン抵抗値は220k Ω に固定されていますが、実際のICと抵抗値が異なります。実際のICにおける抵抗値は、“8 電気的特性”を参照して確認してください。

なお、ブルダウン抵抗を使用して入力端子をLOWレベルに引き下げる場合などにおいて、LOWレベル確定までの時間に相違が生じます。たとえば、出力ポートと入力ポートを組み合わせるキーマトリクス回路を構成した場合は、入力ポートの立ち下がりがディレイに相違が発生しますので十分な注意が必要です。

シュミット入力

実際のICの入出力兼用ポートはシュミット入力に設定可能ですが、S5U1C63000P6は対応していません。ポート入力はすべてCMOSレベルになります。

(2) 消費電流についての相違

S5U1C63000P6の消費電流は実際のICと大きく異なります。S5U1C63000P6上のLEDを確認することで、おおよその消費電流を把握することができます。なお、消費電流に大きく影響を及ぼすものとして以下のようなものがあげられます。

LED、モニタピンなどで確認が可能なもの

- a) RunとHaltの実行比率(ICEのモニタピン、LEDによる)
- b) OSC3発振ON/OFF(OSCC)
- c) CPUクロック切り換え(CLKCHG)
- d) SVD回路ON/OFF回路(SVDON)

システム、ソフトウェア上注意するしかないもの

- e) 内蔵ブルダウン抵抗により消費される電流
- f) 入力ポートがフローティング状態

(3) 機能上の相違

LCDドライバ

- LCD駆動波形は、S5U1C6F632P2ボード上に実装されたS1C6F632チップで生成しています。なお、S1C6F632チップは1/4バイアス駆動用と1/5バイアス駆動用に2個搭載されており、マスクオプションの選択にかかわらず、S5U1C6F632P2ボードの1/4バイアス用CN4コネクタと1/5バイアス用CN4コネクタの両方に駆動波形が出力されます。ターゲットボードは、必ずアプリケーションで使用する駆動バイアス用コネクタに接続してください。
- 本ツールに電源を投入した直後は表示メモリの値とLCDドライバから出力される表示波形が一致しません。必ずアプリケーションプログラムによって表示メモリを初期化してください。
- S1C6F632のカスタムマスクオプション品では、LCD駆動用電源を1/4バイアスに設定する場合にV_{C1}を基準にLCD駆動電圧を発生させるか、あるいはV_{C2}を基準に発生させるかを選択することができます。しかし、本ツールではV_{C2}を基準にLCD駆動電圧を発生させており、V_{C1}を基準にすることはできません。

SVD回路

- SVD機能は、S5U1C63000P6上のVSVDボリュームにより、擬似的に電源電圧を変化させることにより行います。ただし、S5U1C63000P6は8値(0000B ~ 0111B)の検出にのみ対応しており、SVDS3レジスタの設定は無視されます(例: SVDS=1111Bと0111Bでは同じ判定結果になります)。SVDS3の値については、モニタLEDで確認してください。
- SVD回路の電源をONしてから実際に電圧を検出するまでに実際のICではディレイ時間が発生しますが、S5U1C63000P6にはディレイ時間はありません。SVD結果を読み出す際には、「8 電気的特性」を参照して、適切なウェイト時間を設定してください。

発振回路

- OSC3発振制御回路(OSCC)をONにしてから発振が安定するまでにウェイト時間が必要になりますが、本ボードではウェイトなしにOSC3の発振切り換え(CLKCHG)しても動作してしまいます。このため、実際のICにおいては、「8 電気的特性」を参照の上適切な時間を設定してください。
- OSC3からOSC1へのクロック切り換えと、OSC3回路の発振停止は別の命令で行ってください。ひとつの命令で同時に行った場合は、本ボードで動作しても実際のICで動作しない場合があります。
- 発振回路のロジックレベルが高いため、発振開始時間のタイミングが異なります。
- 本ボードにはOSC1とOSC3用の発振回路が内蔵されています。このため、OSC3の発振子を接続しない場合でも、OSC3回路による動作が可能になりますので、注意してください。
- マスクオプションによってOSC3発振回路にセラミック発振を選択した場合でも、S5U1C63000P6はCR発振回路でOSC3クロックを生成します。
- 実際のICでは、SLEEP状態が解除されると発振回路のクロック出力が安定するのを待ってからCPUが動作を再開します。S5U1C63000P6、S5U1C6F632P2ボードでは常に安定したクロックが供給されているため、SLEEP解除後のCPU起動時間が実際のICとは異なります。
- 実際のICでは、SLP命令を実行するとOSC1およびOSC3発振回路が停止するため、周辺回路もすべて停止します。S5U1C63000P6、S5U1C6F632P2ボードはLCDドライバへのクロック供給を停止しません。したがって、実際のICとは異なり、CPUがSLEEP状態でもLCD表示は行われます。

未定義アドレス空間のアクセス

S1C6F632内蔵のROM/RAM、I/Oの未定義空間に対して、読み出し/書き込みを行った場合、その値は不定となります。また、S5U1C63000P6と実際のICでは不定となる状態が異なりますので、充分注意してください。なお、ICEは、未定義アドレス空間に対してアクセスがあった場合、プログラムブレークが発生する機能を内蔵しています。

リセット回路

ICEおよびS5U1C63000P6、S5U1C6F632P2に電源を投入してから、プログラムが動作するまでのシーケンスは、実際のICに電源を投入してからプログラムが動作するまでのシーケンスと異なりますので、注意してください。S5U1C63000P6では、ユーザプログラムのロード、オプションデータのロードを行ってからデバッグシステムとしての動作が可能になります。なお、ICEをフリーランモード*に設定して動作させる場合は、必ずシステムリセットをかけてください。システムリセットは、S5U1C63000P6上のリセットスイッチ、リセット端子入力、入力ポートの同時HIGHレベル保持のいずれかになります。

(*フリーランモード: S5U1C63000H1/2の場合のみ使用可能)

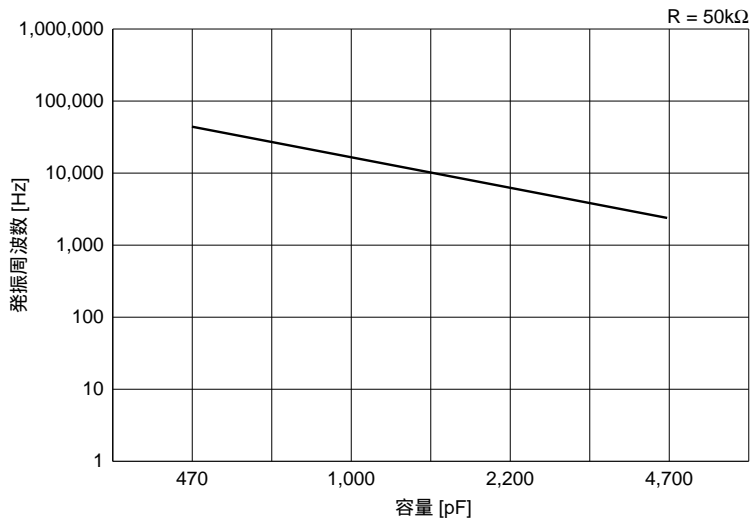
入出力兼用ポート

- P1xポートのキー同時押しリセットオプションを有効にした端子は出力モードに設定しないでください。S5U1C63000P6、S5U1C6F632P2ではリセットが発生することがあります。
- 出力モードに設定した入出力兼用ポートの入力割り込みや周辺回路用の入力機能を有効にしないでください。S5U1C63000P6、S5U1C6F632P2では割り込み処理などが実行される場合があります。

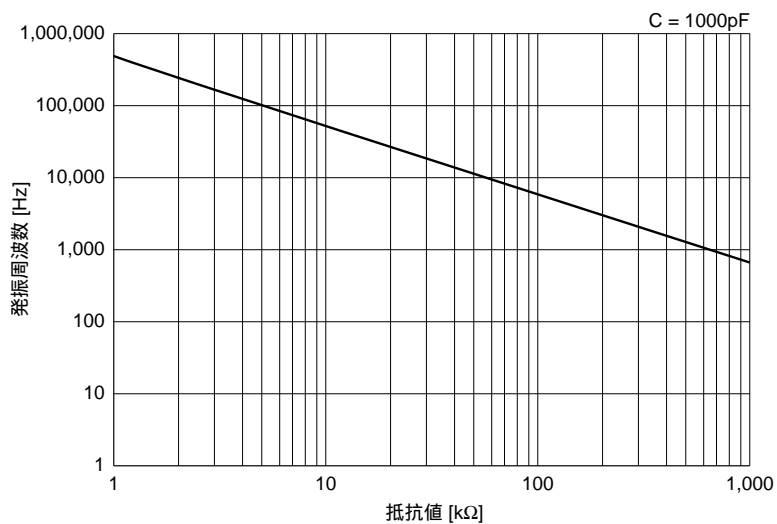
R/Fコンバータ

- R/Fコンバータ機能は、S5U1C6F632P2ボード上に実装されたS1C6F632チップにより提供されます。
- R/Fコンバータが発振のカウント中に、デバッガによってターゲットプログラムがブレイクしても、計測カウンタのカウントは停止しません。この状態からプログラムの実行を再開しても、正しい変換結果は得られません。
- S5U1C6F632P2上のR/Fコンバータの発振特性グラフ(参考値)を以下に示します。

R/Fコンバータ発振周波数-容量特性(参考値)



R/Fコンバータ発振周波数-抵抗特性(参考値)



A.5 製品の仕様

A.5.1 S5U1C63000P6の仕様

S5U1C63000P6

寸法:	254mm(横)×144.8mm(奥行き)×16mm(高さ) (ネジ含む)
重量:	約250g
電源:	DC5V ± 5%、1A以下(ICE本体より供給)

I/Oケーブル(80pin)

本機側コネクタ:	KEL8830E-080-170L-F
ケーブル側コネクタ(80pin):	KEL8822E-080-171-F
ケーブル側コネクタ(40pin):	3M7940-6500SQ(2個/1組)
ケーブル:	40芯フラットケーブル(2本/1組)
インタフェース:	CMOSインタフェース(3.3V)
長さ:	約40cm

I/Oケーブル(100pin)

本機側コネクタ:	KEL8830E-100-170L-F
ケーブル側コネクタ(100pin):	KEL8822E-100-171-F
ケーブル側コネクタ(50pin):	3M7950-6500SQ(2個/1組)
ケーブル:	50芯フラットケーブル(2本/1組)
インタフェース:	CMOSインタフェース(3.3V)
長さ:	約40cm

付属品

ターゲットシステム接続コネクタ(40pin):	3M3432-6002LCPL×2
ターゲットシステム接続コネクタ(50pin):	3M3433-6002LCPL×2

A.5.2 S5U1C6F632P2の仕様

S5U1C6F632P2

寸法: 254mm(横)×144.8mm(奥行き)×13mm(高さ) (ネジ含む)
重量: 約170g
電源: DC5V ±5%、50mA以下
(ICE本体より供給、本ボード上レギュレータにて3.3Vに変換)

I/Oケーブル(80pin)

本機側コネクタ: KEL8830E-080-170L-F
ケーブル側コネクタ(80pin) : KEL8822E-080-171-F
ケーブル側コネクタ(40pin) : 3M7940-6500SQ(2個/1組)
ケーブル: 40芯フラットケーブル(2本/1組)
インタフェース: CMOSインタフェース(3.3V)
長さ: 約40cm

I/Oケーブル(10pin)

本機側コネクタ: 3M3654-5002-PL
ケーブル側コネクタ(10pin) : 3M7910-6500SC
ケーブル: 10芯フラットケーブル
インタフェース: CMOSインタフェース(3.3V)
長さ: 約40cm

付属品

ターゲットシステム接続コネクタ(40pin)
3M3432-6002LCPL×2
ターゲットシステム接続コネクタ(10pin)
3M3662-6002LCPL×1
R/Fコンバータ外付け抵抗、コンデンサ用プラットフォーム:
DIS12-016-403(KEL製)×2

Appendix B PROMプログラミング

B.1 書き込みツールの概要

S1C6F632内蔵Flash EEPROMのプログラミングには、以下のいずれかのツールを使用します。
どちらも小型軽量な上に、マイコン用電源のみで駆動が可能のため、手軽にPROMオンボードプログラミング環境を構築できます。

USBインタフェース版

- USB-Serial On Board Writer(製品名: S5U1C88000W4)
- On Board Writerコントロールソフトウェア(OBPW63.EXE、RW6F632.INI)
- USB-Serial変換ドライバ

動作電圧: 3.3V \pm 0.3V(ターゲットの動作電源電圧と兼用)

PCとのインタフェース: USB Ver. 1.1

注: 外部USBハブを用いて本ボードを接続する場合は、外部電源で駆動可能なUSBハブを使用し、外部電源を入力して使用してください。

RS-232Cインタフェース版

- On Board Writer(製品名: S5U1C88000W3)
- On Board Writerコントロールソフトウェア(OBPW63.EXE、RW6F632.INI)

動作電圧: 3.3V \pm 0.3V(ターゲットの動作電源電圧と兼用)

PCとのインタフェース: EIA-RS-232C

On Board WriterコントロールソフトウェアとUSB-Serial変換ドライバは、S1C63 Familyアセンブラパッケージ(S5U1C63000A2)以降に含まれています。

On Board Writerコントロールソフトウェア(OBPW63.EXE、RW6F632.INI)は、USBインタフェース版とRS-232Cインタフェース版のどちらにも使用可能です。

B.2 シリアルプログラミング

B.2.1 シリアルプログラミングシステム環境

ホストコンピュータとして下記のパーソナルコンピュータシステム、専用のPROM書き込みツールおよびS1C6F632に書き込むためのデータを用意してください。

(1) パーソナルコンピュータ

- IBM-PC/ATまたは互換機で、USBポートもしくはRS-232Cポートを備えたもの

(2) OS

- 日本語版/英語版Windows 2000/XP

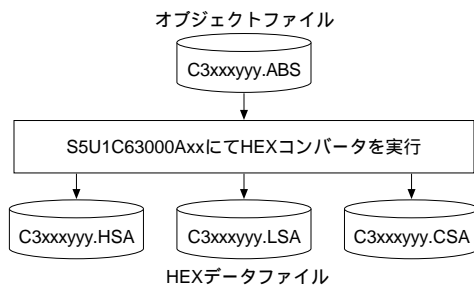
(3) PROM書き込みツール

- S5U1C88000W4(USBインタフェース版)パッケージ
またはS5U1C88000W3(RS-232Cインタフェース版)パッケージ
- On Board Writerコントロールソフトウェア(OBPW63.EXE、RW6F632.INI)
- USB-Serial変換ドライバ(USBインタフェース版使用時のみ必要)

On Board WriterコントロールソフトウェアとUSB-Serial変換ドライバは、S1C63 FamilyアセンブラパッケージS5U1C63000A2以降に含まれています。

(4) ユーザデータ(ROMデータHEXファイル)

HEXコンバータHX63を実行し、オブジェクトファイル(C3xxxxyy.ABS)からHEXデータファイル(C3xxxxyy.HSA、C3xxxxyy.LSA、C3xxxxyy.CSA)を作成します。HEXコンバータの詳細については、"S5U1C63000A Manual"を参照してください。

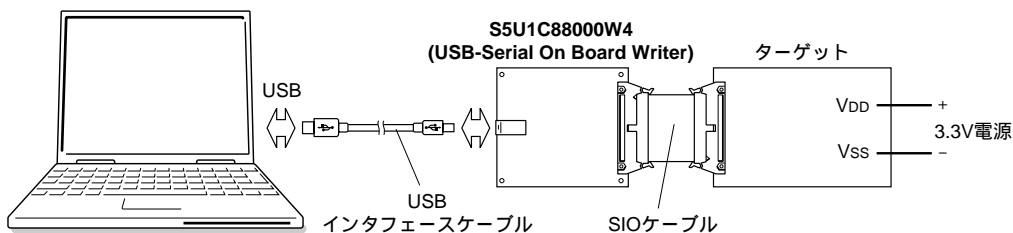


図B.2.1.1 HX63の実行フロー

B.2.2 シリアルプログラミングシステムの接続

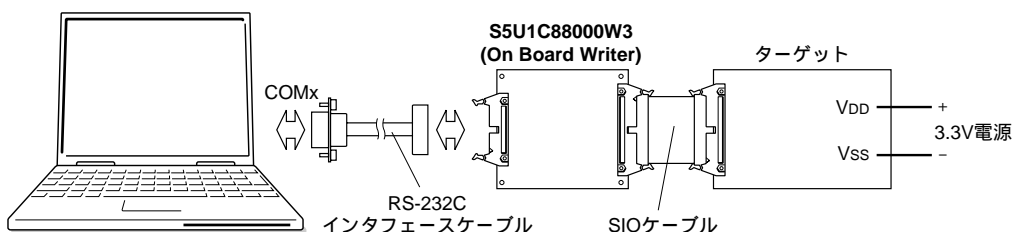
以下に、PCとUSB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)またはOn Board Writer(S5U1C88000W3)およびターゲットの接続図を示します。

USBインタフェース版[USB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)]使用時



図B.2.2.1 PROMプログラミングシステム接続図(USB)

RS-232Cインタフェース版[On Board Writer(S5U1C88000W3)]使用時



図B.2.2.2 PROMプログラミングシステム接続図(RS-232C)

システムの接続は以下の手順に従って行います。

- (1) パーソナルコンピュータの電源がOFFになっているかを確認します。
- (2) 上図に示したとおり、USB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)またはOn Board Writer (S5U1C88000W3)を、それぞれに付属のインタフェースケーブルでPCに接続します。

注: • On Board Writer(S5U1C88000W3)の脱着はパーソナルコンピュータの電源がOFFの状態で行ってください。USB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)の接続は、PCの電源投入後でもかまいません。

- RS-232Cケーブルはコネクタ付属のビスでしっかり固定してください。接続が不十分だと誤動作の原因になります。

B.2.3 シリアルプログラミング手順

(1) システムの接続

"B.2.2 シリアルプログラミングシステムの接続"に示したとおり、システムを接続します。

(2) 電源の投入

パーソナルコンピュータの電源を投入します。

(3) シリアルポートの割り付け確認(On Board Writerの場合のみ)

パーソナルコンピュータのシリアルポートの割り付けを確認します。

On Board Writerの初期設定はCOM1です。

(4) USB-Serial変換ドライバのインストール(USB-Serial On Board Writerの場合のみ)

USB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)を初めてPCに接続した場合は、PCの画面上にドライバインストール用のダイアログが表示されますので、その指示に従ってドライバをインストールします。USB-Serial変換ドライバは、S1C63 Familyアセンブラパッケージ(S5U1C63000A2)のインストール時に"¥EPSON¥S1C63¥writer¥driver"内にコピーされますので、このフォルダを指定してドライバをインストールしてください。

(5) シリアルポートの割り付け確認(USB-Serial On Board Writerの場合のみ)

Windowsの[コントロールパネル] [システム] [ハードウェア]タブ [デバイスマネージャ]にて、USB-Serialポートが割り当てられているCOMポートを確認します。

USBインタフェース版では、USB-Serial変換ドライバによって論理的なCOMポートを物理的なUSBポートに割り当て、COMポートの入出力をUSBインタフェースの入出力に変換します。これにより On Board WriterコントロールソフトウェアはUSBポートに割り当てられたCOMポートを介し、USBで接続されたUSB-Serial On Board Writerを制御することができます。

(6) On Board Writerコントロールソフトウェアの準備

On Board Writerコントロールソフトウェアは、S1C63 Familyアセンブラパッケージ(S5U1C63000A2)のインストール時に"¥EPSON¥S1C63¥writer¥OBPW"内にコピーされます。他のフォルダで使用する場合は、以下の2つのファイルをOBPWフォルダからコピーしてください。

- OBPW63.EXE
- RW6F632.INI

(7) ターゲットとUSB-Serial On Board Writer、またはOn Board Writerの接続

図B.2.2.1/B.2.2.2のように、ターゲットとUSB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)またはOn Board Writer(S5U1C88000W3)を付属のSIOケーブルで接続します。

(8) PROMプログラミング用電源の接続

PROMプログラミング用電源(3.3V)をターゲットボードに接続します。

注: • ターゲットにPROMプログラミング用電源以外の電源が接続されている場合はOFFしてください。

- PROMプログラミングは電源電圧3.3Vで行いますので、ターゲット上の各部品の定格電圧には十分注意してください。

(9) PROMプログラミング用電源の投入

PROMプログラミング用電源を投入します。これにより、SIOケーブルを通してUSB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)またはOn Board Writer(S5U1C88000W3)にも電源が供給されます。

(10) On Board Writerコントロールソフトウェアの起動



OBPW63.exeアイコンをダブルクリックします。

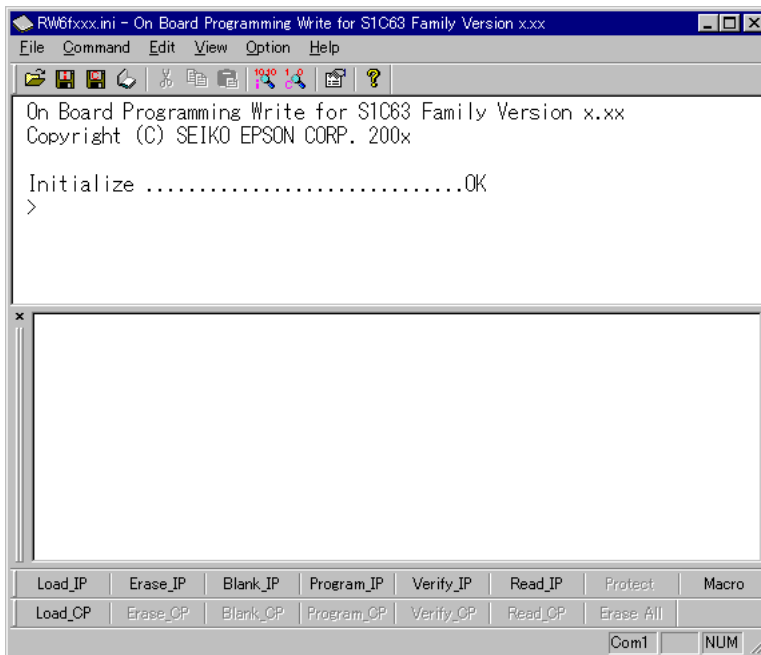
On Board Writer コントロールソフトウェアが起動すると[Initial File] ダイアログボックスが表示されます。



マイコンの機種名と同じイニシャルファイルを選択してください。

RWxxxxx.ini xxxxx: マイコン機種名(S1C6F632の場合、6F632)

以上の操作により次のウィンドウが表示されます。



コマンド
ウィンドウ

アウトプット
ウィンドウ

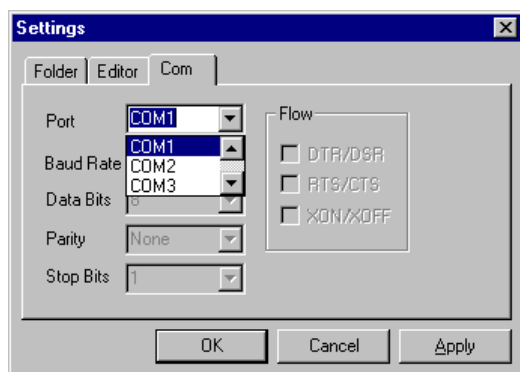
(11) シリアルポートの選択

[Setting]ボタンをクリック(または、[Option]メニュー内の[Setting]を選択)すると、[Settings]ダイアログボックスが表示されます。



[Setting]ボタン

[Com]タブをクリックして下記の画面を表示させます。USB-Serial On Board Writer(USBインタフェース版)を使用する場合は、上記5)で確認したCOMポートを選択します。On Board Writer(RS-232Cインタフェース版)を使用する場合は、RS-232Cケーブルを接続したCOMポートを選択します。

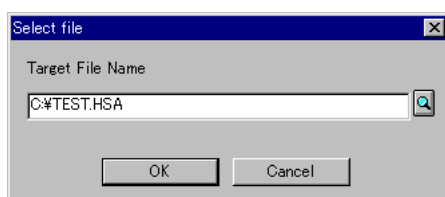


(12) ユーザデータのロード


コードPROM(IPROM)

[Load_IP]ボタンをクリック または、[Command]メニューから[Load IPROM]を選択)すると、[Select file]ダイアログボックスが表示されます。

Load_IP [Load_IP]ボタン



[Browse]ボタンを使用してHSAファイルを選択した後、[OK]ボタンをクリックしてください。LSAファイルも同時に選択されます。

 [Browse]ボタン

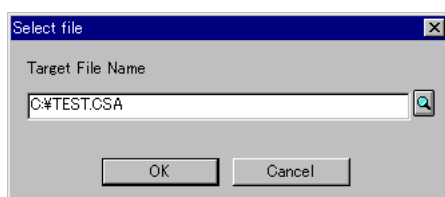
データが正常にロードされると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

注: HSAファイル、LSAファイルは同じフォルダ内に入れてください。

データPROM(CPROM)

[Load_CP]ボタンをクリック または、[Command]メニューから[Load CPROM]を選択)すると、[Select file]ダイアログが表示されます。

Load_CP [Load_CP]ボタン



[Browse]ボタンを使用してCSAファイルを選択した後、[OK]ボタンをクリックしてください。

データが正常にロードされると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

(13)PROM消去

[Erase_IP]ボタンをクリック または、[Command]メニューから[Erase IPROM]を選択)するとインフォメーションダイアログが表示され、[OK]ボタンをクリックするとIPROMとCPROMの消去を開始します。

Erase_IP [Erase_IP]ボタン

正常に終了すると、"Complete" がアウトプットウィンドウに表示されます。

- 注: • 工場出荷時のPROMには出荷検査用のデータが書き込まれていますので、初期化のため実行してください。
- 工場出荷時に弊社にてお客さまのデータを書き込んだPROMにはリードプロテクト処理がされています。"Erase_IP"を実行すると、PROMの内容が消去された後、リードプロテクトが解除されます。

(14)消去のチェック

[Blank_IP]ボタンをクリック または、[Command]メニューから[Blank Check IPROM]を選択)すると、インフォメーションダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、IPROMとCPROMの消去チェックを開始します。

Blank_IP [Blank_IP]ボタン

正常に消去チェックが終了すると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

(15)ユーザデータの書き込み

[Program_IP]ボタンをクリック または、[Command]メニューから[Program IPROM]を選択)すると、インフォメーションダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックするとIPROMとCPROMの書き込みを開始します。

Program_IP [Program_IP]ボタン

正常に書き込みが終了すると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

- 注: 処理中に他のアプリケーションを前面にすると、通信エラーが発生することがあります。

(16)ユーザデータのベリファイ

[Verify_IP]ボタンをクリック または、[Command]メニューから[Verify IPROM]を選択)すると、インフォメーションダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックするとIPROMとCPROMのベリファイを開始します。

Verify_IP [Verify_IP]ボタン

エラーがない場合、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

(17)PROMプログラミング用電源OFF

ターゲットのPROMプログラミング用電源をOFFにします。

(18)ターゲットの取り外し

書き込みが正常に終了したことを確認後、ターゲットを取り外します。

- 注: ターゲットの脱着はPROMプログラミング用電源をOFFにした状態で行ってください。

(19)On Board Writerコントロールソフトウェアの終了

On Board Writerコントロールウィンドウ上の[File]メニューから[Exit]を選択、またはクローズボックスをクリックすると終了します。

なお、続けて書き込みを行う場合は、手順 7)~(19)を繰り返し行ってください。

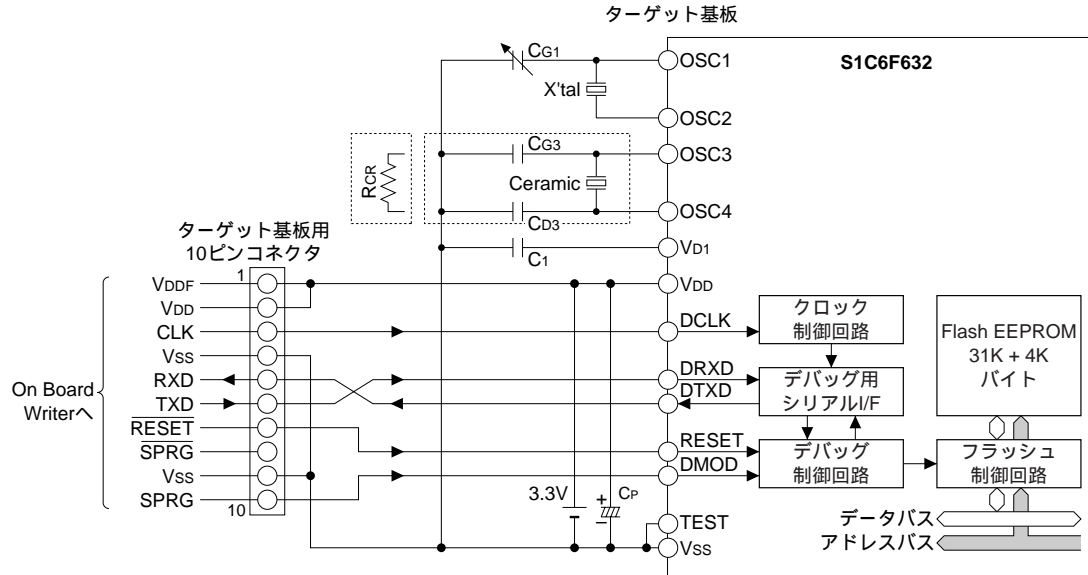
(20)電源OFF

パーソナルコンピュータの電源をOFFにします。

B.2.4 シリアルプログラミング結線図

以下に、ターゲット上の結線図と信号の仕様を示します。

USBインタフェース版: USB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)使用時



図B.2.4.1 オンボードプログラミング結線図(USBインタフェース版)

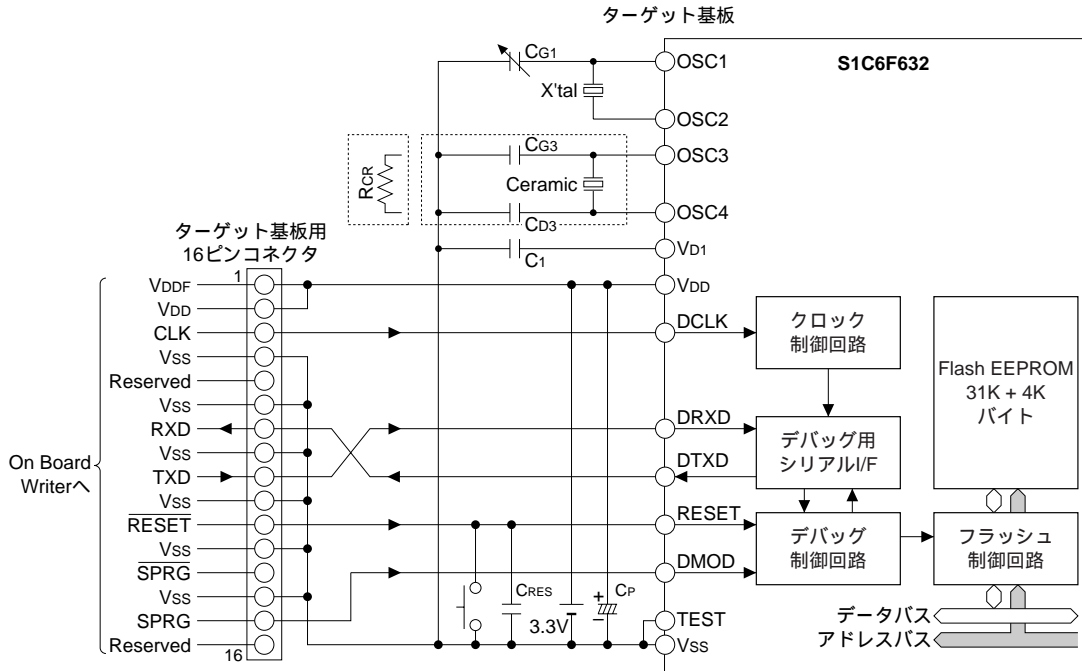
表B.2.4.1 信号仕様(USBインタフェース版)

コネクタピン番号	信号名	機能	マイコンの接続先
1	VDDF	プログラミング電源端子	VDD端子
2	VDD	電源端子	VDD端子
3	CLK	システムクロック出力	DCLK端子
4	Vss	GND端子	Vss端子
5	RXD	シリアルI/Fデータ入力	DTXD端子
6	TXD	シリアルI/Fデータ出力	DRXD端子
7	RESET	イニシャルリセット出力	RESET端子
8	SPRG	プログラミングモード設定出力(負極性機種用)	N.C.
9	Vss	GND端子	Vss端子
10	SPRG	プログラミングモード設定出力(正極性機種用)	DMOD端子

表B.2.4.2 USB-Serial On Board Writer接続用コネクタ部品

名称	型名
ボックスヘッダ(オス) [ターゲット側]	3662-6002LCPL(3M) または相当品
ソケットコネクタ(メス) [SIOケーブル側]	ソケットコネクタ部 7910-B500FL(3M) ストレインリリーフ部 3448-7910(3M) または相当品

RS-232Cインタフェース版: On Board Writer(S5U1C88000W3)使用時



図B.2.4.2 オンボードプログラミング結線図(RS-232Cインタフェース版)

表B.2.4.3 信号仕様(RS-232Cインタフェース版)

コネクタピン番号	信号名	機能	マイコンの接続先
1	V _{DDF}	プログラミング電源端子	V _{DD} 端子
2	V _{DD}	電源端子	V _{DD} 端子
3	CLK	システムクロック出力	DCLK端子
5	Reserved	予約端子	N.C.
7	RXD	シリアルI/Fデータ入力	DTXD端子
9	TXD	シリアルI/Fデータ出力	DRXD端子
11	RESET	イニシャルリセット出力	RESET端子
13	SPRG	プログラミングモード設定出力(負極性機種用)	N.C.
15	SPRG	プログラミングモード設定出力(正極性機種用)	DMOD端子
16	Reserved	予約端子	N.C.
4, 6, 8, 10, 12, 14	V _{SS}	GND端子	V _{SS} 端子

表B.2.4.4 On Board Writer接続用コネクタ部品

名称	型名
ボックスヘッダ(オス) [ターゲット側]	3408-6002LCFL(3M) または相当品
ソケットコネクタ(メス) [SIOケーブル側]	ソケットコネクタ部 7916-B500FL(3M) ストレーンリリーフ部 3448-7916(3M) または相当品

注: • On Board Writerの電源(3.3V)はターゲット側より供給しますので、PROMプログラミング時は3.3V電源を用意してください。

• PROMプログラミングは電源電圧3.3Vで行いますので、ターゲット上の各部品の定格電圧には十分注意してください。

B.3 On Board Writerコントロールソフトウェア

B.3.1 起動方法



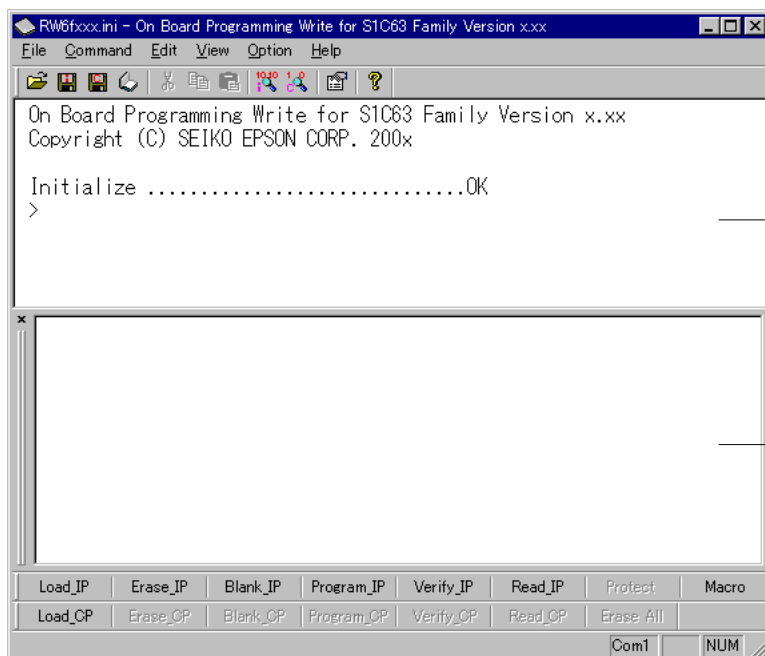
オンボードライタを起動するには、OBPW63.exeのアイコンをダブルクリックします。

オンボードライターソフトウェアが起動すると、次のファイルダイアログが表示されます。



マイコンの機種名と同じイニシャルファイルを選択してください。
RWxxxxx.ini xxxxx: マイコン機種名(S1C6F632の場合、6F632)

以上の操作により次のウィンドウが表示されます。



コマンドウィンドウ
コマンドをキー入力
できます。

アウトプットウィンドウ
結果が表示されます。

B.3.2 設定

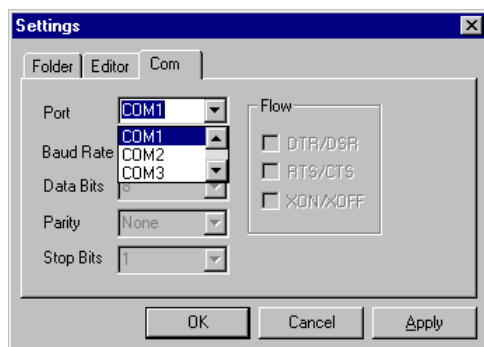
[Setting]ボタンをクリック または、[Option]メニューから[Setting]を選択 すると、[Settings]ダイアログボックスが表示されます。



[Setting]ボタン

シリアルポートの選択([Com]タブ)

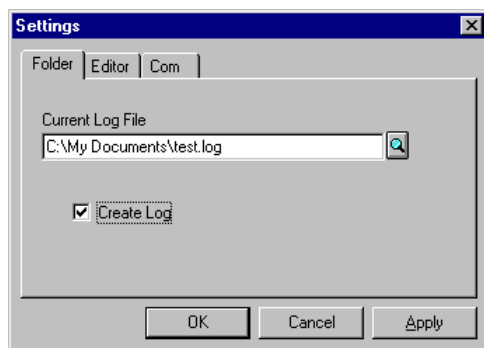
パーソナルコンピュータ上のシリアルポート割り付けのとおりに COMチャンネルを選択します。



ログファイルの設定([Folder]タブ)

実行結果をログファイルに残す場合は保存先ファイル名を設定し、[Create Log]チェックボックスをチェックします。

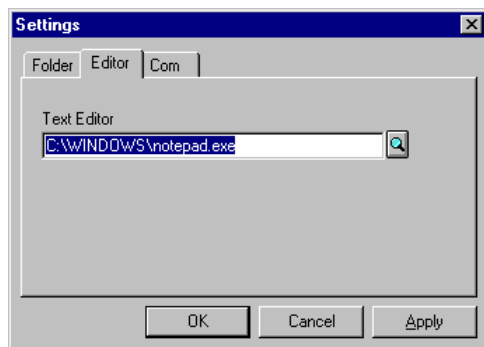
保存しない場合はチェックボックスのチェックを外します。



エディタのパスの設定([Editor]タブ)

ログファイルを開くときに使用するエディタのパスを設定します。

デフォルトでは"notepad.exe" が設定されています。



B.3.3 操作方法

PROM書き込みなどのコマンドは、すべてウィンドウ上のボタンで実行可能です。
以下、各コマンドを次の形式で個々に説明します。

機能: コマンドの機能を説明します。

実行: ボタン

Program_IP

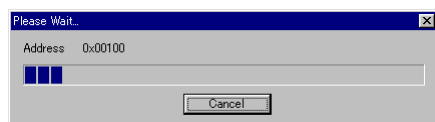
メニュー [Command]メニュー [Program IPROM]

キー入力 >FWI,↓

コマンドを実行するボタン、メニュー、コマンドウィンドウへのキー入力形式を示します。

動作: コマンドを実行した後の動作や表示内容を示します。

"プログレスウィンドウにて進捗状況を表示します。"の記述のある機能は、実行中に次のプログレスウィンドウが表示され、[Cancel]ボタンで処理を中断することができます。



注意: 注意事項を記載しています。

1 LOAD IPROM(HSAファイル, LSAファイル)

機能: IPROMユーザデータファイル(xxxxxx.HSAとxxxxxx.LSA)をPC上のメモリにロードします。

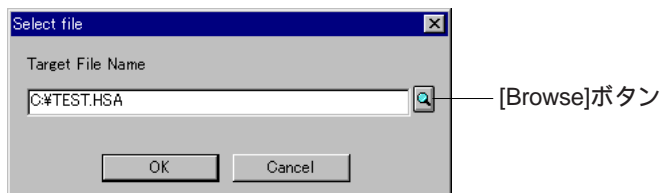
実行: ボタン

Load_IP

メニュー [Command]メニュー [Load IPROM]

キー入力 >LI drive:¥folder¥file name. (drive:¥folder¥file name: HSAファイル名)

動作: (1) [Select file]ダイアログを表示します。



(2) [Browse]ボタンをクリックするとWindows標準ファイル選択ダイアログが表示されますので、ロードするファイルを選択してください。

その後[OK]ボタンをクリックします。

HSAファイルのみの選択でLSAファイルも同時にロードされます。

(3) データが正常にロードされると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

注意: ・ モトローラ S2フォーマット形式のファイルのみロードできます。

・ HSAおよびLSAファイルは同じファイル名で同じフォルダ内に入れてください。

2 LOAD CPROM(CSAファイル)

機能: CPROMユーザデータファイル(xxxxxx.CSA)をPC上のメモリにロードします。

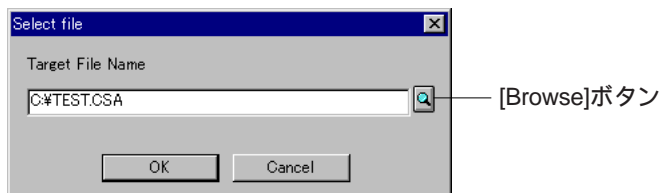
実行: ボタン

Load_CP

メニュー [Command]メニュー [Load CPROM]

キー入力 >LC drive:¥folder¥file name, (drive:¥folder¥file name: CSAファイル名)

動作: (1) [Select file]ダイアログを表示します。



(2) [Browse]ボタンをクリックするとWindows標準ファイル選択ダイアログが表示されますので、ロードするファイルを選択してください。
その後[OK]ボタンをクリックします。

(3) データが正常にロードされると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

注意: モトローラ S2フォーマット形式のファイルのみロードできます。

3 ERASE IPROM, CPROM

機能: IPROMとCPROMのデータを消去します。

実行: ボタン

Erase_IP

メニュー [Command]メニュー [Erase IPROM]

キー入力 >FERSI,↓

動作: (1)インフォメーションダイアログを表示します。

(2)[OK]ボタンをクリックするとIPROMとCPROMのデータ消去を開始します。

(3)実行中はプログレスウィンドウにて進捗状態を表示します。

[Cancel]ボタンをクリックすると処理が中断されます。

(4)PROMの内容が消去された後、リードプロテクトが解除されます。

(5)正常に終了すると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

注意: 実行中に処理を中断した場合は、データ書き込み前に必ず再度消去を行ってください。

4 BLANK CHECK IPROM, CPROM

機能: IPROMとCPROMのデータが消去されていることをチェックします。

実行: ボタン

Blank_IP

メニュー [Command]メニュー [Blank Check IPROM]

キー入力 >FEI,↓

動作: (1)チェックを開始します。

(2)プログレスウィンドウにて進捗状態を表示します。

[Cancel]ボタンをクリックすると処理が中断されます。

(3)IPROMとCPROMが完全に消去されている場合、チェックが終了すると"Complete"をアウトプットウィンドウに表示します。

(4)消去エラーを検出した場合、そのアドレスとデータを表示します。

例: Address READ
0100 0000
0101 0000
0102 0000
0103 0000
: :

注意: 消去エラーを検出した場合は、データ書き込み前に必ず消去を行ってください。

5 PROGRAM IPROM, CPROM

機能: [Load IPROM]コマンドと[Load CPROM]コマンドでロードしたデータをIPROMとCPROMに書き込みます。

実行: ボタン

Program_IP

メニュー [Command]メニュー [Program IPROM]

キー入力 >FWI↵

>FWI /P↵ (データ書き込み後、プロテクト処理を行います。)

動作: (1)インフォメーションダイアログを表示します。

(2)プロテクトする必要がある場合は[Yes]のラジオボタンを選択します。

(3)[OK]ボタンをクリックすると、書き込み処理を開始します。

(4)プログレスウィンドウにて進捗状態を表示します。

[Cancel]ボタンをクリックすると処理が中断されます。

(5)プロテクトが指定されている場合は、プロテクト処理を行います。

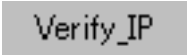
(6)正常に書き込みを終了すると、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

注意: 処理中に他のアプリケーションを前面にすると、通信エラーが発生することがあります。

6 VERIFY IPROM, CPROM

機能: [Load IPROM]コマンドと[Load CPROM]コマンドでロードしたデータとIPROMとCPROMから読み出したデータを比較します。

実行: ボタン

A rectangular button with a light gray background and the text "Verify_IP" in a dark gray, sans-serif font.

メニュー [Command]メニュー [Verify IPROM]

キー入力 >FVI<

動作: (1)ベリファイ処理を開始します。

(2)プログレスウィンドウにて進捗状態を表示します。

[Cancel]ボタンをクリックすると処理が中断されます。

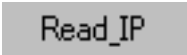
(3)データがすべて一致している場合、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

(4)ベリファイエラーを検出した場合、そのアドレスとデータを表示します。

7 READ IPROM, CPROM

機能: IPROMとCPROMデータをPC上のメモリに読み込みます。

実行: ボタン

A rectangular button with a light gray background and the text "Read_IP" in a dark gray, sans-serif font.

メニュー [Command]メニュー [Read IPROM]

キー入力 >FRI<]

動作: (1)インフォメーションダイアログを表示します。

(2)[OK]ボタンをクリックすると、読み込み処理を開始します。

(3)プログレスウィンドウにて進捗状態を表示します。

[Cancel]ボタンをクリックすると処理が中断されます。

(4)正常に終了した場合、"Complete"がアウトプットウィンドウに表示されます。

注意: 読み込んだデータでPC上のメモリは上書きされます。

8 MACRO

機能: マクロファイルに記述されたコマンドを連続実行します。

実行: ボタン

Macro

メニュー [Command]メニュー [Macro]

キー入力 なし

動作: (1)ファイル選択ダイアログを表示します。

(2)マクロファイルを選択して[OK]ボタンをクリックすると、マクロファイルを読み込んで、記述されたコマンドを実行します。

マクロファイル:

マクロファイルは、テキストエディタ等を使用して作成します。拡張子は".cmd"を推奨します。ファイルには実行させる順に、コマンドを各行に1つずつキー入力形式で記述します。";"の後はコメントとして扱われます。

例: マクロファイル test.cmd

```

;-- IPROM PROGRAM --
LI D:¥WORK¥C3F632.hsa
FERSI
FEI
FWI
FVI

```

コメント

IPROM HEXファイルのロード

IPROMとCPROMのデータ消去

IPROMとCPROMの消去チェック

IPROMとCPROMへのデータ書き込み

IPROMとCPROMのベリファイチェック

9 DUMP IPROM, CPROM

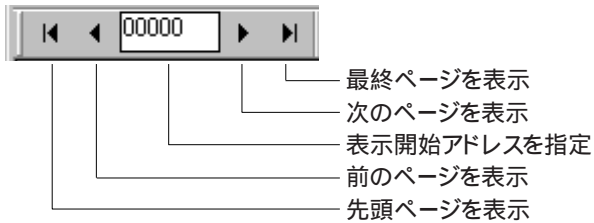
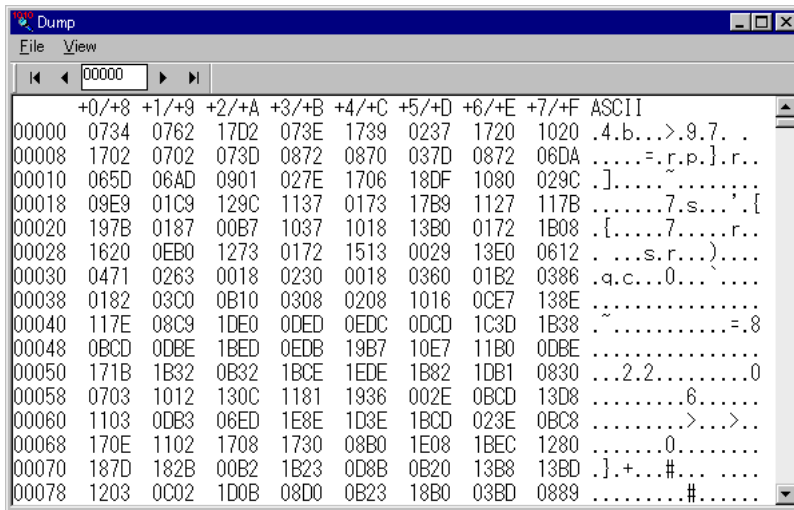
機能: PCメモリ内のIPROM領域とCPROM領域のデータを16進数で表示します。メモリ内容の編集も可能です。

実行: ボタン  [Dump IPROM]ボタン

メニュー [Command]メニュー [Dump IPROM]

キー入力 >DI address,↓ (address: 表示開始アドレス、省略可)

動作: (1) [Dump]ウィンドウを表示します。



(2) メモリ内容を編集するには、変更したいアドレスにカーソルを合わせ、値を入力してください。

キー入力による実行時は、アウトプットウィンドウに表示されます。

メモリダンプ内容の見方(IPROM)

	+0/+8	+1/+9	+2/+A	+3/+B	+4/+C	+5/+D	+6/+E	+7/+F	ASCII
00000	1417	182B	0069	1013	164D	044B	0801	1645	...+.i...M.K...E
00008	121B	0E29	062D	1203	0613	025B	0471	140F	...).....[.q..

一番左の列はIPROM(プログラム)領域のアドレスを表します。

2列目から9列目は、左端のアドレスから始まる8ステップのプログラムコードです。たとえば、上記例2行目の1417、182B、1645はそれぞれ00000H番地、00001H番地、00007H番地の13ビットコードです。3行目の121Bは00008H番地の13ビットコードです。

一番右の列はその行のコードに対応するASCIIキャラクタです。

メモリダンプ内容の見方(CPROM)

	+0/+8	+1/+9	+2/+A	+3/+B	+4/+C	+5/+D	+6/+E	+7/+F	ASCII
07C00	2FC0	27D6	11BA	11B0	5DCA	29CE	11F6	3FB6	/. '.....].)....?.
07C08	0FF0	11AC	27C0	33A4	15BC	5B80	4BA4	73923.!.[.]..c.

IPROMに続いて、同じウインドウに表示されます。

一番左の列はIPROM(プログラム)領域のアドレスを表します。IPROM領域をCPROMに割り当てて表示しているため、実際のCPROMアドレスとは一致しません。S1C6F632のメモリダンプでは、CPROM領域が07C00H～07FFFHとなります。07C00はCPROMの00000H番地、07C08はCPROMの00020H番地に相当します。

2列目から9列目は、左端のアドレスから始まる4ワード×8のデータです。たとえば、上記例2行目の2FC0は、00000H番地、00001H番地、00002H番地、00003H番地のデータがそれぞれ0H、0CH、0FH、2Hであることを示します。

一番右の列はその行のデータに対応するASCIIキャラクタです。

10 OPEN LOG FILE

機能: ログファイルを開きます。

実行: ボタン  [Open Log file]ボタン

メニュー [File]メニュー [Open Log File]

キー入力 なし

動作: 指定のエディタが起動して指定のログファイルを開きます。
エディタは[Settings]ダイアログボックスの[Editor]タブ画面で、ログファイルは同じく[Folder]タブ画面で設定しておきます。

11 SAVE IPROM

機能: PCメモリ内のIPROMデータをファイルに保存します。

実行: ボタン  [Save IPROM]ボタン

メニュー [File]メニュー [Save IPROM]

キー入力 >SI drive:¥folder¥file name, (drive:¥folder¥file name: HSAファイル名)

動作: (1)標準ファイル選択ダイアログが表示されますので、保存するファイル名を指定してください。

(2)PCメモリ内のIPROM領域の内容をモトローラS2形式のファイル(*.HSA、*.LSA)に保存します。

12 SAVE CPROM

機能: PCメモリ内のCPROMデータをファイルに保存します。

実行: ボタン  [Save CPROM]ボタン

メニュー [File]メニュー [Save CPROM]

キー入力 >SC *drive:¥folder¥file name.¥* (*drive:¥folder¥file name: CSA*ファイル名)

動作: (1)標準ファイル選択ダイアログが表示されますので、保存するファイル名を指定してください。

(2)PCメモリ内のCPROM領域の内容をモトローラS2形式のファイル(*.CSA)に保存します。

B.3.4 コマンド一覧

表B.3.4.1 コマンド一覧表

No.	コマンドライン	メニュー	ボタン	機能
1	LI drive¥folder¥file name.↓	[Command]-[Load IPROM]	Load_IP	HSA/LSAファイルのロード
2	LC drive¥folder¥file name.↓	[Command]-[Load CPROM]	Load_CP	CSAファイルのロード
3	FERSI.↓	[Command]-[Erase IPROM]	Erase_IP	IPROM/CPROMデータの消去 リードプロテクト削除
4	FEI.↓	[Command]-[Blank Check IPROM]	Blank_IP	IPROM/CPROMデータ消去チェック
5	FWI.↓ FWI /P.↓	[Command]-[Program IPROM]	Program_IP	IPROM/CPROMデータ書き込み (/Pはプロテクト処理の指定)
6	FVI.↓	[Command]-[Verify IPROM]	Verify_IP	IPROM/CPROMベリファイチェック
7	FRI.↓	[Command]-[Read IPROM]	Read_IP	IPROM/CPROMデータ読み出し
8	-	[Command]-[Macro]	Macro	マクロファイル読み込み/実行
9	DI address.↓	[Command]-[Dump IPROM]		IPROM/CPROMデータダンプ
10	-	[File]-[Open Log File]		ログファイルのオープン
11	SI drive¥folder¥file name.↓	[File]-[Save IPROM]		IPROMデータの保存
12	SC drive¥folder¥file name.↓	[File]-[Save CPROM]		CPROMデータの保存
13	LOG.↓	-		ロギング開始
14	LOG /E.↓	-		ロギング終了

B.3.5 エラーメッセージ一覧

表B.3.5.1 エラーメッセージ一覧表

エラーメッセージ	内容	表示場所
Command timeout	通信タイムアウト	アウトプットウィンドウ
Receive NAK	通信エラー	アウトプットウィンドウ
Send error	通信エラー	アウトプットウィンドウ
COM Port Open Error	ポートオープンエラー	アウトプットウィンドウ
Invalid File Format	ファイルがモトローラS2形式ではありません。	アウトプットウィンドウ
Data Size Over flow	データファイルの容量がPROMサイズを超えています。	アウトプットウィンドウ
Verify Error	ベリファイエラー	アウトプットウィンドウ
Erase Error	PROMの消去に失敗しました。	アウトプットウィンドウ
Protected Error	リードプロテクトがかけられています。	アウトプットウィンドウ
Abort by operator	処理が中断されました。	アウトプットウィンドウ
Complete	正常終了	アウトプットウィンドウ
Illegal inifile data	INIファイルの内容に誤りがあります。	アウトプットウィンドウ/ダイアログ
Can not find **	**が見つかりません。	ダイアログ

B.4 Flash EEPROMプログラミング上の注意事項

- (1) PROMプログラミングは、電源電圧3.3Vで行ってください。
- (2) PROMプログラミングは電源電圧3.3Vで行いますので、ターゲット上の各部品の定格電圧には十分ご注意ください。
- (3) パーソナルコンピュータのシリアルポートへRS-232Cケーブルを接続する際には、コネクタ付属のビスでしっかり固定してください。
- (4) On Board Writer(S5U1C88000W3)とパーソナルコンピュータの接続と切り離しはパーソナルコンピュータの電源がOFFの状態で行ってください。USB-Serial On Board Writer(S5U1C88000W4)の接続は、PCの電源投入後でもかまいません。
- (5) On Board Writerとターゲット(S1C6F632)の接続と切り離しはターゲットの電源がOFFの状態で行ってください。

セイコーエプソン 株式会社

半導体事業部 IC営業部

IC国内営業グループ

東京 〒191-8501 東京都日野市日野421-8
TEL (042) 587-5313(直通) FAX (042) 587-5116

大阪 〒541-0059 大阪市中央区博労町3-5-1 エプソン大阪ビル15F
TEL (06) 6120-6000(代表) FAX (06) 6120-6100

インターネットによる電子デバイスのご紹介 <http://www.epson.jp/device/semicon/>